Oracle® Fusion Cloud EPM

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の操作

F32841-20

Oracle Fusion Cloud EPM Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の操作、

F32841-20

Copyright © 2019, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメント・フィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 Smart View (Mac and Browser)の操作へようこそ

3 Smart View (Mac およびブラウザ)について

Smart View (Mac およびブラウザ)の概要 3-1
サポートされているデータ・ソース・プロバイダ 3-3
Smart View (Mac およびブラウザ)のコンポーネント 3-3
Smart View のデプロイ 3-9
Smart View 機能へのアクセス 3-9

4 データ・ソースへの接続

Mac でのデータ・ソースへの接続 4-1
Chrome でのデータ・ソースへの接続 4-2
Chrome の Office Online からのポップアップの許可 4-2
データ・ソースからの切断 4-4

5 Smart View (Mac およびブラウザ)におけるローカライズ

6 Smart View のオプション

Smart View のオプションの設定 6-1
詳細オプション 6-2

データ・オプション 6-4
メンバー・オプション 6-7
フォーマット・オプション 6-11

7 ディメンションとメンバー

ディメンションとメンバーについて 7-1
視点ディメンションの表示 7-1
メンバーの選択 7-2
メンバー・セレクタからのメンバーの選択 7-2
視点ディメンションからのメンバーの選択 7-9
フリーフォーム・モードでのメンバーの入力 7-10
メンバー式の表示 7-11
修飾メンバー名の表示 7-11
別名および別名表の操作 7-12
別名について 7-12
別名表の選択 7-12
グリッドでのメンバー名と別名の表示 7-13

8 データおよびデータ・セル

データのリフレッシュ 8-1
データの送信 8-2
データの送信のガイドライン 8-3
リフレッシュせずにデータを送信 8-4
データの計算 8-5
スマート・リストの操作 8-7
データ・セルでの値の調整 8-9
データの分散 8-10
分散データについて 8-10
期間に対するデータの分散 8-11
特定セルをロックしたデータの分散 8-12
グリッド分散を使用した値の分散 8-12
一括割当てを使用した値の分散 8-14
ドリルスルー・レポートの操作 8-15
データ検証エラーの解決 8-16
セル・アクションの操作 8-17
セルの展開と縮小 8-17
セル・コメントの追加 8-17
添付の追加 8-18

セルの履歴の表示 8-19

9 データ・フォーム

Excel でのフォームの操作 9-1
Excel でフォームを開く 9-2
フォームでの Excel 式 9-3
動的ユーザー変数の操作 9-4
バージョンのコピー 9-4
ジョブ・ステータスのモニタリング 9-5
サポート詳細の操作 9-6
サポート詳細の追加 9-6
サポート詳細の階層の設定 9-7
サポート詳細の表示および変更 9-8
スマート・フォームの操作 9-9
スマート・フォームについて 9-9
スマート・フォームの作成 9-11
スマート・フォームでサポートされている Excel 関数 9-12
フレックス・フォームの操作 9-19
フレックス・フォームについて 9-20
フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス 9-20
フレックス・フォームに関する一般的なガイドライン 9-21
フレックス・フォームでのメンバーの選択 9-23
フレックス・フォームでのソート 9-24
フレックス・フォームでの抑制オプションの使用 9-24
フレックス・フォームでの共有メンバーと抑制オプションの操作 9-24
フォーム定義を超えるフレックス操作 9-25
フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持 9-26
フレックス・フォームでの式、ラベルおよびコメントの行および列の保持 9-31
POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持 9-32
フレックス・フォームでのスマート・プッシュ 9-33
フレックス・フォームでサポートされていない機能 9-33
Smart View でのフレックス・フォームの操作 9-33
アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信 9-35

10 アド・ホック分析

アド・ホック分析について 10-2
アド・ホック分析の開始 10-2

アド・ホック・グリッドのフォーマット 10-5
Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用 10-5
Excel フォーマットの使用 10-7
ズーム・インおよびズーム・アウト 10-8
ズーム・イン 10-8
ズーム・アウト 10-9
ズーム時に表示するメンバーの選択 10-9
式を含むセルでのズーム操作 10-10
ピボット 10-10
行と列の間のディメンションのピボット 10-11
グリッドと POV の間のディメンションまたはメンバーのピボット 10-11
グリッドでのディメンションの再配置 10-13
アド・ホック・グリッドでのメンバー保持および除去 10-14
属性ディメンションの挿入 10-18
属性ディメンションの挿入に関するガイドライン 10-19
メンバー・セル情報の表示 10-20
データ・セルの解決順の変更 10-20
アド・ホック操作での Excel 式の保持 10-21
コメントと不明メンバーの操作 10-22
コメントと不明メンバーについて 10-22
シート内のコメント表示の有効化 10-23
リフレッシュ時の「コメントの編集」ダイアログの表示 10-23
シート内のコメントの表示 10-25
コメントと不明メンバーの編集と削除 10-25
レポートのカスケード 10-28
アド・ホック・グリッドの保存 10-29
複数グリッド・シートの操作 10-29
シート上の複数のアド・ホック・グリッドについて 10-29
複数グリッドのシートの作成 10-32
グリッド範囲名の変更 10-32
複数グリッド・シートでの POV 動作 10-34
Cloud EPM での Smart View の動作オプション 10-34

11 ブック

EPM ブック拡張機能について 11-1
「EPM ブック」パネルの起動 11-4
ブックの操作 11-5
ブックのインポート 11-6
ダウンロードされたブックの操作 11-8

「ジョブ・コンソール」でのジョブの管理 11-10
「ジョブ・コンソール」について 11-11
「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作 11-12

12 レポート

Smart View でのレポートの操作について 12-1
アド・ホック問合せとしてのレポートのインポート 12-2
完全にフォーマットされたレポートのインポートおよび操作 12-3
レポートの POV のプレビュー 12-4
レポートのプロンプトの編集 12-5
レポートの POV の変更 12-6

13 ダッシュボード

ダッシュボードについて 13-1
ダッシュボードの操作 13-1

14 Planning の承認

Planning の承認について 14-1
プランニング・ユニットの表示 14-1
プランニング・ユニットの検索 14-3
プランニング・ユニットのステータスの変更 14-4
プランニング・ユニットの移動パスの表示 14-5
プランニング・ユニットの注釈の追加 14-6
不在時のアシスタントの設定 14-6

15 タスク・リスト

タスク・リストについて 15-1
タスク・リストを開く 15-2
タスク・リストの表示 15-3
タスクの実行 15-5
タスクの完了 15-6
タスク・リスト・レポートの作成 15-6

16 一般的な操作

「元に戻す」と「やり直し」の使用 16-1
「元に戻す」と「やり直し」の使用について 16-1

元に戻す処理とやり直し処理の数の指定 16-2
Cloud EPM での「元に戻す」のサポート 16-2
シート情報 16-3
シート情報に関するガイドライン 16-3
シート情報の表示 16-4
Cloud EPM でのシート情報のサポート 16-5
メタデータのインポート 16-6
Smart View でのメタデータのインポートについて 16-6
コピーしたワークシートへのメタデータのインポート 16-7
ユーザー・プリファレンスの設定 16-7

17 関数

関数について 17-1
関数の作成 17-2
関数ビルダーでの関数の作成 17-2
セル参照の使用 17-8
関数の手動作成 17-8
構文のガイドライン 17-9
関数の実行 17-10
関数内の欠落データに対するラベルの指定 17-11
関数内のリンクの修正 17-11
関数の説明 17-12
HsGetValue 17-13
HsSetValue 17-14
HsAlias 17-14
HsGetSheetInfo 17-15
一般的な関数エラー・コード 17-17

18 フリー・フォーム・モード

フリーフォーム・モードについて 18-1
フリーフォーム・モードで作業するためのガイドライン 18-1
フリーフォーム・グリッドの作成 18-2
予期しない動作の原因となるアクション 18-3

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての 詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)か、聴覚に障害のあるお客様は(http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs)を参照してください。

ドキュメント・フィードバック

このドキュメントに対するフィードバックは、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジ対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。EPM CoE はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が Oracle Fusion Cloud EPM の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- EPM 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに EPM を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が EPM CoE からメリットを得られます。

どのように始めたらよいですか。

クリックして、EPM CoE のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: EPM センター・オブ・エクセレンスの概要。

さらに学ぶ

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス(CoE)の作成および実行
- ビデオを見る: 概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成。
- *EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行*の EPM CoE のビジネス上の利点と価値提案の確認。

2

*Smart View (Mac and Browser)の操作*へようこそ

このガイドでは、概念、プロセス、例などの Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)機能とオプションについて説明します。

情報の参照先

Smart View (Mac and Browser)ドキュメントは、Oracle Help Center の使用しているクラウド・ビジネス・プロセスの「ブック」タブで入手できます:

https://docs.oracle.com/en/cloud/saas/epm-cloud/index.html

「ブック」タブで、「ユーザー」セクションを探して、*Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の操作*の HTML または PDF リンクを選択します。

情報の検索方法

情報を検索するには:

- オンライン・ヘルプから、ブラウザ・ウィンドウの左フレームで目次を使用してトピックに移動するか、「検索」アイコンをクリックし、テキスト・ボックスで検索語句を入力します。
- PDF で、目次からトピックに移動するか、使用しているリーダーの検索機能を使用します。

ドキュメントの表記規則

このガイドには、Smart View (Mac およびブラウザ)でサポートされている複数のデータ・ソースに関連する機能およびタスクが記載されています。一部のトピックはすべてのデータ・ソースに適用され、一部は特定のデータ・ソースにのみ適用される場合があります。データ・ソースへのトピックの適用性を識別するために、次のドキュメントの表記規則が使用されています。

- トピックが特定のデータ・プロバイダにのみ適用可能な場合、トピックの最初の**適用対象:**セクションにプロバイダ名が記載されます。例:
  - トピックが Planning にのみ適用可能な場合: **適用対象:** Planning
  - トピックが Essbase にのみ適用可能な場合: **適用対象:** Oracle Essbase
  - トピックが Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management データ・ソースにのみ適用され、Essbase には適用されない場合: **適用対象:** Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ
- トピックが「サポートされているデータ・ソース・プロバイダ」トピックにリストされているすべてのサポートされているデータ・プロバイダに適用される場合、**適用対象:**セクションはトピックに追加されません。

3

Smart View (Mac およびブラウザ)について

次も参照:

- Smart View (Mac およびブラウザ)の概要
  Smart View (Mac およびブラウザ)には、Oracle の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ソリューション、Oracle Essbase、Windows または Mac システムのいずれかの Web ブラウザにデプロイされた Microsoft Office 365 との間のインタフェースが用意されています。
- サポートされているデータ・ソース・プロバイダ
  現在、Smart View (Mac およびブラウザ)では、これらのデータ・ソース・プロバイダをサポートしています。
- Smart View (Mac およびブラウザ)のコンポーネント
  様々なタスクのナビゲートや実行に役立つリボン、パネル、メニューなど、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の基本コンポーネントについて学習します。
- Smart View のデプロイ
  管理者は Smart View (Mac およびブラウザ)を Office 365 ユーザーにデプロイする必要があります。
- Smart View 機能へのアクセス

Smart View (Mac およびブラウザ)の概要

Smart View (Mac およびブラウザ)には、Oracle の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ソリューション、Oracle Essbase、Windows または Mac システムのいずれかの Web ブラウザにデプロイされた Microsoft Office 365 との間のインタフェースが用意されています。

Microsoft Office 365 は、デスクトップ版へのアクセスに加え、インターネットを介した(クラウド・サービス)Office アプリケーションとその他の製品サービスへのアクセスを含むサブスクリプション・プランのことです。Smart View (Mac およびブラウザ)が開発されたのは、既存の Oracle Smart View for Office アドイン・インフラストラクチャでは Windows デスクトップ・デプロイメントのみがサポートされるためです。Smart View (Mac およびブラウザ)デプロイメントは、Microsoft Office 365 とより緊密に連携します。

Smart View (Mac およびブラウザ)には、Oracle の Cloud EPM および Essbase ソリューションと Windows または Mac システムの Web ブラウザにデプロイされた Microsoft Office 365 との間のインタフェースが用意されています。具体的には、Windows または Mac の Chrome ブラウザをサポートしています。その他のプラットフォームおよびデバイスは将来のリリースで予定されています。

Smart View (Mac およびブラウザ)の他の利点には次のものがあります:

- マルチプラットフォーム・サポート
- デプロイメントおよびメンテナンスの容易さ
- 頻繁なクラウドの更新

- ゼロ・クライアント・フットプリント。エンド・ユーザーのメンテナンス不要
- 高度にカスタマイズ可能なユーザー・インタフェースとデプロイメント

サポートされる機能

Smart View (Mac およびブラウザ)は Excel の*アド・ホック分析*および*フォーム*のほとんどの機能をサポートします。次のような高度な機能がサポートされています:

- ズーム、ピボット、選択項目のみ保持/削除、送信、範囲の操作、分析/フリー・フォームおよび式の保持などのアド・ホック分析操作
- 複数グリッド・アド・ホック・ワークシート
- フォームのオープンやリフレッシュ、フォームからの送信、展開/縮小、サポート詳細、一括割当て、ジョブ・コンソール、バージョンのコピー、ビジネス・ルールおよび分析などのフォーム操作
- オプションおよびスタイル
- メンバーの選択および POV
- ドリル・スルー
- フォーマットの保存など、アドホック・グリッドのフォームとしての保存
- フォーマットの保存など、アドホック・グリッドのスマート・フォームとしての保存
- 分散、グリッド分散、セルのロックおよび一括割当て
- 関数: 関数ビルダー・インタフェースがあり、HsGetValue、HsSetValue、HsAlias、HsGetSheetInfo の手動での使用がサポートされています
- タスク・リスト
- ダッシュボード
- フレックス・フォーム
- 508 フル・アクセシビリティのサポート
- 管理者向けのアプリケーションの作成およびメンテナンス
- 英語以外の環境またはプラットフォーム

サポートされない機能

Smart View for Office の一部の機能は、現在、Smart View (Mac およびブラウザ)ではサポートされていません。例:

- データ・ポイントのコピーおよび貼付け
- メンバーまたはデータ・セル上でのダブルクリックはサポートされていません。かわりに、リボン・コマンドを使用してズーム・インなどのタスクを実行します。
- Web アプリケーション(Web 起動)からフォームおよびアド・ホック・グリッドを開く
- アド・ホック操作用ネイティブ・モード: Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)では、サポートされている Cloud EPM アプリケーションでアド・ホック操作用ネイティブ・モードをサポートしていません。ネイティブ・モードは段階的に廃止されて標準モードになるため、拡張機能を提供する標準モードをすべてのユーザーにお薦めします。Smart View (Mac およびブラウザ)を効果的に活用するには、Cloud EPM アプリケーションで、**「Smart View アド・ホック動作」**設定に**「アドホック(標準)」**モード・オプションを使用するように構成することをお薦めします。これにより、互換性が確保され、最新機能にアクセスできるようになります。

- クエリー・デザイナ
- Word および PowerPoint 機能
- 複合フォーム(サポートについて今後のプランはありません)
- VBA

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View (Mac およびブラウザ)の基本機能の使用方法について学習	Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の紹介

サポートされているデータ・ソース・プロバイダ

現在、Smart View (Mac およびブラウザ)では、これらのデータ・ソース・プロバイダをサポートしています。

Cloud EPM

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の次のビジネス・プロセスがサポートされています:

- Enterprise Profitability and Cost Management
- Financial Consolidation and Close
- フリーフォーム
- Planning
- Planning モジュール
- Tax Reporting

接続されている Cloud EPM ビジネス・プロセスに応じて、Smart View (Mac およびブラウザ)は、次の拡張機能と連携します:

- 管理拡張機能
- EPM ブック

Oracle Essbase

Smart View (Mac およびブラウザ)は、Oracle Essbase (Marketplace 経由での Oracle Cloud Infrastructure の Essbase)リリース 21.5.2.0.1 以上からのデータの分析をサポートしています。

Smart View (Mac およびブラウザ)のコンポーネント

様々なタスクのナビゲートや実行に役立つリボン、パネル、メニューなど、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の基本コンポーネントについて学習します。

「Smart View」リボン

Smart View のリボンには、データのリフレッシュや送信、オプション・パネルの起動など、すべての Smart View 操作のコマンドが含まれています。「Smart View」リボンは常に存在します。Smart View 設定では、このリボンに別の名前が表示される可能性があるため注意してくだ

さい。「ホーム」ボタンや「オプション」ボタンなど、すべてのコンテキストに適用可能なコマンドは、どのコンテキストでも使用可能なままです。たとえば、共通のコマンドのボタンは、アド・ホック・シートまたはフォームが含まれるシートで使用可能なままです。

複数のデータ・ソースに接続して、同じワークブックに複数のグリッドを配置する場合、接続ごとに個別の Smart View リボンが表示されます。たとえば、同じブック内の Planning と Tax Reporting に接続している場合、サービス管理者が識別しやすいように設定した名前に基づいて、*Smart View プランニング*と *Smart View Tax Reporting* の 2 つの Smart View リボンが表示されるなどです。

プロバイダとプロバイダ・アド・ホックのリボン

ビジネス・プロセスまたはデータ・プロバイダからフォームを開くと、それぞれのプロバイダのリボンが Smart View のリボンの横に表示されます。各プロバイダのリボンには、特定のプロバイダとモードでサポートされているコマンドのみが表示されます。たとえば、Planning フォームにアクセスすると、Planning のリボンが表示され、アド・ホック分析を実行すると、Planning アド・ホックのリボンが表示されます。

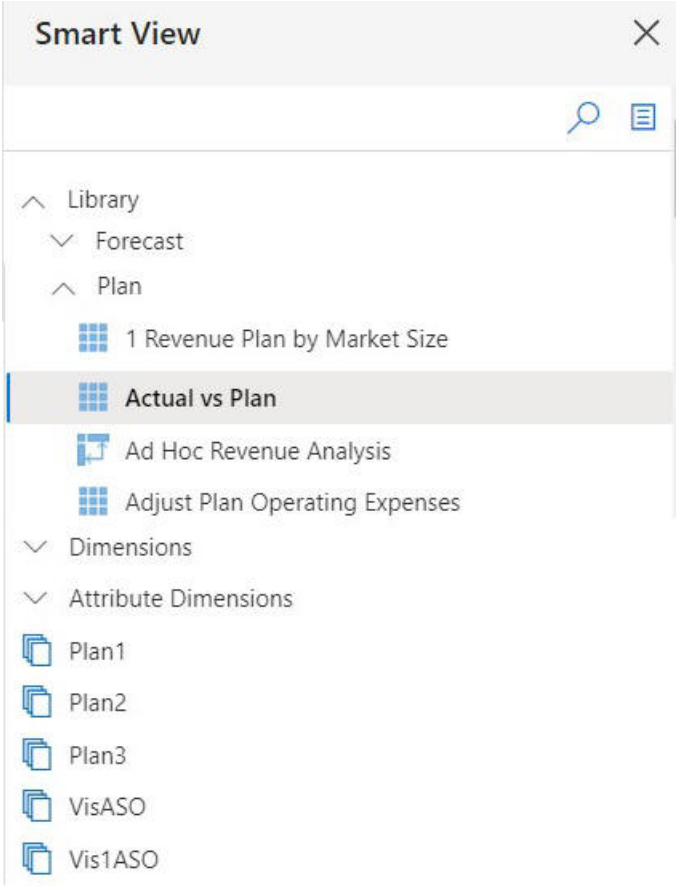
プロバイダのリボンは次のとおりです:

- Planning
- Planning アド・ホック
- FCCS (Financial Consolidation and Close)
- FCCS アド・ホック
- TRCS (Tax Reporting)
- TRCS アド・ホック
- EPCM (Enterprise Profitability and Cost Management)
- EPCM アド・ホック
- Essbase

管理者によって構成された拡張機能に基づいて、「管理拡張機能」リボンと「EPM ブック」リボンも表示されます。

「Smart View ホーム」パネル

「Smart View ホーム」パネルは、Microsoft Office アプリケーションの右側に表示されます。「Smart View ホーム」パネルを開くには、Smart View リボンの**「ホーム」**ボタンをクリックします。



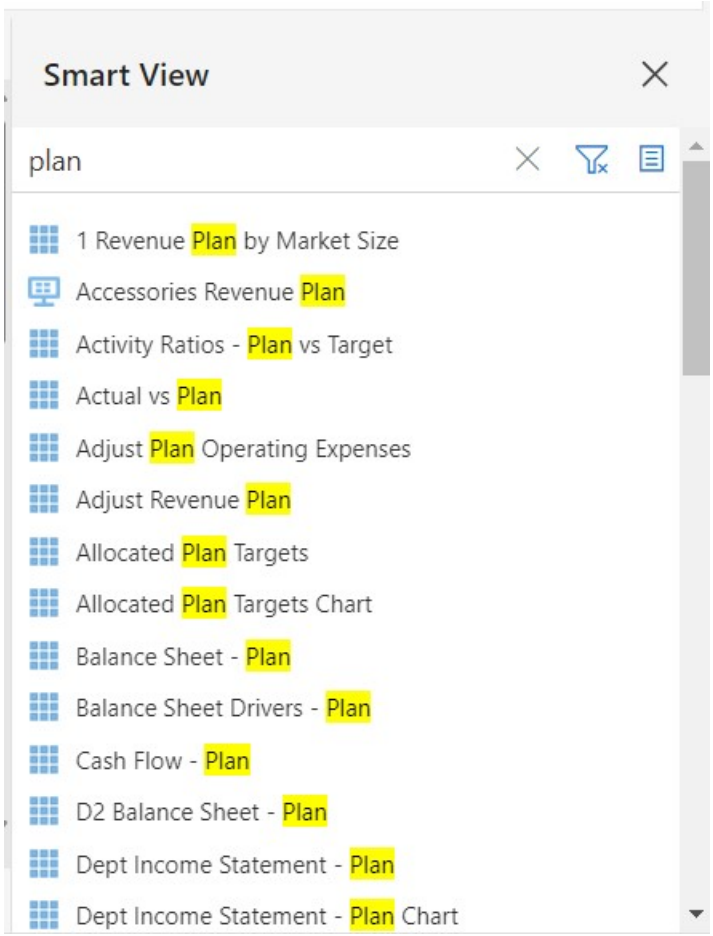
「Smart View ホーム」パネルから、次のことを行うことができます:

- ライブラリ内に存在するフォームとアド・ホック・グリッドと、データ・ソース内に存在するキューブのツリー・ビューを取得します。
- フォーム、グリッド、タスク・リストを検索します。
- フォームやアド・ホック・グリッドを開かずに、それらを選択するには、アイコンまたは名前の横の領域をクリックします。
- フォームとアド・ホック・グリッドの名前をクリックして開きます。
- フォームを選択し、フォーム名を右クリックしてから**「アドホック分析」**を選択すると、フォームがアド・ホック分析モードで直接開きます。
- アド・ホック・グリッドを選択し、アド・ホック・グリッド名を右クリックしてから**「フォームを開く」**を選択すると、アド・ホック・グリッドをフォームとして直接開きます。
- 各種アクションとプロセスを**「アクション」**メニューから起動します。フォームまたはアド・ホック・グリッドを選択し、その名前を右クリックして、これらのアクションにアクセスすることもできます。
- **サービス管理者:** ディメンションと属性ディメンションを表示および管理します。*Planning の管理*の Smart View を使用したアプリケーション・メタデータのインポートと編集を参照してください。

「検索」ボックス

「Smart View ホーム」パネルの上部にある検索ボックスを使用すると、フォーム、アド・ホック・グリッド、タスク・リストをより早く見つけてアクセスできます。検索ボックスにテキストを入力し始めると、ホーム・パネルの項目のリストがフィルタ処理され、強調表示された検

索用語を含む名前が表示されます。たとえば、「プラン」を検索するときに、名前に「プラン」が含まれている項目のみが、ホーム・パネルに表示されます。



検索ボックスは大/小文字を区別しない検索をサポート: たとえば、"plan"、"Plan"または"PLAN"の検索は、大/小文字に関係なく、名前にこの用語が含まれる項目の同じリストをフェッチします。

語の入力後、

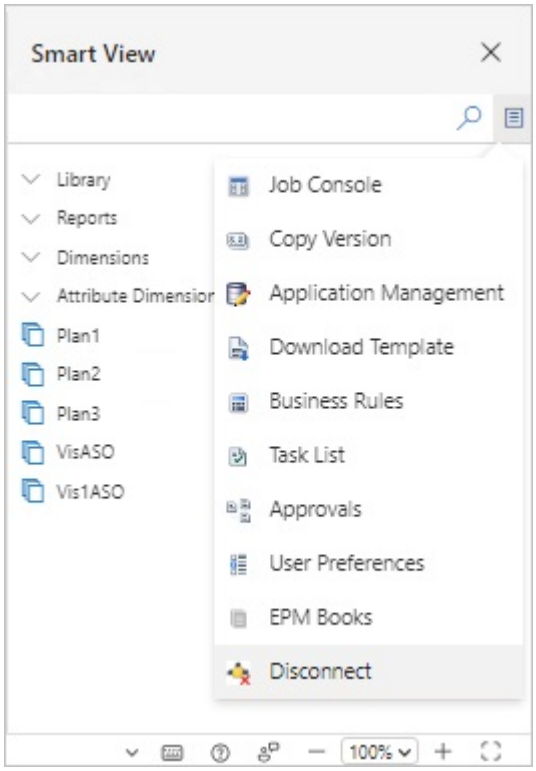
をクリックします。ツリー・ビュー内のすべてのフォルダからの一致する項目が、ホーム・パネルの検索結果に表示されます。項目の名前をクリックすると、その項目を検索結果から直接開けます。検索結果内の項目を選択して右クリックすると、その他のアクションを表示することもできます。

検索用語と一致する項目がない場合、パネルに空白が表示されます。「閉じる」アイコンをクリックして検索ボックスをクリアできます。

「アクション」メニュー

「アクション」メニューは、「Smart View ホーム」パネル内にあり、

をクリックすると起動します。



このメニューから、次のような各種オプションにアクセスできます:

- ジョブ・コンソール
- ビジネス・ルール
- タスク・リスト
- ユーザー・プリファレンス
- バージョンのコピー
- 承認
- EPM ブック(拡張機能が有効になっている場合)

サービス管理者: EPM 管理拡張機能が有効になっている場合、サービス管理者は、「アクション」メニューで「アプリケーション管理」および「テンプレートのダウンロード」オプションを使用できます。*Planning の管理*の Smart View を使用したアプリケーションの管理を参照してください。

その他のパネル

次のように、一部のタスク・パネルは「Smart View ホーム」パネルに重なる場合があります:

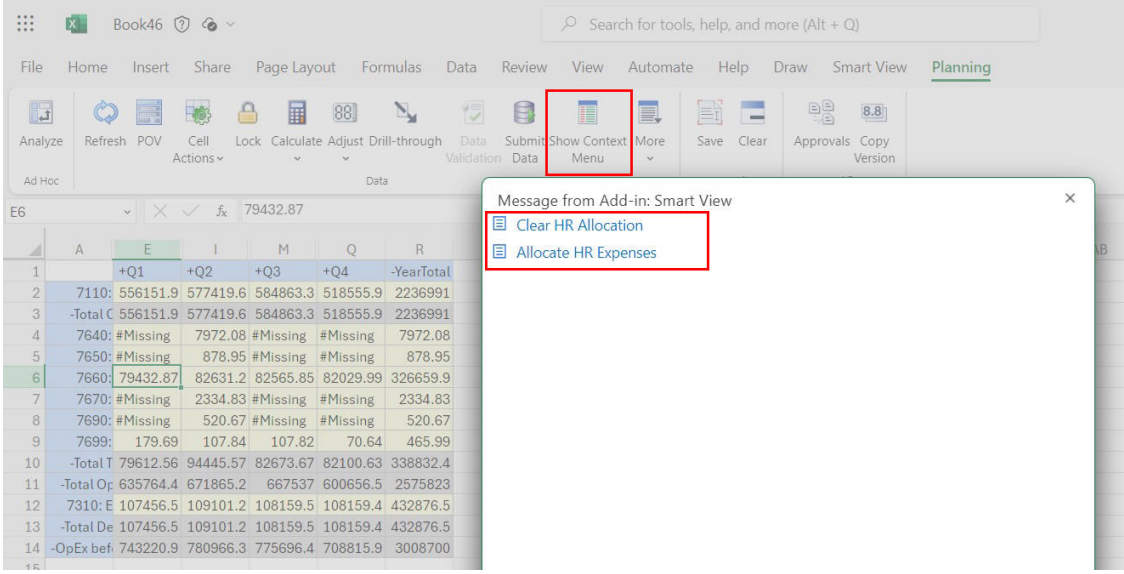
- 「オプション」パネル: 「Smart View」リボンの「オプション」ボタンをクリックした後、Smart View オプションを表示および定義します(Smart View のオプションの設定を参照)
- 「POV」パネル: 「視点の設定」、「Smart View」リボンの「POV」ボタンをクリックした後(視点ディメンションからのメンバーの選択を参照)
- 「カスケード」パネル: レポートのカスケード、「Smart View」リボンの「カスケード」ボタンをクリックした後(レポートのカスケードを参照)

各タスク・パネルを開くと、パネルの横にタブが表示されます。必要に応じてタブをクリックして、パネルを切り替えることができます。

コンテキスト・メニュー

フォームでコンテキスト・メニューにアクセスするには、シート内でメンバーまたはデータ・セルを選択し、プロバイダ・リボンの「コンテキスト・メニュー」ボタンをクリックします。コンテキスト・メニューで使用可能なアイテムは、選択したメンバーまたはデータ・セルによって異なる場合があります。使用可能なオプションは、サービス管理者とフォーム・デザイナによって決定され、現在開いているフォームに定義されているビジネス・ルールまたはアクション・メニュー・アイテムで構成されます。

サービス管理者: コンテキスト・メニューに表示されるコマンドは、Web アプリケーションで定義され、フォームに適用されるアクション・メニューによって異なります。*Planning の管理*のアクション・メニューの管理を参照してください

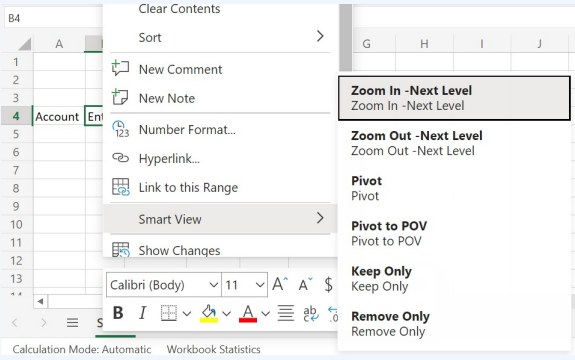


右クリック・コンテキスト・メニュー

右クリック・コンテキスト・メニューは、選択したセルのコンテキスト内でよく使用するメニュー・アイテムにアクセスするための 便利な方法です。右クリック・コンテキスト・メニューで使用できるアイテムは、サービス管理者がマニフェスト・ファイルの作成時に選択したオプションによって異なります。サービス管理者は、マニフェスト・ファイルを編集し、再デプロイまたは再サイドロードすることで、メニューを追加または削除できます。

ノート:

コンテキスト・メニューでメニュー・オプション名が繰り返されています。例:



サービス管理者: 右クリック・コンテキスト・メニューに表示されるコマンドは、マニフェスト・ファイルの作成時に**コンテキスト・メニューのアイテムの選択**ダイアログで選択した内容によって異なります。マニフェスト・ファイルの作成およびデプロイの詳細は、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイおよび管理*を参照してください。

Smart View のデプロイ

管理者は Smart View (Mac およびブラウザ)を Office 365 ユーザーにデプロイする必要があります。

Smart View (Mac およびブラウザ)は、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management 環境と Oracle Essbase 環境でホストされています。

詳細は、Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイおよび管理を参照してください

Smart View 機能へのアクセス

Smart View 機能へのアクセスは、サービス管理者がビジネス・プロセスでユーザーに設定したアクセス権によって異なります。

サービス管理者: 詳細は、アクセス制御の管理を参照してください。

4
データ・ソースへの接続

次も参照:

- Mac でのデータ・ソースへの接続
  このトピックの手順を完了して、Mac で Office 365、ご利用のクラウド・サービス、Smart View (Mac およびブラウザ)にログインします。
- Chrome でのデータ・ソースへの接続
  このトピックの手順を完了して、Chrome を使用して Office 365、ご利用のクラウド・サービス、Smart View (Mac およびブラウザ)にログインします。
- データ・ソースからの切断
  シート上の接続されたデータ・ソースから接続を切断するには、**「切断」**コマンドを**「アクション」**メニューまたは右クリック・メニューで使用します。

Mac でのデータ・ソースへの接続

このトピックの手順を完了して、Mac で Office 365、ご利用のクラウド・サービス、Smart View (Mac およびブラウザ)にログインします。

環境にログインするには:

1. Mac で Excel 365 を起動し、Office 365 のアカウントにログインします。

   Smart View のリボンが他の Excel 365 のリボンとともに表示されます。
2. **「Smart View」**リボンを選択し、**「ホーム」**をクリックします。

   Excel シートの右側の **Smart View** パネルに、Oracle Cloud ログイン情報が表示されます。
3. ユーザー名とパスワードを入力し、**「実行」**をクリックします。

   これで環境に接続され、**Smart View** パネルにライブラリ・フォルダとキューブが表示されます。

> **ノート:**
>
> - 21.09 以降、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の起動時に「更新が使用可能です。」メッセージが表示されます。更新を使用するには、新規または更新されたマニフェスト・ファイルが必要です。エンド・ユーザーは、このメッセージを無視して Smart View の使用を続行できます。管理者は、**「更新の取得」**をクリックして**マニフェスト・ファイルの作成**ページに移動し、新規マニフェスト・ファイルを作成するか既存のマニフェスト・ファイルを更新して、ユーザーにデプロイできます。
> - 毎月のプロバイダ更新後、または新規や変更されたマニフェスト・ファイルの展開後に発生するログイン問題を解決するには、Excel の Office キャッシュと Web キャッシュのクリアを試みます。Mac での Office および Web キャッシュのクリアを参照してください。

Chrome でのデータ・ソースへの接続

このトピックの手順を完了して、Chrome を使用して Office 365、ご利用のクラウド・サービス、Smart View (Mac およびブラウザ)にログインします。

1. Chrome で、Web アプリケーションにログインします。

   たとえば、Planning を起動し、ログインします。

   Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)にログインする前に、ブラウザでサービスが実行されている必要があります。

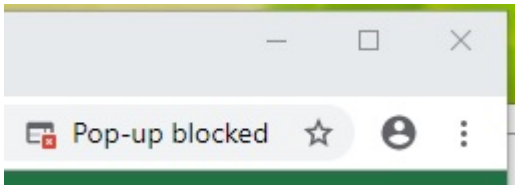
2. ブラウザで別のタブを開き、Office 365 の資格証明を使用して **portal.office.com** にログインします。
3. **「Excel」**を選択します。
4. **「Excel へようこそ」**ページで**「空白のブックを新規作成」**をクリックするか、既存のワークブックを開きます。
5. 「Smart View」リボンを選択します。
6. Smart View リボンで、**「ホーム」**をクリックして「Smart View ホーム」パネルを起動します。ライブラリ・フォルダとキューブが表示されます。

> **ノート:**
>
> - 21.09 以降、Smart View (Mac およびブラウザ)の起動時に「更新が使用可能です。」メッセージが表示されます。更新を使用するには、新規または更新されたマニフェスト・ファイルが必要です。エンド・ユーザーは、このメッセージを無視して Smart View の使用を続行できます。管理者は、**「更新の取得」**をクリックして**マニフェスト・ファイルの作成**ページに移動し、新規マニフェスト・ファイルを作成するか既存のマニフェスト・ファイルを更新して、ユーザーにデプロイできます。
> - Chrome でポップアップを許可するには、Chrome の Office Online からのポップアップの許可を参照してください。
> - アドインにカスタム関数をインストールするときに発生するエラーを解決するには、Chrome のキャッシュのクリアを試みます。Chrome ブラウザのキャッシュのクリアを参照してください。

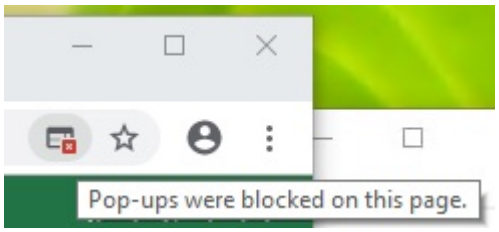
Chrome の Office Online からのポップアップの許可

Chrome の Office Online 環境で Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)を使用していると、ポップアップがある場合に Chrome によりブロックされます。最初にポップアップがブロックされるときに、Chrome でこれらのポップアップを許可するように指定できます。

たとえば、リボンにあるボタン(**「別名の変更」**ボタンなど)を最初にクリックしたときに、ポップアップ・ブロッカが表示される場合があります。Chrome でポップアップ・ブロッカが表示された場合、アドレス・バーに「ポップアップがブロックされました」がポップアップ・ブロッカ・ボタンとともに少しの間表示されます。



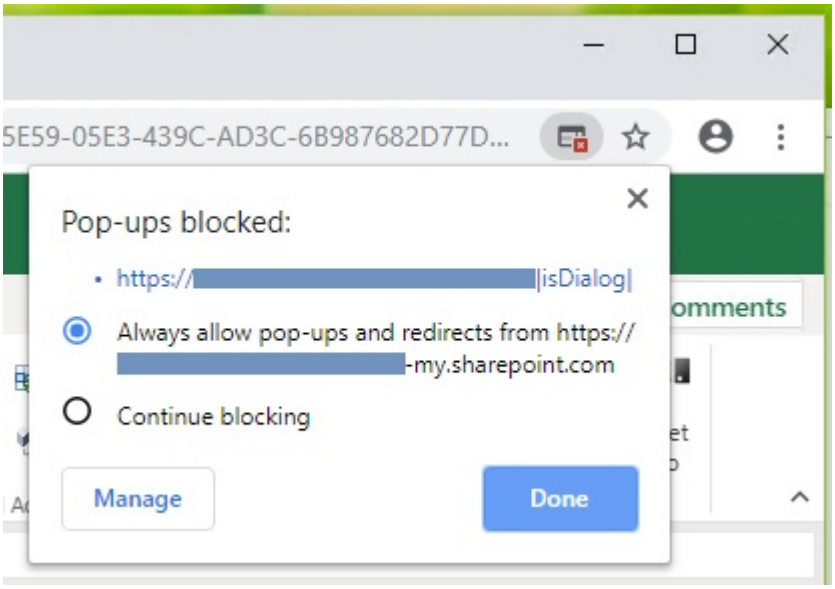
しばらくすると、ポップアップ・ブロッカ・ボタンのみがアドレス・バーに表示されます。ボタンの上にカーソルをあわせると表示されるテキストは、このページでポップアップがブロックされたことを示します。



作業中に Office Online からポップアップを許可するには:

1. ポップアップ・ブロッカが最初に表示されたときに、ポップアップ・ブロッカを起動したダイアログを開いたままにします。これを閉じたり、そこで何かを選択したりしないでください。
2. Chrome のアドレス・バーでポップアップ・ブロッカ・ボタンをクリックします。

   「ポップアップがブロックされました」ダイアログが表示されます。



3. **常に許可する**オプションを選択してから、**「完了」**をクリックします。

   Office Online URL が Chrome の許可済ポップアップのリストに追加されます。
4. 作業中のダイアログがまだ開いている場合は閉じます。

5. ブラウザを再起動し、Web アプリケーション、Office 365 および Smart View に再接続してから作業していたタスクを繰り返します。

> **ノート:**
>
> すべての後続の Smart View 操作およびセッションに対して、この手順を 1 回のみ実行する必要があります。

データ・ソースからの切断

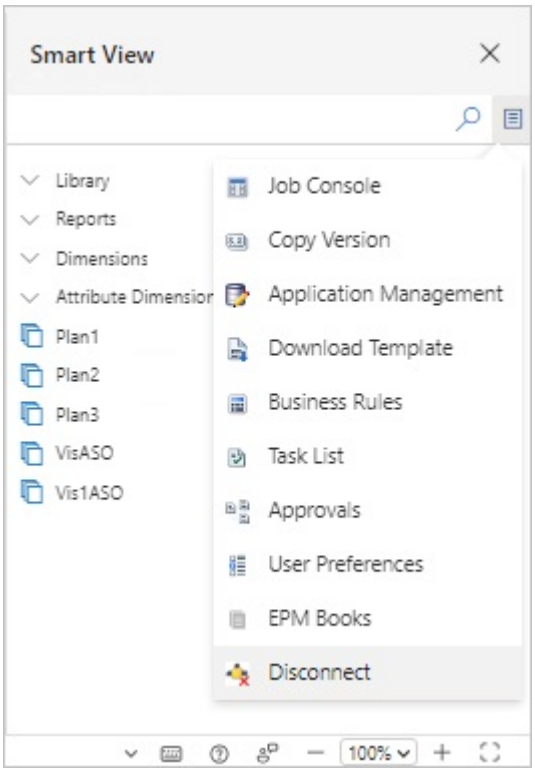
シート上の接続されたデータ・ソースから接続を切断するには、**「切断」**コマンドを**「アクション」**メニューまたは右クリック・メニューで使用します。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

シート上の接続されたデータ・ソースから切断するには:

1. **「ホーム」**を「Smart View」リボンから選択し、「Smart View ホーム」パネルを起動します。
2. **「アクション」**ボタン(☰)をクリックし、**「アクション」**メニューを表示し、**「切断」**を選択します。

Figure 4-1　「アクション」メニューの切断操作



または、「Smart View ホーム」パネル内の任意の場所を右クリックし、**「アクション」**メニューを表示し、**「切断」**を選択します。

この操作によって、現在のワークブックで使用されている接続されたデータ・ソースが切断されます。

> **Note:**
>
> **「切断」**の実行後:
>
> - Mac の場合、ビジネス・プロセスのための Oracle Cloud のサインイン・ページが「Smart View パネル」に表示されます。
> - Chrome の場合、ビジネス・プロセスのための Oracle Cloud のサインイン・ページを含む新しいタブが開きます。

3. 切断後にデータ・ソースに再接続するには、Smart View コンテンツを含むファイルを閉じていないことを前提とします:
   a. 以前接続していたデータ・ソースにログインします。
      - **Mac:**
        i. Oracle Cloud のサインイン・ページが表示された「Smart View ホーム」パネルで、自分のユーザー・ログイン資格証明を入力します。

           ログイン後、Cloud EPM ビジネス・プロセスのホームページの部分が、右上隅の ボタンと一緒にパネルに表示されます。

        ii. ボタンをクリックして、ドロップダウン・メニューから**「リロード」**を選択します。

           接続されたデータ・ソースのライブラリは、「Smart View ホーム」パネルに表示されます。

           > **Note:**
           >
           > このとき、まだ Smart View コンテンツを含むシート上にいるはずです。

      - **Chrome:**
        i. Oracle Cloud のサインイン・ページを含むタブで、ログイン資格情報を入力します。

           > **Note:**
           >
           > これは、前の手順で**「切断」**アクションを選択したときに開いたタブです。

           ログイン後、Cloud EPM ビジネス・プロセス・ホーム・ページが表示されます。

        ii. 前に操作していた Smart View コンテンツを含むブラウザ・タブに戻ります。
   b. Smart View のリボンを選択し、**「リフレッシュ」**をクリックします。

または、プロバイダまたはプロバイダ・アド・ホック・リボンが表示されている場合は、そのリボンの**「リフレッシュ」**ボタンを使用できます。

ワークブック内の各シートに対してこの手順を繰り返します。

> **Note:**
>
> Chrome で、Smart View の**「リフレッシュ」**が動作しない場合、Chrome の**再読込み**のためのボタン(↻)を使用してブラウザ・ページのリフレッシュを試みます。

5

Smart View (Mac およびブラウザ)におけるローカライズ

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)は、ローカライズ・バージョンのユーザー・インタフェースをサポートします。

ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)では、英語以外のエクスペリエンスが向上しており、必要に応じて希望の言語に切り替えて Smart View (Mac およびブラウザ)ユーザー・インタフェースを操作できます。

サポートされている言語は次のとおりです: アラビア語、チェコ語、デンマーク語、ドイツ語、ギリシャ語、英語、スペイン語、フィンランド語、フランス語、フランス語(カナダ)、ヘブライ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、オランダ語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ポルトガル語(ブラジル)、ルーマニア語、ロシア語、スロバキア語、スウェーデン語、タイ語、トルコ語、簡体字中国語、繁体字中国語。

Mac では、Mac システムのロケールを変更してローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)を使用します。Chrome ブラウザでは、Office 365 の言語プリファレンスを変更します。サポートされている言語への変更はいつでも行うことができます。たとえば、ユーザーは英語からフランス語に変更し、後でフランス語から簡体字中国語に変更できます。インタフェース言語の変更に制限はありません。

ローカライズ・バージョンの Smart View (Mac およびブラウザ)を使用するには:

- Mac では、Mac システムの言語バージョンを変更します。指示については、Mac の言語を変更するを参照してください。

  Mac システムで言語を変更する場合、変更は即時行われます。

- Windows 10 では、ブラウザ・バージョンの Office 365 で言語表示プリファレンスを変更します。指示については、Microsoft 365 for Business で表示言語とタイム ゾーンを変更するを参照してください。

  Windows 版の Office 365 で言語を変更する場合、変更が有効になるまで 20 分以上見込んでください。

6

Smart View のオプション

次も参照:

- Smart View のオプションの設定
  Smart View のオプションを使用して、データ、メンバー、フォーマットおよび拡張設定を表示するためのオプションを設定します。
- 詳細オプション
  管理タスクやその他の高度なタスクの詳細オプションを設定します。
- データ・オプション
  データ・オプションを設定して、データ・セルの表示を制御します。
- メンバー・オプション
  メンバー・オプションを設定して、フォームおよびアド・ホック・グリッドでのメンバーの表示方法を定義します。
- フォーマット・オプション
  メンバーとデータのテキスト表示を制御するには、フォーマット・オプションを設定します。

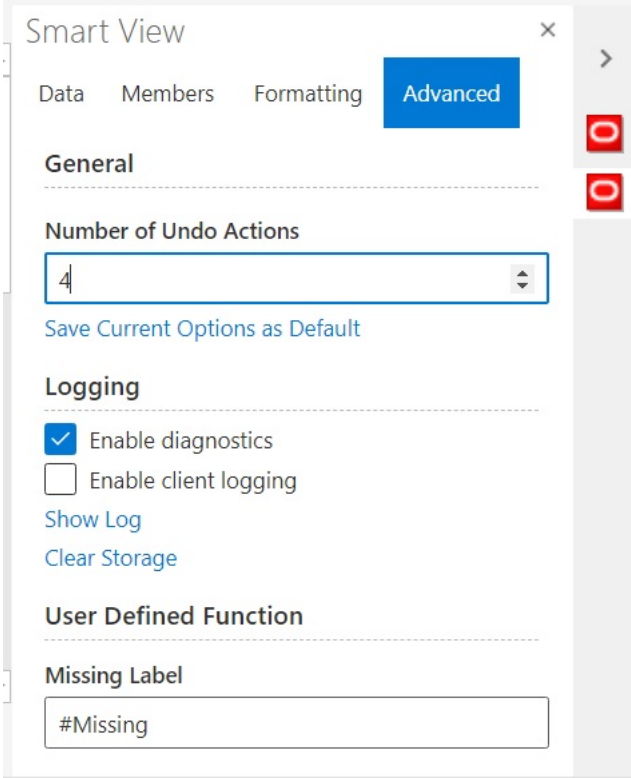
Smart View のオプションの設定

Smart View のオプションを使用して、データ、メンバー、フォーマットおよび拡張設定を表示するためのオプションを設定します。

「オプション」パネルで、**「詳細」**タブのグローバル・オプションを設定できます。**「データ」**、**「メンバー」**、**「フォーマット」**タブで、表示オプションや書式設定オプションなど、シートのオプションを設定できます。

次に示しているのは、「オプション」 パネルの**「詳細」**タブの例です。この例では、**「元に戻す処理の数」**が 4 に変更され(デフォルトは 0)、**「診断を有効にする」**が選択されています(デフォルトは選択解除)。

図 6-1 「オプション」パネル、「詳細」タブ



要約するには:

- **グローバル・オプション**は、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加される新しいシートを含む)、および今後作成されるワークブックに適用されます。グローバル・オプションを変更すると、既存のシートおよびワークブックにも影響があります。**「オプション」**パネルの**「詳細」**タブに表示されるオプションは、一般にグローバル・オプションです。
- **シート・オプション**は、設定対象のシートに限定されます。**「オプション」**パネルの**「データ」**、**「メンバー」**および**「フォーマット」**タブに表示されるオプションは、一般にシート・オプションです。

  「オプション」パネルの下部にある**「すべてのシートに適用」**ボタンをクリックすると、シートのオプションの選択内容を現在のブック内のすべてのシートに適用できます。

  「オプション」パネルの**「詳細」**タブの**「現在のオプションをデフォルトとして保存」**コマンドを使用して、シート・オプションをデータ・ソースからインポートする新しいコンテンツのデフォルトとして保存することもできます。

詳細オプション

管理タスクやその他の高度なタスクの詳細オプションを設定します。

「詳細」タブのオプションはグローバル・オプションで、現在のワークブック全体(現在のワークブックに追加される新しいシートを含む)に適用され、既存および新規のすべてのワークブックのデフォルトになります。

「オプション」パネルの**「詳細」**タブは、常に使用可能です。アド・ホックの実行、フォームを開く、シートのアクティブ接続の設定、関数の接続の設定などの操作を実行する前に、**「詳細」**タブにアクセスできます。

詳細オプションを設定するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**パネルを起動します。
2. **「オプション」**パネルで、**「詳細」**タブを選択します。
3. 詳細オプションの説明に従って、**「詳細」**タブで選択を行います。
4. **オプション: 「データ」**、**「メンバー」**または**「フォーマット」**タブのオプションにさらに変更を追加します。
5. 右上隅にある×をクリックして**「オプション」**を閉じます。

> **ノート:**
>
> **「すべてのシートに適用」**ボタンのクリックは、必須ではありません。**「詳細」**タブに表示されるオプションは、**「すべてのシートに適用」**をクリックしたかどうかに関係なく、常にすべてのシートに適用されます。
> ただし、**「データ」**、**「メンバー」**、**「フォーマット」**の各タブで変更を加えた場合、それらの変更内容をワークブック内のすべてのシートに適用するには、**「すべてのシートに適用」**をクリックする必要があります。

詳細オプション

表 6-1 詳細オプション

オプション	説明
全般	**全般**
元に戻す処理の数	1 回の操作で許可される元に戻す処理とやり直し処理の数を設定します(0 から 100)。 「元に戻す」と「やり直し」の使用を参照してください。
現在のオプションをデフォルトとして保存	**「データ」**、**「メンバー」**および**「フォーマット」**タブで変更したオプション選択を保存する場合に選択します。保存すると、オプション選択はデータ・ソースからインポートする新しいコンテンツのデフォルトになります。 **ノート:** **「詳細」**タブに追加した変更内容は自動的にデフォルト設定になります。**「詳細」**のオプションを保存するために**「現在のオプションをデフォルトとして保存」**コマンドを選択する必要はありません。
ロギング	**ロギング**
診断を有効にする	診断を有効にする場合に選択します。
クライアント・ロギングの有効化	クライアント・ロギングを有効にする場合に選択します。

表 6-1 (続き) 詳細オプション

オプション	説明
ログの表示	Smart View ログを別のウィンドウに表示する場合にクリックします。ログは、ウィンドウに表示するか、ファイルにダウンロードできます。
ストレージのクリア	ストレージ・キャッシュをクリアする場合にクリックします。ストレージ・キャッシュには、**「詳細」**タブに加えて、**「データ」**、**「メンバー」**および**「フォーマット」**タブで以前に選択したオプションが含まれています。
ユーザー定義関数	**ユーザー定義関数**
欠落ラベル	ユーザー定義関数内の欠落データに値を指定します。

データ・オプション

データ・オプションを設定して、データ・セルの表示を制御します。

データ・オプションを設定するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**パネルを起動します。
2. **「オプション」**パネルで、**「データ」**タブを選択します。
3. 次の説明に従って、**「データ」**タブで選択を行います。
   - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management については、Cloud EPM のデータ・オプションを参照してください。
   - Oracle Essbase の場合、Oracle Essbase のデータ・オプションを参照してください。
4. **オプション: 「データ」**タブの選択内容を現在のワークブック内のすべてのシートに適用するには、**「すべてのシートに適用」**ボタンをクリックします。

   > **ノート:**
   >
   > **「すべてのシートに適用」**をクリックすると、**「データ」**タブの選択内容が、**「メンバー」**タブと**「フォーマット」**タブで行ったその他の変更内容と一緒に適用されます。

5. **オプション: 「データ」**タブの選択を、データ・ソースからインポートする新しいコンテンツのデフォルトの選択として保存するには、**「詳細」**タブを選択し、**「現在のオプションをデフォルトとして保存」**をクリックします。
6. 右上隅にある×をクリックして**「オプション」**を閉じます。

Cloud EPM のデータ・オプション

表 6-2 データ・オプション

オプション	説明
行の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む行を抑制できます。 **ノート:** 抑制行では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。
ゼロ	ゼロのみを含む行が抑制されます。

表 6-2 (続き) データ・オプション

オプション	説明
無効	無効な値のみを含む行が抑制されます。
欠落	データベースにデータが存在しないセルのみを含む行が抑制されます。データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です。
アンダースコア	メンバー名にアンダースコア文字を含む行が抑制されます。
列の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む列を抑制できます。 **ノート:** 抑制列では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。
ゼロ	ゼロのみを含む列が抑制されます。
無効	実際のデータが無効な場合でも、**「#Invalid/#Meaningless」**やその他の置換テキストではなく、実際のデータを表示します。データが存在しない場合、セルは空白のままです。
欠落	データベース内にデータが存在しないセルを含む列が抑制されます。データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です。 後で**データなし/欠落**をクリアすると、抑制されていた値は、その時点以降に入力された場合にのみ表示されます。このオプションを選択していた間に抑制されていた値を取得するためには、ズーム・アウトしてからズーム・インする必要があります。
アンダースコア	メンバー名にアンダースコア文字を含む列が抑制されます。
ブロックの抑制	**ブロックの抑制**
欠落ブロックの抑制	データベースにデータが存在しないセルのブロックを抑制します。
置換	**置換**
欠落/データなしラベル アクセス権なしラベル	データ・セルでは、データが欠落している、または表示権限のないデータが含まれている場合があります。Smart View では、このようなセルにはデフォルトで `#Missing` または`#No Access` とそれぞれ表示されますが、これらのラベルの変更は可能です。 `#Missing` 置換ラベルにより、セル交差のデータ値をクリアできます。たとえば、ニューヨークの販売データをクリアするには、Sales と New York が交差するセルで手動で`#Missing` と入力し、**「送信」**をクリックします。これにより、データベースからデータ値がクリアされます。このデータベースの後続の問合せでは、Sales および New York の交差で`#Missing` が表示されます。 ラベルを変更するには、これらのフィールドのいずれかに選択したテキストを入力します(またはデフォルトのままにします)。テキスト・ラベルは説明的であるという利点がありますが、Excel 関数の失敗の原因になります。 `#Missing` フィールドで、`#NumericZero` と入力して数値ゼロ(0)の置換ラベルを指定できます。`#NumericZero` とともに関数を使用できますが、**「ゼロを送信」**チェック・ボックスを選択しないかぎり、(ゼロが置換ラベルではなく実際のゼロである場合でも)データベースにゼロを送信することはできません。数値ゼロのラベルを持つセルに依存する計算は正しく計算され、セルの値にゼロが取得されます。 **ノート:** `#NumericZero` を入力する場合は、期間にデータを分散するときに親データが削除されるように**「ゼロを送信」**オプションが選択されていることを確認します。
ゼロを送信	前述の**#Missing** ラベルに`#NumericZero` を選択した場合、ゼロをデータベースに送信可能にする際は、このオプションを選択します。

表 6-2 (続き) データ・オプション

オプション	説明
アド・ホック・モード	**アド・ホック・モード**
データなし操作	ナビゲート中にソース・データを計算しないようにして**「ピボット」**、**「ズーム」**、**「選択項目のみ保持」**、**「選択項目のみ削除」**などの操作を高速化します。データを取得する準備ができたら、**「データなし操作」**の選択を解除します。
分散	**分散**
分散を有効化する	現在のフォームで期間の分散を有効にする場合に選択します。 このチェック・ボックスは、開いている各フォームのシートごとに選択する必要があります。 この設定は、保存したワークブックを再度開いた場合には保持されます。 この設定は、新規または別のワークブックで同じフォームを開いた場合には保持されません。

> **ノート:**
>
> Chrome では、**「オプション」**パネルを起動するときに、ウィンドウを最大化しても、**「データ」**タブの**分散を有効化する**チェック・ボックスは表示されません。ボタンを表示するには、**分散を有効化する**ボタンが表示されるまで、Chrome ウィンドウの右上にある**「最大化」/元のサイズに戻す**ボタン(□/⧉)をクリックします。□をクリックするか、または⧉を再度クリックして、ウィンドウを目的のサイズに戻します(ウィンドウの最大化またはサイズ変更)。

Oracle Essbase のデータ・オプション

表 6-3 データ・オプション

オプション	説明
行の抑制	グリッドを見やすくするために、表示する必要のないデータ・タイプを含む行を抑制できます。 **ノート:** 抑制行では、セルによる Excel の式の参照は更新されません。
ゼロ	ゼロのみを含む行が抑制されます。
無効	無効な値のみを含む行が抑制されます。
欠落	データベースにデータが存在しないセルのみを含む行が抑制されます。データなしはゼロとは異なります。ゼロはデータ値です。
アクセス権なし	行に含まれるデータを表示するためのセキュリティ・アクセスをユーザーが持っていない場合に、その行が抑制されます。
アンダースコア	メンバー名にアンダースコア文字を含む行が抑制されます。
置換	**置換**

表 6-3 (続き) データ・オプション

オプション	説明
欠落/データなしラベル アクセス権なしラベル	データ・セルでは、データが欠落している、または表示権限のないデータが含まれている場合があります。Smart View では、このようなセルにはデフォルトで#Missing または#No Access とそれぞれ表示されますが、これらのラベルの変更は可能です。 #Missing 置換ラベルにより、セル交差のデータ値をクリアできます。たとえば、ニューヨークの販売データをクリアするには、Sales と New York が交差するセルで手動で#Missing と入力し、**「送信」**をクリックします。これにより、データベースからデータ値がクリアされます。このデータベースの後続の問合せでは、Sales および New York の交差で#Missing が表示されます。 ラベルを変更するには、これらのフィールドのいずれかに選択したテキストを入力します(またはデフォルトのままにします)。テキスト・ラベルは説明的であるという利点がありますが、Excel 関数の失敗の原因になります。 #Missing フィールドで、#NumericZero と入力して数値ゼロ(0)の置換ラベルを指定できます。#NumericZero とともに関数を使用できますが、**「ゼロを送信」**チェック・ボックスを選択しないかぎり、(ゼロが置換ラベルではなく実際のゼロである場合でも)データベースにゼロを送信することはできません。数値ゼロのラベルを持つセルに依存する計算は正しく計算され、セルの値にゼロが取得されます。 **ノート:** #NumericZero を入力する場合は、期間にデータを分散するときに親データが削除されるように**「ゼロを送信」**オプションが選択されていることを確認します。
ゼロを送信	前述の**#Missing** ラベルに#NumericZero を選択した場合、ゼロをデータベースに送信可能にする際は、このオプションを選択します。
アド・ホック・モード	**アド・ホック・モード**
データなし操作	ナビゲート中にソース・データを計算しないようにして**「ピボット」**、**「ズーム」**、**「選択項目のみ保持」**、**「選択項目のみ削除」**などの操作を高速化します。データを取得する準備ができたら、**「データなし操作」**の選択を解除します。

メンバー・オプション

メンバー・オプションを設定して、フォームおよびアド・ホック・グリッドでのメンバーの表示方法を定義します。

メンバー・オプションを設定するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**パネルを起動します。
2. **「オプション」**パネルで、**「メンバー」**タブを選択します。
3. 次の説明に従って、**「メンバー」**タブで選択を行います。
   - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management については、Cloud EPM のメンバー・オプションを参照してください。

- Oracle Essbase の場合、Oracle Essbase のメンバー・オプションを参照してください。

4. **オプション:「メンバー」**タブの選択内容を現在のワークブック内のすべてのシートに適用するには、**「すべてのシートに適用」**ボタンをクリックします。

> **ノート:**
>
> **「すべてのシートに適用」**をクリックすると、**「メンバー」**タブの選択内容が、**「データ」**タブと**「フォーマット」**タブで行ったその他の変更内容と一緒に適用されます。

5. **オプション:「メンバー」**タブの選択を、データ・ソースからインポートする新しいコンテンツのデフォルトの選択として保存するには、**「詳細」**タブを選択し、**「現在のオプションをデフォルトとして保存」**をクリックします。
6. 右上隅にある×をクリックして**「オプション」**を閉じます。

Cloud EPM のメンバー・オプション

表 6-4 メンバー・オプション

オプション	説明
全般	**全般**
祖先の配置	次のいずれかを選択し、階層内の祖先の位置を指定します: • **「最上位」**を選択すると、最上位レベルから最下位レベルの順序で階層が表示されます。 • **「最下位」**を選択すると、最下位レベルから最上位レベルの順序で階層が表示されます。
インデント	アド・ホックのみに適用します。 次のいずれかを選択し、階層レベルのインデント方法を指定します: • **なし** • **「サブアイテム」**を選択すると、子孫がインデント表示されます。祖先は列内で左寄せになります。
メンバー名の表示	次のいずれかを選択し、セルのメンバー名の表示方法を指定します: • **「メンバー名または別名」**を選択すると、メンバー名のみ(別名表が使用されている場合、別名のみ)が表示されます。 • **「メンバー名と別名」**を選択すると、メンバー名とその別名が表示されます • **「個別のメンバー名のみ」**を選択すると、完全修飾名が表示されます。
テキストとしてのメンバーのフォーマット	次のいずれかを選択し、メンバーをテキストとしてフォーマットする方法を指定します: • **一重引用符** • **なし**
メンバーの保持	**メンバーの保持** アド・ホック・グリッドのみです。
選択を含める	選択したメンバーと、操作の結果として取得されたメンバーを表示します。
選択したグループ内	選択したセル・グループでのみアド・ホック操作が実行され、選択していないセル・グループはそのまま残ります。この設定は、**「ズーム」**、**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ除去」**に対して、グリッドの下方向の行またはグリッドの横方向の列として、2 つ以上のディメンションがある場合にのみ意味を持ちます。

表 6-4 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
選択されていないグループの除去	**「ズーム・イン」**または**「ズーム・アウト」**では、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。
コメントと式	**コメントと式**
アド・ホックで式とコメントを保持	アド・ホック・グリッドで式およびコメントが保持されます。 このオプションをクリアした場合、式およびコメントがグリッドから削除されます。 **ノート:** **「アド・ホックで式とコメントを保持」**が選択されている場合、リフレッシュ操作のみがサポートされます。**「ズーム・イン」**または**「選択項目のみ保持」**などの他のアド・ホック操作にはサポートされていません。
コメントと不明メンバーの保持	コメントおよび不明メンバーをアド・ホック・グリッドに保持します。 **ノート:** **「コメントと不明メンバーの保持」**が選択されている場合、リフレッシュ操作のみがサポートされます。**「ズーム・イン」**または**「選択項目のみ保持」**などの他のアド・ホック操作にはサポートされていません。
フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持	POV またはユーザー変数の変更後、変更されたメンバーをフレックス・フォームに保持します。 このオプションが選択されていないと、フレックス・フォームに追加した行または列は POV またはユーザー変数の変更時に削除されます。詳細は、POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持を参照してください。

Oracle Essbase のメンバー・オプション

表 6-5 メンバー・オプション

オプション	説明
全般	**全般**
祖先の配置	次のいずれかを選択し、階層内の祖先の位置を指定します: • **「最上位」**を選択すると、最上位レベルから最下位レベルの順序で階層が表示されます。 • **「最下位」**を選択すると、最下位レベルから最上位レベルの順序で階層が表示されます。

表 6-5 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
インデント	次のいずれかを選択し、階層レベルのインデント方法を指定します: • **なし** • **「サブアイテム」**を選択すると、子孫がインデント表示されます。祖先は列内で左寄せになります。 • **「合計」**を選択すると、祖先がインデント表示されます。子孫は列内で左寄せになります。
メンバー名の表示	次のいずれかを選択し、セルのメンバー名の表示方法を指定します: • **「メンバー名または別名」**を選択すると、メンバー名のみ(別名表が使用されている場合、別名のみ)が表示されます。 • **「個別のメンバー名のみ」**を選択すると、完全修飾名が表示されます。 • **「個別のメンバー名と別名」**を選択すると、完全修飾名およびその別名が表示されます。
テキストとしてのメンバーのフォーマット	次のいずれかを選択し、メンバーをテキストとしてフォーマットする方法を指定します: • **一重引用符** • **なし**
メンバーの保持	**メンバーの保持**
選択を含める	選択したメンバーと、操作の結果として取得されたメンバーを表示します。
選択したグループ内	選択したセル・グループでのみアド・ホック操作が実行され、選択していないセル・グループはそのまま残ります。この設定は、**「ズーム」**、**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ除去」**に対して、グリッドの下方向の行またはグリッドの横方向の列として、2 つ以上のディメンションがある場合にのみ意味を持ちます。
選択されていないグループの除去	**「ズーム・イン」**または**「ズーム・アウト」**では、選択したメンバー、およびズームの結果として取得されたメンバーを除くすべてのディメンションとメンバーが除去されます。
コメントと式	**コメントと式**
アド・ホックで式とコメントを保持	アド・ホック・グリッドで式およびコメントが保持されます。 このオプションをクリアした場合、式およびコメントがグリッドから削除されます。

ノート:

「アド・ホックで式とコメントを保持」が選択されている場合、リフレッシュ操作のみがサポートされます。**「ズーム・イン」**または**「選択項目のみ保持」**などの他のアド・ホック操作にはサポートされていません。

表 6-5 (続き) メンバー・オプション

オプション	説明
式の充てん	メンバー・セルに関連付けられている式を、ズーム・インの結果として取得されたメンバーに伝播します。 このオプションは、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**が選択されている場合のみ選択できます。 **ノート:** このオプションは、メンバーとデータ・セルの両方の式に適用されます。
コメントと不明メンバーの保持	コメントおよび不明メンバーをアド・ホック・グリッドに保持します。 シートには、データベース・メンバーと一致しないメンバーが含まれている可能性があります。このオプションを選択すると、コメントまたは不明メンバーに関する警告メッセージなしでアド・ホック・グリッドをリフレッシュできます。コメントおよび不明メンバーに関するメッセージを表示するには、このオプションがクリアされていることを確認してください。 このオプションは、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**が選択されている場合のみ選択できます。 **ノート:「コメントと不明メンバーの保持」**が選択されている場合、リフレッシュ操作のみがサポートされます。**「ズーム・イン」**または**「選択項目のみ保持」**などの他のアド・ホック操作にはサポートされていません。

フォーマット・オプション

メンバーとデータのテキスト表示を制御するには、フォーマット・オプションを設定します。

ノート:

- ほとんどのフォーマット・オプションはフォームとアド・ホック・グリッドの両方に適用されます。例外は表 1 に示しています。
- フォーマット・オプションは、設定されたシートに限定されるシートレベルのオプションです。「現在のオプションをデフォルトとして保存」コマンドを使用して、データ・ソースからインポートした新しいコンテンツのフォーマット・オプションを保存することもできます。
- フォーマット・オプションは、ワークブックが保存されるときに保存されます。ワークブックを再度開くと、保存したフォーマット・オプションが表示されます。

フォーマット・オプションを設定するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**パネルを起動します。
2. **「オプション」**パネルで、**「フォーマット」**タブを選択します。
3. 次の説明に従って、**「フォーマット」**タブで選択を行います。

- Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management については、Cloud EPM のフォーマット・オプションを参照してください。
- Oracle Essbase の場合、Oracle Essbase のフォーマット・オプションを参照してください。

4. **オプション:「フォーマット」**タブの選択内容を現在のワークブック内のすべてのシートに適用するには、**「すべてのシートに適用」**ボタンをクリックします。

> **ノート:**
>
> **「すべてのシートに適用」**をクリックすると、**「フォーマット」**タブの選択内容が、**「データ」**タブと**「メンバー」**タブで行ったその他の変更内容と一緒に適用されます。

5. **オプション:「フォーマット」**タブの選択を、データ・ソースからインポートする新しいコンテンツのデフォルトの選択として保存するには、**「詳細」**タブを選択し、**「現在のオプションをデフォルトとして保存」**をクリックします。
6. 右上隅にある×をクリックして**「オプション」**を閉じます。

Cloud EPM のフォーマット・オプション

表 6-6 フォーマット・オプション

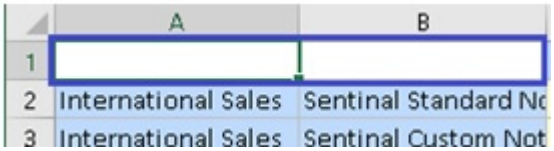
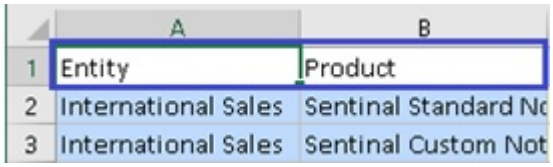
オプション	説明
ディメンション・ヘッダー	アド・ホック・グリッドのみです。 グリッドで行ディメンションの上にヘッダーを出力します。 たとえば、ディメンション・ヘッダーが選択されていない場合:  ディメンション・ヘッダーが選択されている場合: 
メンバー・ラベルの繰返し	フォームのみです。 データの各行にメンバー名を表示でき、フォームの可読性が増します。 繰返しメンバーが 1 つのセルにマージされるフォームでは、メンバー名が画面表示外になり、メンバー名と行データの間でスクロールを繰り返す必要が生じることがあります。**「メンバー・ラベルの繰返し」**を選択すると、フォームをより簡単に読み取り、使用できます。
3 桁ごとのセパレータの使用	数値データでカンマまたは他の 3 桁ごとのセパレータを使用します。 Excel の「オプション」の「インターナショナル」タブで、3 桁ごとのセパレータとして#または$を使用しないでください。

表 6-6 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
小数桁数	アド・ホックおよびフォームに適用されます。フォーム定義に定義されている設定をオーバーライドします。 データ値の小数点以下の桁数を指定します。 たとえば、Smart View で、選択されている小数点のオプションが"1"だとします。すべての値で、右側の少数の桁が 1 つに変更されます。元の値が 50.56 の場合、リフレッシュ後の値は 50.6 と表示されます。同様に、選択されているオプションが"3"の場合、表示される値は 50.560 になります。 Oracle Smart View for Office でフォームを開くと、フォーム定義の小数設定は失われます。これは、Excel フォーマットのみ精度の小数桁/値が固定された単一値を受け入れ、Web アプリケーションに定義された最小、最大値はサポートしていないためです。これは Excel フォーマットのデフォルト動作で、Smart View でも同様に動作します。Smart View では、セルに小数値を表示するためにユーザーは「小数点以下の桁数」(精度の長さ)を設定する必要があります。
列幅の調整	セルのコンテンツに合せて列の幅を自動的に調整します。
セルのスタイルの使用	アド・ホック・グリッドのみです。 メンバー・スタイル、データ・スタイルやその他のスタイル(該当する場合)に定義した背景色のフォーマットを使用します。ユーザー・フォーマットや Excel フォーマットはオーバーライドされます。 フォームおよびアド・ホック・グリッドに別々のセル・スタイルを設定できます。たとえば、メンバーの背景色を、フォームでは緑色、アド・ホック・グリッドでは青色に設定することもできます。

ノート:

デフォルトでは、アド・ホック分析の開始時に、**「セル・スタイルの使用」**は有効になっていません。そのため、フォームにはスタイルが表示されても、アド・ホック・グリッドとして開いた場合に、スタイルが消えたように見えることがあります。アド・ホック・グリッドでのセル・スタイルの操作に関する詳細は、Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用を参照してください。

表 6-6 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
スタイルの適用	フォームのみです。 Smart View にフォームが表示されたら、オプションを選択してシートにフォーマットを表示します: • **なし** - シートにスタイル(Excel フォーマットまたは Smart View のセル・スタイル)は適用されません。シートにセル・スタイルやカスタム・スタイルが存在する場合でも、このオプションを選択するといずれも表示されません。ただし、それらは保持されているため、**「セルのスタイル」**、**「カスタム・スタイル」**または**「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**オプションを使用して、後から表示できます。 • **セルのスタイル**—この表で説明されているように、Smart View のセル・スタイルのみがシートに適用されます。 • **カスタム・スタイル** - カスタムのユーザー定義ネイティブ Excel フォーマットのみがシートに適用されます。 • **カスタム・スタイルとセルのスタイル** - Excel フォーマットと Smart View のセル・スタイルの両方がシートに適用されます。 **「カスタム・スタイルとセルのスタイル」**を選択すると、カスタムの Excel フォーマットより、セルのスタイルが優先されることに注意してください。 選択を行った後、シートをリフレッシュしてください。
セルのスタイル	**セルのスタイル**
メンバー・スタイル	次のメンバー・スタイルの背景色を設定します。 • メンバー • 式(フォームのみ)
データ・スタイル	次のデータ・スタイルの背景色を設定します。 • ダーティ • ロック済(フォームのみ) • セル・テキスト(これらは Cloud EPM ではセル・コメントです) • 添付 • ドリルスルー • サポート詳細 • 読取り専用 • データ
その他のスタイル	次のその他のスタイルの背景色を設定します。 • ディメンション・ヘッダー(アド・ホックのみ) • コメント(これらはグリッドの外部に配置されるコメントです) • カスタム・ラベル • フォーム内の Excel 式(フォームのみ)

Oracle Essbase のフォーマット・オプション

表 6-7 フォーマット・オプション

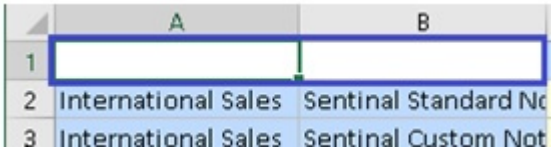
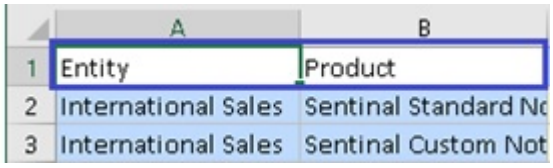
オプション	説明
ディメンション・ヘッダー	グリッドで行ディメンションの上にヘッダーを出力します。 たとえば、ディメンション・ヘッダーが選択されていない場合:  ディメンション・ヘッダーが選択されている場合: 
メンバー・ラベルの繰返し	データの各行にメンバー名を表示でき、フォームの可読性が増します。 繰返しメンバーが 1 つのセルにマージされる場所では、メンバー名が画面表示外になり、メンバー名と行データの間でスクロールを繰り返す必要が生じることがあります。**「メンバー・ラベルの繰返し」**を選択すると、読取りおよび使用がより簡単になります。
3 桁ごとのセパレータの使用	数値データでカンマまたは他の 3 桁ごとのセパレータを使用します。Excel の「オプション」の「インターナショナル」タブで、3 桁ごとのセパレータとして#または$を使用しないでください。
小数桁数	データ値の小数点以下の桁数を指定します。 たとえば、Smart View で、選択されている小数点のオプションが"1"だとします。すべての値で、右側の少数の桁が 1 つに変更されます。元の値が 50.56 の場合、リフレッシュ後の値は 50.6 と表示されます。同様に、選択されているオプションが"3"の場合、表示される値は 50.560 になります。 Smart View でフォームを開くと、フォーム定義の小数設定は失われます。これは、Excel フォーマットのみ精度の小数桁/値が固定された単一値を受け入れ、Web アプリケーションに定義された最小、最大値はサポートしていないためです。これは Excel フォーマットのデフォルト動作で、Smart View でも同様に動作します。Smart View では、セルに小数値を表示するためにユーザーは「小数点以下の桁数」(精度の長さ)を設定する必要があります。

表 6-7 (続き) フォーマット・オプション

オプション	説明
セルのスタイルの使用	メンバー・スタイル、データ・スタイルやその他のスタイル(該当する場合)に定義した背景色のフォーマットを使用します。ユーザー・フォーマットや Excel フォーマットはオーバーライドされます。 フォームおよびアド・ホック・グリッドに別々のセル・スタイルを設定できます。たとえば、メンバーの背景色を、フォームでは緑色、アド・ホック・グリッドでは青色に設定することもできます。 **ノート:** デフォルトでは、アド・ホック分析の開始時に、**「セル・スタイルの使用」**は有効になっていません。セル・スタイルの操作の詳細は、Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用を参照してください。
列幅の調整	セルのコンテンツに合せて列の幅を自動的に調整します。
セルのスタイル	**セルのスタイル**
メンバー・スタイル	次のメンバー・スタイルの背景色を設定します。 • 属性 • 共有 • 親 • 子 • メンバー • 重複メンバー • メンバーのドリル・スルー • 式
データ・スタイル	次のデータ・スタイルの背景色を設定します。 • ダーティ • ドリルスルー • 読取り専用 • データ
その他のスタイル	次のその他のスタイルの背景色を設定します。 • ディメンション・ヘッダー(アド・ホックのみ) • コメント(これらはグリッドの外部に配置されるコメントです)

7

ディメンションとメンバー

次も参照:

- ディメンションとメンバーについて
  *ディメンション*は、ビジネス・データを整理して値の取得と保持ができるようにするために使用するデータ・カテゴリです。
- 視点ディメンションの表示
  POV パネルを使用すると、POV ディメンションを表示し、POV ディメンションからメンバーを選択し、グリッドとの間で移動できます。
- メンバーの選択
  Smart View で、アド・ホック・グリッドおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームで使用するメンバーを選択します。
- メンバー式の表示
  式を含むディメンション・メンバー・セルにベースとなる式を表示できます。
- 修飾メンバー名の表示
  名前が一意でないか、同一でないメンバーの場合、その修飾メンバー名を表示して、わかりやすく識別しやすくできます。
- 別名および別名表の操作
  別名は、データベース・メンバーの代替名です。

ディメンションとメンバーについて

*ディメンション*は、ビジネス・データを整理して値の取得と保持ができるようにするために使用するデータ・カテゴリです。

ディメンションには通常、内部でグループ化された関連メンバーの階層が含まれています。たとえば、年ディメンションには、四半期や月など期間ごとのメンバーが含まれています。

視点ディメンションの表示

POV パネルを使用すると、POV ディメンションを表示し、POV ディメンションからメンバーを選択し、グリッドとの間で移動できます。

視点(POV)とは、データ・ソース接続におけるディメンションのデフォルトの開始点です。グリッドに含める各ディメンションのメンバーとフィルタを選択し、グリッドに、またはグリッドからメンバーを移動できます。

フォームでの POV の表示

フォームで視点ディメンションを表示するには:

1. フォームを開きます。
   フォームを開くには、Excel でフォームを開くを参照してください。

2. プロバイダのリボンから、**「POV」**

をクリックします。

POV ディメンションが**「POV」**パネルに表示されます。

アド・ホック・グリッドでの POV の表示

アド・ホック・グリッドで視点ディメンションを表示するには:

1. アド・ホック・モードでグリッドを表示します。
グリッドを開くには、アド・ホック分析の開始を参照してください。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「POV」**

をクリックします。

POV ディメンションが**「POV」**パネルに表示されます。

関連トピック:

- POV ディメンションのメンバーを選択するには、視点ディメンションからのメンバーの選択を参照してください。
- グリッドと POV の間でディメンションおよびメンバーをピボットするには、グリッドと POV の間のディメンションまたはメンバーのピボットを参照してください。

メンバーの選択

Smart View で、アド・ホック・グリッドおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームで使用するメンバーを選択します。

次も参照:

- メンバー・セレクタからのメンバーの選択
アド・ホック・グリッドを操作する際や、メンバーを選択して関数に追加する際、POV でディメンションを表示および変更する際など、様々な目的でメンバーを選択するときに「メンバー・セレクタ」ダイアログを使用できます。
- 視点ディメンションからのメンバーの選択
グリッドに含める各ディメンションのメンバーとフィルタを選択し、グリッドに、またはグリッドからメンバーを移動できます。
- フリーフォーム・モードでのメンバーの入力
データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合は、フリーフォーム・モードを使用して、これらの名前を直接セルに入力できます。

メンバー・セレクタからのメンバーの選択

アド・ホック・グリッドを操作する際や、メンバーを選択して関数に追加する際、POV でディメンションを表示および変更する際など、様々な目的でメンバーを選択するときに「メンバー・セレクタ」ダイアログを使用できます。

複数の方法で**「メンバー・セレクタ」**ダイアログを起動できます。例:

- **アド・ホック・グリッドから:**

グリッドでディメンションまたはメンバーを選択し、プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションから、**「メンバー選択」** をクリックします。たとえば、Planning に接続されている場合は、Planning アド・ホックのリボンで**「メンバー選択」**をクリックします。

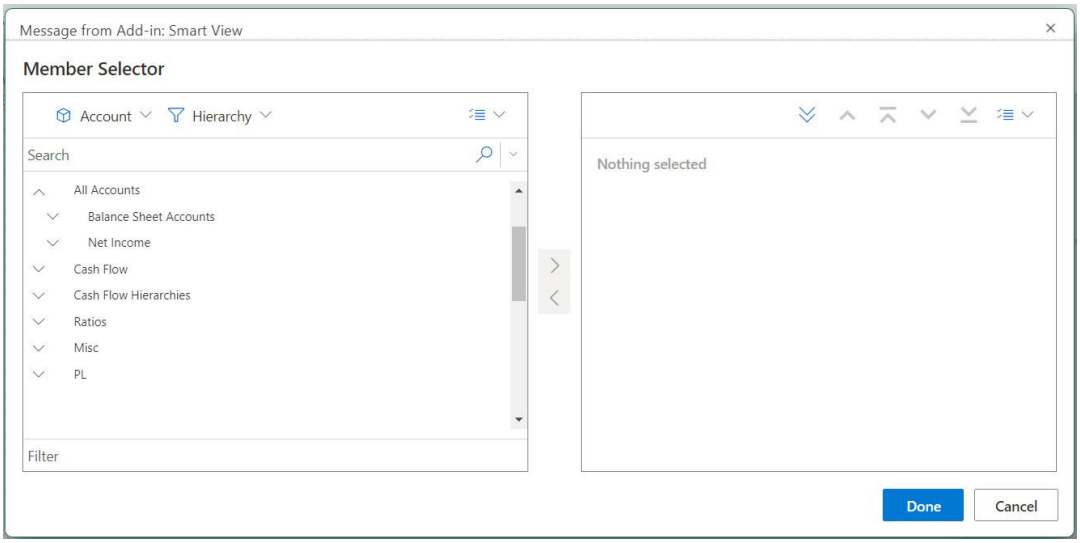
- **「POV」パネルから:**

  プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「データ」**セクションで、**「POV」** をクリックし、**「POV」**パネルに POV ディメンションを表示します。次に、POV ディメンションの横にある をクリックし、ドロップダウン・リストから**「メンバー・セレクタ」**を選択します。

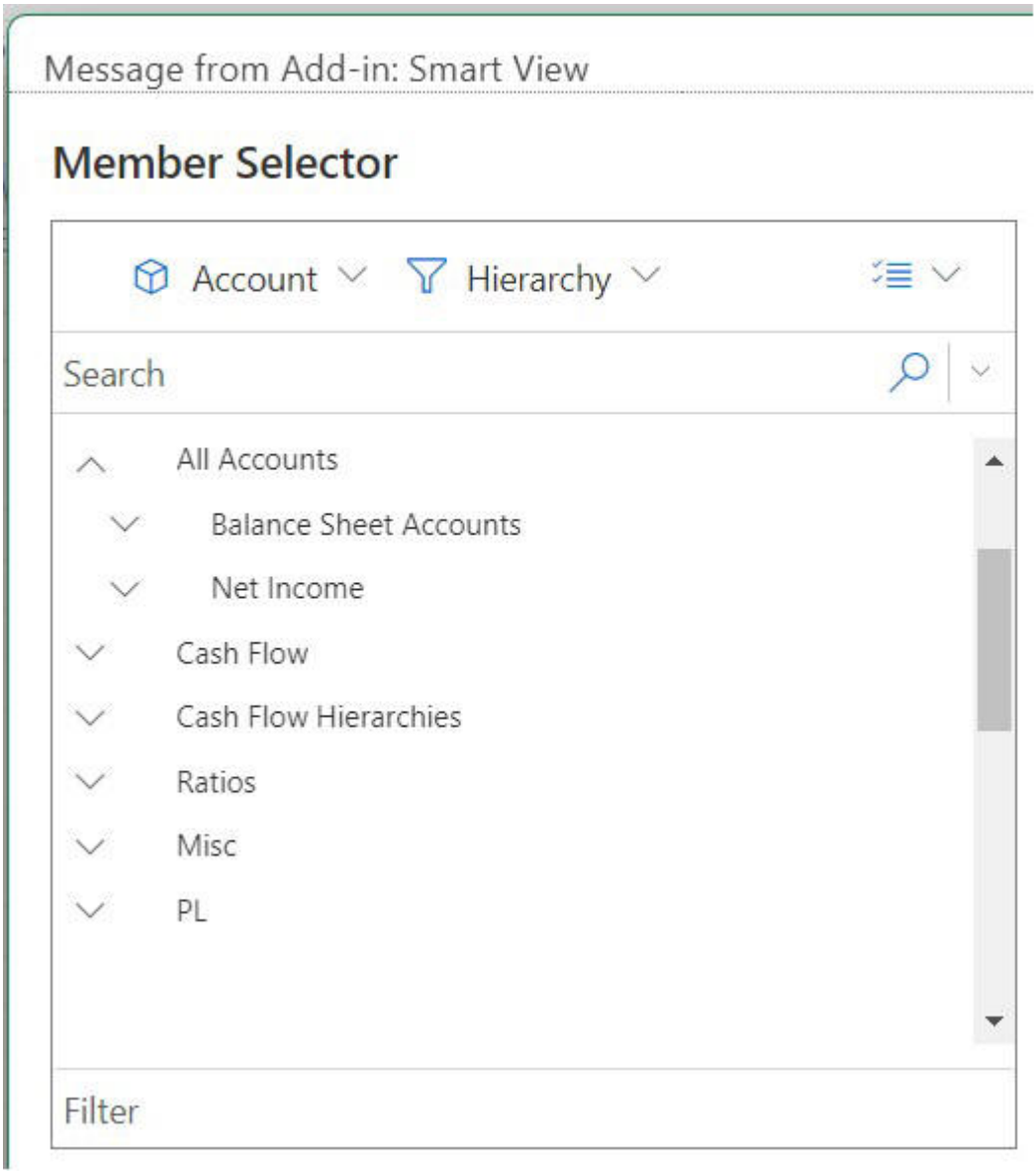
  詳細は、視点ディメンションからのメンバーの選択を参照してください。

メンバーを選択するには:

1. **「メンバー・セレクタ」**ダイアログを起動します。
   左側に「メンバー・リスト」、右側に「選択リスト」が表示されます。次の例では、メンバーがまだ選択されていないため、選択リストは空になっています。

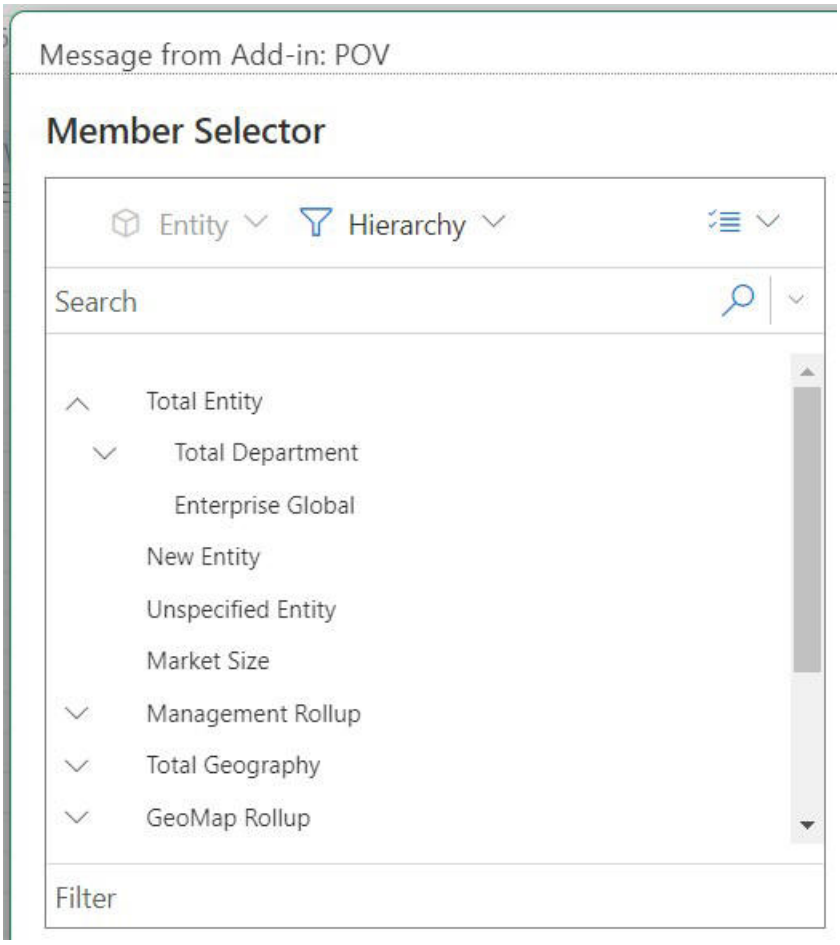


2. **「メンバー・セレクタ」**ダイアログで、ディメンション・セレクタ・ドロップダウン(「メンバー」リストの上にあるダイアログ・ボックスの左上)をクリックし、ディメンションを選択します。選択したディメンションに属するメンバーが「メンバー・リスト」に表示されます。次の例では、「メンバー・リスト」にアカウント・ディメンションに属するすべてのメンバーが表示されています。



「POV」パネルの POV ディメンションから**「メンバー・セレクタ」**にアクセスした場合、

をクリックした隣にあるディメンションがドロップダウンに自動的に表示され、別のディメンションを選択することはできません。次の例では、エンティティ・ディメンションは選択できません。



3. **オプション。**特定のメンバーのセットを取得するには、**「階層」**ドロップダウン(ダイアログの左上にあるディメンション・セレクタの横にある、省略記号ボタン(···)からアクセス)を使用します。

   メンバー・セット・フィルタは、強調表示されたメンバーに適用されます。メンバーを強調表示するには、メンバー名をクリックして名前を強調表示します。メンバーが強調表示されていない場合、フィルタはディメンション・セレクタ・ドロップダウンで選択したディメンションに適用されます。

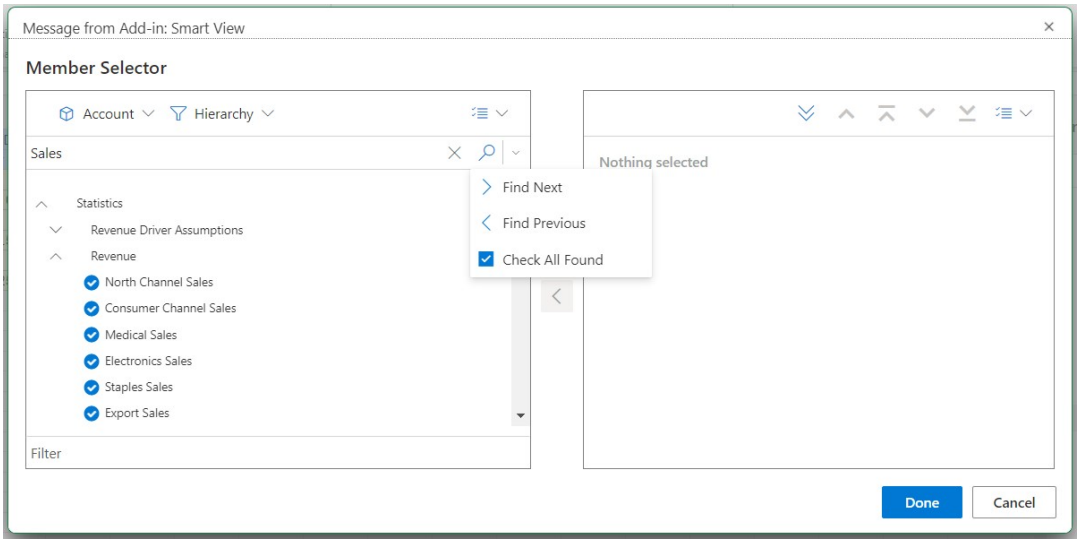
   フィルタ・オプションは、データ・ソース・タイプによって異なることがあります:

   - **「階層」**は、階層内のすべてのメンバーを選択します
   - **「子孫」**は、選択したメンバーのすべての子孫を選択します
   - **「子孫(含む)」**は、選択したメンバー、およびそのすべての子孫を含めます
   - **「子」**は、選択したメンバーの子のみを選択します
   - **子を含む**は、選択したメンバー、およびその子が含まれます
   - **「兄弟」**は、選択したメンバーのすべての兄弟を選択します
   - **兄弟を含む**は、選択したメンバー、およびそのすべての兄弟が含まれます
   - **左の兄弟**は、同じ親を持つ選択済メンバーの前に表示されるメンバーのみが含まれます
   - **左の兄弟を含む**は、選択したメンバー、および左の兄弟が含まれます

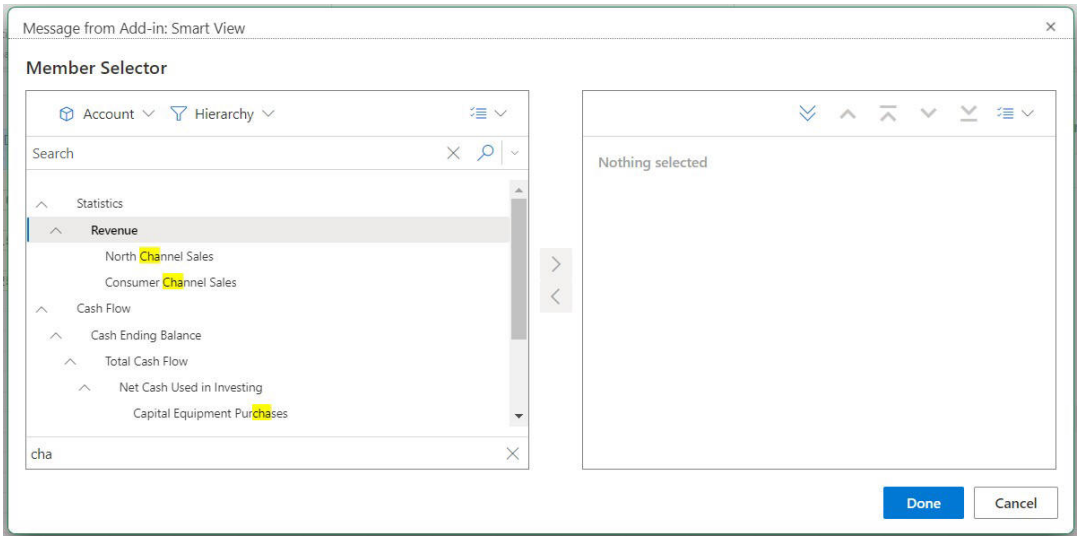
- **右の兄弟**は、同じ親を持つ選択済メンバーの後に表示されるメンバーのみが含まれます
- **右の兄弟を含む**は、選択したメンバー、および右の兄弟が含まれます
- **「親」**は、選択したメンバーの親のみを選択します
- **親を含む**は、選択したメンバー、およびその親が含まれます
- **「祖先」**は、選択したメンバーのすべての祖先を選択します
- **「祖先(含む)」**は、選択したメンバー、およびそのすべての祖先を含めます
- **「レベル・ゼロの子孫」**は、選択したメンバーの子孫のうち子のないすべての子孫を表示します
- **「レベル」**は、メンバー階層の 1 レベルを選択する**「フィルタ引数」**ダイアログ・ボックスを表示します
- **「世代」**は、メンバー階層の 1 世代を選択する**「フィルタ引数」**ダイアログ・ボックスを表示します
- **「UDA」**は、ユーザー定義属性(管理者が定義した場合にのみ使用可能)を選択する**「フィルタ引数」**ダイアログ・ボックスを表示します
- **「属性」**は、属性名と属性値(管理者が定義した場合にのみ使用可能)を選択する**「フィルタ引数」**ダイアログ・ボックスを表示します

4. **オプション。**メンバー・リストでメンバーを検索するには、検索ボックスに必要な単語または文字を入力します。
検索結果は実際のメンバー階層に表示されます。検索アイコンの横にあるメニューを使用して、検索結果に対して次のアクションを実行できます。
   - **「次を検索」と「前を検索」**：次の検索結果と前の検索結果に移動します。検索アイコンをクリックし続けることで、次の検索結果に移動することもできます。
   - **「検索結果をすべてチェック」**：検索結果をすべて 1 回の操作で選択し、選択リストに移動します。

   次の例では、「Sales」という語句が検索され、検索結果がメンバー・リストに表示されます。さらに、「検索結果をすべてチェック」オプションが選択されているため、すべての検索結果の横にチェック・マークが表示されます。



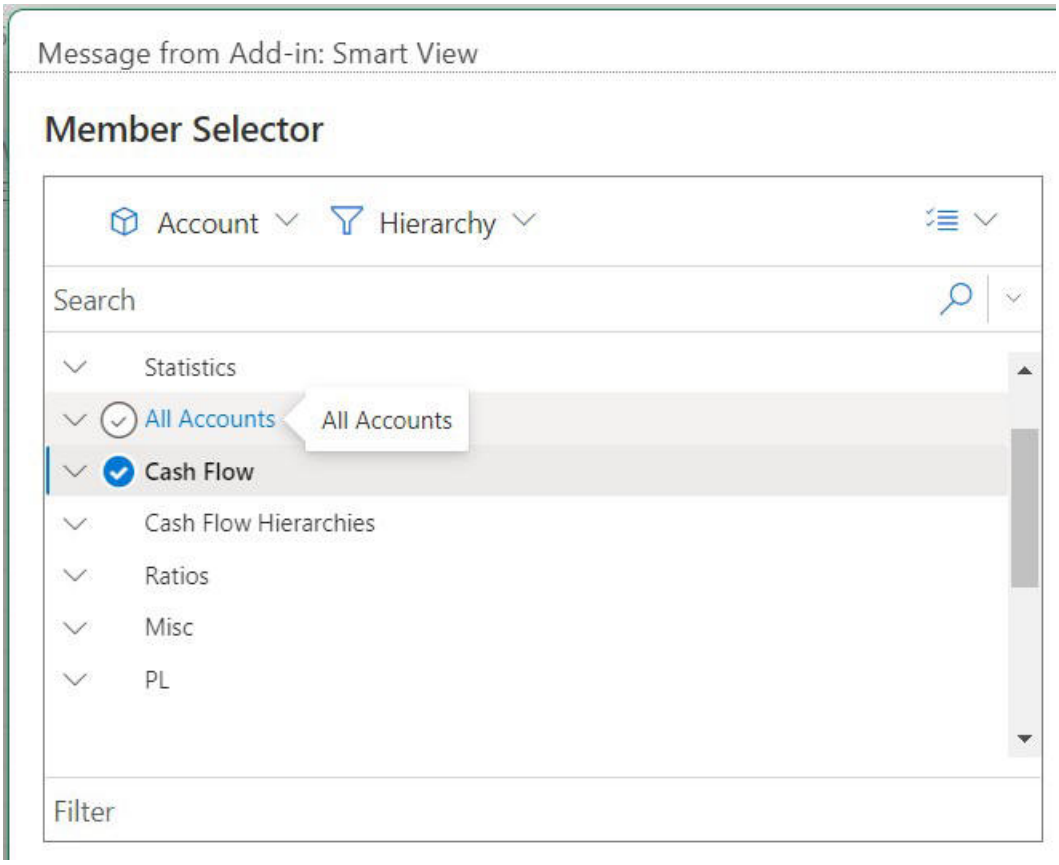
5. **オプション。**メンバー・リストで取得したメンバー・リストをフィルタリングするには、メンバー・リストの下にあるフィルタ・ボックスに入力を開始します。入力するにつれて、メンバー・リストが同時にフィルタリングされ、入力した文字が黄色で強調表示され、識別しやすくなります。
次の例では、フィルタに入力された文字「cha」を含むメンバーが強調表示され、メンバー・リストに表示されます。



6. 選択対象メンバーを選択するには、メンバー名の左側に直接カーソルをあわせてチェック・ボックスを選択します。

> **ノート:**
>
> メンバー名の横にあるチェック・ボックスは、マウス・カーソルをあわせるまで非表示になっています。

次の図では、「キャッシュ・フロー」メンバーのチェック・ボックスが青色になっており、これは、メンバーが選択対象に選択されていることを意味します。「すべての勘定科目」メンバーのチェック・ボックスは灰色で、これは、メンバーは選択されていない状態であり、カーソルがこのメンバーの横にあることを意味します。



次のことも可能です:

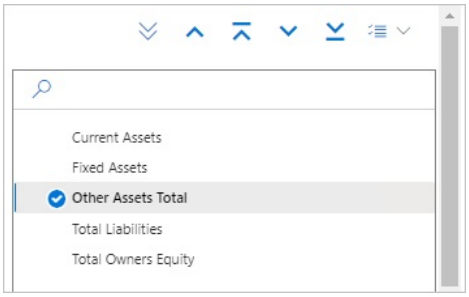
- メンバー名を直接クリックして、選択対象に単一のメンバーを選択します。
- マウスを使用して長方形をメンバーのグループにドラッグし、選択対象に複数のメンバーを選択します。

7. **オプション。**メンバー・リストで、**「アクション」**ドロップダウン・メニュー( )を選択して、次のアクションを実行します:
   - **「子のチェック」**、**「子孫のチェック」**または**「基本メンバーのチェック」**を選択し、該当するメンバー、つまり選択したメンバーの子、子孫、または基本メンバーの横にあるチェック・ボックスを選択します。
   - **「チェックのクリア」**をクリックすると、すべてのチェック・マークがクリアされます。
   - **「すべて展開」**と**「すべて縮小」**を選択すると、メンバー階層が展開または折りたたんだ状態で表示されます。
   - **「メンバー情報」**をクリックすると、メンバー・リストから選択したメンバーの情報が表示されます。
   - **「別名表」**をクリックすると、別名表情報が存在する場合はそれを表示し、別名表を変更できます。

8. **「追加」**ボタン をクリックし、選択されたメンバーを「選択」リスト(ダイアログの右側)に移動します。

反対に、**「削除」**ボタン を使用して、メンバーを「選択」リストから「メンバー」リスト(ダイアログの左側のリスト)に戻します。

9. **オプション。**選択リストで、**「上へ移動」**、**「一番上へ移動」**、**「下へ移動」**、または**「一番下へ移動」**の各ボタンを使用して、選択したメンバーをシートに表示する順序に配置します。有効になるボタンは、「選択」リストで選択したメンバーによって異なります。次の例では、「選択」リストに 5 個のメンバーが表示され、中央のメンバーが選択されています。中央のメンバーは上下に移動される可能性があるため、すべてのボタンが有効になります。



10. **オプション。**「選択」リストの上にある矢印を切り替えて、グリッドにメンバーを挿入する方法を選択します:

では、選択したメンバーが列に横方向に挿入されます

では、選択したメンバーが行に縦方向に挿入されます

11. **オプション。**選択リストで、**「アクション」**ドロップダウン・メニュー を選択して、次のアクションを実行します:
    - **「ディメンションの選択」**を使用して、ディメンション・セレクタ・ドロップダウン(ダイアログ・ボックス内の 1 つ目のドロップダウン)で選択したディメンションを、「選択」リストに追加します。
    - **「すべて削除」**を使用して、選択したすべてのメンバーを削除します。
    - **「すべてチェック」**と**「チェックのクリア」**を使用して、「選択」リストのすべてのメンバーを選択、または選択を解除します。
12. **「完了」**をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じ、選択したメンバーをグリッドに追加するか、**「取消」**をクリックして変更を保存せずにダイアログ・ボックスを閉じます。
13. プロバイダ・アド・ホックのリボンから**「リフレッシュ」**をクリックすると、選択したメンバーに合せてデータが更新されます。

    Smart View のリボンからをクリックすることもできます。

視点ディメンションからのメンバーの選択

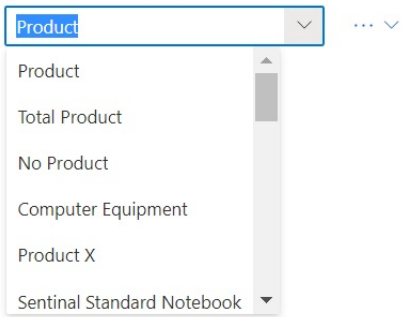
グリッドに含める各ディメンションのメンバーとフィルタを選択し、グリッドに、またはグリッドからメンバーを移動できます。

各接続は 1 つの POV のみに関連付けられます。ただし、ワークブック内の異なるシートへの同一接続で異なる POV にすることはできます。

「POV」ドロップダウン・リストに追加するメンバーを選択するには:

1. アド・ホック・グリッドを開きます。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボン(たとえば、Planning アド・ホックのリボン)から、**「POV」** をクリックし、「POV」パネルに POV ディメンションを表示します。
3. **「POV」**パネルで、POV ディメンションの横の省略記号ボタンをクリックし、ドロップダウン・メニューから**「メンバー・セレクタ」**を選択します。
4. **「メンバー・セレクタ」**でメンバーを選択し、これをダイアログの左側から右側に移動します(メンバー・セレクタからのメンバーの選択を参照)。

   選択したメンバーは、POV のディメンションのドロップダウン・メニューに表示されます。たとえば、Vision アプリケーションにおいて、製品ディメンションのすべてのメンバーを選択した場合、これは結果のドロップダウン・リストの部分ビューとなります:



> **ノート:**
>
> メンバーまたはディメンションを POV からグリッドにピボットするには、グリッドと POV の間のディメンションまたはメンバーのピボットを参照してください

フリーフォーム・モードでのメンバーの入力

データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合は、フリーフォーム・モードを使用して、これらの名前を直接セルに入力できます。

フリーフォーム・モードでは、現在のグリッドに関連付けられている別名表からの別名を使用できます。アド・ホック・グリッドで、別の別名表の別名を入力すると、現在の別名表の別名に戻ります

データ・ソースへの接続後、次のようにメンバー名を入力できます。

- メンバー名を空白のセルに入力します
- セル内のメンバー名を、同じディメンションの別のメンバーに置き換えます

POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。

メンバー式の表示

式を含むディメンション・メンバー・セルにベースとなる式を表示できます。

メンバー式を表示するには:

1. フォームを開きます。
2. プロバイダのリボンから、**「詳細」**、**「メンバー式」**

   の順に選択します。

   選択したディメンションの式を含むメンバーのリストが、**「メンバー式」**ダイアログに表示されます。
3. 表示されたリストからメンバーを選択すると、その式が**「メンバー式」**ダイアログに表示されます。

修飾メンバー名の表示

名前が一意でないか、同一でないメンバーの場合、その修飾メンバー名を表示して、わかりやすく識別しやすくできます。

異なるメンバーまたはメンバーの別名に同じ名前が付けられていることがあります。たとえば、データベースに、1 つはニューヨーク市、もう 1 つはニューヨーク州の、2 つの"ニューヨーク"という名前のメンバーが存在することがあります。グリッドではどちらのメンバーも"ニューヨーク"と表示できますが、両者を区別する場合は、名前のかわりに修飾名を表示できます。修飾名には、メンバー名と、そのメンバーを一意に定義するレベルまでの祖先の名前が含まれます。たとえば、`[Market].[New York]`とします。

同一メンバーの修飾名を表示するには、次の方法があります:

セル情報での修飾名の表示

同一メンバーの修飾名は、「セル情報」ダイアログで表示できます。詳細は、メンバー・セル情報の表示を参照してください。

修飾名を表示するには:

1. グリッドでメンバー・セルを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンまたは Essbase のリボンの**「分析」**セクションから、**「セル情報」**

   を選択します。
3. **「メンバー情報」**ダイアログで、**「別名」**タブを選択すると、選択したメンバーの修飾名が表示されます。

シートでの修飾名の表示

Smart View のオプションを使用して、シートに修飾名を表示できます。

シート上で同一メンバーの修飾名を表示するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**()を選択し、**「オプション」**パネルを起動します。

2. **「オプション」**パネルで、**「メンバー」**タブを選択します。
3. **「メンバー名の表示」**ドロップダウン・メニューから、**「個別のメンバー名のみ」**を選択します。
4. Smart View のリボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。
シート上のグリッドが修飾名でリフレッシュされます。

別名および別名表の操作

別名は、データベース・メンバーの代替名です。

次も参照:

- 別名について
- 別名表の選択
- グリッドでのメンバー名と別名の表示

別名について

データベース・メンバー名は多くの場合、ストック番号や製品コードで、別名はより記述的に指定できます。

たとえば、「PBCS Vision Plan1」キューブで、"Product"ディメンションの"P_TP1"メンバーの別名は"Computer Equipment"です。別名は、データベースの一部として、*別名表*に保管されます。ディメンションは、複数の別名表に関連付けることができます。

別名表の選択

管理者がデータベースに別名表を作成している場合、現在のワークシートに別名表を選択できます。選択した別名表は現在のワークシートにのみ適用され、将来の接続には適用されません。

現在のワークシートの別名表を選択するには:

1. アド・ホック・グリッドでメンバーを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンから**「別名の変更」**を選択すると、使用可能な別名表のリストが表示されます。
3. 表示されたダイアログ・ボックスで別名表を選択し、**「OK」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> 現在のグリッドに関連付けられていない別名表から名前を入力すると、リフレッシュ後に、現在のグリッドに関連付けられている別名表から対応する別名が表示されます。たとえば、ロング名別名に関連付けられているグリッドに `QTR1` と入力すると、リフレッシュ後に、`Quarter1` が表示されます。

グリッドでのメンバー名と別名の表示

Oracle Essbase データ・ソースまたは Cloud EPM 標準モード・アプリケーションに接続されている場合は、メンバー名と、現在選択されている別名表にあるその別名を同じ行に一緒に表示できます。

> **Note:**
>
> - この機能は行メンバーにのみ適用され、列メンバーには適用されません。
> - 別名表が使用されていない場合(つまり、**「なし」**に設定されている場合)でも、メンバー名とその別名が行に表示されます。**「メンバー名と別名」**オプションが選択され、別名表が**「なし」**に設定されている場合、行ディメンションには最後に使用された別名表に基づいて別名が保持されますが、POV 列は影響を受けることなく、最後に使用された別名表に基づいてメンバー名または別名が引き続き表示されます。
> - **Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management:** アド・ホック・グリッドを操作する Smart View ユーザーの**「メンバー名と別名」**オプションを有効にするには、サービス管理者がアプリケーション・オプション**「Smart View アド・ホック動作」**を**「標準」**に設定します。新規および再作成済のアプリケーションはすべて、自動的に**「標準」**に設定されます。

メンバー名と別名の両方を表示するには:

1. Smart View で、ご利用のアプリケーションにログインします。

   アド・ホック・グリッドを含む、保存されたワークブックを使用するか、または新しいアド・ホック・グリッドを起動することによって、接続を確立できます。

2. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**パネルを起動します。
3. **「オプション」**パネルで、**「メンバー」**タブを選択します。
4. **「全般」**の**「メンバー名の表示」**で、**「メンバー名と別名」**を選択します。
5. Smart View のリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンで、**「リフレッシュ」**をクリックします。

行メンバーについて、メンバー名と対応する別名が表示されます。次の例では、アカウント・メンバー名が列 A に、その別名が列 B に表示されています。

	A	B	C
1			Entity
2			Year
3			Period
4	AllA	All Accounts	#Missing
5	BS	Balance Sheet Accounts	#Missing
6	1001	Total Assets	#Missing
7	1010	Current Assets	#Missing
8	1100	1100: Cash and Short Term Equivalents	#Missing
9	1110	1110: Cash	#Missing
10	1150	1150: Marketable Securities	#Missing
11	1200	1200: Accounts Receivable Total	#Missing
12	1210	1210: Accounts Receivable	#Missing
13	1220	1220: Other Receivables	#Missing
14	1260	1260: Allowance for Bad Debt	#Missing

8

データおよびデータ・セル

次も参照:

- データのリフレッシュ
  ワークブックの現在のシートのデータを取得してリフレッシュできます。
- データの送信
  変更されたデータをフォームおよびアド・ホック・グリッドから送信することにより、データ・ソースのデータのすべてのタイプを 更新できます。
- データの計算
  新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベースでデータを計算してその変更を反映する必要があります。
- スマート・リストの操作
  スマート・リストと呼ばれるカスタム・ドロップダウン選択リストを使用してデータを入力できます。スマート・リストは、フォームおよびアド・ホック・グリッドのデータ・セルからアクセスします。
- データ・セルでの値の調整
  セルに数値データが含まれている場合は、1 つ以上のデータ・セルの値を、指定した数値またはパーセンテージによって調整できます。
- データの分散
  期間に対するデータの分散、セルのロックによるデータの分散、グリッド分散を使用した値の分散および一括割当てを使用した値の分散が可能です。
- ドリルスルー・レポートの操作
  管理者により事前定義されたドリルスルー・レポートを、ユーザーは指定された個々のデータ・セルから使用できます。
- データ検証エラーの解決
  サービス管理者が任意のデータ検証ルールを設定している場合、ユーザーはこれらのルールの結果を Smart View で表示し、フォーム内で直接エラーを修正できます。
- セル・アクションの操作
  セルの展開および縮小、ベースとなるメンバー式の表示、詳細なメンバー情報の表示、ファイルおよび URL の添付、コメントおよびセルの履歴の確認を行います。

データのリフレッシュ

ワークブックの現在のシートのデータを取得してリフレッシュできます。

リフレッシュは現在のシート全体に適用され、フォーム、アド・ホック・グリッド、関数のデータが含まれます。

プロバイダまたは Smart View のリボンで、**「リフレッシュ」**をクリックして現在のシートをリフレッシュします。

図 8-1 「リフレッシュ」アイコン

リフレッシュについてのノート

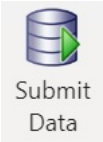
- ワークブックに複数のシートがある場合は、各シートを開いて**「リフレッシュ」**をクリックし、個別にリフレッシュします。ワークブック内のすべてのシートを同時にリフレッシュすることはサポートされていません。
- アド・ホック・シートで、Excel フィルタはリフレッシュ後保持されます。
- 一部の列を削除し、シートをリフレッシュした後、選択した POV メンバーがディメンション・メンバーに戻ります。これを回避するには、「POV」ボタンをクリックして POV ディメンションを非表示にし、ページ・メンバーを含む列を削除しないようにします。
- 同じシート内の複数のデータ・ソースからの複数のグリッドを操作するときは、一度に 1 つの接続のグリッド・データのみをリフレッシュできます。
  たとえば、グリッド 1 とグリッド 2 が Planning に接続され、グリッド 3 が Tax Reporting に接続されたシートを操作しているとします。Tax Reporting の Smart View リボンで**「リフレッシュ」**オプションを使用すると、グリッド 3 のみがリフレッシュされます。グリッド 1 とグリッド 2 をリフレッシュするには、Planning の Smart View リボンの**「リフレッシュ」**オプションを使用する必要があります。両方のグリッドは同じ接続、つまり Planning に属しているため、1 回の操作でリフレッシュされます。

データの送信

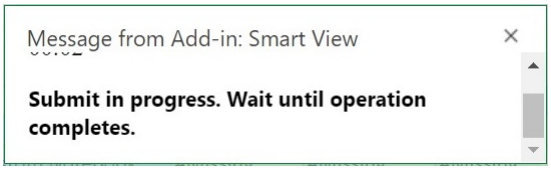
変更されたデータをフォームおよびアド・ホック・グリッドから送信することにより、データ・ソースのデータのすべてのタイプを 更新できます。

データを送信するには:

1. データ・ソースに接続し、プランまたはフォームをグリッドに開きます。
2. 必要に応じてデータを変更します。
3. カーソルがグリッド内にあることを確認してから、Smart View のリボンまたはプロバイダのリボンで**「データの送信」**ボタンをクリックします:



送信操作の進捗を示すメッセージが表示されます:



データを送信すると、ワークシート上のすべてのダーティ ・セルが送信されます。

送信操作が完了すると、進捗メッセージは自動的に閉じます。進捗メッセージが閉じるまで、グリッドまたはフォームに変更を加えたり、別のワークシートに切り替えることはできません。詳細は、データの送信のガイドラインを参照してください。

> **ノート:**
>
> ブラウザ・バージョンの Excel 365 では、送信操作中は**「データの送信」**ボタンは無効になりますが、進捗メッセージは表示されます。しかし、Mac 版の Excel 365 では、進捗メッセージが表示されていても、**「データの送信」**ボタンは無効になりません。Mac 版の Excel 365 のハングアップを防ぐため、進捗メッセージが閉じるまで**「データの送信」**ボタンをクリックしないでください。

データの送信のガイドライン

データを送信する際は、次のガイドラインを考慮してください。

- Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)でデータを送信すると、送信操作の進捗を示すメッセージが表示されます。送信が完了すると、進捗メッセージは自動的に閉じます。

  進捗メッセージが閉じるまで、グリッドまたはフォームに変更を加えたり、別のワークシートに切り替えることはできません。このため、現在の送信が完了するまでシートにデータを入力することはできません。

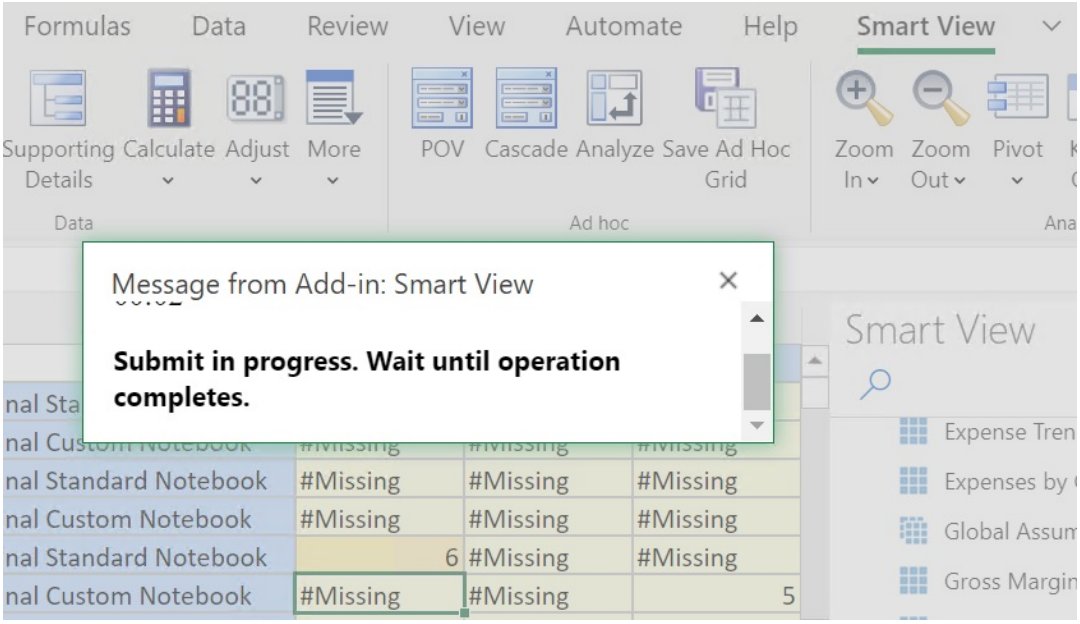
  送信完了前にデータを入力すると、シートの他のセル内であるかワークブック内の他のシート内かにかかわらず、グリッドまたはフォームが無効になる可能性があります。

  > **ノート:**
  >
  > ブラウザ・バージョンの Excel 365 では、送信操作中は**「データの送信」**ボタンは無効になりますが、進捗メッセージは表示されます。しかし、Mac 版の Excel 365 では、進捗メッセージが表示されていても、**「データの送信」**ボタンは無効になりません。Mac 版の Excel 365 のハングアップを防ぐため、進捗メッセージが閉じるまで**「データの送信」**ボタンをクリックしないでください。

  図 1 は、送信時に表示される進捗メッセージの例を示しています。送信の完了中はシートがグレー表示されることに注意してください。シート上で他の操作を実行したり、ワークブック内の他のワークシート・タブに移動することはできません。

  さらに、Planning などのビジネス・プロセスで発生するエラーは、類似するポップアップ・メッセージで表示されます。

図 8-2 送信の進捗メッセージ



- フォームからデータを送信する場合:
  - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のフォームでは、セルまたはセル範囲をロックして、データがリフレッシュまたは送信されるまでデータを保護できます。
  - 一部のセルがすでにフォーム定義に存在しない場合もあります。この動作は、フォームの定義またはアクセス権を変更した場合や、行または列を抑制した場合に起きる可能性があります。そのような場合は、フォームの新しい定義に存在する書込み可能なセルのみが保存されます。この動作は、セルとサポート詳細の両方の変更に適用され、データ・プロバイダの接続中または切断中にフォームを操作する場合にも適用されます。
  - フォームでの作業中に**「データの送信」**をクリックした場合、実際には、最新の POV にデータが書き戻されます。POV を変更するたびに、リフレッシュを実行することをお薦めします。リフレッシュによりシートのデータが更新され、最新の POV 変更が反映されます。
  - Smart View で開いたフォームでは、変更されたデータは送信できませんが、一部の計算済および読取り専用のセルは、エラー・メッセージが表示されることなく編集できます。
- 複数のグリッドをサポートするワークシートでは、一度に 1 つのグリッドでのみ**「データの送信」**コマンドを実行できます。

  一度に複数のグリッドのデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excel によって返された最初の範囲を使用してグリッドが決定され、そのグリッドでのみ送信が実行されます。

リフレッシュせずにデータを送信

このオプションを使用すると、ユーザーはシートからすべてのデータを 送信できます。

「リフレッシュせずに送信」には、明示的に変更した(ダーティになった)すべてのデータ・セル、および変更されていないデータ・セルも含まれます。すべてのデータ・セルがダーティとマークされ、送信されます。

> **Note:**
>
> 変更されたセルを簡単に識別可能にするには、ダーティ・セルのセル・スタイルを設定します。

最初にリフレッシュせずにデータを送信するには:

1. データ・ソースに接続し、アド・ホック・グリッドを開きます。
2. 必要に応じてデータを変更します。
3. プロバイダ・アド・ホックのリボンまたは Essbase のリボンから、**「データの送信」**、**「リフレッシュせずに送信」**の順に選択します。
   セルがダーティであるか否かにかかわらず、シート上のすべてのセルのデータが送信されます。

データの計算

新しいまたは変更されたデータを送信した後、データベースでデータを計算してその変更を反映する必要があります。

データを計算するには、データへのセキュリティ・アクセス権が必要です。

Excel で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームのデータを計算する場合に使用できる方法は 2 つあります:

- **「ビジネス・ルール」**では、フォームに適用するビジネス・ルールを選択できます。

  Cloud EPM フォームへのビジネス・ルールの適用を参照してください。
- **「フォームに関する規則」**は、各フォームでの小計の計算用に作成されています。

  Cloud EPM フォームでの小計の計算を参照してください。

データの送信後にルールが計算されるように設計されたフォームでビジネス・ルールを実行することもできます。データを送信するときにルールが実行されるように定義されたフォームでのビジネス・ルールの適用を参照してください。

> **ノート:**
>
> Mac または Windows 上の Chrome では、ルール・パネルを起動するときに、ウィンドウを最大化しても、**「プラン・タイプ」**、**「適用」**、**「戻る」**、**「次」**、**「起動」**「取消」などパネルの下部にあるボタンが表示されないことがあります。これらのボタンを表示するには、ルールのボタンが表示されるまで、ウィンドウの右上にある**「最大化」**/**元のサイズに戻す**ボタン(□/⧉)をクリックします。□をクリックするか、または⧉を再度クリックして、ウィンドウを目的のサイズに戻します(ウィンドウの最大化またはサイズ変更)。

Cloud EPM フォームへのビジネス・ルールの適用

フォームにビジネス・ルールを適用するには:

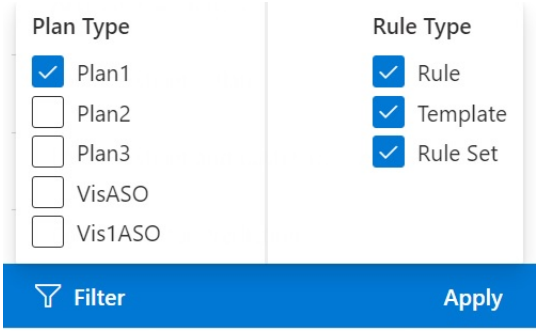
1. フォームを開きます。

2. プロバイダのリボンから、**「計算」**、**「ビジネス・ルール」**の順に選択します。

   フォームに関連付けられたビジネス・ルールが Smart View パネルに表示されます。

3. **オプション:** 「ビジネス・ルール」パネルの下部にある**「フィルタ」**ボタンをクリックし、キューブおよびルール・タイプによってルールをフィルタ処理します。デフォルトでは、すべてのキューブおよびルール・タイプのオプションが選択されています。検索を絞り込むには、表示する必要がないキューブおよびルール・タイプのチェック・ボックスをクリアしてから、**「適用」**をクリックします。選択内容に従ってリストがフィルタ処理されます。この例では、Plan1 キューブにのみ適用されるすべてのタイプのビジネス・ルールが表示されます。

図 8-3 ビジネス・ルール・フィルタ・オプション



4. ビジネス・ルールを選択して起動します。
5. 適用可能な実行時プロンプトを入力し、**「実行」**をクリックします。
6. ダイアログ・ボックスが表示され、ビジネス・ルールが正常に完了したかどうかが示されます。**「閉じる」**をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

   計算が正常に処理されると、計算結果がデータベースの値に反映されます。

Cloud EPM フォームでの小計の計算

フォームで小計を計算するには:

1. フォームを開きます。
2. プロバイダのリボンから**「計算」**を選択し、**「フォームに関する規則」**を選択します。

> **ノート:**
>
> 「ビジネス・ルール」パネルの下部にある**「フィルタ」**ボタンをクリックし、キューブおよびルール・タイプによってルールをフィルタ処理します。デフォルトでは、すべてのキューブおよびルール・タイプのオプションが選択されています。検索を絞り込むには、表示する必要がないキューブおよびルール・タイプのチェック・ボックスをクリアしてから、**「適用」**をクリックします。選択内容に従ってリストがフィルタ処理されます。

3. Smart View パネルで、小計を計算するルールを選択します。

   ビジネス・ルールを起動すると、スプレッドシートの未保存のデータは失われます。

4. ダイアログ・ボックスが表示され、ビジネス・ルールが正常に完了したかどうかが示されます。**「閉じる」**をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。

計算が正常に処理されると、計算結果がデータベースの値に反映されます。

データを送信するときにルールが実行されるように定義されたフォームでのビジネス・ルールの適用

フォームの中には、データを送信するときにビジネス・ルールが実行されるように設計されているものがあります。Web アプリケーションでは、これを「保存後に実行」と呼んでいます。

データを送信するときにルールが実行される(「保存後に実行」とも呼ばれる)ように設計されたフォームでビジネス・ルールを実行するには:

1. フォームを開きます。
2. フォームに必要な変更を加えます。
3. **「送信」**をクリックします。

   フォームに関連付けられたビジネス・ルールがダイアログ・ページに表示されます。
4. 適用可能な実行時プロンプトを入力し、**「保存」**をクリックします。

スマート・リストの操作

スマート・リストと呼ばれるカスタム・ドロップダウン選択リストを使用してデータを入力できます。スマート・リストは、フォームおよびアド・ホック・グリッドのデータ・セルからアクセスします。

スマート・リストは、フォームまたはアド・ホック・グリッドでは英数字のテキストによる説明として表示されるドロップダウン選択リストですが、データベースには数値として保管されます。たとえば、報告間隔用の整数スマート・リストに 1 から 5 の値が含まれ、それぞれ年(1)、四半期(2)、月(3)、日(4)、時間(5)を表すものとします。フォームまたはアド・ホック・グリッドで表示される値は、文字列による年、四半期、月、日、時間です。フォームまたはアド・ホック・グリッドで値を選択し、データを送信すると、関連する数値がデータベースに保管されます。これは、報告間隔の各期間に関連する数値を覚えておく必要がないことを意味します。

Smart View で、フォームまたはアド・ホック・グリッド・セルのカスタム・ドロップダウン・リストからスマート・リストにアクセスします。メンバーがスマート・リストに関連付けられているセルをクリックし、セルの右側に直接表示される下向き矢印をクリックすると、データを入力するかわりに、ドロップダウン・リストのオプションを選択します。実際に、スマート・リストが表示されるセルへの入力はできません。

たとえば、データ・フォームに「事由」というスマート・リストがあり、研究、顧客の意見、展開という値を選択できるとします。「理由」という名前の顧客セル(メンバーが「事由」スマート・リストに関連付けられている)をクリックすると、下向き矢印が表示されます。下向き矢印をクリックすると、次の選択肢を含むドロップダウン・リストが開きます:

- 研究
- 顧客の意見
- 展開

セルの値として、スマート・リストのオプションを 1 つ選択します。

スマート・リストの値をフォームまたはアド・ホック・グリッド・セルに入力するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドを開きます。
2. フォームまたはアド・ホック・グリッドで、スマート・リストのオプションを選択するデータ・セル内をクリックします。

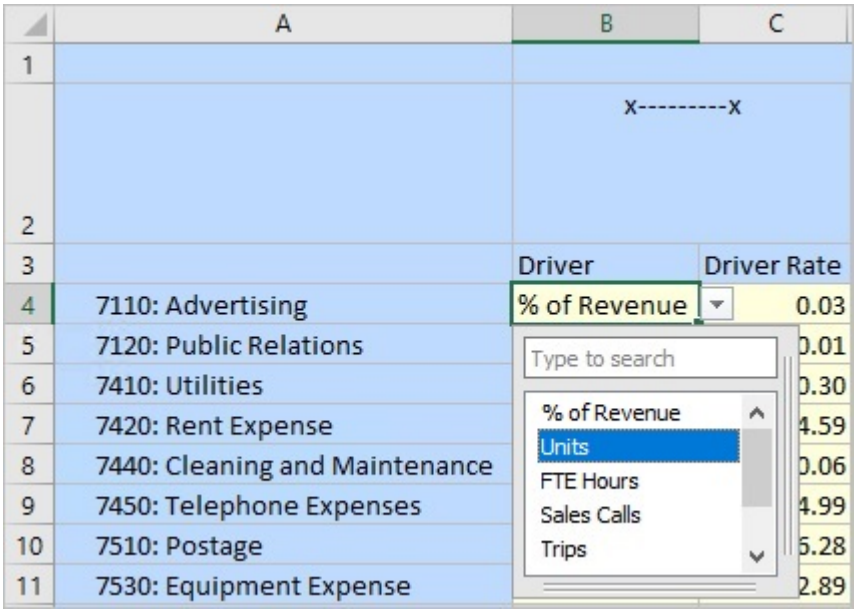
セルの右側に下向き矢印が表示されます。

3		Driver	Driver Rate
4	7110: Advertising	% of Revenue	0.03
5	7120: Public Relations	% of Revenue	0.01

> **Note:**
>
> スマート・リストのドロップダウン・リストが表示されるのは、メンバーがスマート・リストに関連付けられているセルのみです。

3. セルの下矢印をクリックします。

   選択可能なオプションを含むスマート・リスト・ドロップダウン・リストが開きます。



4. スマート・リストからオプションを選択します。

   選択したオプションがデータ・セルに入力されます。

   値を選択すると、そのセルはダーティになり、データの送信準備が整います。

3		Driver	Driver Rate
4	7110: Advertising	Units	0.03
5	7120: Public Relations	% of Revenue	0.01

スマート・リストの操作のガイドライン

- スマート・リストを含むセルにスマート・リストの値を手動で入力し、フォームとアド・ホック・グリッドの両方に対して送信を実行できます。ただし、スマート・リストに誤った値を入力すると、入力した値は無効です。というエラー・メッセージが表示されます。

- スマート・リストが表示されるフォームで、新しいデータを入力して送信するために行内のすべての値を削除すると、その行のスマート・リストは空になります。

  回避策: 行の値を削除した後、**「送信」**を実行(つまり、`#Missing` 値を送信)するか、または**「リフレッシュ」**を実行します。スマート・リストのドロップダウン矢印が適切に表示されます。これで、同じ行に新しい値を入力できます。

- スマート・リストは HsGetValue および HsSetValue 関数でサポートされています。ただし、関数を使用する場合、スマート・リスト・ドロップダウン・オプションは表示されません。かわりに、次のようになります:
  - HsGetValue - スマート・リスト値を文字列値として取得します。
  - HsSetValue - 値を文字列値として送信します。
- フォームおよびアド・ホック・グリッドでスマート・リストを操作しているときに、スマート・リストのセルで**[Delete]**キーを押すと、セルの値はクリアされますが、スマート・リストはセルに保持されます。

> **Note:**
>
> フリーフォーム状態のアド・ホック・シートを操作している場合は、**[Delete]**キーを押すと、スマート・リストの値は保持されません。回避策として、シートをリフレッシュして、スマート・リストの値をドロップダウン・リストに戻す必要があります。

- Smart View でスマート・リストを使用するには、管理者がスマート・リストを事前に設定して有効化しておく必要があります。フォームおよびアド・ホック・グリッドに対するスマート・リストの有効化については、該当する管理ガイドでスマート・リストの情報を参照してください。たとえば、*Planning の管理*のスマート・リストの管理を参照してください。

データ・セルでの値の調整

セルに数値データが含まれている場合は、1 つ以上のデータ・セルの値を、指定した数値またはパーセンテージによって調整できます。

値を調整するには、連続したまたは連続していないセルの範囲を含めて、単一のセルまたは複数のセルの範囲を選択できます。ただし、範囲を選択するとき、読取り専用セル、サポート詳細を含むセル、文字列または非数値を含むセル、またはグリッド外のセルを選択した場合、関連するエラー・メッセージによって、調整操作を実行できないことが通知され、選択を変更するように求められます。

> **ノート:**
>
> Excel の式を含むセルの値を調整する場合、調整した値により式が上書きされます。

データ値を調整するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドで、値を調整するデータ・セルをクリックします。
2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「調整」**、**「調整」**の順に選択します。

3. **「データの調整」**で、次のいずれかのオプションを選択し、セルの値を調整する数値またはパーセンテージを入力します。

   使用可能なオプションは次のとおりです。

   - **選択したセルに固定値を加える**
   - **選択したセルから固定値を引く**
   - **選択したセルに固定値を掛ける**
   - **選択したセルを固定値で割る**
   - **選択したセルを固定率分だけ増やす**
   - **選択したセルを固定率分だけ減らす**

4. **「データの調整」**をクリックします。

データの分散

期間に対するデータの分散、セルのロックによるデータの分散、グリッド分散を使用した値の分散および一括割当てを使用した値の分散が可能です。

次も参照:

- 分散データについて
  フォームでの操作中に、値を分散または配分できます。
- 期間に対するデータの分散
  フォームで、期間の分散ルールは、ディメンションのプロパティ 設定の一部として Web アプリケーションで設定されます。
- 特定セルをロックしたデータの分散
  期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1 つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。
- グリッド分散を使用した値の分散
  管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。
- 一括割当てを使用した値の分散
  一括割当てを使用して、ソース・セルのすべての子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。

分散データについて

フォームでの操作中に、値を分散または配分できます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

データ値は、次の方法を使用して分散で調整できます:

- 期間
- セルのロック
- グリッド分散の使用
- 一括割当ての使用

期間に対するデータの分散

フォームで、期間の分散ルールは、ディメンションのプロパティ設定の一部として Web アプリケーションで設定されます。

Smart View でフォームを操作している場合、管理者がフォームをどのように設定したかに応じて、データ値を複数の方法で分散または配分できます:

- 要約期間の値を基本期間に戻す分散、または要約期間の値を親期間の最初の親または最初の子に戻す分散
- 親子間の既存の配分に基づく比例分散
- 予算管理者により 4-4-5、5-4-4、4-5-4 または「なし」のいずれかに設定されている、カレンダの四半期ごとの週次配布に基づく値の分散
- 特定のセルの値を一時的にロックした状態での、期間に対するデータの分散(特定セルをロックしたデータの分散を参照)
- 同じ行または列ディメンションで別個の期間それぞれに異なる分散ルールを使用して異なる期間に値を分散します。たとえば、FY2018 では式の充てん、FY2019 ではフローが可能です。

ノート

- 複数の通貨が混在するメンバーが含まれる要約期間のデータは分散できません。
- 子セル内の Excel 式は、分散時には無視されます。
- フレックス・フォームでの分散のサポートは限定的です。
  - フレックス・フォームでの分散は、期間ディメンションがフレックス対応でない場合にのみサポートされます。期間ディメンションが列にある場合、列でフレックス・フォームを有効にしないでください。同様に、期間ディメンションが行にある場合、行でフレックス・フォームを有効にしないでください。
  - 期間ディメンションが列であり、列に対してフレックス・フォームが有効になっている場合、期間の分散はサポートされません。また、YearTotal 列などのサマリー期間データ・セルに値を入力しても、**調整**、**グリッド分散**、**一括割当**の各オプションを使用している間は、新しい値は分散されません。
  - 行のみでフレックス・フォームが有効になっているフォームで**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが有効になっており、行に期間以外のディメンションが含まれていて、列の期間ディメンションがフレックスに対応していない場合、分散は一度は機能しますが、それ以降の分散操作では機能しません。このようなフォームを設計する際は、**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**にある**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスが選択されていないことを確認してください。

期間に対してデータを分散するには:

1. フォームを開きます。
2. Smart View リボンで、**「オプション」**を選択します。
3. **「オプション」**パネルで、**「データ」**タブを選択し、**「分散使用可能」**チェック・ボックスを選択してから、パネルを閉じます。

   起動するフォームごとにこのステップを完了します。

> **ノート:**
>
> Mac または Windows 上の Chrome では、**「オプション」**パネルを起動するときに、ウィンドウを最大化しても、**「データ」**タブの**分散を有効化する**チェック・ボックスが表示されません。ボタンを表示するには、**分散を有効化する**ボタンが表示されるまで、ウィンドウの右上にある**「最大化」/元のサイズに戻す**ボタン(□/🗗)をクリックします。□をクリックするか、または🗗を再度クリックして、ウィンドウを目的のサイズに戻します(ウィンドウの最大化またはサイズ変更)。

4. 開いているフォームで、データ・セルを選択し、新しい値を入力します。

   値は、データの調整と分散(*Planning の使用*)で説明しているルールに従って配分されます。

5. 新しい値を保存するには、シートを送信します。

特定セルをロックしたデータの分散

期間に対してデータを分散する場合、他の値の再計算時に、1 つ以上のセルを一時的にロックしてそれらのセルの値を保護できます。

様々な計算を基に期間上にデータを分散し、変化を確認してからデータベースに確定できます。セルをロックした分散の例は、*Planning の使用*の特定セルをロックしてのデータの分散例を参照してください。

値を一時的にロックするには:

1. フォームを開きます。
2. フォームで、ロックするセルまたはセルのグループを選択します。
3. プロバイダのリボンから、**「調整」**、**「ロック」**の順に選択します。

   色の変化は、セルがロックされたことを示します。これで、ロックされたセルに影響を与えることなく、他のセルのデータを自由に分散または操作できます。

4. セルのロックを解除するには、シートをリフレッシュします。

グリッド分散を使用した値の分散

管理者が「グリッド分散」を使用可能にしている場合、ターゲット・セルの既存の値に基づいて、グリッド上の複数のディメンションにわたって値を増減する量またはパーセンテージを指定することができます。

分散データを計算する場合、読取り専用のセルとロックされたセル、およびサポート詳細の付いたセルは無視されます。アクセスできるセルのみに値を分散することで、データの整合性が保証されます。

> **ノート:**
>
> - フレックス・フォームでのグリッド分散は、期間ディメンションがフレックス対応でない場合にのみサポートされます。期間ディメンションが列にある場合、列でフレックス・フォームを有効にしないでください。同様に、期間ディメンションが行にある場合、行でフレックス・フォームを有効にしないでください。
> - 行のみでフレックス・フォームが有効になっているフォームで**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが有効になっており、行に期間以外のディメンションが含まれていて、列の期間ディメンションがフレックスに対応していない場合、グリッド分散は一度は機能しますが、それ以降の分散操作では機能しません。このようなフォームを設計する際は、フレックス・フォームでグリッド分散が機能するように、**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**にある**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスが選択されていないことを確認してください。

グリッド分散を使用した値を分散するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドを開きます。
2. ターゲット・セルに分散する小計または合計ソース・セル値にカーソルを置きます。
3. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「調整」**、**「グリッド分散」**の順に選択します。
4. ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します:
   - **値**: 指定した量で値を増減します。
   - **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。
5. **「指定値ずつ増やす」**または**「指定値ずつ減らす」**を選択して値を入力します。
6. **「分散値」**に実際の分散値を入力します。

   たとえば、**「現在の値」**が 100 で、分散値を 125 にする場合、**「分散値」**に直接 125 と入力し、前のステップの**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**オプションまたはテキスト・ボックスでは何もしません。

   または、**「指定値ずつ増やす」**に 25 と入力すると、**「分散値」**に 125 と表示されます。

   > **ノート:**
   >
   > **「分散値」**に値を入力しても、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**テキスト・ボックスには影響はありません。ただし、**「指定値ずつ増やす」**/**「指定値ずつ減らす」**に値を入力すると、**「分散値」**テキスト・ボックスに分散値が反映されます。

7. 分散パターンを選択します。
   - **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
   - **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
   - **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。

   管理者は他の分散パターンを追加できます。

8. **「分散」**をクリックします。指定した値またはパーセンテージがターゲット・セル全体に分散され、前の値を新しい値に置換します。
9. 新しい値を保存するには、シートを送信します。

一括割当てを使用した値の分散

一括割当てを使用して、ソース・セルのすべての子孫およびすべてのディメンションでデータを分散できます。

一括割当てによる分散は、グリッドに表示されないセルにデータを分散し、ターゲット・セルへのアクセス権を持つ必要はありません。

一括割当てを使用する場合は、次の点に注意してください。

- 一括割当てはフォームでのみ可能で、管理者が一括割当てを使用可能にしておく必要があります。
- 一括割当てを使用するには一括割当ての役割でプロビジョニングされる必要があります。
- 一括割当ては元に戻せません。

一括割当てを使用して値を分散するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドを開きます。
2. 分散する小計または合計セルにカーソルを置きます。
3. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「調整」**、**「一括割当」**

の順に選択します。
4. **「分散値」**に新しい値を入力して現在の値を置き換えるか、ドロップダウン・メニューから、次のいずれかを選択します。
   - **値**: 指定した量で値を増減します。
   - **パーセンテージ**: パーセンテージで値を増減します。
5. **「指定値ずつ増やす」**または**「指定値ずつ減らす」**を選択して値を入力します。
6. **「分散値」**に実際の分散値を入力します。

   たとえば、**現在の値**が 100 で、分散値を 125 にする場合、**「分散値」**に直接 125 と入力し、**「指定値ずつ増やす」**および**「指定値ずつ減らす」**オプションには何もしません。

   または、**「指定値ずつ増やす」**に 25 と入力すると、**「分散値」**に 125 と表示されます。

   「分散値」に値を入力しても**「指定値ずつ増やす」**および**「指定値ずつ減らす」**テキスト・ボックスには影響しません。ただし、**「指定値ずつ増やす」**および**「指定値ずつ減らす」**に値を入力すると、**「分散値」**テキスト・ボックスに分散値が反映されます。
7. 指定した値またはパーセンテージをターゲット・セル全体に分散するには、**「分散タイプ」**を選択します。
   - **比例分散**: ターゲット・セルの既存値に基づいて、値を比例分散します(デフォルト)。
   - **均等分割**: ターゲット・セル間で均等に値を分散します。
   - **入力**: すべてのターゲット・セル内の値を置換します。
   - **リレーショナル分散**: 様々なソースの場所に存在する値に基づいて、選択されたセルに分散します。このオプションを選択すると、各ディメンションに対して現在選択されているメンバーが**「現在の関係」**列および**「関係の選択」**列に表示されます。行をダ

ブルクリックすると、**「メンバー選択」**が開き、そのディメンションのメンバーを 1 つ選択できます。これは後で**「関係の選択」**列に表示されます。

管理者は他の分散パターンを追加できます。

8. **「分散」**をクリックします。

   新しい値は自動的に保存されます。

ドリルスルー・レポートの操作

管理者により事前定義されたドリルスルー・レポートを、ユーザーは指定された個々のデータ・セルから使用できます。

ドリルスルー・レポートを使用して、Smart View からデータベースの詳細データにドリル・スルーできます。ドリルスルーは、データ値のソースを理解し、細かいレベルの値の詳細を取得するのに役立ちます。たとえば、期間ディメンション・メンバー Q4 にドリル・ダウンすると、1 月、2 月および 3 月の値を表示できます。

データ・ソースに応じて、次のようにドリルスルー・レポートを開くことができます:

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ソースで Oracle Enterprise Data Management Cloud を使用してドリルスルー・レポートのデータをロードする場合は、新しいシートまたは Web ブラウザでソース・データにドリルできます。

Oracle Essbase データ・ソースの場合、グリッドまたは URL を使用してドリル・スルーできます。ドリルスルー・レポートがグリッドとして設定されている場合、新規シートに表示されます。URL として設定されている場合、レポートは Web ブラウザで起動されます。

ドリルスルー・レポートを操作する際は次のガイドラインを考慮してください。

- ドリルスルー・レポートを含むセルは、グリッドでセル・スタイルごとに示すことができます。セル・スタイルの設定の詳細は、フォーマット・オプションを参照してください。
- ドリルスルー・レポートに表示されるデータは動的です。
- ドリルスルーには別名を使用できません。メンバー名を使用する必要があります。
- Chrome でドリルスルー機能を使用するには、ポップアップを有効にする必要があります。後述のノートを参照してください。

ドリルスルー・レポートにアクセスするには:

1. ドリルスルー・レポートに関連付けられているデータ・セルを選択します。
2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「ドリルスルー」**

   を選択します。
3. セルに関連付けられているドリルスルー・レポートが複数ある場合は、リストからレポートを選択し、**「起動」**をクリックします。

   1 つのドリルスルー・レポートのみがセルに関連付けられている場合は、ドリルスルー・レポートが直接起動します。

ノート:

Chrome でドリルスルー機能を使用するためにポップアップを有効にするには、次のステップに従います:

1. ブラウザのツールバーで Chrome メニュー(3 つのドットのアイコン

)をクリックし、**「設定」**を選択します。
2. ページを下方にスクロールし、**「詳細設定」**の隣にある矢印をクリックして詳細設定を表示します。
3. **「プライバシーとセキュリティ」**セクションで**「サイトの設定」**を選択します。
4. **「ポップアップとリダイレクト」**を選択します。
5. **「許可」**で**「追加」**をクリックします。
6. **「サイトの追加」**ダイアログ・ボックスで、自分の環境の URL、ポート番号まで入力します。たとえば、次のとおりです。

   ```
   https://<serviceURL>.oraclecloud.com
   ```
7. **「追加」**をクリックします。

   URL が**「許可」**のリストに表示されます。

データ検証エラーの解決

サービス管理者が任意のデータ検証ルールを設定している場合、ユーザーはこれらのルールの結果を Smart View で表示し、フォーム内で直接エラーを修正できます。

管理者は、データが会社のガイドラインを満たすようにデータ検証ルールを設定できます。ルールを設定する際に、次を設定できます:

- 入力するデータの基準
- データ検証エラーへの注意を喚起する背景色
- 基準の内容を知らせるメッセージ

データ検証ルールを設定する方法の詳細は、ビジネス・プロセス用の管理ガイドを参照してください。

フォーム内のデータがデータ検証ルールの基準を満たしていない場合、エラーのあるセルは、割り当てられた背景色で表示されます。Smart View ユーザーは、**「データ検証」**パネルも使用できます。ここに、検証エラーがあるセルが、検証ルール別にグループ化されてリストされます。このリストからセルをクリックすると、フォーム内でそのセルが強調表示され、ルールに関連付けられたメッセージがツール・ヒントに表示されます。

データ検証エラーを解決するには:

1. エラーがあるフォームを開き、デフォルト以外の背景色のセルにカーソルを合せて検証メッセージを表示します。

   管理者は、通常、データ検証ルール・エラーがあるセルへの注意を喚起するために、それらに背景色を付けて表示します。
2. プロバイダのリボンから、**「データ検証」**を選択します。

3. **「データ検証」**パネルで、検証ルールを展開し、エラーがあるセルのリストを見直します。
4. 検証エラーがある各データ・セル内をクリックし、データ検証メッセージの指示に基づいて各エラーを解決します。

   エラーを解決していくと、それらのセルはリストから削除されます。
5. すべてのエラーを解決したら、データを送信します。

   セルから背景色と検証メッセージがクリアされます。**「データ検証」**パネルを今開いている場合、これも空白になります。

セル・アクションの操作

セルの展開および縮小、ベースとなるメンバー式の表示、詳細なメンバー情報の表示、ファイルおよび URL の添付、コメントおよびセルの履歴の確認を行います。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

セルの展開と縮小

フォームで作業している場合、グリッドで親セルを展開したり、縮小できます。

フォームの親セルを展開または縮小するには:

1. フォームでセルを選択します。
2. プロバイダのリボンから、**「セルのアクション」**、**「展開/縮小」**

   の順に選択します。

セル・コメントの追加

1 つのデータ・セルに 1 つ以上のコメントを追加できます。

各データ・セルに、複数のユーザーからのコメントを含めることができます。連続するデータ・セルの範囲に同じコメントを追加することもできます。コメントを含むセルは、セル・スタイルに関連付けることができます。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management で設定された文字制限が適用されます。

管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- コメントを追加します
- 同じコメントを同時に連続または隣接するセル範囲に追加します。
- 自分や他のユーザーが追加したコメントを表示します
- 入力したコメントを削除します。

> **ノート:**
>
> 他のユーザーによって入力されたコメントは削除できません。
>
> コメントの削除時、削除を確定するよう求めるダイアログ・ボックスは表示されません。

データ・セルにコメントを追加するには:

1. アド・ホック・グリッドまたはフォームでデータ・セルまたはデータ・セルの範囲を選択します。

   データ・セルの範囲を選択するには、**[Shift]**キーを使用します。セル範囲の選択に、**[Ctrl]**キーを使用しないでください。

2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「セルのアクション」**、**「セルのアクション」**

   の順に選択します。

3. **「セルのアクション」**ダイアログ・ボックスで、**「テキスト」**を選択し、コメントを入力します。

4. セルの範囲を選択した場合は、一度に 1 つのセルに対するコメントを入力するか、選択したすべてのセルにコメントを適用できます。

   - 1 つのセルのコメントを入力するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択し、コメントを入力します。
   - 選択したすべてのセルに対するコメントを入力するには、**「選択したセルすべてに適用」**を選択します。

5. **「投稿」**をクリックしてコメントを保存します。

6. **「閉じる」**をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。

添付の追加

ドキュメントは、URL またはファイルを使用して個々のデータ・セルに添付できます。

各データ・セルには、1 人以上のユーザーによって添付された複数のドキュメントを含めることができます。管理者から割り当てられた権限レベルに応じて、データ・セルで次のいずれかの操作を実行できます:

- URL またはファイルを使用してドキュメントを添付します。
- 同じドキュメントを URL として同時に連続または隣接するセル範囲に添付します。

> **ノート:**
>
> 同じドキュメントをファイルとして同時にセル範囲に添付することはできません。ファイルは一度に 1 つのセルに添付できます。

- 自分や他のユーザーが添付したドキュメントを表示します。
- 添付したドキュメントを編集および削除します。他のユーザーが添付したドキュメントは編集または削除できません。

添付を含むセルは、セル・スタイルに関連付けることができます。

データ・セルにドキュメントを添付するには:

1. アド・ホック・グリッドまたはフォームでデータ・セルまたはデータ・セルの範囲を選択します。

   データ・セルの範囲を選択するには、**[Shift]**キーを使用します。セル範囲の選択に、**[Ctrl]**キーを使用しないでください。

2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「セルのアクション」**、**「セルのアクション」**

   の順に選択します。

3. **「セルのアクション」**ダイアログ・ボックスで、**「添付」**を選択し、次のいずれかを行います:

   - URL を添付するには、添付するドキュメントのタイトルおよび URL を入力します。

     > **ノート:**
     >
     > セルの範囲を選択した場合は、一度に 1 つのセルに URL を添付するか、選択したすべてのセルに同じ URL を添付できます。
     >
     > – 範囲内の 1 つのセルに URL を添付するには、ドロップダウン・メニューからセルを選択し、URL を添付します。
     >
     > – 範囲内のすべての選択済セルに同じ URL を添付するには、**「選択したセルすべてに適用」**を選択します。

   - ファイルを添付するには、をクリックし、添付するファイルに移動して選択し、**「開く」**をクリックします。

4. **「投稿」**をクリックすると、選択内容が保存されます。
5. **「閉じる」**をクリックして、ダイアログ・ボックスを閉じます。

> **ノート:**
>
> 添付があるセルの背景色を定義するには、Smart View の**「オプション」**で、**「フォーマット」**をクリックし、**「セルのスタイル」**をクリックします。**「データ・スタイル」**を展開し、**「添付」**を選択して色を設定します。

セルの履歴の表示

データ・セルに加えられた変更の履歴を表示できます。

セルの履歴を表示するには:

1. アド・ホック・グリッドまたはフォームでデータ・セルを選択します。
2. プロバイダのリボンまたはプロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「セルのアクション」**、**「セルのアクション」**

の順に選択します。

3. **「セルのアクション」**ダイアログ・ボックスで**「履歴」**を選択します。

   リストされている各変更について、次の情報が表示されます。

   - 変更を行ったユーザー
   - 変更が行われた日付
   - 前の値
   - 新しい値

9

データ・フォーム

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のフォームを操作して、データを表示して変更できます。

次も参照:

- Excel でのフォームの操作
  フォームは、Excel からデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。
- Excel でフォームを開く
  Excel で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームを開くことができます。
- フォームでの Excel 式
  セルが読取り専用ではない、またはロックされていない場合、Excel 式を、グリッドの内部または外部のフォームのセルに作成できます。
- 動的ユーザー変数の操作
  Smart View フォームにユーザー変数が含まれている場合、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)でそれらを変更できます。
- バージョンのコピー
  データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。
- ジョブ・ステータスのモニタリング
  ジョブ・コンソールを使用して、継続中および完了した Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のジョブの実行ステータスを表示し、必要に応じて削除します。
- サポート詳細の操作
  フォームでアド・ホック・グリッドおよび書込み可能なセルのサポート詳細を入力できます。
- スマート・フォームの操作
  Smart View でスマート・フォームを作成および管理します。
- フレックス・フォームの操作
  フレックス・フォームというフォーム・タイプを使用すると、Smart View で柔軟に行を管理できます。

Excel でのフォームの操作

フォームは、Excel からデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部のディメンション・メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)を使用して、Excel で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームを操作できます。

Smart View で開いたフォームのガイドライン

Smart View で開いたフォームについては、次のガイドラインを考慮してください:

- フォームのデータ値は変更できますが、フォーム構造は変更できません。
- Excel からデータベースに送信する値は、フォーマットされていないデータにする必要があります。
- フォームを Excel にロードした後で、管理者がサーバー側でフォームの定義を変更した場合は、いったんフォームを閉じてリロードすることをお薦めします。このアクションによってフォームの最新の定義が表示されます。
- フォームに対して行われたカスタマイズが保存時またはリフレッシュ時に維持されるのは、グリッドの外部に対して、または 3 桁ごとのセパレータと小数点に対して行われた場合のみです。
- Web でフォームを縮小した後、Smart View で開くと、フォームは完全に展開されて表示されます。
- 複合フォームはサポートされていません。21.05 以降、Cloud EPM では複合フォームは公式にサポートされなくなりました。

スマート・フォームのガイドライン

*既存*のスマート・フォームを Smart View で開くことができます。ただし、次の点に注意してください。

- ビュー・タイプを変更できません。現在の Web アプリケーションでのビュー設定が、表示に使用されます。
- ユーザー定義関数(UDF)はサポートされません。
- *新規*スマート・フォームは作成できません。

Excel でフォームを開く

Excel で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームを開くことができます。

フォームを開くには:

1. データ・ソースに接続します。
2. 「Smart View ホーム」パネルで、ライブラリ・ツリー・リストを展開します。
   データ・ソース・プロバイダに応じて、次のアイコンで示される様々なアーティファクトが表示されます:
   -
     - フォーム
   -
     - フレックス・フォーム
   -
     - スマート・フォーム

-
  - 保存済のアド・ホック・グリッド
-
  - ダッシュボード

3. 次のいずれかの操作を実行します。
   - フォームを開かずに選択するには、フォームのアイコンまたはフォーム名の横にある領域をクリックします。
   - フォームを開くには、フォーム名をクリックします。
   - フォームをアド・ホック分析モード、つまりアド・ホック・グリッドとして直接開くには、まずフォームを選択し、その上の任意の場所で右クリックして、メニューで**「アドホック分析」**オプションを選択します。
   - アド・ホック・グリッドをフォームとして開くには、まずそれを選択して右クリックし、メニューの**「フォームを開く」**オプションを選択します。
   - フレックス・フォームを開くには、フレックス・フォーム名をクリックします。
   - フレックス・フォームを単純なフォームかアド・ホック・グリッドとして開くには、フレックス・フォーム・アイコン、またはフレックス・フォーム名の後のスペースを右クリックし、**「フォームを開く」**または**「アド・ホック分析」**オプションを選択します。
4. **オプション:** フォームに関連付けられた説明を表示するには、プロバイダ・リボンの**「データ」**セクションで**「詳細」**をクリックし、**「指示」**

   をクリックします。

フォームでの Excel 式

セルが読取り専用ではない、またはロックされていない場合、Excel 式を、グリッドの内部または外部のフォームのセルに作成できます。

セル・テキストを含むセルには Excel 式を含められますが、サポート詳細を含むセル(Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のセルなど)に含めることはできません。

データを保存しなくても、フォームのリフレッシュ時、フォームで式は保持されます。

参照式を移動した場合、そのセル参照は、新しい位置を反映するように更新されます。

フォームでは、次のいずれかを行うとワークブックを Excel ファイルとして保存するよう求められます(ただし、一時的にフォームへのアクセスを失います):

- 現在のページを変更
- 別のフォームを選択
- 別のデータ・ソースに接続

動的ユーザー変数の操作

Smart View フォームにユーザー変数が含まれている場合、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)でそれらを変更できます。

Smart View パネルに表示されているユーザー変数の隣の

をクリックすると、**Smart View「メンバー・セレクタ」**ダイアログ・ボックスが表示されます。次に、ユーザー変数に該当するメンバーを選択します。選択したユーザー変数に適用されるフィルタがロードされて、フィルタ・ドロップダウン・リストに表示されます。選択が完了すると、1 つ以上のユーザー変数ボタンを簡単に変更して、Smart View のフォームの POV を変更できるようになります。

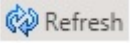
フォーム内のユーザー変数で変更するには:

1. **Smart View** パネルで、データ・ソースに接続し、フォームを開きます。
2. プロバイダのリボンから、**「POV」**

   をクリックします。

   ユーザー変数が、ユーザー変数名、列、値の順に表示されます。
3. ユーザー変数の隣にある

   をクリックして **Smart View メンバー・セレクタ**にアクセスします。ここで、他のメンバーをユーザー変数に割り当てることができます。
4. **「適用」**をクリックして変更を適用し、**Smart View メンバー・セレクタ**を終了します。
5. **「リフレッシュ」**

   をクリックします。

バージョンのコピー

データを 1 つのボトムアップまたは選択済シナリオのターゲット・バージョンから他のボトムアップまたは同じシナリオ内のターゲット・バージョンへコピーします。

たとえば、「ベスト・ケース」バージョンを作成し、そのバージョンの一部またはすべてのデータを「ワースト・ケース」バージョンへコピーし、新規バージョンの開始点をすばやく作成できます。

ボトムアップ・バージョンとターゲット・バージョン間でのコピーは可能ですが、

- ボトムアップ・バージョンにコピーすると、選択したレベル 0 のメンバーのみがコピーされます。
- ターゲット・バージョンにコピーすると、選択したすべてのメンバーがコピーされます。
- 承認済プランニング・ユニット内のデータ保護のため、バージョンのコピーを行っても承認済のプランニング・ユニットにはコピーされません。

> **ノート:**
>
> データをコピーするには、コピーするデータの基準を指定するときに、シナリオ、勘定科目、エンティティ、期間およびバージョン・ディメンションの少なくとも 1 つのメンバーを選択する必要があります。

バージョンをコピーするには:

1. プロバイダのリボンの**「ワークフロー」**セクションから、**「バージョンのコピー」**を選択します。
2. **「シナリオ」**で、コピーするシナリオを選択します。
3. **「コピー元」**で、ソースのバージョンを選択します。
4. **「コピー先」**で、宛先のバージョンを選択します。
5. **「実行」**をクリックし、選択したソース・バージョンの使用可能なエンティティ (プランニング・ユニット)を表示します。
6. 矢印キーを使用して、**「使用可能なエンティティ」**から**「選択したエンティティ」**にエンティティを移動します。

   プロセス・ステータスが*「未開始」*や*「初回パス」*のエンティティをコピーできます。
7. **オプション:** 関連情報をコピーするには、次のオプションを選択します。
   - **勘定科目注釈のコピー**

     選択されたエンティティの注釈のみがコピーされます。ボトムアップ・バージョンにコピーする場合は、レベル 0 のエンティティ (およびその注釈)のみがコピーされます。
   - **セルのコメントと注釈のコピー**
   - **サポート詳細のコピー**
8. **「データのコピー」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> データのコピー操作が正常に行われたことを示すメッセージが表示されてから、別の Web ページをロードします。

ジョブ・ステータスのモニタリング

ジョブ・コンソールを使用して、継続中および完了した Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management のジョブの実行ステータスを表示し、必要に応じて削除します。

ジョブの実行ステータスをチェックするには:

1. プロバイダのリボンの**「データ」**セクションから、**「詳細」**、**「ジョブ・コンソール」**の順にクリックします。
2. ジョブのリストを表示します。
   デフォルトで、すべてのジョブが表示されます。次のいずれかのジョブ基準を使用して、ジョブのリストをフィルタできます。

- **ジョブ・タイプ**
- **ステータス**
- **ジョブ名**
- **ユーザー名**
- **開始日**
- **終了日**

ジョブのフィルタ基準を入力したら、**「実行」**をクリックして選択に合うジョブを表示します。

3. **オプション:** アプリケーション名およびジョブのプラン・タイプを表示するには、ジョブを選択し、**「詳細の表示」**をクリックします。
リストのすべてのジョブの詳細を表示するには、**「すべて 選択」**をクリックしてから**「詳細の表示」**をクリックします。
4. **オプション:** ジョブを削除するには、ジョブを選択して**「削除」**をクリックします。
リストのすべてのジョブを削除するには、**「すべて 選択」**をクリックしてから**「削除」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> ジョブを削除すると、**「ジョブ・コンソール」**のリストから削除されるだけです。ジョブは取り消されません。

5. ジョブの表示を終えたら、**「OK」**をクリックしてジョブ・コンソールを閉じます。

サポート詳細の操作

フォームでアド・ホック・グリッドおよび書込み可能なセルのサポート詳細を入力できます。

サポート詳細は、メンバー・アウトラインに含まれないデータを作成するための、組込み型の計算機として機能します。サポート詳細には、データの集約方法を定義するテキスト、値、および演算子を含めることができます。

サポート詳細の追加

フォームでアド・ホック・グリッドのセルおよび書込み可能なセルのサポート詳細を入力できます。

> **Note:**
>
> - サポート詳細は、レベル 0 以外の期間セルや、読取り専用セル、およびロックされているセルには追加できません。
> - サポート詳細を送信する際に、**「保存時に実行」**に設定されたルールにフォームが関連付けられている場合、「ビジネス・ルール」ダイアログが表示されます。

サポート詳細を追加するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドで、サポート詳細を追加するセルを選択します。

1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。この選択に行と列の組合せを含めることはできません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. プロバイダのリボンの **「データ」** セクションから、**「セルのアクション」**、**「サポート詳細」** の順にクリックします。

   「サポート詳細」 ダイアログに、選択したセルが反映されます。

3. 「無題」テキストに説明を入力します。

   テキストとそれに関連する演算子は、同じ親の下にいる子の間で同じものは使用できません。デフォルトでは、最大 1,500 文字入力できます。

4. ボタンを使用して、インデントされた階層を設定または変更し、目的の構造と計算を反映します。

   たとえば、**「子の追加」** をクリックして、選択したアイテムの直下にライン・アイテムを追加します。

   詳細は、サポート詳細の階層の設定を参照してください。

5. アイテムごとに演算子を選択して、ライン・アイテム間の演算関係を設定します。

   次の演算子から選択します。

演算子	関数
+	加算
-	減算
*	乗算
/	除算
~	無視

6. データを入力して設定または計算をします。

   フォームで設定したものと同じ倍率を使用して、数字を入力します。

7. **「送信」** をクリックします。

   値は動的に計算され、データを送信する前に集約されます。フォーム上のデータも送信されます。

サポート詳細の階層の設定

サポート詳細の階層は、関係を作成するセルの値と算術演算子をサポートする情報のタイプを反映しています。この階層を作成し、変更できます。

サポート詳細の階層を設定するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドで、サポート詳細のセルを選択します。
2. プロバイダのリボンの **「データ」** セクションから、**「セルのアクション」**、**「サポート詳細」** の順にクリックします。
3. 詳細が含まれる必要な階層内でアイテム上にカーソルを置き、次の表のオプションをクリックして行を設定または変更します:

Table 9-1　「サポート詳細」オプションとその結果

オプション	結果
子の追加	選択されたセルの 1 レベル下にアイテムを追加します。子は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
兄弟の追加	選択されたセルと同じレベルにアイテムを追加します。兄弟は無制限に追加できますが、パフォーマンスに与える影響を考慮してください。
削除	選択されたアイテムの除去
すべて削除	すべてのサポート詳細を同時に除去
上位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ上のレベルに移動
下位へ移動	選択されたアイテムを 1 つ下のレベルに移動
上へ移動	選択したアイテムをその兄弟の先祖より前に移動します
下へ移動	選択したアイテムをその兄弟の子孫より後に移動します
行のコピー	選択アイテムの下に行を追加してテキスト、演算子、値などをコピーします。
入力	行内の現在のセルからその右のセルにデータをコピーします。
リフレッシュ	保管されたデータベースの最新の値を取得し、すでに保存された値を復元し、変更内容を上書きします。

4. **「送信」**をクリックします。

サポート詳細の表示および変更

セルに追加されたサポート詳細を表示および変更できます。

> **Note:**
>
> - 詳細をサポートするセルは、グリッド内で簡単に識別できるように、セル・スタイルを使用して示すことができます。
> - サポート詳細を含むセルの背景色を定義するには、Smart View の**「オプション」**で、**「フォーマット」**をクリックし、**「セルのスタイル」**をクリックします。**「データ・スタイル」**を展開し、**「サポート詳細」**を選択して色を設定します。

サポート詳細を表示または変更するには:

1. フォームまたはアド・ホック・グリッドで、サポート詳細を表示または追加するセルを選択します。

   1 つの行また列内で、1 つのセルを選択するかまたは複数のセルを続けて選択できます。この選択に行と列の組合せを含めることはできません。書き込めるように、現地通貨のセルを選択してください。

2. プロバイダのリボンの **「データ」**セクションから、**「セルのアクション」**、**「サポート詳細」**

の順にクリックします。

   「サポート詳細」ダイアログに、選択したセルが反映されます。

3. 詳細を表示するか、選択したセル内のデータを集約するライン・アイテムまたは計算を変更します。

スマート・フォームの操作

Smart View でスマート・フォームを作成および管理します。

次も参照:

- スマート・フォームについて
  Smart View でスマート・フォームを作成および管理できます。
- スマート・フォームの作成
  Smart View で、グリッド・ラベルおよびビジネス計算を含むアド・ホック・グリッドを保存することにより、スマート・フォームを作成します。
- スマート・フォームでサポートされている Excel 関数
  スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のリストを把握します。

スマート・フォームについて

Smart View でスマート・フォームを作成および管理できます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

スマート・フォームはデータ・フォームの 1 つのタイプで、Smart View で作成され、アド・ホック・グリッドに基づきます。通常のデータ・フォームではサポートされていない追加の機能がサポートされます。スマート・フォームでは、Excel の式と関数の形式でビジネス計算とともにグリッド・ラベルをサポートします。Smart View では、アド・ホック・グリッドをスマート・フォームとして、該当するプロバイダに保存できます。ビジネス計算とグリッド・ラベルは、任意の空白の行と列とともにスマート・フォーム定義の一部として保存されます。

アド・ホック分析グリッドを開始すると、ビジネス計算(Excel の関数と式の形式)を追加して、グリッドをカスタマイズできます。これらの計算は、その他のソース・アプリケーション内のメタデータには影響しません。スマート・フォームで作成し、保存したビジネス計算は、Smart View とプロバイダ Web インタフェース(Planning など)の両方で実行できます。Smart View では式が Excel によって評価され、Web インタフェースでは式がプロバイダによって評価されます。

たとえば、Smart View で Planning データを分析する場合を考えます。製品の平均利益マージンを計算すると仮定します。「平均利益マージン」というグリッド・ラベルを付けて、グリッドに行を追加します。4 つの製品の利益マージン・データのセルを選択して、新しい行で平均利益マージンを算出する関数を追加します。各製品の利益マージンがグリッドの列 D に表示される場合、関数は`=AVERAGE(D5:D8)`になります。スマート・フォームでは、追加した式と関数は、*ビジネス計算*と呼ばれます。ビジネス計算の追加後、平均利益マージンはすぐに新しい行に表示されますが、新しい行はスマート・フォームにのみ保存され、他のアプリケーションには保存されません。

このアド・ホック・グリッド、およびそのグリッド・ラベルと計算を Planning でフォームとして使用可能にするには、**「スマート・フォームとして保存」**オプションを使用します。その後、Planning または Smart View では、追加した行、列およびビジネス計算を含め、フォームとし

てこのスマート・フォームを開いて使用できます。Smart View では、このスマート・フォームに対してアド・ホックを実行できます。スマート・フォームからサンドボックスを作成できます。

スマート・フォームを操作する際のガイドライン

スマート・フォームを操作する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- 計算されるセルおよび空白の行と列機能に加えて、スマート・フォームでは、セルの結合などの拡張 Excel フォーマット機能をサポートしています。
- スマート・フォームは、適切な Web インタフェースまたは Smart View の通常のフォームと同様に、ユーザーが使用できます。
- スマート・フォーム設計は、アプリケーション Web インタフェース内のフォーム設計と同様に、エンド・ユーザーに対して使用可能ではありません。アド・ホック・グリッドをスマート・フォームとして保存するには、サービス管理者またはパワー・ユーザー・ロールが必要です。通常のフォームと同様に、サービス管理者は、エンド・ユーザー用に読取り/書込みアクセス権をスマート・フォームに割り当てる必要があります。
- Smart View では、スマート・フォームをワークシートで設計して、スマート・フォーム・レイアウトの他に、非対称レイアウトでも表示することができます。プロバイダ Web インタフェースでこれを実行するには、個々の行と列を作成する必要があります。
- 共有接続を使用して接続している場合、次の Smart View 関数がスマート・フォームでサポートされます: HsGetValue および HsSetValue。
  ノート: Smart View 関数を含むスマート・フォームを開く場合は、**「リフレッシュ」**をクリックして、適切な値で関数セルを更新してください。
- プロバイダ Web インタフェースの設計モードでは、次のようになります:
  - ビジネス・ルールをスマート・フォームに割り当てることができます。
  - スマート・フォームのグリッド・レイアウト、Excel フォーマットまたはビジネス計算は変更できません。
- ご使用のサービスでスマート・フォームが使用できるかどうかについては、サービス管理者に確認してください。

ビジネス計算

スマート・フォームでは、アド・ホック・グリッドに追加した Excel の式と関数は、*ビジネス計算*と呼ばれます。グリッドをスマート・フォームとして追加すると、エンド・ユーザーは、アプリケーション・メタデータにメンバーを追加しないで、Smart View クライアントから、ビジネス計算を実行できます。

ビジネス計算は、Excel の計算エンジンを使用する Smart View で実行されるので、プロバイダへの問合せが不要です。この実行時ビジネス計算は、Smart View とデータ・プロバイダの両方でサポートされています。また、次についても注意してください。

- 多数の Excel 関数がスマート・フォームでサポートされています。関数がサポートされていない場合、スマート・フォームを保存しようとするとメッセージが通知されます。
- Excel フォーマットをビジネス計算のセルに適用できるので、ドル記号や小数点など、プリファレンスに従って数字が表示されます。
- グリッド・ラベルの行または列では、ビジネス計算セルの定数のみを入力できません。たとえば、`1000` や `0.10` の入力はサポートされていません。計算されたセルに定数を使用する場合は、`=1000` や`=0.10` など、等号(=)を接頭辞として使用してください。

グリッド・ラベル

グリッド・ラベルを使用して、グリッドにプレースホルダを指定し、対応するデータ・セル交差部にビジネス計算を入力します。これらは、ビジネス計算を含むアド・ホック・グリッドを保存するために必要です。また、次についても注意してください。

- アド・ホック・グリッド内の実際のメンバーのかわりに Excel に手動でグリッド・ラベルを入力します。
- グリッド・ラベル名は、データ・ソース・アプリケーションの実際のメンバー名とも、どの別名表のメンバーの別名とも同じにならないようにします。同じになる場合は、実際のメンバー名または別名がグリッド・ラベル名より優先されます。
- グリッド・ラベルに空白を入力しないでください。
- グリッド・ラベルにはディメンション・プロパティはありません。
- グリッド・ラベルは、Planning のディメンション・エディタには表示できず、Essbase に送信されません。
- グリッド・ラベルを含む実際のメンバーの交差部によって作成されたデータ・セルは、*計算されるセル*と呼ばれます。

スマート・フォームの作成

Smart View で、グリッド・ラベルおよびビジネス計算を含むアド・ホック・グリッドを保存することにより、スマート・フォームを作成します。

スマート・フォームを作成するには:

1. アド・ホック・グリッドを開きます。

   または、フォームを開き、**「分析」**をクリックして、フォームをアド・ホック・グリッドに変換します。
2. グリッド・ラベルとビジネス計算を Excel の式と関数として、アド・ホック・グリッドに追加します。
3. 次に、プロバイダ・アド・ホックのリボンで**「スマート・フォームとして保存」**をクリックします。
4. **「スマート・フォームとして保存」**ダイアログで、次のようにします。
   - **「グリッド」**で、スマート・フォームの名前を指定します。
   - **「グリッド・パス」**で、スマート・フォームを格納する場所を参照します。

     新しいフォルダ名を入力することもできます。フォルダが「Smart View ホーム」パネルのアプリケーションに表示されます。
   - **オプション:** グリッドに適用されたカスタム Excel フォーマットの変更を保存するには、**「フォーマットの送信」**を選択します。
   - **オプション: 「説明」**にコメントを入力します。
5. **「OK」**をクリックします。

   「Smart View ホーム」パネルで、スマート・フォームは アイコンで示されます。

スマート・フォームでサポートされている Excel 関数

スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のリストを把握します。

サブトピック:

- アルファベット順のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数
- カテゴリ別のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

アルファベット順のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

表 9-2 スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
ABS	数学および三角法
ACCRINT	財務
ACCRINTM	財務
ACOS	数学および三角法
ACOSH	数学および三角法
AMORDEGRC	財務
AMORLINC	財務
AND	論理
ASIN	数学および三角法
ASINH	数学および三角法
ATAN	数学および三角法
ATAN2	数学および三角法
ATANH	数学および三角法
AVERAGE	統計
AVERAGEA	統計
CEILING	数学および三角法
COMBIN	数学および三角法
COS	数学および三角法
COSH	数学および三角法
COUNT	統計
COUNTA	統計
COUPDAYBS	財務
COUPDAYS	財務
COUPDAYSNC	財務
COUPNCD	財務
COUPNUM	財務
COUPPCD	財務
CUMIPMT	財務
CUMPRINC	財務
DATE	日付と時間
DAY	日付と時間
DAYS360	日付と時間
DB	財務
DDB	財務

表 9-2 (続き) スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
DEGREES	数学および三角法
DISC	財務
DOLLARDE	財務
DOLLARFR	財務
DURATION	財務
EDATE	日付と時間
EFFECT	財務
EOMONTH	日付と時間
EVEN	数学および三角法
EXP	数学および三角法
FACT	数学および三角法
FACTDOUBLE	数学および三角法
FLOOR	数学および三角法
FV	財務
FVSCHEDULE ***	財務
GCD	数学および三角法
HOUR	日付と時間
IF	論理
IFERROR	論理
- TRUE	論理
- FALSE	論理
INT	数学および三角法
INTRATE	財務
IPMT	財務
IRR	財務
ISERR	情報
ISERROR	情報
ISPMT	財務
LCM	数学および三角法
LEFT	テキスト
LN	数学および三角法
LOG	数学および三角法
LOG10	数学および三角法
MAX	統計
MDURATION	財務
MID	テキスト
MIN	統計
MINUTE	日付と時間
MIRR	財務
MOD	数学および三角法
MONTH	日付と時間
MROUND	数学および三角法
MULTINOMIAL	数学および三角法

表 9-2 (続き) スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
NETWORKDAYS	日付と時間
NOMINAL	財務
NOT	論理
NOW	日付と時間
NPER	財務
NPV	財務
ODD	数学および三角法
OR	論理
PI	数学および三角法
PMT	財務
POWER	数学および三角法
PPMT	財務
PRICE	財務
PRICEDISC	財務
PRICEMAT	財務
PRODUCT	数学および三角法
PV	財務
QUOTIENT	数学および三角法
RADIANS	数学および三角法
RAND	数学および三角法
RANDBETWEEN	数学および三角法
RATE	財務
RECEIVED	財務
RIGHT	テキスト
ROUND	数学および三角法
ROUNDDOWN	数学および三角法
ROUNDUP	数学および三角法
SECOND	日付と時間
SIGN	数学および三角法
SIN	数学および三角法
SINH	数学および三角法
SLN	財務
SQRT	数学および三角法
SQRTPI	数学および三角法
SUM	数学および三角法
SUMSQ	数学および三角法
SYD	財務
TAN	数学および三角法
TANH	数学および三角法
TBILLEQ	財務
TBILLPRICE	財務
TBILLYIELD	財務
TIME	日付と時間

表 9-2 (続き) スマート・フォームでサポートされている Excel 関数のアルファベット順のリスト

関数	カテゴリ
TODAY	日付と時間
TRUNC	数学および三角法
WEEKDAY	日付と時間
WEEKNUM	日付と時間
WORKDAY	日付と時間
XIRR	財務
XNPV	財務
YEAR	日付と時間
YEARFRAC	日付と時間
YIELD	財務
YIELDDISC	財務
YIELDMAT	財務

***スマート・フォームで FVSCHEDULE 関数を使用する場合、既存のデータには、データ配列ではなくセル参照を使用します。たとえば、=FVSCHEDULE(C10,B15:B17)を使用します。=FVSCHEDULE(C10,{0.09,0.11,0.1})は使用しないでください。

カテゴリ別のスマート・フォームでサポートされている Excel 関数

財務関数

ACCRINT

ACCRINTM

AMORDEGRC

AMORLINC

COUPDAYBS

COUPDAYS

COUPDAYSNC

COUPNCD

COUPNUM

COUPPCD

CUMIPMT

CUMPRINC

DB

DDB

DISC

DOLLARDE

DOLLARFR

DURATION

EFFECT

FV

FVSCHEDULE ***

INTRATE

IPMT

IRR

ISPMT

MDURATION

MIRR

NOMINAL

NPER

NPV

PMT

PPMT

PRICE

PRICEDISC

PRICEMAT

PV

RATE

RECEIVED

SLN

SYD

TBILLEQ

TBILLPRICE

TBILLYIELD

XIRR

XNPV

YIELD

YIELDDISC

YIELDMAT

***スマート・フォームで `FVSCHEDULE` 関数を使用する場合、既存のデータには、データ配列ではなくセル参照を使用します。たとえば、`=FVSCHEDULE(C10,B15:B17)` を使用します。`=FVSCHEDULE(C10,{0.09,0.11,0.1})` は使用しないでください。

情報関数

ISERR

ISERROR

論理関数

AND

IF

NOT

OR

IFERROR

- TRUE
- FALSE

統計関数

AVERAG

AVERAGEA

COUNT

COUNTA

MAX

MIN

テキスト関数

LEFT

RIGHT

MID

日付と時間関数

DATE

DAY

DAYS360

EDATE

EOMONTH

HOUR

MINUTE

MONTH

NETWORKDAYS

NOW

SECOND

TIME

TODAY

WEEKDAY

WEEKNUM

WORKDAY

YEAR

YEARFRAC

数学および三角関数

ABS

ACOS

ACOSH

ASIN

ASINH

ATAN

ATAN2

ATANH

CEILING

COMBIN

COS

COSH

DEGREES

EVEN

EXP

FACT

FACTDOUBLE

FLOOR

GCD

INT

LCM

LN

LOG

LOG10

MOD

MROUND

MULTINOMIAL

ODD

PI

POWER

PRODUCT

QUOTIENT

RADIANS

RAND

RANDBETWEEN

ROUND

ROUNDDOWN

ROUNDUP

SIGN

SIN

SINH

SQRT

SQRTPI

SUM

TAN

TANH

TRUNC

フレックス・フォームの操作

フレックス・フォームというフォーム・タイプを使用すると、Smart View で柔軟に行を管理できます。

Related Topics

- フレックス・フォームについて
  フレックス・フォームというフォーム・タイプを使用すると、Smart View で柔軟に行と列を管理できます。
- フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス
  フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティスおよびガイドラインが含まれています。
- Smart View でのフレックス・フォームの操作
  フレックス・フォームでは、行および列ディメンションを再配置し、有効なメンバーまたは別名を対応するディメンションから挿入できます。
- アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信
  通常のフォームと同様に、アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開き、アド・ホック分析を使用してグリッド・レイアウトを変更して、データを送信できます。

フレックス・フォームについて

フレックス・フォームというフォーム・タイプを使用すると、Smart View で柔軟に行と列を管理できます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

フレックス・フォームには、フレックス・フォームに添付されたビジネス・ルールの実行など、通常のフォームのプロパティおよび機能がすべて保持されます。ただし、フレックス・フォームを使用する場合、フレックス・フォームの設計によっては、行メンバーと列メンバーの再配置、行または列のソートや移動を行うことができます。変更した行または列の順序は、リフレッシュしたとき、および送信中に維持されます。

Web アプリケーションで、フォーム定義中にサービス管理者は、**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**で、**行でのフレックス・フォームの有効化**、**列でのフレックス・フォームの有効化**またはその両方のオプションを選択して、フレックス・フォーム固有の機能を有効にします。これらの選択項目に応じて、フレックス・フォーム内のディメンションおよびメンバーの行のセルおよびすべてのデータ・セルは保護されていません。たとえば、**行でのフレックス・フォームの有効化**のみが有効になっている場合、列メンバーが保護されます。**列でのフレックス・フォームの有効化**のみが有効になっている場合、行メンバーが保護されます。両方が有効になっている場合は、左上の空白セルのみが保護されます。

Smart View の**「シート情報」**ダイアログでは、フレックス・フォームの**「シート・タイプ」**は「フレックス・フォーム」として表示されます。フレックス・フォームはタスク・リストに含めることができ、タスク・リストからフレックス・フォームとして開くことができます。

> **Note:**
>
> フレックス・フォームは Smart View でのみ使用され、Web アプリケーションでは使用されません。

フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティス

フレックス・フォームの操作に関するベスト・プラクティスおよびガイドラインが含まれています。

Related Topics

- フレックス・フォームに関する一般的なガイドライン
- フレックス・フォームでのメンバーの選択
- フレックス・フォームでのソート
- フレックス・フォームでの抑制オプションの使用
- フレックス・フォームでの共有メンバーと抑制オプションの操作
- フォーム定義を超えるフレックス操作
- フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持
- フレックス・フォームでの式、ラベルおよびコメントの行および列の保持
- POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持
- フレックス・フォームでのスマート・プッシュ

- フレックス・フォームでサポートされていない機能

フレックス・フォームに関する一般的なガイドライン

- フレックス・フォームの行および列の両方のメンバーを変更できます。
- フレックス・フォームに対する変更は、セッションをまたいで保持されません。ユーザーがフレックス・フォームを変更すると、変更されたグリッド・レイアウトは現在のセッションのコンテキストでのみ維持されます。フレックス・フォームを再度開くと、フレックス・フォームのレイアウトは元の状態に戻ります。
- Excel の右クリック・メニューにある**「挿入」**および**「削除」**アクションを使用して、フレックス・フォームでメンバー行および列を挿入および削除できます。
  「行のフレックス・フォームの有効化」、**「列のフレックス・フォームの有効化」**、またはその両方のオプションが有効になっているかどうかに応じて、フレックス・フォーム・グリッドの外部ではなく、グリッド内で行または列を挿入または削除できます。

  サービス管理者: フォーム定義で、次のオプションのいずれか、または両方を選択します:

  - ユーザーが行を挿入または削除できるようにするには、**「行のフレックス・フォームの有効化」**を選択します。
  - ユーザーが列を挿入または削除できるようにするには、**「列のフレックス・フォームの有効化」**を選択します。
- Microsoft Excel 365 のブラウザ版の問題により、Oracle では、左または右に列を挿入する前に、列全体を選択することをお薦めします。セルを選択して左に列を挿入することもできます。ただし、セルを選択してから右に列を挿入すると、開始列のセルが 1 セル下に移動します。
- アクセス権限の設定はフレックス・フォームにも適用されます。
- 有効な交差はフレックス・フォームにも適用されます。
- フレックス・フォームではビジネス・ルールを実行できます。
- 新しいディメンション・メンバー(オンザフライ・メンバー)を追加するためのビジネス・ルールまたは Groovy ルールがあるフレックス・フォームがフォームから実行された場合、リフレッシュ後に新しいメンバーはフレックス・フォームに表示されません。フレックス・フォームで新しいメンバーを表示するには、フレックス・フォームを再度開く必要があります。
- フレックス・フォームは、タスク・リストからフレックス・フォームとして開くことができます。
- フレックス・フォームでの分散のサポートは限定的です。
  - フレックス・フォームでの分散は、期間ディメンションがフレックス対応でない場合にのみサポートされます。期間ディメンションが列にある場合、列でフレックス・フォームを有効にしないでください。同様に、期間ディメンションが行にある場合、行でフレックス・フォームを有効にしないでください。
  - 期間ディメンションが列であり、列でフレックス対応になっている場合、期間の分散はサポートされません。また、YearTotal 列などのサマリー期間データ・セルに値を入力しても、**調整**、**グリッド分散**、**一括割当**の各オプションを使用している間は、新しい値は関連セルに分散されません。
  - 行のみでフレックス・フォームが有効になっているフォームで**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが有効になっており、行に期間以外のディメンションが含まれていて、列の期間ディメンションがフレックスに対応していない場合、分散は一度は機能しますが、それ以降の分散操作では機能しません。このようなフォームを設計する際は、**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**にある

「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」チェック・ボックスが選択されていないことを確認してください。

- **[Delete]**キーを使用して行および列を削除できます。ただし、複数のディメンションを含む行または列を削除する場合は、**[Delete]**を押す前に、行または列内のすべてのディメンション・メンバーを選択していることを確認してください。
  次の例では、フレックス・フォームに、アカウント、マーケットおよび年の 3 つの行ディメンションがあります:

  ```
  D-Acc US Market FY18

  D-Acc US Market FY19

  D-Acc US Market FY20
  ```

  [Delete]キーを使用して FY18 の行を削除するには、[Ctrl]キーまたは[Shift]キーを使用して D-Acc、US Market および FY18 の 3 つのディメンションをすべて 選択してから、[Delete]を押します。

- 「ディメンション・プロパティ」で、**「フォーム定義を超えるフレックス」**がフレックス・フォームに対して選択されていない場合、コピーと貼付けはフォーム定義の範囲に制限されます。フレックス・フォームは、フォームで定義されているように階層に従う必要があります。したがって、フォームの定義された行または列メンバーに含まれないフレックス・フォーム・メンバーを持つことはできません。
  フォーム定義外のメンバーを手入力またはコピーと貼付けで追加できるようにするには、**「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを選択する必要があります。詳細は、フォーム定義を超えるフレックス操作を参照してください。

- 小計計算スクリプトおよび通貨換算計算スクリプトは、元のフォーム定義に基づいて生成および実行されます。

- フォーム定義で、**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**またはその両方が選択されている場合、単純なフォームとして開いたフレックス・フォームは、リフレッシュ後にフォーム以外のセルにコメントを保持できます。
  ただし、フレックス・フォームとして開いた場合:
  - **「行のフレックス・フォームの有効化」**と**「列のフレックス・フォームの有効化」**の両方のオプションが選択されている場合、コメントは保持されません。
  - **「行のフレックス・フォームの有効化」**オプションのみが選択されている場合、フォームの右側に入力したコメントはリフレッシュ後に保持されます。コメントは、フォームの下に直接入力した場合は保持されません。
  - **「列のフレックス・フォームの有効化」**オプションのみが選択されている場合、フォームの下に入力したコメントはリフレッシュ後に保持されます。フォームの右側に入力したコメントは保持されません。

- フレックス・フォームでは、メンバーと別名の表示はサポートされていません:
  - ビジネス・プロセスのアプリケーション設定の**「メンバーのラベルの表示形式」**では、**「メンバー名:別名」**オプションと**「別名:メンバー名」**オプションのどちらもサポートされていません。
  - フォーム定義中に、**「ディメンション・プロパティ」**で、**「メンバー名」**と**「別名」**の両方のオプションを選択することは、フレックス・フォームではサポートされていません。**「メンバー名」**か**「別名」**のいずれかを選択します。

- 行または列に複数のディメンションがあるフレックス・フォームを操作する場合(複数のメンバーを含む 2 つ以上のディメンションが行または列に配置される場合):
  - 行と列はデフォルトで展開されて表示されます。
  - フォーム定義時にディメンション・メンバーを別々の行または列に配置するには、フレックス・フォームの**「メンバー選択」**で、**「選択内容を別々の行に配置」**または**「選**

択内容を別々の列に配置」を選択します。ビジネス・プロセス管理ガイドのフォームのメンバー選択に関するドキュメントを参照してください。Planning の場合、*Planning の管理*のフォームのメンバーの選択を参照してください。

- フレックス・フォームで数値メンバー名または共有メンバーを入力する場合は、メンバー名の前に一重引用符(')を入力します。

  たとえば、4077 などの数値メンバー名の場合、次のように入力します:

  ```
  '4077
  ```

  共有メンバーの場合、メンバー名を次のフォーマットで入力します:

  ```
  '[Parent].[Shared Member]
  ```

  例:

  ```
  '[Sales Director 2].[410]
  ```

  ```
  '[Default_Sales Director 2].[Default_International Sales]
  ```

- フレックス・フォームの行および列では、ユーザー変数、動的ユーザー変数、属性がある動的ユーザー変数および代替変数がサポートされます。ユーザーは、POV で変数を変更し、行および列のリフレッシュを実行して、それらの行および列を新しいメンバーに更新する必要があります。
- 除外メンバーをフレックス・フォームの行または列で入力できます。フォーム定義で除外されるメンバーをフレックス・フォームの行で入力でき、ユーザーは値を入力して送信できます。
- フォーム定義で、**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**またはその両方が有効になっている場合、セグメント・プロパティの**「非表示」**および**「読取り専用」**は行または列のいずれに対してもサポートされません。**「非表示」**および**「読取り専用」**は単純なフォームでのみサポートされます。

フレックス・フォームでのメンバーの選択

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用して、フレックス・フォームに追加する行メンバーまたは列メンバーを選択できます。**「メンバー選択」**オプションは、フレックス・フォームでのみ使用可能で、単純なフォームでは使用できません。

「メンバー選択」ダイアログを起動するには、次の手順に従います:

1. メンバー・セルを選択します。
2. プロバイダ・リボンで、**「メンバー選択」**をクリックします。

アド・ホック・グリッドにメンバーを追加するのと同様に、**「メンバー選択」**ダイアログを使用してフレックス・フォームに行または列メンバーを追加します。追加できるメンバーは、行または列ディメンションの基礎となるフォーム定義によって異なります:

- **「ディメンション・プロパティ」**設定で**フォーム定義を超えてフレックス**が選択されている場合、ユーザーはフォーム定義で指定されているメンバー以外のメンバーを選択できます。たとえば、フォームに製品ディメンションから「コンピュータ・アクセサリ」メンバーのみ含まれているとします。製品ディメンションに対して**フォーム定義を超えてフレックス**が選択されている場合、ユーザーは「製品」の他のメンバー(ノートブック、タブレットなど)をフレックス・フォームに追加できます。これらのメンバーは、リフレッシュ時に保持されます。詳細は、フォーム定義を超えるフレックス操作を参照してください。
- フレックス・フォームのフォーム定義で、特定のメンバーがディメンションに含まれていない場合は、**「メンバー選択」**ダイアログでそれらのメンバーを選択して追加できても、リフレッシュ時にそれらのメンバーは削除されます。

> **Note:**
>
> フォーム定義以外のメンバーを追加するには、該当するディメンションで**フォーム定義を超えてフレックス**を有効にします。

「メンバー選択」では、アプリケーション・レベルで定義されたデフォルトの別名表が使用されます。メンバーがグリッドに挿入されると、リフレッシュが実行されるまでそのメンバーはメンバー名で表示され、その後、アプリケーション設定に応じて別名が表示されます。

フレックス・フォームでのソート

- ソートでは、列内のメンバー順序が変わるため、データの送信は無効になります。ソート後にデータを送信するにはリフレッシュする必要があります。
- ソートすると、グリッド構造が正しくない場合、列ヘッダー・メンバーの位置が変更されることがあります。ユーザーは、このようなグリッドのソートが、グリッドの整合性に影響を与えないようにする必要があります。

  望ましくないソート結果を避けるために、列全体にソートを適用しないでください。かわりに、ソートするグリッド・メンバーを選択し、ソート・コマンド(「昇順」または「降順」)を使用するか、カスタム・ソートを実行します。
- Microsoft Excel 365 のブラウザ版の問題により、フレックス・フォームで列メンバーを選択し、最初のソート後にさらにソートを実行すると、列の最初のメンバーがソートされず、残りのメンバーは正しくソートされます。

フレックス・フォームでの抑制オプションの使用

- フォーム・デザイナでは、**「データベース抑制の使用」**オプションはサポートされていませんが、**「欠落ブロックの抑制」**、**「欠落データの抑制 - 行」**および**「欠落データの抑制 - 列」**オプションはサポートされています。

  > **Note:**
  >
  > Groovy ルールは、抑制オプションが有効になっている場合、フレックス・フォームではサポートされません。

- フレックス・フォームについて Web で定義された**「欠落ブロックの抑制」**、**「欠落データの抑制 - 行」**および**「欠落データの抑制 - 列」**の各オプションは、Smart View で最初にフレックス・フォームを開いたときにのみ適用されます。フォーム定義に応じて、フレックス・フォームのユーザーは、Web フォームで抑制オプションが有効になっている場合でも、列または行にメンバーを入力できます。抑制されたメンバーに対するデータ入力とデータ送信も実行できます。
  Smart View の「オプション」ダイアログの**「データ・オプション」**タブにある抑制オプション**「欠落ブロックの抑制」**、**「#Missing 行の抑制」**および**「欠落列の抑制」**が選択されている場合、それらのオプションはフレックス・フォームに適用されます。ユーザーは、これらのオプションの選択を解除した後、メンバーの追加(シートに入力するか、**「メンバー選択」**を使用)、データの入力、データの送信、およびフレックス・フォームのリフレッシュを実行できます。

フレックス・フォームでの共有メンバーと抑制オプションの操作

フォームの設計時は、次のシナリオを検討してください。シナリオは次のとおりです:

1. 共有メンバーが行、列または両方にある
2. **「共有メンバーのドリル」**が有効
3. **「欠落ブロックの抑制」**および**「欠落データの抑制」**が有効

フォームを開くと、共有メンバーが基本メンバーに変換され、問合せは基本メンバーに基づいて行われます。

フレックス・フォーム(**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**、またはその両方が選択されている)として開くと、基本メンバーはフォーム定義を超えるため、それがフレックス・フォームの行または列の唯一のメンバーである場合は、「FlexForm を勘定科目ディメンションの有効なメンバーなしでリフレッシュまたは保存することはできません。」というエラーが表示されます。

行または列に他の有効なメンバーがあり、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションが有効になっている場合、基本メンバーはコメントになります。

回避策: このエラーを回避するには、次の回避策のいずれかまたは両方を使用します:

- **「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを有効にします。
- **「共有メンバーのドリル」**オプションの選択を解除します。

フォーム定義を超えるフレックス操作

フォーム定義時に、**フォーム定義を超えてフレックス・**プロパティをフレックス・フォームの行または列ディメンションに適用すると、Smart View ユーザーは、フォームの行または列軸内のディメンションに対するフォーム定義以外のメンバーを入力できます。これにより、フレックス・フォーム・ユーザーは、フレックス・フォームに表示されていないメンバーのデータを入力できます。ユーザーには、入力する有効なメンバーへのアクセス権が必要です。

たとえば、Vision アプリケーションを使用して、製品ディメンションが行ディメンションとしてフレックス・フォームに配置されているとします。フォーム定義時に、フォームに表示する対象として製品ディメンションの Sentinal Standard Notebook および Sentinal Custom Notebook メンバーのみ選択されました。製品ディメンションに対して**フォーム定義を超えてフレックス・**オプションを有効にすると、Smart View ユーザーは、フレックス・フォームの行に製品ディメンションの他の製品(マウス、キーボードなど)を入力できます。メンバーへのアクセス権があるかぎり、ユーザーは追加メンバー用の行を既存のフレックス・フォームに追加するか、または既存の製品メンバーを必要な製品メンバーに置換できます。説明のために、次の階層に注目してください:

```
Product
   Notebooks  <<this hierarchy is displayed in flex form)
      Sentinal Standard Notebook
      Sentinal Custom Notebook
   Computer Accessories  <<this hierarchy is not displayed in flex form)
      Keyboard
      Mouse
```

フォーム定義を超えてフレックスが無効(未選択)になっているフレックス・フォームでは、ユーザーはコンピュータ・アクセサリまたはその子孫を追加できません。ユーザーはノート・ブックとその子孫を追加できます。

フォーム定義を超えてフレックスが有効(選択済)になっているフレックス・フォームでは、ユーザーはノートブックとその子孫に加えて、コンピュータ・アクセサリとその子孫を追加できます。

フォーム定義時に、**フォーム定義を超えてフレックス**・プロパティを有効にする場合は、次の点に注意してください:

- **「ディメンション・プロパティ」**で、**フォーム定義を超えてフレックス**・オプションが表示されるのは、**「行のフレックス・フォームの有効化」**、**「列のフレックス・フォームの有効化」**オプションのいずれか、または両方が**「Smart View のオプション」**で選択されている場合のみです。
- フォーム行に複数のディメンションがある場合は、適用可能な行または列ディメンションごとに**フォーム定義を超えてフレックス**・プロパティを個別に選択することをお薦めします。**「ディメンション・プロパティ」**オプションの**「すべての行ディメンションに適用」**、**「すべての列ディメンションに適用」**、**「すべてのページ・ディメンションに適用」**を使用して、**フォーム定義を超えてフレックス**・プロパティをすべてのディメンションに 適用できます。ただし、他のすべてのディメンション・プロパティ選択内容は、他のすべてのディメンションにも適用されることに注意してください。

*Planning の管理*のフレックス・フォームの設計を参照してください。

フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持

フレックス・フォームでは、リフレッシュ後にシートの無効なメンバーを保持できます。

フレックス・フォームにメンバー名を入力する際は、たとえば、次のようにエラーが発生することがあります:

- 名前の入力ミスまたはスペルミスによって、セルに無効なメンバーが作成されます
  メンバー名のスペスミスの例を参照してください。
- 特定のシートから別のシートに、または同じシート内で、メンバー名をコピーして貼り付けるときにエラーが発生すると、無効なメンバーが作成されます
  複数ディメンション行でのメンバー名の欠落の例を参照してください
- フォーム定義を超えるメンバー名を入力すると、無効なメンバーが作成されます
  フォーム定義外で入力されたメンバー名の例を参照してください

「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」が有効になっていない場合、前述の状況が発生すると、無効なメンバーを含む行または列がシートのリフレッシュ時に削除され、問題の原因がわかりにくくなり、メンバー名を再入力する必要が生じます。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービス管理者が、無効なメンバー・オプションの有効化で説明されているように、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスをフォーム定義の**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**で選択すると、フレックス・フォームはリフレッシュ後もフォーム上に無効なメンバーを保持できます。

関連トピック:

無効なメンバーの保持と解決

メンバー名のスペスミスの例

複数ディメンション行でのメンバー名の欠落の例

フォーム定義外で入力されたメンバー名の例

無効なメンバー・オプションの有効化

無効なメンバーの保持と解決

無効なメンバーを保持して解決するには:

1. フレックス・フォームで、必要に応じて行、列、またはその両方を追加します。
2. 新しい行、列または両方に、メンバー名を入力またはコピーします。
3. リフレッシュを実行します。
   無効なメンバー・セルが強調表示され、対応するデータ・セルに#InvalidMember が表示されます。
4. 無効なメンバーのセルを確認し、入力ミスや不足しているメンバーを修正してから、リフレッシュを実行します。
5. 無効なメンバーがすべて修正されるまで、前のステップを繰り返します。

Note:

- 複数のディメンションを含む行と列では、1 つのメンバーのみが無効な場合も、その行または列のすべてのメンバーが無効として強調表示されます。たとえば、行に *Tablet* メンバーと *Current* メンバーが含まれる場合に、*Tablet* と正しく入力した一方で、誤って *Currnt* と入力すると、Tablet メンバーと Currnt メンバーの両方が無効として強調表示されます。強調表示されているすべてのメンバー名を調べて、正しく入力されていないメンバー名を修正する必要があります。
- フレックス・フォームに空白の行または列を挿入し、リフレッシュした後、メンバー名が入力されていない場合、挿入した行または列は、無効なメンバー行またはメンバー列として強調表示され、フレックス・フォームに空白の行または列として残ります。
- 行または列の無効なメンバー・セルを選択して**[Delete]**キーを押すことで、行または列全体を削除しようとすると、リフレッシュ時にメンバー・セルに無効なメンバーが表示されます。フレックス・フォームの行全体または列全体を削除するには、Excel の**行全体の削除**操作または**列全体の削除**操作を使用します。

次に、シートの無効なメンバーを操作する方法を示すいくつかのシナリオ例を示します。

メンバー名のスペスミスの例

たとえば、HR Expenses という Vision アプリケーション・フォームに基づいて、フォームをフレックス・フォームとして開きます。サービス管理者が、Smart View のオプション「行のフレックス・フォームの有効化」と「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」を有効にしました。

Figure 9-1　"7690: Meals"メンバーが含まれていないフレックス・フォーム

	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	7110: Advertising	187156	191410	177586	556152
3	Total Office Expenses	187156	191410	177586	556152
4	7640: Airfare	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
5	7650: Car Rental	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
6	7660: Shipping	26549	27707	25176	79432
7	7670: Accommodation	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	7699: Miscellaneous Travel Expenses	108	108	36	252
9	Total T&E Expenses	26657	27815	25212	79684
10	Total Operating Expenses	213813	219225	202798	635836
11	7310: Existing Depreciation	35819	35819	35819	107457
12	Total Depreciation & Amortization	35819	35819	35819	107457
13	OpEx before Allocations	249632	255044	238617	743293

フォームに"7690: Meals"メンバーがないことに気付き、それを追加することにしました。グリッドに行を挿入して入力を開始しましたが、スペルを間違えました。リフレッシュすると、Smart View で行がコールアウトされ、メンバー・セルが強調表示されてデータ・セルに #InvalidMember が表示されます。

Figure 9-2　無効なメンバー行が強調表示されているフレックス・フォーム

	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	7110: Advertising	187156	191410	177586	556152
3	Total Office Expenses	187156	191410	177586	556152
4	7640: Airfare	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
5	7650: Car Rental	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
6	7660: Shipping	26549	27707	25176	79432
7	7670: Accommodation	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	7690: Maels	#InvalidMe	#InvalidMe	#InvalidMe	#InvalidMe
9	7699: Miscellaneous Travel Expenses	108	108	36	252
10	Total T&E Expenses	26657	27815	25212	79684
11	Total Operating Expenses	213813	219225	202798	635836
12	7310: Existing Depreciation	35819	35819	35819	107457
13	Total Depreciation & Amortization	35819	35819	35819	107457
14	OpEx before Allocations	249632	255044	238617	743293

スペルミスを修正した後、リフレッシュすると、フレックス・フォームが有効なメンバー名とデータで正しく表示されます。

Figure 9-3　エラーが修正され、有効なメンバーが表示されているフレックス・フォーム

	A	B	C	D	E
1		Jan	Feb	Mar	Q1
2	7110: Advertising	187156	191410	177586	556152
3	Total Office Expenses	187156	191410	177586	556152
4	7640: Airfare	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
5	7650: Car Rental	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
6	7660: Shipping	26549	27707	25176	79432
7	7670: Accommodation	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	7690: Meals	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
9	7699: Miscellaneous Travel Expenses	108	108	36	252
10	Total T&E Expenses	26657	27815	25212	79684
11	Total Operating Expenses	213813	219225	202798	635836
12	7310: Existing Depreciation	35819	35819	35819	107457
13	Total Depreciation & Amortization	35819	35819	35819	107457
14	OpEx before Allocations	249632	255044	238617	743293

複数ディメンション行でのメンバー名の欠落の例

行または列に複数のメンバーがあり、その行または列のメンバー・セルにメンバーを入力し忘れると、Smart View のフレックス・フォームに#InvalidMember が表示されます。次の例では、行に 2 つのディメンションがあります。行 14 の後に 2 行追加しました。列 A の製品ディメンションのメンバー、行 15 と 16 は正しく入力されています。しかし、列 B の同じ行には何も入力しませんでした。これらのセルに、エンティティ・ディメンションのメンバー名がありません。これは、リフレッシュ実行後の結果です。

Figure 9-4　フレックス・フォームの列 B、行 15 と 16 に、メンバー名がありません

	A	B	C	D	E	F
1			FY23	FY23	FY23	FY23
2			Jan	Feb	Mar	Q1
3	Product X	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
4	Product X	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
5	Sentinal Standard Notebook	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
6	Sentinal Standard Notebook	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
7	Sentinal Custom Notebook	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
8	Sentinal Custom Notebook	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
9	Envoy Standard Netbook	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
10	Envoy Standard Netbook	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
11	Envoy Custom Netbook	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
12	Envoy Custom Netbook	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
13	Other Computer	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
14	Other Computer	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
15	Tablet Computer		#InvalidMe	#InvalidMe	#InvalidMe	#InvalidMe
16	Tablet Computer		#InvalidMe	#InvalidMe	#InvalidMe	#InvalidMe
17	Computer Equipment	ESales East	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing
18	Computer Equipment	ESales NorthEast	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing

この問題を修正するには、正しいメンバー("ESales East"と"ESales NorthEast")を列 B、行 15 と 16 に追加し、リフレッシュを実行します。

フォーム定義外で入力されたメンバー名の例

フォーム定義を超えるメンバーを入力すると、Smart View のフレックス・フォームに #Invalidmember が表示されます。

たとえば、フォームの Year ディメンションが FY17、FY18、FY19 に制限されているとします。しかし、アプリケーションのアウトラインには、ディメンションに FY20、FY21、FY22、FY23 など、さらに多くのメンバーが含まれています。

フレックス・フォームを設計する際に、サービス管理者が Year ディメンションに対して「フォーム定義を超えるフレックス」オプションを選択した場合、FY20 など、フォーム定義外のメンバーを追加できます。「フォーム定義を超えるフレックス」オプションが選択されていない場合は、フォーム定義外のメンバーを追加すると、メンバーがアウトラインに存在する場合でも、無効なメンバーが作成されます。

次のケースでは、列の年ディメンションに対して「フォーム定義を超えるフレックス」オプションは選択されていません。FY17 と FY18 の列は非表示になっています。4 つの列を追加し、最初の行に FY20、2 行目に Jan、Feb、Mar、Q1 を入力してリフレッシュします。列 N から O の下に、現在は無効なメンバーが表示されます。

Figure 9-5　「フォーム定義を超えるフレックス」が未選択で、メンバーがフォーム定義外の場合

	A	J	K	L	M	N	O	P	Q
1		FY19	FY19	FY19	FY19	FY20	FY20	FY20	FY20
2		Jan	Feb	Mar	Q1	Jan	Feb	Mar	Q1
3	No Product	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
4	Product X	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
5	Sentinal Standard Notebook	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
6	Sentinal Custom Notebook	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
7	Envoy Standard Netbook	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
8	Envoy Custom Netbook	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
9	Other Computer	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
10	Tablet Computer	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember
11	Computer Equipment	#Missing	#Missing	#Missing	#Missing	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember	#InvalidMember

これを修正するには、サービス管理者が年ディメンションに対して**「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを選択する必要があります。フォームでこのオプションが選択されていると、フォーム定義外のメンバーを入力してリフレッシュしても、フレックス・フォームのメンバーが保持されます。

無効なメンバー・オプションの有効化

サービス管理者: 新しい**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスを選択すると、ユーザーは、フレックス・フォームにメンバー名を入力する際に発生した可能性のあるエラーを簡単に確認、理解および修正できるようになります。

フレックス・フォームに無効なメンバーを保持するには、サービス管理者が Cloud EPM Web インタフェースで次のステップを実行します:

1. ナビゲータの**「作成および管理」**で、**「フォーム」**を選択します。
2. 編集する既存のフォームを選択するか、**フォームとアド・ホック・グリッドの管理**ページで、**「アクション」**ドロップダウン・メニューをクリックして**「単一のフォームの作成」**を選択します。

3. フォーム定義ページの**「レイアウト」**タブの**「Smart View のオプション」**で、必要に応じて**「行のフレックス・フォームの有効化」**および**「列のフレックス・フォームの有効化」**チェック・ボックスを選択します。これらのオプションの一方または両方を選択できます。
4. **「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスを選択します。

> **Tip:**
>
> 前の手順で説明したように、**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**チェック・ボックスは、**「行のフレックス・フォームの有効化」**または**「列のフレックス・フォームの有効化」**、あるいはその両方が選択されている場合にのみ有効になります。

5. **オプション:** 個々の行または列に対して、**「ディメンション・プロパティ」**の**「フォーム定義を超えるフレックス」**オプションを必要に応じて有効にします。
6. フォームを保存します。

このオプションの設定の詳細は、次を参照してください:

- *フリーフォームの管理*
  - フレックス・フォームの設計
  - Smart View のフォーム・オプションの設定
  - ディメンション・プロパティの設定
- *Planning の管理*
  - フレックス・フォームの設計
  - Smart View のフォーム・オプションの設定
  - ディメンション・プロパティの設定

フレックス・フォームでの式、ラベルおよびコメントの行および列の保持

フォームを定義する際に「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」オプションを有効にすることで、フレックス・フォームで式の行および列を保持できます。サービス管理者がこのオプションを有効にすると、リフレッシュまたは送信した後に式の行および列がフレックス・フォームに保持されます。

> **Note:**
>
> 式の行および列は、*ラベル*行および列または*コメント*行および列とも呼ばれます。

リフレッシュまたは送信操作の後、式の行または列のすべてのメンバーおよびデータは、フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持で説明されているように、無効なメンバーに対して使用されるのと同じセル・スタイルを使用して強調表示されます。

> **Note:**
>
> **[Delete]**キーを使用して行または列のメンバー・セルのみを削除することで行または列全体を削除しようとすると、リフレッシュ時にメンバー・セルに無効なメンバーが格納されます。フレックス・フォームの行全体または列全体を削除するには、行全体または列全体を選択して右クリックし、Excel のコンテキスト・メニューから**「削除」**を選択します。

「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」オプションを有効にすると、ユーザーが式の行および列が含まれているフォームを操作する際にフレックス・フォームの汎用性が提供されます。

POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持

POV またはユーザー変数の変更後に、変更したメンバーをフレックス・フォームに保持するには、**「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」**を**「オプション」**パネル、**「メンバー」**タブで有効にします。

このオプションが選択されていないと、フレックス・フォームに追加した行または列は POV またはユーザー変数の変更時に削除されます。

POV またはユーザー変数の変更後に追加メンバーをフレックス・フォームに保持するには:

1. メンバー・オプションの手順に従って、**「オプション」**パネルの**「メンバー」**タブを起動します。
2. **「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」**チェック・ボックスを選択します。
3. 選択内容を保存し、**「オプション」**パネルを閉じます。
   メンバー・オプションの手順に従って、選択内容を保存するオプションを選択します。
4. **オプション:** フレックス・フォームでメンバーを追加または削除し、**「リフレッシュ」**をクリックします。
5. 必要に応じて、次のタスクを実行します:
   - POV メンバーを変更して**「リフレッシュ」**をクリックします
   - ユーザー変数を変更します(フレックス・フォームは自動的にリフレッシュされます)。

   変更したメンバーは保持されます。これで、フレックス・フォームの任意のメンバー(新規に追加したメンバーを含む)の変更した POV およびユーザー変数に対して、データを入力して送信できます。
6. **オプション:** POV または任意のユーザー変数を再度変更してリフレッシュし、更新された POV とユーザー変数に対してデータの入力を続行します。

関連項目:

- Smart View でのフレックス・フォームの操作
- メンバー・オプション

フレックス・フォームでのスマート・プッシュ

- スマート・プッシュは、フレックス・フォームでサポートされます。
- フィルタ処理されたフレックス・フォームでは、選択したフォームのコンテキストはスマート・プッシュに反映されません。

フレックス・フォームでサポートされていない機能

これらのフォーム機能は、フレックス・フォームではサポートされていません:

- セグメント・プロパティの使用: ディメンションのドロップダウンの非表示、読取り専用、有効化(行ディメンションのドロップダウン・メンバー・セレクタ)、階層の抑制

> **Note:**
>
> 行が再配置またはソートされた後、セグメント・プロパティは維持されません。

- 列でのデータのフィルタリング
- 行または列での式の使用
- **メンバー名と別名**オプションの使用
- 複合フォーム内でのフレックス・フォームの使用
- エンティティ・ディメンションの**「通貨の表示」**の有効化。
- フォーム内のデータ検証ルールは、フレックス・フォームの使用時にはサポートされません。かわりに、データ検証ルールを Groovy ルールに変換します。

フレックス・フォームは次の場合はサポートされていません:

- ダッシュボード
- スマート・フォーム
- タスク・マネージャ拡張機能

Smart View でのフレックス・フォームの操作

フレックス・フォームでは、行および列ディメンションを再配置し、有効なメンバーまたは別名を対応するディメンションから挿入できます。

Smart View で変更したフォームのデータを送信する前に、リフレッシュを実行します。リフレッシュ時に、無効なメンバー、コメントおよび空の行または列が削除され、データの送信が有効になります。

フレックス・フォームを操作するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. 「Smart View ホーム」パネルで、フレックス・フォーム名をクリックして開きます。

   デフォルトでは、フレックス・フォーム名をクリックすると、フレックス・フォームとして開きます。

フレックス・フォームは、

アイコンで示されます。

フレックス・フォームは、単純なフォームとして開くか、フレックス・フォーム・アイコン

、またはフレックス・フォーム名の後のスペースを右クリックし、**「フォームを開く」**または**「アド・ホック分析」**オプションを選択して、フレックス・フォームをアド・ホック・グリッドとして開くことができます。

3. 要件に従ってデータを変更します。

   たとえば、実行できるアクションの一部は次のとおりです:

   - 行および列メンバーの再配置または移動
   - 行および列の挿入
   - 行および列の削除
   - メンバーの追加。**「メンバー選択」**(プロバイダのリボンにあります)を使用するか、メンバー名を手入力して、メンバーを追加できます。
   - Excel の**ホーム**リボンの**「並べ替えとフィルター」**ボタン、または Excel の**データ**リボンの**「並べ替え」**ボタンを使用して、列内のメンバーの範囲をソートします。
   - ビジネス・ルールの実行

   > **Note:**
   >
   > - 行メンバーを編集している場合、データの送信は無効になります。
   >
   > フィルタ処理は編集とはみなされません。フィルタの追加のみを行う場合は、データを送信できます。
   > - Smart View の**「オプション」**パネルの**「フォーマット」**タブで、フレックス・フォームに対して**「繰返しメンバー・ラベル」**チェック・ボックスを有効にする必要があります。このチェック・ボックスの選択を解除しようとしても、リフレッシュするとチェック・ボックスは再度選択され、**「繰返しメンバー・ラベル」**オプションは有効になります。
   > - 行と列に対して実行できる操作は、サービス管理者またはフォーム設計者がフォーム定義時に選択した内容によって異なります。行に対して操作を実行するには、**行でのフレックス・フォームの有効化**オプションを選択する必要があります。列に対してアクションを実行するには、**列でのフレックス・フォームの有効化**オプションを選択する必要があります。これらのオプションについては、*Planning の管理*の Smart View のフォーム・オプションの設定で説明しています。

4. **オプション:** POV またはユーザー変数の変更後に、追加したメンバーをフレックス・フォームに保持するには、**「フレックス・フォーム: POV およびユーザー変数の変更時にグリッドを保持」**チェック・ボックスを**「オプション」**パネル、**「メンバー」**タブで選択します。

   詳細は、POV またはユーザー変数の変更後のフレックス・フォームでの変更されたメンバーの保持を参照してください。

5. **オプション:** サービス管理者がフォームの設計時に**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**オプションを有効にした場合、メンバー名を入力してから**「リフレッシュ」**をクリックし、無効なメンバー名を表示して修正できます。

   詳細は、フレックス・フォームでの無効なメンバーの保持を参照してください。

6. **オプション:** ビジネス・ルールを実行するには、フォーム内のセルを選択します。プロバイダのリボンで**「コンテキスト・メニューの表示」**をクリックし、ビジネス・ルールの名前を選択します。

7. **「リフレッシュ」**をクリックします。

   リフレッシュすると、Smart View はフォームに加えた変更を維持します。

   フォームで**「フレックス・フォームの無効なメンバーの表示」**が有効になっている場合、無効なメンバーは保持されます。このオプションが有効になっていない場合、**「リフレッシュ」**操作によって、無効なメンバーが削除されます。

   > **Note:**
   >
   > データはリフレッシュ後にのみ送信できます。ただし、変更したフォーム・レイアウトはサーバーに格納されず、現在のセッションのコンテキストでのみ維持されます。

8. 変更したデータを送信するには、**「データの送信」**をクリックします。

   「データの送信」は、リフレッシュ後にのみ有効になります。

9. 元のフレックス・フォームのレイアウトに戻すには、フレックス・フォームを再度開きます。

   変更したフォームはサーバーに格納されず、現在のセッションのコンテキストでのみ維持されます。フレックス・フォームを再度開くと、フレックス・フォームのレイアウトは元の状態に戻ります。

アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信

通常のフォームと同様に、アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開き、アド・ホック分析を使用してグリッド・レイアウトを変更して、データを送信できます。

アド・ホック・モードでフレックス・フォームを開いてデータを送信するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. Smart View パネルで、ツリー・リストを展開し、アド・ホック・モードで開くフレックス・フォームを見つけます。
3. フレックス・フォームのアイコン を右クリックし、**「アド・ホック分析」**を選択します。

   または、フレックス・フォームのアイコン を右クリックし、**「フォームを開く」**を選択します。次に、Smart View のリボンから、**「分析」**をクリックします。

4. 要件に従ってデータおよびグリッド・レイアウトを変更します。
5. **「データの送信」**をクリックします。

6. フレックス・フォームがあるシートに戻ります。
7. **「リフレッシュ」**をクリックします。

   元のレイアウトおよび変更されたデータがフレックス・フォームに表示されます。

10

アド・ホック分析

次も参照:

- アド・ホック分析について
  アド・ホック分析では、Excel スプレッドシートで Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の機能を使用して、データを取得および分析します。
- アド・ホック分析の開始
  アド・ホック分析は、キューブおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームから開始できます。
- アド・ホック・グリッドのフォーマット
  Smart View (セル・スタイル)または Excel を使用してグリッドのフォーマットを制御できます。
- ズーム・インおよびズーム・アウト
  グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示し、ズーム・アウトして高レベル・ビューを表示します。
- ピボット
  ピボットは、ワークシート上のデータの方向を変更します。行と列の間、およびグリッドと POV の間でディメンションを移動できます。
- アド・ホック・グリッドでのメンバー保持および除去
  メンバーおよび関連付けられたデータをアド・ホック・グリッドに保持したり、グリッドから除去できます。
- 属性ディメンションの挿入
  アド・ホック分析を実行する場合、属性ディメンションまたはメンバーをワークシートに挿入できます。
- メンバー・セル情報の表示
  グリッド上に、任意のメンバー・セルの詳細情報を表示できます。
- データ・セルの解決順の変更
  選択した POV のデータ・セルの詳細情報を表示し、その解決順を変更できます。
- アド・ホック操作での Excel 式の保持
  Excel 式およびコメントをアド・ホック・グリッドのメンバー・セルやデータ・セルに関連付け、そのようなセルを識別できるようにセルのスタイルを設定できます。デフォルトでは、ピボット以外のアド・ホック操作の実行時、式は保持されます。
- コメントと不明メンバーの操作
  「コメントの表示」リボン・コマンドから開く「コメントの編集」ダイアログを使用して、アド・ホック・グリッドのコメントおよび不明なメンバーに簡単にアクセスし、編集できます。
- レポートのカスケード
  アド・ホック・グリッドに基づくレポートで、1 つ以上のディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成できます。
- アド・ホック・グリッドの保存
  アド・ホック・グリッドをフォームとして保存できます。

- 複数グリッド・シートの操作
  Smart View では、1 つのシートで複数のアド・ホック・グリッドを取得できます。これらのグリッドは、すべて同じデータ・ソースまたは別のデータ・ソースのいずれかに接続できます。
- Cloud EPM での Smart View の動作オプション
  管理者は、Web インタフェースで Smart View の動作に影響するオプションを設定できます。

アド・ホック分析について

アド・ホック分析では、Excel スプレッドシートで Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の機能を使用して、データを取得および分析します。

これを行うには、メンバーを選択し、関数を使用し、フォーマットなどの様々な操作を実行して、レポートを設計します。

> **ノート:**
>
> アド・ホック操作は、保護されたワークシートではサポートされていません。

アド・ホック分析の開始

アド・ホック分析は、キューブおよび Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management フォームから開始できます。

アド・ホック分析グリッドを開始するには、次のいずれかの方法を使用します:

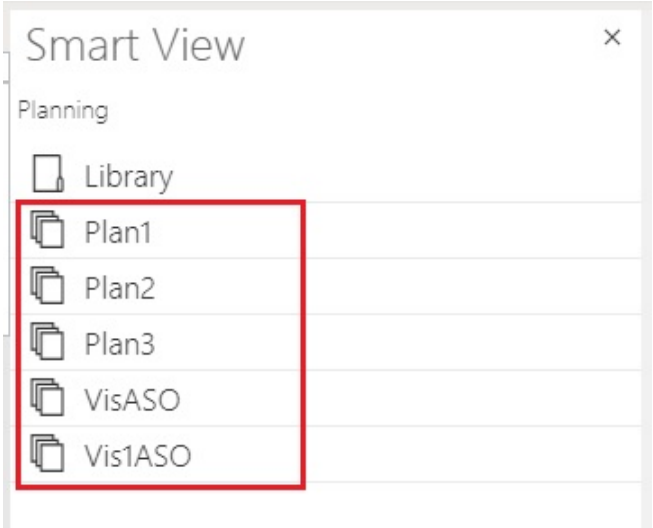
- キューブからのアド・ホック分析の開始
- Cloud EPM フォームからのアド・ホック分析の開始

> **ノート:**
>
> アド・ホック分析を開始すると、セル・スタイルはデフォルトでは有効になっていません。**「セル・スタイルの使用」**設定の詳細は、Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用を参照してください。

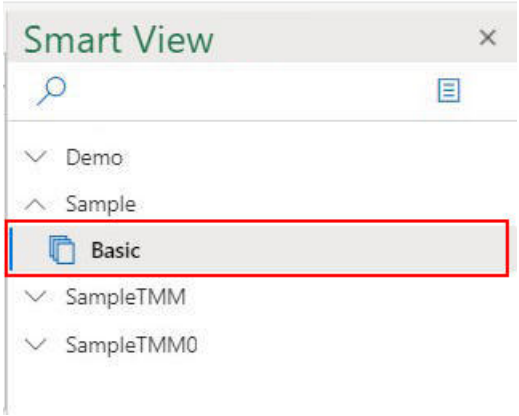
キューブからのアド・ホック分析の開始

キューブからアド・ホック分析を開始するには、「Smart View ホーム」パネルからキューブを選択します。

Cloud EPM の次の例では、選択可能なキューブが 5 個(Plan1、Plan2、Plan3、VisASO および Vis1ASO)あります。



同様に、Oracle Essbase の次の例では、リストから **Basic** キューブが選択されています。



キューブを選択すると、データがアド・ホック・モードのグリッドに配置され、すぐにアド・ホック分析を開始できます。

Cloud EPM フォームからのアド・ホック分析の開始

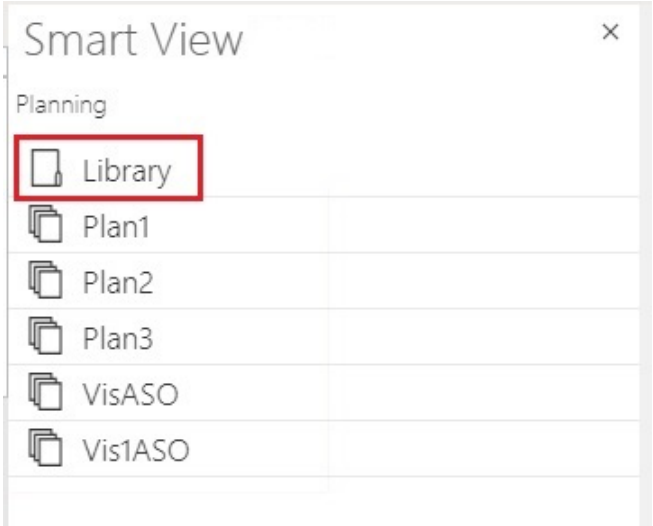
管理者によってアド・ホック・ユーザーの役割を割り当てられている場合、管理者によってアド・ホックが使用可能に設定されている Cloud EPM のフォームで、アド・ホック分析を実行できます。

Cloud EPM フォームのアド・ホック分析を開始するには:

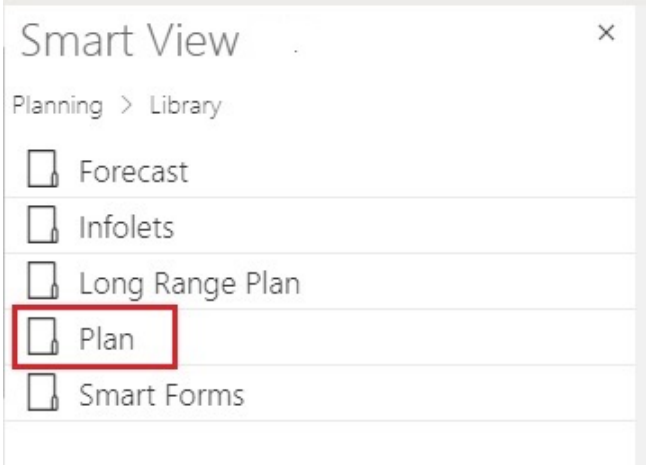
1. 「Smart View ホーム」パネルで Cloud EPM フォームを選択します。

   たとえば、**Smart View** パネルが次のようだとします。

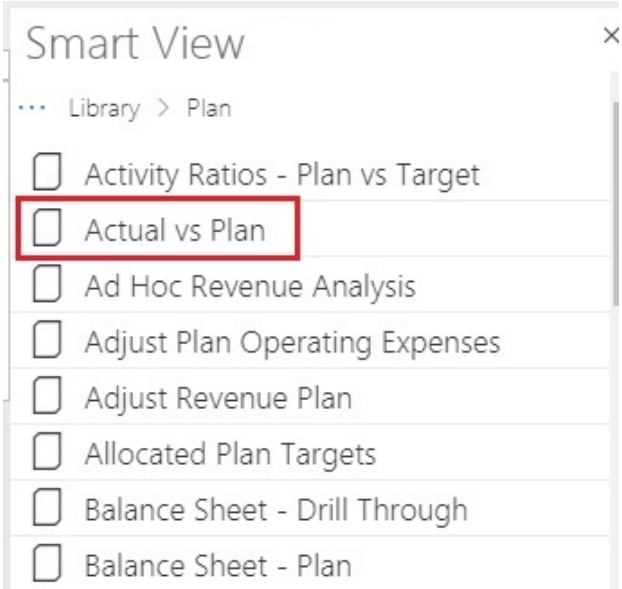
   a. **「ライブラリ」**を選択します。



b. **「Plan」**を選択して **Plan** フォルダに保存されているすべての Cloud EPM フォームを表示します。



c. Cloud EPM フォームを選択します。たとえば、**「実績 vs 計画」**Cloud EPM フォームを選択できます。



Cloud EPM フォームを選択すると、そのフォームのデータがグリッドに配置されます。ただし、最初はアド・ホック・モードではありません。

2. プロバイダのリボンの**「アド・ホック」**グループで、**「分析」**

をクリックして、フォームから作成されたアド・ホック・グリッドを含む 2 番目のシートを開きます。プロバイダ・アド・ホックのリボンも表示され、アド・ホック分析を実行するための様々なオプションが表示されます。

> **ヒント:**
>
> フォームをアド・ホック分析モード、つまりアド・ホック・グリッドとして直接開くには、まずフォームを選択し、その上の任意の場所で右クリックして、メニューで**「アドホック分析」**オプションを選択します。

アド・ホック・グリッドのフォーマット

Smart View (セル・スタイル)または Excel を使用してグリッドのフォーマットを制御できます。

次も参照:

- Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用
- Excel フォーマットの使用

Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用

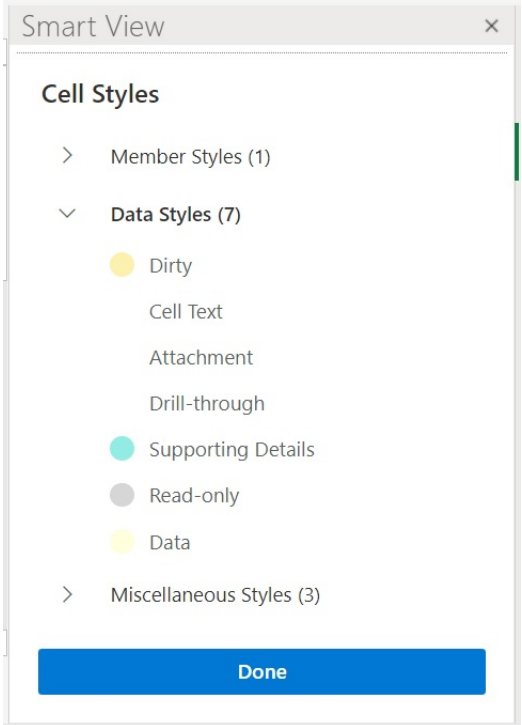
Smart View フォーマットまたは*セルのスタイル*は、Smart View の**「オプション」**パネルの**「フォーマット」**タブで行われたフォーマットの選択で構成されます。セル・スタイルを有効にしていない場合は、Excel フォーマットが使用されます(Excel フォーマットの使用を参照)。

Smart View フォーマット・オプションを設定するには:

1. Smart View のリボンで、**「オプション」**ボタンをクリックします:

2. **「オプション」**パネルで、**「フォーマット」**タブを選択します。
3. **「フォーマット」**タブで**「セル・スタイルの使用」**を選択します。
4. 必要なセルのスタイルを設定します:
   a. **「フォーマット」**タブで、**「セルのスタイル」**ボタンをクリックして、**「セルのスタイル」**パネルを起動します。

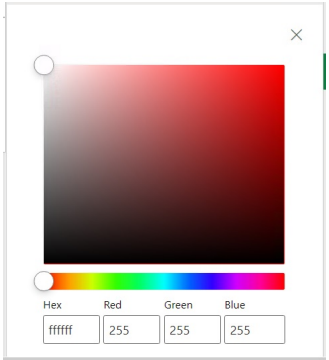
      セル・スタイルの 3 つのグループ(「メンバー・スタイル」、「データ・スタイル」および「その他のスタイル」)に注意してください。この例では、「データ・スタイル」が展開され、セルのスタイルを適用または変更できる使用可能なデータのタイプが表示されています。使用可能なスタイルとして「ダーティ」、「セル・テキスト」、「添付」、「ドリルスルー」、「サポート詳細」、「読取り専用」および「データ」が表示されています。



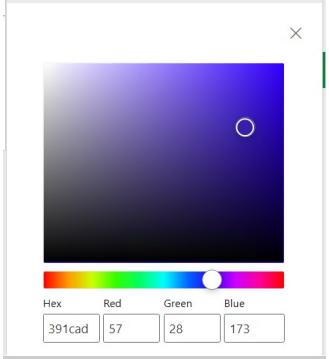
   b. セル・スタイルのカテゴリを展開し、変更するセルのスタイルを見つけてクリックします。

      たとえば、「データ・スタイル」カテゴリで「添付」を選択できます。
   c. カラー・コントロール(各カラー・ブロックの左上隅にある丸)を、必要な色になるまでドラッグします。

      デフォルトのカラー・コントロールは次のようなものです。下部の丸を移動して色のカテゴリを選択し、上部の丸を移動してそのカテゴリで色合いを選択します:



次の例では、色を青色のカテゴリと色合いに変更しています:



d. 終了したら、右上隅の**「X」**をクリックしてペインを閉じ、**「セルのスタイル」**パネルに戻ります。

5. **「セルのスタイル」**パネルで、**「完了」**をクリックして**「オプション」**パネルに戻り、次に右上隅の**「X」**をクリックして**「オプション」**パネルを閉じます。

Excel フォーマットの使用

Excel のフォーマットを使用すると、条件付きフォーマットを含む選択したフォーマットがグリッドに適用され、リフレッシュやアドホック操作の実行時に保持されます。

Excel のフォーマットを使用する場合は、Smart View は、ユーザーのグリッド操作に基づいたセルの再フォーマットを行わず、また、ユーザーがデータ値を変更したときにセルをダーティ・セルとしてマークしません。Smart View は、操作と操作の間はワークシートのフォーマットを保持します。

高度にフォーマットされたレポートについては、一般に Excel フォーマットの使用が推奨されます。また、データ・ソースのアプリケーション固有の色が Excel の色パレットでサポートされていない場合は、Excel フォーマットを使用する必要があります。

「オプション」パネルの**「フォーマット」**タブで**「セルのスタイルの使用」**オプションを選択しないかぎり、デフォルトで Excel フォーマットが使用されます。詳細は、Smart View フォーマット(セル・スタイル)の使用を参照してください。

ズーム・インおよびズーム・アウト

グリッドのメンバーをズーム・インして、その子および子孫のデータを表示し、ズーム・アウトして高レベル・ビューを表示します。

次も参照:

- ズーム・イン
  グリッドのメンバーにズーム・インして、その子および子孫のデータを表示できます。
- ズーム・アウト
  ズーム・アウトして、ビューを次の上位レベルまたは最上位レベルに縮小できます。
- ズーム時に表示するメンバーの選択
  オプションを設定して、ズーム・インおよびズーム・アウト時に保持および表示するメンバーを指定できます。
- 式を含むセルでのズーム操作

ズーム・イン

グリッドのメンバーにズーム・インして、その子および子孫のデータを表示できます。

メンバーにズーム・インするには:

1. グリッドでメンバーを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「ズーム・イン」**の横にある下矢印をクリックします。
3. **「ズーム・イン」**オプションで、必要なオプションを選択します:
   - **「次のレベル」**を選択すると、選択したメンバーの子のデータが取得されます
   - **「すべてのレベル」**を選択すると、選択したメンバーのすべての子孫のデータが取得されます。
   - **「最下位レベル」**を選択すると、ディメンション内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。

ノート:

- ページ・ディメンションにズーム・インすると、ページ・ディメンションは行ディメンションにピボットされます。
- 集約ストレージ・データベースに接続されている場合、メンバー式のセルにはズーム・インできません。
- ネイティブ・モードでは、**「ズーム・イン」**を実行すると、アド・ホック・グリッドに挿入された空白行はすべて削除されます。

  ネイティブ・モードとは、アプリケーションの**「Smart View アド・ホック動作」**設定を指します。管理者は、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Web アプリケーションでこのオプションを設定します。接続しているアプリケーションがネイティブ・モードで実行されている場合、「Smart View アド・ホック動作」は「ネイティブ」に設定されます。

ズーム・アウト

ズーム・アウトして、ビューを次の上位レベルまたは最上位レベルに縮小できます。

ズーム・アウトするには:

1. グリッドでメンバーを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンから、**「ズーム・アウト」**の横にある下矢印をクリックします。
3. **「ズーム・アウト」**オプションで、必要なオプションを選択します:
   - 次のレベルのデータにズーム・アウトする**「次のレベル」**
   - 最上位のデータにズーム・アウトする**「上位レベル」**

> **ノート:**
>
> ネイティブ・モードでは、**「ズーム・アウト」**を実行すると、アド・ホック・グリッドに挿入された空白行はすべて削除されます。
>
> ネイティブ・モードとは、アプリケーションの**「Smart View アド・ホック動作」**設定を指します。管理者は、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management Web アプリケーションでこのオプションを設定します。接続しているアプリケーションがネイティブ・モードで実行されている場合、「Smart View アド・ホック動作」は「ネイティブ」に設定されます。

ズーム時に表示するメンバーの選択

オプションを設定して、ズーム・インおよびズーム・アウト時に保持および表示するメンバーを指定できます。

ズームのメンバー表示オプションを設定するには:

1. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして、**「オプション」**パネルを起動します。
2. **「オプション」**パネルで、**「メンバー」**タブを選択します。
3. **「メンバーの保持」**で、必要なオプションを選択します:
   - **「選択を含める」**選択すると、選択したメンバーと、ズームの結果として取得されたメンバーの両方が表示されます。

     たとえば、選択したメンバー `Qtr1` にズーム・インすると、`Jan`、`Feb`、`Mar` および `Qtr1` のデータが取得されます。選択されていない場合、ズームの結果として取得されたメンバー(この例では、`Jan`、`Feb` および `Mar`)のみが表示されます。
   - **「選択したグループ内」**を選択すると、選択したセル・グループのみにズーム・インし、選択していないセルはそのままになります。

     この設定は、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションがある場合にのみ有用です。この設定は、**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ除去」**にも適用されます。

式を含むセルでのズーム操作

適用対象: Oracle Essbase

メンバーまたはデータ・セルが式に関連付けられている場合、これらの式をズーム・インの結果として取得されたセルに伝播できます。たとえば、メンバー `Qtr1` が式に関連付けられている場合、`Qtr1` にズーム・インするときに、式を `Jan`、`Feb` および `Mar` に伝播できます。

式を伝播するには:

1. Smart View のリボンで、**「オプション」**をクリックし、**「オプション」**パネルを起動します。
2. **「オプション」**パネルで、**「メンバー」**タブを選択します。
3. **「コメントと式」**で、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**が選択されていることを確認します。
4. **「式の充てん」**を選択します。

> **Note:**
>
> - **「式の充てん」**オプションが有効な場合、一部のズーム操作に時間がかかる場合があります。たとえば、大規模階層の下位レベルにズーム・インすると、完了に長い時間がかかる場合があります。
> - **「式の充てん」**オプションは**「メンバー」**タブに表示されますが、メンバー・セルとデータ・セルの両方の式に適用されます。

5. アド・ホック・グリッドを開き、式を含むメンバー・セルまたはデータ・セルを選択します。
6. Essbase のリボンから、**「ズーム・イン」**の横にある下矢印をクリックして、ズーム・インするレベルを選択します。

   ズーム・インの結果として取得されたセルに式が伝播されます。

ピボット

ピボットは、ワークシート上のデータの方向を変更します。行と列の間、およびグリッドと POV の間でディメンションを移動できます。

次も参照:

- 行と列の間のディメンションのピボット
  行と列の間でディメンションまたはメンバーをピボットできます。
- グリッドと POV の間のディメンションまたはメンバーのピボット
  ディメンションを、アド・ホック・グリッドから視点(POV)に、または POV からグリッドにピボットすることができます。メンバーをピボットすることもできます。メンバーをピボットすると、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。
- グリッドでのディメンションの再配置
  グリッド上のディメンションは、上下および左右に移動して再配置できます。

行と列の間のディメンションのピボット

行と列の間でディメンションまたはメンバーをピボットできます。

ピボットするディメンションを含む行または列に、2 つ以上のディメンション、または 2 つ以上のディメンションのメンバーが存在する必要があります。つまり、グリッド上の最後の行ディメンションまたは最後の列ディメンションはピボットできません。

メンバーをピボットすると、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。

行と列の間でピボットすると、Smart View では、選択したディメンションが反対側の軸の最も外側の行または列に移動します。たとえば、ディメンションを行にピボットするように選択すると、ディメンションはグリッドの上部に移動します。

行から列、または列から行にディメンションまたはメンバーをピボットするには:

1. グリッドでディメンションまたはメンバーを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションで、**「ピボット」**の下にある矢印をクリックして**「ピボット」**を選択します。
3. グリッド内の変更箇所を確認します。
   - 行ディメンションが一番上の列ディメンションにピボットされます。
   - 列ディメンションが一番左の行ディメンションにピボットされます。

> **ノート:**
>
> Excel フォーマットを使用している場合、ピボット操作後、メンバーと数値のフォーマットが予期せずに変わることがあります。たとえば、メンバー名が中央揃えになったり、数値が左揃えになったりします。Excel フォーマット・オプションを使用して、適切なフォーマットに戻すことができます。アド・ホック・グリッドのフォーマットを参照してください。

グリッドと POV の間のディメンションまたはメンバーのピボット

ディメンションを、アド・ホック・グリッドから視点(POV)に、または POV からグリッドにピボットすることができます。メンバーをピボットすることもできます。メンバーをピボットすると、そのディメンション内の他のメンバーもピボットされます。

グリッドから POV へのディメンションのピボット

グリッドから POV にディメンションをピボットするには:

1. グリッドでディメンションを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションで、**「ピボット」**の下にある矢印をクリックして**「POV にピボット」**を選択します。
3. **「POV」**パネルを開きます。これを行うには、プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「データ」**セクションから、**「POV」**をクリックします。

   ディメンションが**「POV」**パネルに表示されます。

POV からグリッドへのディメンションのピボット

POV からグリッドにディメンションをピボットするには:

1. **「POV」**パネルを開きます。

   プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「データ」**セクションから、**「POV」**をクリックします。

2. POV からグリッド内の列にディメンションをピボットするには:

   「POV」パネルで、ディメンションの右側にある省略記号ボタン

   をクリックし、**「列にピボット」**を選択します。

3. POV からグリッド内の行にディメンションをピボットするには:

   「POV」パネルで、ディメンションの右側にある省略記号ボタン

   をクリックし、**「行にピボット」**を選択します。

POV からグリッドへのメンバーのピボット

POV からグリッドにメンバーをピボットするには:

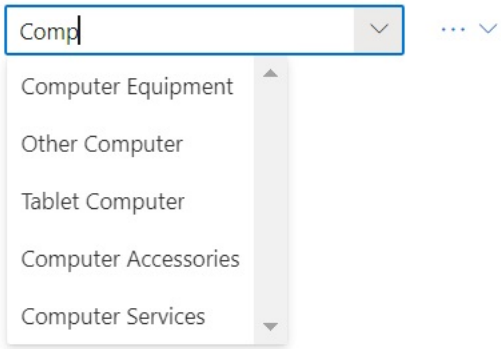
1. **「POV」**パネルを開きます。

   プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「データ」**セクションから、**「POV」**をクリックします。

2. 視点ディメンションからのメンバーの選択の手順を実行し、ドロップダウン・リストにメンバーを追加したことを確認します。

3. ディメンションのドロップダウン矢印をクリックして使用可能なメンバーのリストを表示し、リストからメンバーを選択します。

   メンバー・リストが長い場合は、ディメンション・テキスト・ボックスにメンバー名の一部を入力し、メンバーをフィルタ処理できます。たとえば、Vision 製品ディメンションを使用して、`Computer` の入力を開始します。ドロップダウン・リストでは、名前に Computer が含まれるメンバーに対してフィルタ処理されます:

4. POV からグリッド内の列に選択したメンバーをピボットするには:

   「POV」パネルで、ディメンションの右側にある省略記号ボタン

   をクリックし、**「列にピボット」**を選択します。

5. POV からグリッド内の行に選択したメンバーをピボットするには:

「POV」パネルで、ディメンションの右側にある省略記号ボタン

をクリックし、**「行にピボット」**を選択します。

ディメンションおよびメンバーのピボットに関するガイドライン

ピボットを使用する際は、次のガイドラインを考慮してください:

- 任意の数のディメンションを POV に残すことができます。
- 最後のディメンションを POV からグリッドにピボットすると、POV パネルは非表示になります。いつでも POV パネルを再び開いて、再表示できます。
- グリッドには、少なくとも 2 つのディメンション(行ディメンションと列ディメンション)が常に含まれている必要があります。グリッドに 1 つの行ディメンションと 1 つの列ディメンションのみがある場合、グリッドからディメンションをピボットする前に、まずグリッドに代替のディメンションをピボットする必要があります。

  たとえば、グリッドから行ディメンションをピボットする場合、まずグリッドに代替の行ディメンションをピボットしてから、グリッドから不要な行ディメンションをピボットする必要があります。
- グリッドから POV にメンバーをピボットする場合、グリッドで選択されたメンバーがそのディメンションの POV になります。たとえば、Year ディメンションの Qtr2 をグリッドから POV にピボットすると、Qtr2 が Year ディメンションの POV になります。
- ディメンション名またはメンバー名を手動で入力して、グリッドまたは POV でディメンション名またはメンバー名を置き換えることができます。

  同様に、グリッドからディメンションまたはメンバーを削除して、グリッドをリフレッシュすることができ、削除されたディメンションまたはメンバーは、グリッドから移動され、POV に表示されます。
- 視点ディメンションからのメンバーの選択の説明に従って、POV からメンバーを選択してピボットできます。

グリッドでのディメンションの再配置

グリッド上のディメンションは、上下および左右に移動して再配置できます。

アド・ホック・グリッドでディメンションを再配置するには:

1. グリッドでディメンションまたはメンバーを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションで、**「ピボット」**の下にある矢印をクリックします。
3. 次のオプションのいずれかを選択します。
   - **上へ移動**
   - **下へ移動**
   - **左へ移動**
   - **右へ移動**

   標準モードのアプリケーションで使用している場合、デフォルトでは、POV ディメンションはアド・ホック・グリッドとともにシートに表示されます。図 1 では、黄色で示されているディメンションが POV ディメンションです。POV ディメンションをグリッドにピボットするか、**「左へ移動」**オプションを使用して POV ディメンション行内で左に移動しま

す。一方で、**「右へ移動」**オプションは、グリッド内 POV ディメンションではサポートされていません。

図 10-1 グリッドに POV ディメンションが表示されているアド・ホック・グリッド

	A	B	C	D	E	F
1			Scenario	Version	Product	
2			HSP_View			
3			Year			
4			Period			
5	Account	Entity	#Missing			
6						

アド・ホック・グリッドでのメンバー保持および除去

メンバーおよび関連付けられたデータをアド・ホック・グリッドに保持したり、グリッドから除去できます。

保持するメンバーの選択

グリッドで保持するメンバーを選択するには:

1. アド・ホック・グリッドで、保持するメンバー・セルを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションから、**「選択項目のみ保持」**を選択します。

   グリッドのその他のメンバーは除去されます。

削除するメンバーの選択

グリッドで削除するメンバーを選択するには:

1. アド・ホック・グリッドで、削除するメンバー・セルを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションから、**「選択項目のみ削除」**を選択します。

   グリッドの選択したメンバーがすべて削除されます。

> **ノート:**
>
> ネイティブ・モードでは、**「選択項目のみ削除」**または**「選択項目のみ保持」**を実行すると、アド・ホック・グリッドに挿入された空白行はすべて削除されます。
>
> ネイティブ・モードとは、アプリケーションの**「Smart View アド・ホック動作」**設定を指します。Cloud EPM Web で、管理者がこのオプションを設定します。接続しているアプリケーションがネイティブ・モードで実行されている場合、「Smart View アド・ホック動作」は「ネイティブ」に設定されます。

保持および除去の例

「選択項目のみ保持」および**「選択項目のみ削除」**の結果は、選択したグループがグリッド内で評価される方法によって異なります。グループは、グリッドの下に行として、またはグリッドを超えて列として、複数のディメンションで構成されます。

「選択項目のみ保持」または**「選択項目のみ除去」**コマンドを使用するには、選択されたメンバーがメンバーのグループに属し、関連付けられている必要があります。メンバーは、グループを考慮するのに同じディメンションである必要はありません。選択したメンバーは、グループの最小または最後のメンバーにしないでください。

たとえば、New York、Florida、Connecticut および New Hampshire という個々のグループについて考えてみます。いずれも January メンバーを含んでいます。それらの 4 つの州の January のデータを保持します。ただし、「Jan」を選択して**「選択項目のみ保持」**をクリックすると、グリッドは変更されません。これは Jan 自身がグループではないためです。Jan は、実際には Market ディメンションを起源とするグループのメンバーで、New York、Florida、Connecticut および New Hampshire グループに属してもいます。

図 10-2 列 A に Market メンバー、列 B に Year メンバーを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	New York	Jan	8722	
4	Florida	Jan	336	
5	Connecticut	Jan	321	
6	New Hampshire	Jan	44	
7	West	Feb	2394	
8	South	Year	13238	
9	Central	Year	38262	
10	Market	Year	213522	
11				

Jan を移動して Jan の位置を変え、Jan がグループになってメンバー New York、Florida、Connecticut および New Hampshire が Jan グループに属するようにします。

図 10-3 列 A に Year メンバー、列 B に Market メンバーを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	
11	Feb	New York	99955	
12	Feb	Florida	361	
13	Feb	Connecticut	309	
14	Feb	New Hampshire	74	
15	Feb	West	2394	
16	Feb	South	1046	
17	Feb	Central	3063	
18	Feb	Market	107700	
19	Year	New York	116202	
20	Year	Florida	5029	
21	Year	Connecticut	3093	
22	Year	New Hampshire	1125	
23	Year	West	29861	
24	Year	South	13238	
25	Year	Central	38262	
26	Year	Market	213522	

ここで、Jan セルを選択して、**「選択項目のみ保持」**をクリックします。結果のレイアウトには、Jan でグループ化されている Market ディメンション・メンバーのみが表示されます。

図 10-4 Jan グループ・メンバーのみを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	

レポートをさらに絞り込み、New York、Florida、Connecticut および New Hampshire メンバーのみを表示できます。グリッドでそれらのメンバーを選択します。

図 10-5 「選択項目のみ保持」に選択したメンバー

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	

次に、**「選択項目のみ保持」**をクリックします。

図 10-6 Jan グループ・メンバー New York、Florida、Connecticut および New Hampshire のみを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	

別の方法で結果を得ることもできます。West、South および Central メンバーと Market ディメンションを選択します。

図 10-7 「選択項目のみ削除」に選択されたメンバー

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	
7	Jan	West	2339	
8	Jan	South	997	
9	Jan	Central	2956	
10	Jan	Market	16234	

次に、**「選択項目のみ削除」**をクリックします。

図 10-8 Jan グループ・メンバー New York、Florida、Connecticut および New Hampshire のみを使用したグリッド

	A	B	C	D
1			Product	Scenario
2			Measures	
3	Jan	New York	8722	
4	Jan	Florida	336	
5	Jan	Connecticut	321	
6	Jan	New Hampshire	44	

「選択項目のみ保持」および**「選択項目のみ削除」**コマンドは選択されたグループで常に実行され、グリッド内で評価されることに注意してください。

属性ディメンションの挿入

アド・ホック分析を実行する場合、属性ディメンションまたはメンバーをワークシートに挿入できます。

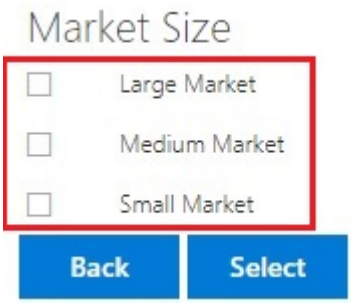
属性ディメンションまたはメンバーを挿入するには:

1. アド・ホック・グリッドを開きます。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションから、**「属性の挿入」**をクリックします。
3. **「属性の挿入」**ダイアログ・ボックスで、シートに追加する属性ディメンションを選択します。

4. **オプション:** 属性メンバーをさらに定義するには、属性の横にある ... をクリックして**「メンバー・セレクタ」**を開き、目的のメンバーを選択します。

   たとえば、市場サイズの隣にある ... をクリックします。

   「*Large Market*」、「*Medium Market*」または「*Small Market*」を選択します。



5. **「挿入」**を選択して、選択した属性ディメンションをグリッドに追加します。

属性ディメンションの挿入に関するガイドライン

属性を挿入する場合は、次のガイドラインを考慮してください:

- 属性がグリッドにすでに存在する場合、**「属性の挿入」**ダイアログ・ボックスで選択できません。
- グリッドはリフレッシュされた状態である必要があります。グリッドがリフレッシュする前にフリーフォーム状態である場合、手動でリフレッシュするよう指示されます。
- 属性がグリッドに挿入されると、グリッドが自動的にリフレッシュされます。
- **「属性の挿入」**ダイアログ・ボックス:
  - 属性ディメンション全体またはディメンションから 1 つの属性メンバーを挿入することもできます。
  - メンバー名が属性テキスト・ボックスで空のままである場合、そのディメンションは選択解除済の状態で挿入されません。
- **「属性の挿入」**コマンドおよびダイアログ・ボックスを使用して単一の属性メンバーを挿入した場合、**「メンバー選択」**を使用して同じ属性ディメンションからグリッドに他のメンバーを追加できます。
- **「属性の挿入」**は、複数のグリッド・シートではサポートされていません。
- 属性ディメンションの世代 3 レベルで属性をフィルタ処理した場合、Smart View では世代 2 レベルまでのメンバーのみが表示されます。
- 属性ディメンションを削除するには、属性ディメンションがグリッド内に存在している必要があります。詳細は、グリッドと POV の間のディメンションまたはメンバーのピボットを参照してください。

メンバー・セル情報の表示

グリッド上に、任意のメンバー・セルの詳細情報を表示できます。

表示される情報は、接続しているデータ・ソースのタイプによって異なります。

> **ノート:**
>
> - Oracle Essbase の場合、メンバー・セルに加えて、データ・セルのセル情報を表示してその解決順を変更することもできます。詳細は、データ・セルの解決順の変更を参照してください。
> - その他のデータ・プロバイダの場合は、メンバー・セルの情報のみを表示できます。

セル情報を表示するには:

1. グリッドでメンバー・セルを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンまたは Essbase のリボンの**「分析」**セクションから、**「セル情報」**

   を選択します。
3. 次のタブに表示される情報を確認します。メンバーおよび接続に適用できるタブのみが表示されます。
   - **情報:** ディメンション、レベル、世代、親メンバー名など、メンバーに関する一般情報のリスト。これらのプロパティは、選択したメンバーおよびディメンション・タイプに基づいて異なる場合があります。
   - **別名:** メンバーに関連付けられている別名表および対応する別名のリスト
   - **属性:** メンバーに関連付けられている属性のディメンション、メンバーおよびタイプの表
   - **式:** メンバーに関連付けられている式
   - **コメント:** メンバーに関連付けられているコメントのリスト
   - **ユーザー定義属性:** ユーザー定義属性のリスト(管理者によって定義されたメンバーの属性)
4. **「OK」**をクリックしてグリッドに戻ります。

データ・セルの解決順の変更

選択した POV のデータ・セルの詳細情報を表示し、その解決順を変更できます。

適用対象: Oracle Essbase

POV および連結プロパティなど、データ・セルの情報を表示できます。選択したメンバー交差または POV におけるデータ・セルの解決順を表示することもできます。

解決順は、計算が実行される際のメンバーの順序または優先度を表す値です。**「データ・セル情報」**ダイアログ・ボックスで解決順を編集することで、解決順を表示して変更できます。選択したデータ・セルは、POV の動的メンバーを含む必要があります。

データ・セル情報を表示するには:

1. アド・ホック・グリッドでデータ・セルを選択します。
2. Essbase のリボンの**「分析」**セクションから、**「セル情報」**

   を選択します。
3. **「データ・セル情報」**ダイアログで、次の情報を表示します:
   - 選択したデータ・セルの POV のメンバー。複数の POV 交差部がある場合、別々の行にリストされます。
   - 現在の解決順。これを変更して異なる結果を取得できます。
   - 操作の計算タイプ。現在の計算結果の詳細な説明は、**「結果」**セクションに表示されます。
4. POV のメンバーの解決順の値を変更するには、**「解決順」**フィールドに新しい値を入力します。

   > **Note:**
   >
   > 有効な解決順は 0 と 127 の間です。127 よりも上の値を入力すると、エラー・メッセージが表示され、0 から 127 までの値を入力するように求められます。解決順が 0 のメンバーはダイアログに表示されないことに注意してください。

5. **「OK」**をクリックして、解決順の変更をすべてコミットします。

アド・ホック操作での Excel 式の保持

Excel 式およびコメントをアド・ホック・グリッドのメンバー・セルやデータ・セルに関連付け、そのようなセルを識別できるようにセルのスタイルを設定できます。デフォルトでは、ピボット以外のアド・ホック操作の実行時、式は保持されます。

アド・ホック操作で式およびコメントを保持するかどうかを指定するには:

1. Smart View リボンの**「全般」**セクションで**「オプション」**をクリックします。
2. **「メンバー」**タブを選択し、**「コメントと式」**まで下にスクロールし、次のいずれかを行います:
   - アド・ホック・グリッドで式およびコメントを保持するには、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**チェック・ボックスを選択します。
   - 式およびコメントの保持を無効にするには、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**チェック・ボックスをクリアします。この操作は、式およびコメントを保持する必要がなく、問合せを高速に実行したい場合にのみ行います。
   - アド・ホック・グリッドでコメントおよび不明メンバーを保持するには、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**および**「コメントと不明メンバーの保持」**チェック・ボックスを選択します。**「コメントと不明メンバーの保持」**チェック・ボックスを有効にするには、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**チェック・ボックスを最初に選択する必要があります。

- コメントおよび不明メンバーの保持を無効にするには、**「コメントと不明メンバーの保持」**をクリアします。この操作は、コメントおよび不明メンバーを保持する必要がなく、問合せを高速に実行したい場合にのみ行います。

選択内容は、メンバー・セルとデータ・セルの両方の式に適用されます。

コメントと不明メンバーの操作

「コメントの表示」リボン・コマンドから開く「コメントの編集」ダイアログを使用して、アド・ホック・グリッドのコメントおよび不明なメンバーに簡単にアクセスし、編集できます。

Related Topics

- コメントと不明メンバーについて
  アド・ホック・シートのコメントおよび不明メンバーを強調表示するオプションを設定してから、必要に応じて「コメントの編集」ダイアログを使用してコメントおよび不明メンバーを変更または削除します。
- シート内のコメント表示の有効化
  Smart View でオプションを設定して、アド・ホック・シートのコメントおよび不明メンバーを検出できます。
- リフレッシュ時の「コメントの編集」ダイアログの表示
  シートをリフレッシュするたびに「コメントの編集」ダイアログを表示するためのオプションを構成できます。
- シート内のコメントの表示
  アド・ホック・シート内のコメントを表示できます。
- コメントと不明メンバーの編集と削除
  「コメントの編集」ダイアログを使用して、コメントおよび不明メンバーを編集できます。

コメントと不明メンバーについて

アド・ホック・シートのコメントおよび不明メンバーを強調表示するオプションを設定してから、必要に応じて「コメントの編集」ダイアログを使用してコメントおよび不明メンバーを変更または削除します。

プロバイダに接続されている場合、Smart View のオプションを有効化し、次を迅速に検出できます:

- グリッドの不明メンバー
- グリッドの外で入力されたテキスト、たとえば、シート上のユーザー自身のノート

Smart View で、これらのタイプのテキストを含むセルは*コメント*と呼ばれます。

Smart View でオプションを設定し、グリッド内の無効または不明なメンバー、またはグリッドの外のシートで作成した関連ノートなどのコメント・セルを迅速かつ簡単に特定できます。

たとえば、Vision データベースでは"Total Entities"というメンバーの名前が"Total Entity"に変更されます。Smart View はこの変更を追跡し、コメントをコールアウトするセル・スタイルが定義されている場合、この変更をシートに表示します。次に、変更をすぐにメモして、グリッドで直接修正するか、Smart View のリボンにある**「コメントの表示」**をクリックし、**「コメントの編集」**ダイアログでセルを変更することで修正できます。

アド・ホック・シートでコメントをコールアウトするには、アド・ホック・グリッドを開き、**「オプション」**パネルの**「フォーマット」**タブで、次を実行します:

- **「セルのスタイルの使用」**チェック・ボックスの選択

- コメントに対するセル・スタイルの設定

その後、アド・ホック・シート上のコメント・セルを簡単に識別し、選択して**「コメントの編集」**ダイアログ・ボックスで操作できます。

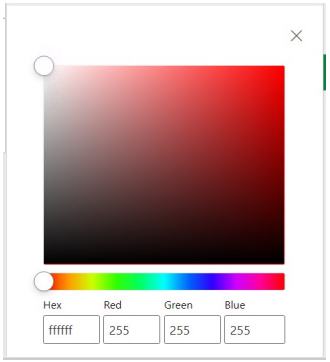
「コメントの編集」ダイアログ・ボックスの**「リフレッシュ時に常に表示」**チェック・ボックスを選択して、リフレッシュごとにこれを起動することもできます。

シート内のコメント表示の有効化

Smart View でオプションを設定して、アド・ホック・シートのコメントおよび不明メンバーを検出できます。

アド・ホック・シート内のコメント表示を有効化するには:

1. **「オプション」**パネルで、次のタスクを実行します:
   a. **「メンバー」**タブで、**「アド・ホックで式とコメントを保持」**および**「コメントと不明メンバーの保持」**チェック・ボックスを選択します。
   b. **「フォーマット」**タブで**「セル・スタイルの使用」**チェック・ボックスを選択します。
   c. **「セルのスタイル」**ボタンをクリックし、**「その他のスタイル」**を展開してから、**「コメント」**をクリックします。カラー・コントロール(各カラー・ブロックの左上隅にある丸)を、必要な色になるまでドラッグします。



2. 右上隅の**「X」**をクリックして、**「オプション」**パネルを閉じます。

   シート内のコメントの表示のステップに進みます

   オプションで、リフレッシュのたびに**「コメントの編集」**ダイアログを表示するには、リフレッシュ時の「コメントの編集」ダイアログの表示のステップを完了します。

リフレッシュ時の「コメントの編集」ダイアログの表示

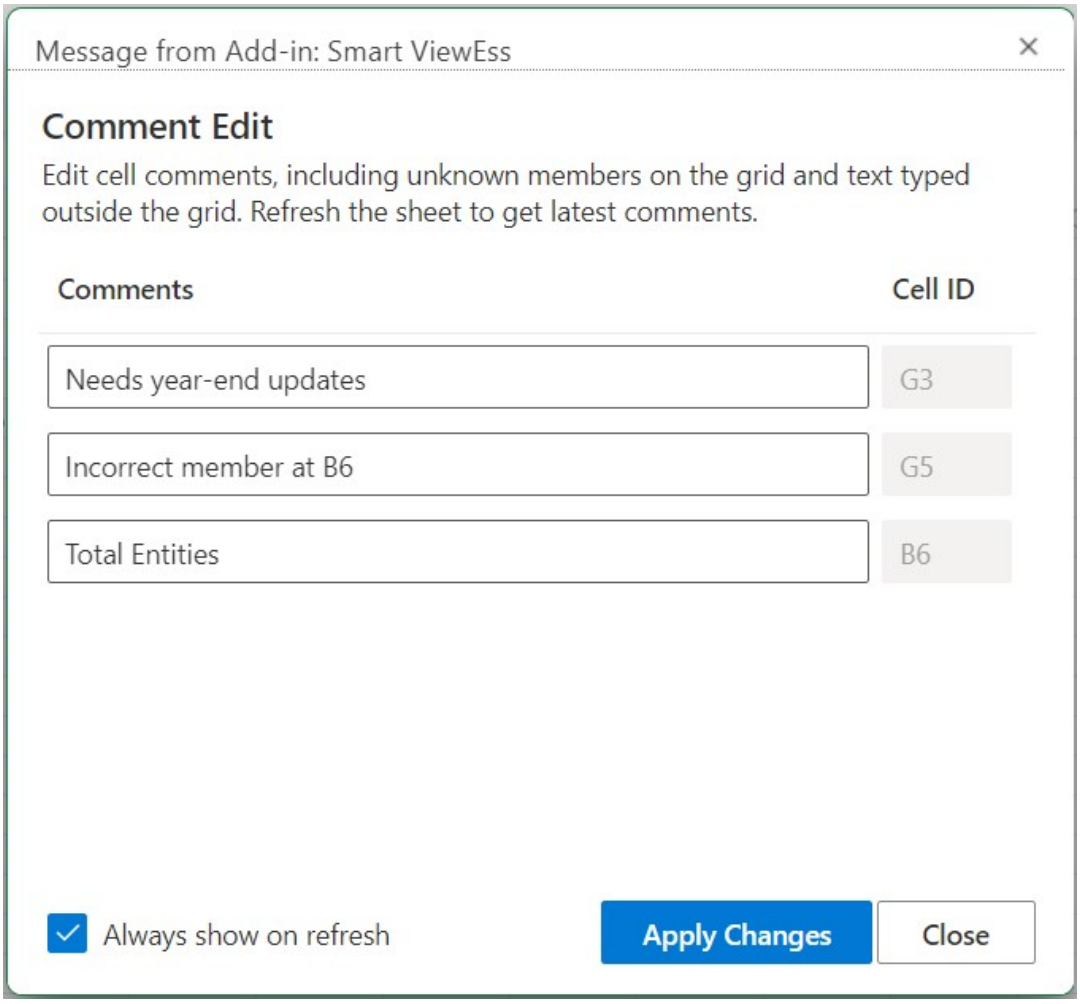
シートをリフレッシュするたびに「コメントの編集」ダイアログを表示するためのオプションを構成できます。

> **Note:**
>
> この手順はオプションです。

リフレッシュ時のシート内のコメント表示を有効化するには:

1. シートにアド・ホック・グリッドを配置します。
2. **「データ」**セクションのプロバイダ・アド・ホックのリボンから:
   - Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プロバイダの場合、**「詳細」**をクリックし、**「コメントの表示」**をクリックします。
   - Oracle Essbase プロバイダの場合、Essbase のリボンで**「コメントの表示」**をクリックします。
3. **「コメントの編集」**ダイアログで、**「リフレッシュ時に常に表示」**チェック・ボックスを選択します。

Figure 10-9　「コメントの編集」ダイアログ



4. **「変更の適用」**をクリックします。

   グリッドをリフレッシュするたびに、**「コメントの編集」**ダイアログが表示されます。

   「リフレッシュ時に常に表示」チェック・ボックスは、現在のワークシートのみでなく、その後で開く新しいワークシートにも適用されます。シートごとに設定する必要はありません。
5. **オプション:** リフレッシュ時の**「コメントの編集」**ダイアログ表示を無効にするには、**「リフレッシュ時に常に表示」**チェック・ボックスをクリアします。

シート内のコメントの表示

アド・ホック・シート内のコメントを表示できます。

アド・ホック・シート内のコメント・セルを表示するには:

1. シート内のコメント表示の有効化のステップを必ず実行します
2. アド・ホック・グリッドを開始するか、グリッドを含むワークブックを開き、**「リフレッシュ」**をクリックします。
3. シートで、コメントおよび不明メンバーを含むセルに注目してください。

   次に示す例では、セル B6 は不明のメンバーであり、Smart View によって、このセルはコメントとしてマークされています。メンバー名が、基礎となるキューブで変更されている可能性があります。コメント・スタイルは、このメンバーに注意する必要があることを示しています。

Figure 10-10　コメント・スタイルでマークされたセルが表示されたグリッド

	A	B	C	D	E	F	G
1			Scenario	Version	Product		
2			HSP_View				
3			Year				Needs year-end updates
4			Period				
5	Account	Entity	#Missing				Incorrect member at B6
6		Total Entities					

   さらに、列 G のコメントはメンバー名が正しくないことを示しています(G5)。このコメントは、グリッドの外で誰かによって作成されたノートであり、メンバー名がキューブで変更されており、グリッドでメンバーを手動で更新する必要があることを示します。グリッド(G3)の外にあるもう一つのコメントは、グリッドに関する一般的な指示を示しています。

4. コメントと不明メンバーの編集と削除に進みます。

コメントと不明メンバーの編集と削除

「コメントの編集」ダイアログを使用して、コメントおよび不明メンバーを編集できます。

開始する前に、シート内のコメント表示の有効化のステップを実行します。

> **Note:**
>
> このトピックの手順では、Smart View の**「コメントの表示」**コマンドおよび**「コメントの編集」**ダイアログ・ボックスを使用してアド・ホック・シートのコメントを編集する方法を説明します。このトピックの Smart View インタフェース要素を使用しないで、グリッドに直接コメントを編集することもできます。

アド・ホック・グリッドのコメントを編集および削除するには:

1. コメントが含まれているアド・ホック・グリッドを開き、**「リフレッシュ」**をクリックします。

   次の例のグリッドには、シート内のコメントが複数表示されています。

Figure 10-11　コメント・スタイルでマークされたセルが表示されたグリッド

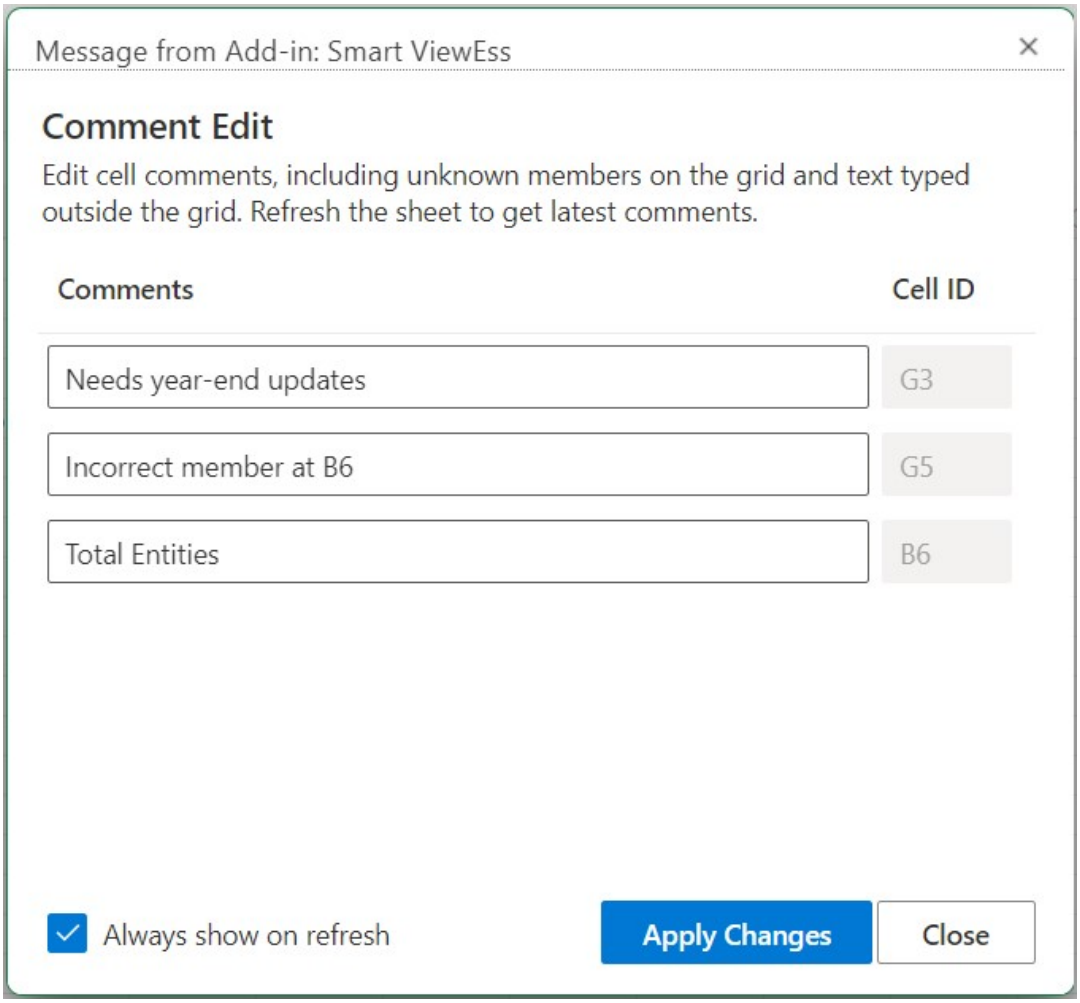
	A	B	C	D	E	F	G
1			Scenario	Version	Product		
2			HSP_View				
3			Year				Needs year-end updates
4			Period				
5	Account	Entity	#Missing				Incorrect member at B6
6		Total Entities					

2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「データ」**セクションから、**「詳細」**、**「コメントの表示」**の順にクリックします。

   「コメントの編集」ダイアログ・ボックスが起動されます。

   前述の例のグリッドに基づき、**「コメントの編集」**ダイアログにシート内の編集可能コメントが表示されます。

Figure 10-12　「コメントの編集」ダイアログ



3. コメント・セルのテキストを編集するには、**「コメントの編集」**ダイアログで、編集するコメント・セル・テキスト・ボックス内をクリックし、必要に応じてテキストを変更します。

   例の**「コメントの編集」**ダイアログを使用して、"Total Entities"コメント・セル・テキスト・ボックスをクリックし、"Total Entities"を"Total Entity"に変更します。

4. **「変更の適用」**をクリックして、グリッド内の変更を確認してください。

   編集したセルが、ダーティ・セル・スタイルでマークされるようになります。

   例のグリッドで、**「変更の適用」**をクリックした後、セル B6 がダーティ・セルになり、シートをリフレッシュするまでダーティ・セル・スタイルを表示します。

5. **「リフレッシュ」**をクリックすると、編集したセルのダーティ・セル・スタイルがクリアされ、適切なセル・スタイルが適用されます。

   例のグリッドの場合、リフレッシュの結果は図 3 のようになり、セル B6 は適切なセル・スタイルを表示します。

Figure 10-13　リフレッシュ後のグリッド。セル B6 内のコメント・スタイルがクリアされました。メンバーはキューブと同期しています

	A	B	C	D	E	F	G
1			Scenario	Version	Product		
2			HSP_View				
3			Year				Needs year-end updates
4			Period				
5	Account	Entity	#Missing				Incorrect member at B6
6	Account	Total Entity	#Missing				

グリッド外のコメントは引き続きコメント・スタイルで表示されることに注意してください。

6. コメントを削除するには:

   a. **「コメントの編集」**ダイアログを起動し、コメント・セル・テキスト・ボックス内をクリックして編集可能なテキストを強調表示し、**[Delete]**キーを押します。

      図 2 の例の**「コメントの編集」**ダイアログに基づいて、セル G3 のコメント・セル・テキスト・ボックス内をクリックしてテキストを強調表示し、**[Delete]**キーを押してコメントを削除します。セル G5 についても繰り返します。

   b. **「コメントの編集」**ダイアログで**「変更の適用」**をクリックし、アド・ホック・グリッド・シートに戻ります。

   c. **「リフレッシュ」**をクリックします。

      図 3 の例のグリッドに基づいて、セル G3 および G5 のコメントを削除すると、図 4 に示されているようにグリッドにはコメントが残りません。

Figure 10-14　リフレッシュ後のグリッド。セル G3 と G5 のコメントおよびセル・スタイルがクリアされました

	A	B	C	D	E	F	G
1			Scenario	Version	Product		
2			HSP_View				
3			Year				
4			Period				
5	Account	Entity	#Missing				
6	Account	Total Entity	#Missing				

レポートのカスケード

アド・ホック・グリッドに基づくレポートで、1 つ以上のディメンションの任意のメンバーまたはすべてのメンバーについて個別のレポートを作成できます。

その後、これらのレポートを個別のシートに個別にカスケードできます。各シート・タブに、そのシートに含まれるレポートのディメンションとメンバーに従って名前が付けられます。

> **ノート:**
>
> カスケードの結果作成されるシートの名前には 30 文字の制限があります。30 文字を超える文字は切り捨てられます。

アド・ホック・グリッドからレポートを重ねて表示するには:

1. ワークシートでアド・ホック・グリッドを開きます。
2. プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションから、**「カスケード」**

   を選択します。
3. ワークシートの右側の **Smart View** パネルで、各ディメンションの隣にある

   をクリックし、**Smart View「メンバー・セレクタ**ダイアログ・ボックスを起動します。
4. レポートの作成対象のディメンションのメンバーを選択し、**「適用」**をクリックします。

   選択したメンバーごとに 1 つのレポートが作成されます。
5. **「OK」**をクリックすると、カスケードが開始されます。

   結果のレポートは、現在のワークブックの別々のワークシートに作成されます。各ワークシート・タブの名前として、そのワークシートに含まれるレポートのディメンションとメンバーが使用されます。レポートを表示するには、ワークシート・タブをクリックします。

アド・ホック・グリッドの保存

アド・ホック・グリッドをフォームとして保存できます。

アドホック・グリッドをフォームとして保存するには:

1. アド・ホック・グリッドを開きます。
2. アド・ホック・グリッドをアクティブにした状態で、プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「分析」**セクションから、**「アド・ホック・グリッドの保存」**をクリックします。

   アド・ホック・グリッドのフォームとしての保存は、属性を含むグリッドではサポートされていません。
3. **「グリッドの別名保存」**で、フォームの名前と説明を入力し、グリッドの保存先となる場所を参照します。
4. **「OK」**をクリックします。

   保存されたグリッドが、選択した場所の「Smart View ホーム」パネル・ツリー・リストに表示されます。

複数グリッド・シートの操作

Smart View では、1 つのシートで複数のアド・ホック・グリッドを取得できます。これらのグリッドは、すべて同じデータ・ソースまたは別のデータ・ソースのいずれかに接続できます。

次も参照:

- シート上の複数のアド・ホック・グリッドについて
  サポートされている Smart View データ・ソースに接続すると、1 つのシートに複数のグリッドを作成できます。
- 複数グリッドのシートの作成
  同じデータ・ソースまたは異なるデータ・ソースからアド・ホック・グリッドを配置することで、複数グリッドのシートを作成できます。
- グリッド範囲名の変更
  複数グリッドのシート内のグリッド範囲の名前を変更し、わかりやすくて意味のある名前を使用して識別できるようにします。
- 複数グリッド・シートでの POV 動作

シート上の複数のアド・ホック・グリッドについて

サポートされている Smart View データ・ソースに接続すると、1 つのシートに複数のグリッドを作成できます。

これらのグリッドは、同じデータ・ソースまたは別のデータ・ソースに接続できます。たとえば、あるグリッドは Planning に接続し、別のグリッドは Tax Reporting に接続することができます。ソースにはキューブも使用できます。これらのグリッド内のデータを取得して、シート上でシフトできます。

> **ノート:**
>
> **管理者:** Smart View ユーザーが複数グリッド・アド・ホックを使用できるようにするには、サービスのアプリケーション設定で **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションを**「標準」**に設定します。詳細は、サービスの管理者ドキュメントを参照してください。

複数グリッドのシートの操作に関するガイドライン

複数のアド・ホック・グリッドを含むシートを操作するときは、次のガイドラインに注意してください:

- 複数のアド・ホック・グリッドを挿入するときは、必ず以前のグリッドが含まれていない新しいシートに挿入します。シート上にフォームまたはアド・ホック・グリッドがすでに開かれており、同じシートに別のグリッドを追加するためにセル範囲を選択した場合、次のようなメッセージが表示されます。*「複数のグリッドを単一グリッドのシートに追加することはできません。複数グリッドを追加するには、新規シートを追加してください。」*。
- 複数アド・ホック・グリッドを操作するときは、グリッド固有の操作を実行する前に、グリッド内の少なくとも 1 つのセルを選択します。Smart View が、アクションを実行するグリッドを識別できるようにします。選択したセルがグリッド外にある場合は、*この操作を実行するグリッド内のセルを少なくとも 1 つ選択します。*というメッセージが表示されます。
- 複数のデータ・ソースに接続して、同じワークブックに複数のアド・ホック・グリッドを配置するときは、接続ごとに個別の Smart View リボンが表示されます。

  たとえば、同じブック内の Planning と Tax Reporting に接続している場合、サービス管理者が識別しやすいように設定した名前に基づいて、*Smart View プランニング*と *Smart View Tax Reporting* の 2 つの Smart View リボンが表示されるなどです。

  同様に、それぞれの接続からホーム・パネルを起動すると、右側のペインに 2 つの異なるホーム・パネルが積み重ねられて表示されます。
- 複数の接続を持つ複数グリッドのシートでグリッド固有の操作を実行するときは、グリッドに接続されているデータ・ソースに対応する適切な Smart View リボン、プロバイダとプロバイダ・アド・ホック・リボン、ホーム・パネルのコマンドを使用するようにしてください。

  たとえば、グリッド 1 が Planning に接続され、グリッド 2 が Tax Reporting に接続されたシートを操作しているとします。グリッド 1 でズーム・イン操作を実行するには、Planning アド・ホック・リボンの**「ズーム・イン」**オプションを使用します。同様に、グリッド 2 にデータを送信するには、Tax Reporting の Smart View リボンの**「送信」**オプションを使用します。**「送信」**オプションを Planning にリンクされた Smart View リボンから使用する場合、グリッド 2 のデータは送信されません。
- 複数グリッドのシートでは、一度に 1 つのグリッドのデータのみを送信できます。

  一度に複数のグリッドでデータを送信しようとした場合、つまり、複数のグリッドでセル範囲を選択した場合、Excel によって戻された最初の範囲が、選択されたグリッドの判断に使用され、そのグリッドのデータのみが送信がされます。
- 一度に 1 つの接続のシート内のグリッド・データをリフレッシュできます。同じ接続に属するすべてのグリッドが、同時にリフレッシュされます。

  たとえば、グリッド 1 とグリッド 2 が Planning に接続され、グリッド 3 が Tax Reporting に接続されたシートを操作しているとします。Tax Reporting の Smart View リボンで**「リ**

フレッシュ」オプションを使用すると、グリッド 3 のみがリフレッシュされます。グリッド 1 とグリッド 2 をリフレッシュするには、Planning の Smart View リボンの**「リフレッシュ」**オプションを使用する必要があります。両方のグリッドは同じ接続、つまり Planning に属しているため、1 回の操作でリフレッシュされます。

詳細は、データのリフレッシュを参照してください。

- グリッド上でズーム・インし、より多くの行と列にデータを表示するようにグリッドが拡張されると、拡張されたグリッドがシート上の他のグリッドの内容と重ならないように、他のグリッドの配置が自動的に調整されます。

  たとえば、2 つの空白行で区切られた 2 つのグリッドが上下に並んでいる場合、上のグリッドでズーム・インすると、下のグリッドがシート内で押し下げられ、上のグリッドの最後まで下にスクロールして、下のグリッドを表示できます。

- 複数グリッドのシートのシート情報を表示しているときに、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスに、シート上に存在する各グリッドに個別の**「接続」**セクションが表示されます。たとえば、「接続(グリッド 1)」、「接続(グリッド 2)」のようになります。

  – すべてのグリッドが同じ接続に接続されている場合は、それぞれの**「接続」**セクション内で、サーバー、アプリケーション、URL、プロバイダ、別名表、関連範囲などの詳細を参照できます。

  – いずれかのグリッドが、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスが起動された接続と別の接続に接続されている場合は、関連付けられた範囲や、このグリッドが別の接続に関連付けられていることを示す情報メッセージなどの限定された詳細のみが表示されます。
    たとえば、グリッド 1 とグリッド 2 が Planning に接続され、グリッド 3 が Tax Reporting に接続されたシートを操作しているとします。Tax Reporting の Smart View リボンの**「シート情報」**オプションを使用して**「シート情報」**ダイアログ・ボックスを起動すると、サーバー、アプリケーション、URL、プロバイダなどのグリッド 3 の詳細全体を表示できます。ただし、グリッド 1 とグリッド 2 の場合、関連付けられている範囲名と、*グリッドは別の接続に関連付けられています*という情報メッセージのみが表示されます。グリッド 1 とグリッド 2 のシート情報を表示するには、Planning の Smart View リボンの**「シート情報」**オプションを使用します。

  詳細は、シート情報を参照してください。

- 複数グリッドのシートでサポートされていない操作は、プロバイダ・リボンで無効として表示されます。

- Smart View では、管理拡張機能グリッドとアド・ホック分析グリッドが 1 つのシートに混在することはサポートされません

ビデオ

目的	このビデオを見る
Smart View (Windows)のワークシートでの複数のアド・ホック・グリッドの使用方法について学習します。示されている概念の多くは Smart View (Mac およびブラウザ)に適用できます。	Oracle Planning and Budgeting Cloud での複数のアド・ホック・グリッドの設定

ビデオではデータ・ソースとして Planning が参照されますが、表示されている機能は、すべての Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プロバイダに共通です。

複数グリッドのシートの作成

同じデータ・ソースまたは異なるデータ・ソースからアド・ホック・グリッドを配置することで、複数グリッドのシートを作成できます。

複数のデータ・ソース接続から複数のグリッドを配置する場合は、サービス管理者が、必要なデータ・ソースに接続するためのそれぞれのマニフェストをデプロイしていることを確認してください。サービス管理者が設定した名前に基づいて、*Smart View プランニング*や *Smart View Tax Reporting* など、それぞれのデータ・ソースに対して複数の Smart View リボンが表示されるはずです。

複数グリッド・シートを作成するには:

1. 新しいシートを開きます。

   シートが空白であり、既存のデータが含まれていないことを確認します。

2. シート内の任意の場所からセルの範囲を選択します。

   1 つのセルのみでなく、セルの範囲を選択する必要があります。

3. 「Smart View ホーム」パネルで、アクションを実行します:

   - キューブを選択します。
   - フォームを選択し、その上の任意の場所で右クリックして、**「アドホック分析」**を選択します。

4. シートを変更して複数のグリッドをサポートするよう求められたら、**「はい」**を選択します。

   選択した範囲の位置に、アド・ホック・グリッドが追加されます。

5. シート上の同じデータ・ソースから別のグリッドを追加するには:

   a. 別のセル範囲を選択します。

   b. 「Smart View ホーム」パネルから、キューブを選択するか、フォームを選択し、その上の任意の場所で右クリックして、**「アドホック分析」**を選択します。

      選択した範囲の位置に、アド・ホック・グリッドが追加されます。

6. 同じシートに別のデータ・ソースからのグリッドを追加するには:

   a. 空白セルの範囲を選択します。

   b. 他のデータ・ソースの Smart View リボンを開き、**「ホーム」**をクリックしてそのデータ・ソースと関連付けられた「Smart View ホーム」パネルを開きます。

      2 つ目の「Smart View ホーム」パネルが、すでに開いている最初のデータ・ソースに属する「Smart View ホーム」パネルの下の個別のタブ内に開きます。

   c. 「Smart View ホーム」パネルから、キューブを選択するか、フォームを選択し、その上の任意の場所で右クリックして、**「アドホック分析」**を選択します。

      選択した範囲の位置に、アド・ホック・グリッドが追加されます。

グリッド範囲名の変更

複数グリッドのシート内のグリッド範囲の名前を変更し、わかりやすくて意味のある名前を使用して識別できるようにします。

複数グリッド・シートに範囲を設定する場合、Excel ではデフォルトで各範囲に名前を割り当てます。名前の範囲に使用される文字列は、特にわかりやすくない可能性があります。たとえば、Vision Plan1 キューブに基づいた範囲は、`Vision_Plan1_88CA3264` のようになります。よりわかりやすい名前(`Business Drivers` など)を付けると、複数グリッドのシート内のアド・ホック・グリッドをユーザーが識別して理解しやすくなります。

Smart View の**「グリッド範囲名の変更」**オプションを使用すると、メタデータと接続を維持したままで、グリッド範囲の名前を変更できます。

> **Note:**
>
> Excel の名前の管理を使用してグリッド範囲の名前を変更することはお薦めしません。メタデータが失われる可能性があります。Smart View の外部でグリッド範囲の名前を変更すると、次のようになります:
>
> - グリッドの接続が切断され、Smart View がグリッドを識別できなくなります。
> - このようなグリッドに対しては、いかなるグリッド操作も実行できません。
> - グリッドは無効とみなされるため、「シート情報」ダイアログでグリッドの詳細を表示できません。

グリッド名変更のガイドライン

グリッド名を変更する際は、次のガイドラインを考慮してください:

- グリッド名で使用できるのは、英数字のみです。特殊文字は使用できません。
- 名前を数字で始めることはできません。
- 名前は 254 文字以内にする必要があります。
- 名前は各グリッドで一意である必要があります。複数のグリッドに同じ名前を付けることはできません。たとえば、*Sales* と *SALES* という名前を持つグリッドは一意とはみなされないため、使用できません。
- 一度に名前を変更できるグリッドは 1 つのみです。名前を変更するには、特定のグリッド内の少なくとも 1 つのセルを選択してください。

複数グリッド・シートのグリッド名を変更するには:

1. 複数グリッド・シートで、名前を変更するグリッド内の任意のセルを選択します。
2. プロバイダ・アド・ホック・リボンで、**「詳細」**の横にある下矢印をクリックし、**「グリッド範囲名の変更」**を選択します。
3. グリッドの現在の名前を確認し、新しい名前を入力します。
4. **「OK」**をクリックします。
5. 新しい名前を表示するには、次を確認します:
   - **シート情報: 「シート情報」**ダイアログの**「関連付けられた範囲」**フィールドに新しい名前が表示されます。
   - **名前ボックス:** シート上部の式バーの横にある名前ボックスの下矢印をクリックします。新しいグリッド名が、グリッドのセル範囲とともにリストに表示されます。

複数グリッド・シートでの POV 動作

1 つのグリッドのみを含む複数グリッド・シートでは**「POV」**ボタンが有効になっており、このボタンで POV ツールバーの表示/非表示を切り換えることができます。複数のグリッドを含む複数グリッド・シートでは、**「POV」**ボタンは使用できません。

1 つのグリッドを含む複数グリッド・シートでは、POV ディメンションがグリッドとツールバーの両方に表示されます。通常のアド・ホック・シートでは、POV ツールバーが非表示の場合のみ、POV ディメンションがグリッドに表示されます。

Cloud EPM での Smart View の動作オプション

管理者は、Web インタフェースで Smart View の動作に影響するオプションを設定できます。

Smart View の動作に影響を与えるオプションは次のとおりです:

- 抑制モード
- Smart View のアド・ホック動作

これらのオプションの説明は、ビジネス・プロセスの管理ドキュメントを参照してください。たとえば、Planning の場合は、指定できるアプリケーションおよびシステムの設定を参照してください

また、次のトピックで情報を確認してください:

- Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッド
- Smart View のアド・ホック動作の設定および有効なメンバーへの非管理アクセス
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー選択
- Smart View のアド・ホック動作の設定および行/列抑制オプション
- Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプション
- Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作

抑制モード

Smart View では、**「抑制モード」**アプリケーション設定は**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**の抑制オプションと連動します。Web アプリケーションで、管理者は**「抑制モード」**設定を使用して抑制の動作を変更できます。

Smart View の**「オプション」**ダイアログにある**「データ・オプション」**タブで、**「行の抑制」**または**「列の抑制」**(あるいはその両方)に対し、**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**オプションを選択します。Smart View での設定は、Web アプリケーションでの設定と連動します。

Web アプリケーションの**「抑制モード」**オプションと Smart View におけるその影響は、次のとおりです:

- **欠落した値のみを抑制** - Web アプリケーションでは、管理者は**「データなし / 欠落」**が含まれる行または列(あるいはその両方)を抑制する場合にこのオプションを有効化します。

  欠落した値のみを抑制 - Web アプリケーションでは、管理者は**「データなし / 欠落」**が含まれる行または列(あるいはその両方)を抑制する場合にこのオプションを有効化します。

  たとえば、Smart View において、行に対して**「データなし / 欠落」**オプションが選択されており、ある行に欠落データのみが含まれる場合、その行は抑制されます。表示は*されま*

せん。Smart View で行に対して**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**の両方の抑制オプションが選択されており、ある行にゼロおよび欠落データがどちらも含まれる場合、その行は表示されます。抑制は*されません*。

「欠落した値のみを抑制」オプションは、以前は「レガシー」と呼ばれていました。

- **欠落を抑制したらゼロも抑制** - Web アプリケーションでは、管理者はすべての**「データなし / 欠落」**またはすべての**「ゼロ」**(あるいは両方の組合せ)が含まれる行または列(あるいはその両方)を抑制する場合にこのオプションを有効化します。

  Smart View では、**「行の抑制」**または**「列の抑制」**(あるいはその両方)に対して、**「データなし / 欠落」**および**「ゼロ」**オプションを有効化し、結果をアド・ホック・グリッドで確認する必要があります。

  たとえば、Smart View で、**「データなし / 欠落」**と**「ゼロ」**の両方の抑制オプションが列に対して選択され、列にゼロと「欠落」ラベルの両方が含まれる場合、列は抑制されます。表示は*されません*。ゼロのみを含む列および「欠落」ラベルのみを含む列も抑制され、表示*されません*。

  「欠落を抑制したらゼロも抑制」オプションは、以前は「標準」と呼ばれていました。

Smart View で使用可能な抑制オプションの一般的な情報については、データ・オプションを参照してください。

Smart View のアド・ホック動作

21.08 以降では、すべての新規アプリケーションおよびすべての再作成済アプリケーションで**「Smart View アド・ホック動作」**オプションに対して**「標準」**設定のみが使用されます。この場合、**「Smart View アド・ホック動作」**オプションは選択できません。

> **Note:**
>
> 既存および移行済アプリケーションは動作の変更はなく、**「ネイティブ」**が**「Smart View アド・ホック動作」**のデフォルト設定のままとなり、**「標準」**はオプションとなります。
>
> **「ネイティブ」**モードの**「Smart View アド・ホック動作」**設定は、いずれ段階的に廃止されます(タイムラインはまだ決定していません)。**「ネイティブ」**モード・オプションを使用している場合、**「Smart View アド・ホック動作」**アプリケーション設定の**「標準」**モードへの切替えを計画することをお薦めします。

「標準」モードのアプリケーションは、次のアド・ホック機能および動作を提供します:

- グリッド内 POV - POV メンバーが POV ツールバーではなく、グリッドに配置されます。
- **データの送信**—Smart View のリボンのデフォルトの**「データの送信」**ボタンを使用すると、スマート・リスト値、テキスト値および明示的に変更した(ダーティになった)すべてのデータ・セルを含むグリッド内のすべてのセルが送信されます。送信操作が完了すると、グリッド全体がリフレッシュされます。

  グリッドがリフレッシュされた状態でない場合、Smart View はリフレッシュ操作なしでデータの送信を実行しようとします。
- フリーフォームのサポート - グリッド内の任意の場所での空の列と行、および別名表の変更がサポートされます。また、削除されたメンバーがリフレッシュ時にグリッドに返される、メンバーの自動更新がサポートされます。

  フリー・フォーム・モードを参照してください。

- アド・ホック・グリッドの保存 - **「アド・ホック・グリッドの保存」**コマンドは有効化されており、アド・ホック・グリッドを保存できますが、**「フォーマットの送信」**オプションはまだ使用できません。

  アド・ホック・グリッドの保存および Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッドを参照してください。

- 複数グリッドのアド・ホック - 同一 Excel ワークシートでの複数アド・ホック・グリッドがサポートされます。複数グリッド・アド・ホックでは、シート上の任意のグリッドからデータを送信できます。集約ストレージ・キューブおよびブロック・ストレージ・キューブに基づくグリッドが同一シートでサポートされます。各グリッドは独立しています。たとえば、必要に応じて、シート上の 1 つのグリッドのみ別名表を変更できます。

  複数グリッド・シートの操作を参照してください。

- 追加の「ズーム・イン」オプション - 次の追加の「ズーム・イン」オプションがサポートされます: **「兄弟レベル」**、**「同一レベル」**および「同一世代」。

  Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプションを参照してください。

- アド・ホック操作における複数セルの選択 - 次のアド・ホック操作において複数セルの選択がサポートされます: **「ズーム・イン」**、**「ズーム・アウト」**、**「選択項目のみ保持」**および**「選択項目のみ削除」**。

  Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作を参照してください。

「アド・ホック動作」オプションが**「標準」**に設定されている場合、次の機能はサポートされません。

- スマート・フォームの作成
- 標準モードでネイティブ・モード・グリッドを開く / ネイティブ・モードで標準モード・グリッドを開く(Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッドを参照)
- 複数グリッド・シートでの HSACTIVE のサポート
- 式にズーム・イン
- 式の保持は複数グリッド・シートでは無効です

既存および移行済 Web アプリケーションで、管理者は拡張アド・ホック機能および動作を有効にするよう選択できます。**「Smart View アド・ホック動作」**オプションには次のものがあります。

- **ネイティブ**(デフォルト)—アド・ホック機能の拡張を有効にしません。
- **標準**—アド・ホック機能の拡張を有効にします。

Smart View のアド・ホック動作の設定および保存済のアド・ホック・グリッド

アプリケーションの **Smart View の「アド・ホック動作」**オプション設定は、ユーザーが開いて操作できるアド・ホック・グリッドに影響します。

管理者が **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションの**「ネイティブ」**と**「標準」**を切り替えると、一方のモードで作成および保存されたアド・ホック・グリッドは、次の表に示した制限付きで開くことができます。

Smart View のアド・ホック動作 (作成および保存されたモード)	Smart View のアド・ホック動作 (開いてリフレッシュされたモード)	サポートされています
標準	標準	はい
標準	ネイティブ	いいえ
ネイティブ	標準	はい
ネイティブ	ネイティブ	はい

例:

- **「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「標準」**に設定されている場合、ユーザーは、サービスが**「標準」**または**「ネイティブ」**に設定されている間に作成および保存されたアド・ホック・グリッドを開いてリフレッシュできます。
- **「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている場合、ユーザーは、サービスが**「ネイティブ」**に設定されている間に作成および保存されたアド・ホック・グリッドのみを開いてリフレッシュできます。

  「Smart View アド・ホック動作」オプションが**「標準」**に設定されている間に作成されたグリッドをユーザーが開いてリフレッシュしようとすると、エラー・メッセージが表示されます。**「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されている間に作成されたアド・ホック・グリッドを開いてリフレッシュするには、**「Smart View アド・ホック動作」**オプションが**「ネイティブ」**に設定されていることを確認してください。

管理者: **Smart View の「アド・ホック動作」**オプションは、サービスのアプリケーション構成オプションのページで設定します。詳細は、サービスの管理者ドキュメントを参照してください。

Smart View のアド・ホック動作の設定および有効なメンバーへの非管理アクセス

標準モードのアド・ホック・グリッドで、非管理ユーザーが有効なメンバーにアクセスできない場合、このメンバーはコメントとして処理され、リフレッシュ時にデータは表示されません。非管理ユーザーは、自分がアクセスできないメンバーとコメントを区別できません。

1 行に複数のディメンションがある次のシナリオについて考えます。ここで、C1 はコメントまたは非管理ユーザーがアクセスできないメンバーです:

1. C1 は、最も内側の行ディメンションの場所に配置されています。M1 および M2 は、非管理ユーザーがアクセスできる実際の有効なメンバーです。M1 および M2 は、C1 と同じ行に配置されています。リフレッシュ後、有効なメンバーは削除され、たとえば次のようになります

   行ディメンション:

   ```
   M1          M2          C1
   ```

   リフレッシュ後

   ```
   空白        空白        C1
   ```

2. C1 は、最も内側のディメンションの場所に配置されて*いません*。かわりに、有効なメンバーである M3 が、この行の最も内側の場所に配置されています。コメントである C1 は、リフレッシュ時に削除され、そのディメンションで以前の上の有効なメンバーに置き換えられ、たとえば、次のようになります:

   行ディメンション:

   ```
   M1          M2          M3
   ```

```
M1          C1          M4
```

リフレッシュ後

```
M1          M2          M3

M1          M2          M4
```

このアプローチは、同じ行に有効なメンバーとコメントが混在してユーザーが混乱することを避けるために役立ちます。

次の点に注意してください:

- 行が完全に空白のセルとコメントで構成されている場合、その行はリフレッシュ時に変更されません。
- 最初の行または列は、グリッドの境界を制御するため特別なケースとなります。その行または列でのメンバーやコメントの組合せによって、無効なグリッドに関するメッセージが表示される場合があります。これは意図的なものです。

Smart View のアド・ホック動作の設定およびメンバー選択

Smart View では、標準モード・アプリケーション(20.09 以降)に接続されているとき、**「メンバー選択」**を起動すると、ディメンションまたはメンバーが選択されたディメンションとしてダイアログに表示されます。標準モードでは、グリッド上で別のディメンションまたはメンバーを選択して**「メンバー選択」**を起動する前に、グリッドをリフレッシュする必要はありません。選択したディメンションは、デフォルトで**「メンバー選択」**に表示されます。

Smart View のアド・ホック動作の設定および行/列抑制オプション

標準モードでは、特定の行および列抑制オプションは、Smart View の「オプション」ダイアログに選択可能として表示されますが、サポートされていません。

- 標準モードでサポートされていない行抑制オプション:
  - アクセス権なし
  - 無効
  - アンダースコア文字
- 標準モードでサポートされていない列抑制オプション:
  - データなし/欠落
  - ゼロ
  - アクセス権なし

> **Note:**
>
> 行または列の**「アクセス権なし」**抑制オプションを選択すると、リフレッシュ時に次のエラー・メッセージが表示されます。
>
> アクセス権なし抑制オプションはサポートされていません。

Smart View のアド・ホック動作の設定および追加の「ズーム・イン」オプション

標準モードでは、プロバイダ・アド・ホックのリボンにある**「ズーム・イン」**ボタンのドロップダウン・メニューからこれらの追加コマンドを使用できます:

- **兄弟レベル** - 選択したメンバーの兄弟のデータを取得する場合に選択します。たとえば、Vision サンプル・データベースでの 1 月、2 月および 3 月に対するズームイン操作です。
- **同一レベル** - 選択したメンバーと同一レベルのすべてのメンバーのデータを取得する場合に選択します。たとえば、Vision サンプル・データベースでの Q1、Q2、Q3 および Q4 に対するズーム・インです。
- **同一世代** - 選択したメンバーと同じ世代のすべてのメンバーのデータを取得する場合に選択します。たとえば、Vision サンプル・データベースでの Q1、Q2、Q3 および Q4 に対するズーム・インです。

Smart View のアド・ホック動作の設定およびアド・ホックの複数セル選択操作

標準モードでは、複数の行または列メンバーのセルを選択して、次のいずれかのアクションを実行できます:

- **ズーム・イン**。「最下位レベル」や「同一世代」などのズーム・オプションが含まれます。
- **ズーム・アウト**。ズーム・アウトすると、ビューが次の上位レベルまで縮小されます。
- **選択項目のみ保持**および**選択項目のみ削除**。グリッドの整合性および有効性を維持する必要があることに注意してください。選択した内容によってグリッドに問題が発生する場合は、その問題を知らせる警告メッセージが Smart View に表示され、グリッドに対する変更は行われません。

11
ブック

EPM ブック拡張機能を使用すると、ブックを Excel 365 にインポートし、POV 値を変更してリフレッシュすることでブックを操作できます。

Related Topics

- EPM ブック拡張機能について
  Smart View の EPM ブック拡張機能を使用すると、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ブックを、リフレッシュ可能な形式で Excel 365 にインポートできます。
- 「EPM ブック」パネルの起動
  ブックを格納している Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに接続するたびに、「EPM ブック」パネルを起動できます。
- ブックの操作
  「EPM ブック」パネルで、ブックのプロパティを表示し、ブックを Oracle Smart View for Office にインポートしてダウンロードし、「ジョブ・コンソール」でインポート・ジョブを管理します。
- 「ジョブ・コンソール」でのジョブの管理
  「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」からブックをダウンロードする他に、ブックをインポートした接続からのジョブのステータスのリフレッシュ、ジョブの削除およびジョブの表示ができます。

EPM ブック拡張機能について

Smart View の EPM ブック拡張機能を使用すると、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ブックを、リフレッシュ可能な形式で Excel 365 にインポートできます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

Cloud EPM では、ブックは単一の PDF または Excel 出力として生成する 1 つ以上のレポート、ブックおよびその他のドキュメントのコレクションです(Excel 出力に関する注意事項については、次のノートを参照)。

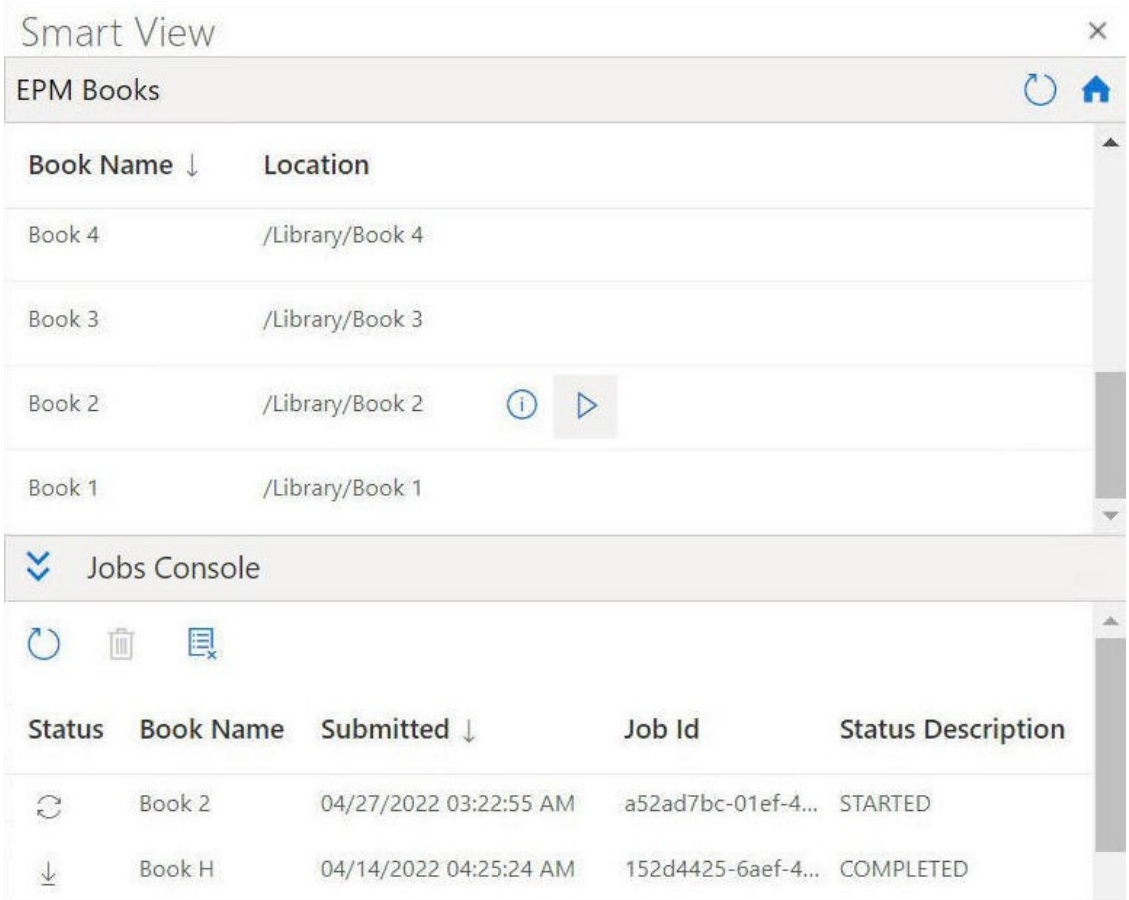
Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)の EPM ブック拡張機能を使用すると、ブックを Excel 365 にインポートし、POV 値を変更してリフレッシュすることでブックを操作できます。Web アプリケーションから Excel 形式でダウンロードされたブックを開いて操作することもできます。

> **Note:**
>
> Smart View で開かれた、またはインポートされた Excel ブックにはレポートのみが含まれます。Word や PDF ファイルなどのその他のドキュメント、および挿入されたブックは表示対象になりません。

Smart View の「EPM ブック」パネルから、ブックのプロパティを表示したり、ブックを Excel にインポートできます。

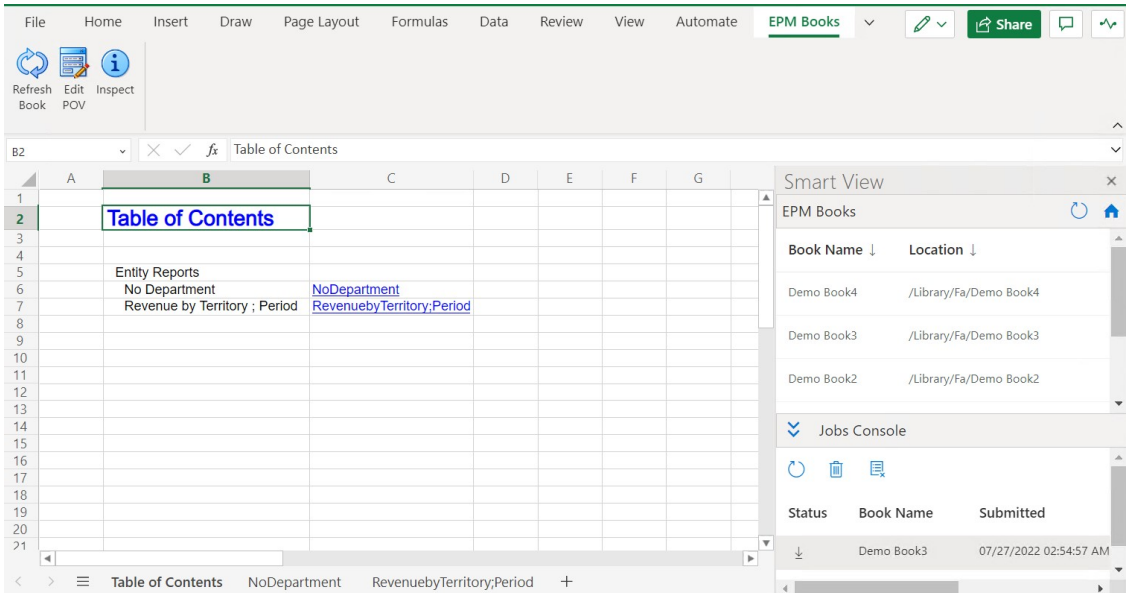
インポートする各ブックは「ジョブ」です。ジョブのステータスは、「EPM ブック」パネルの**「ジョブ・コンソール」**で確認します。Smart View のパネルまたは他の場所で別のジョブを呼び出したり、他の操作を実行するために、ジョブの完了を待機する必要はありません。「ジョブ・コンソール」で、ジョブ・ステータスのリフレッシュ、選択したジョブの削除、すべての完了ジョブの削除を実行できます。

Figure 11-1　「EPM ブック」パネルの例



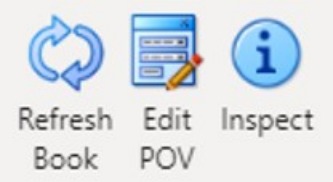
「ジョブ・コンソール」から、ブックを Excel にダウンロードします。ダウンロードされたブックでは、各レポートが個別のワークシートに配置されます。ワークブック内の個々のレポート・トシートへのリンクを含む目次シートが生成されます。ワークシート名は、Web アプリケーションのブックデザイナの「プロパティ」パネルで定義された目次見出しに基づいています。

Figure 11-2　Excel 365 にインポートされたブックの目次シートとワークシート・タブの例



ブックを Smart View にインポートした後は、「EPM ブック」リボンのオプションを使用して、ブック内のレポートの POV を変更し、ブックのコンテンツをリフレッシュできます。「検査」ボタンを使用して、ブックのプロパティ (POV など)を表示することもできます。

Figure 11-3　「EPM ブック」リボン



Smart View でのブックの操作のガイドライン

- POV の変更: Excel 365 では現在、ブックの POV 定義が「すべて」に設定されている場合は、**「POV の選択」**ダイアログでのメンバー選択をサポートしていません。

  ブックの POV 定義が選択した値の表示に設定されている場合は、選択可能なメンバーのリストが各ディメンションのドロップダウン・リストに表示されます。
- ネストされたブックは Excel 365 ではサポートされていません。たとえば、ブック内にブックが格納されている場合、内部のブックは抑制されます。結果の Excel ワークブックには、ネストされた内部のブックに関連するコンテンツは格納されません。
- ブックの一部として挿入された PDF および Word ドキュメントはサポートされていません。ブックに PDF や Word タイプの他のドキュメントが含まれている場合、それらは Excel ワークブックから省略されます。

「EPM ブック」パネルの起動

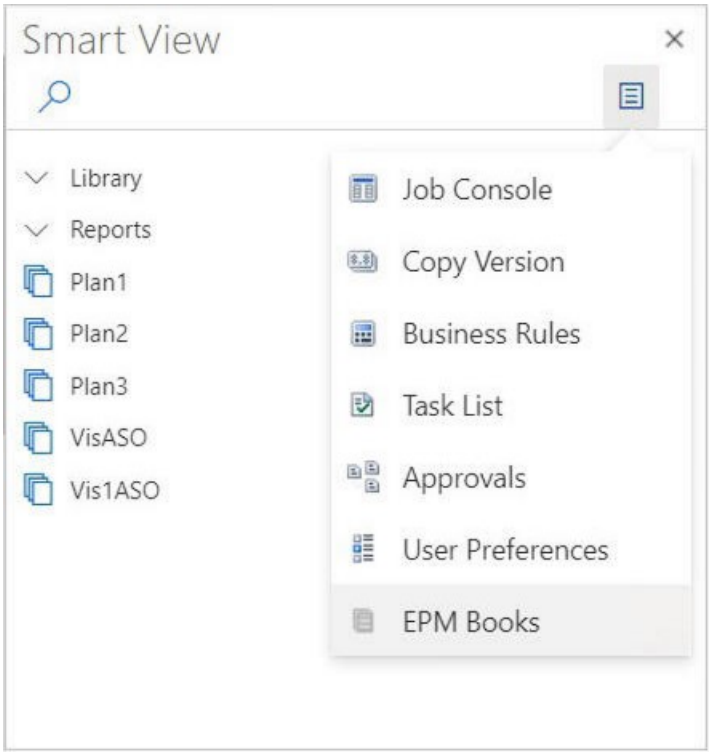
ブックを格納している Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスに接続するたびに、「EPM ブック」パネルを起動できます。

「EPM ブック」パネルを起動する前に、EPM ブック拡張機能がマニフェスト・ファイルを介して有効になっていることを確認してください。詳細は、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser)のデプロイおよび管理の* Smart View (Mac およびブラウザ)での拡張機能の有効化に関する項を参照してください。

「EPM ブック」パネルを起動するには:

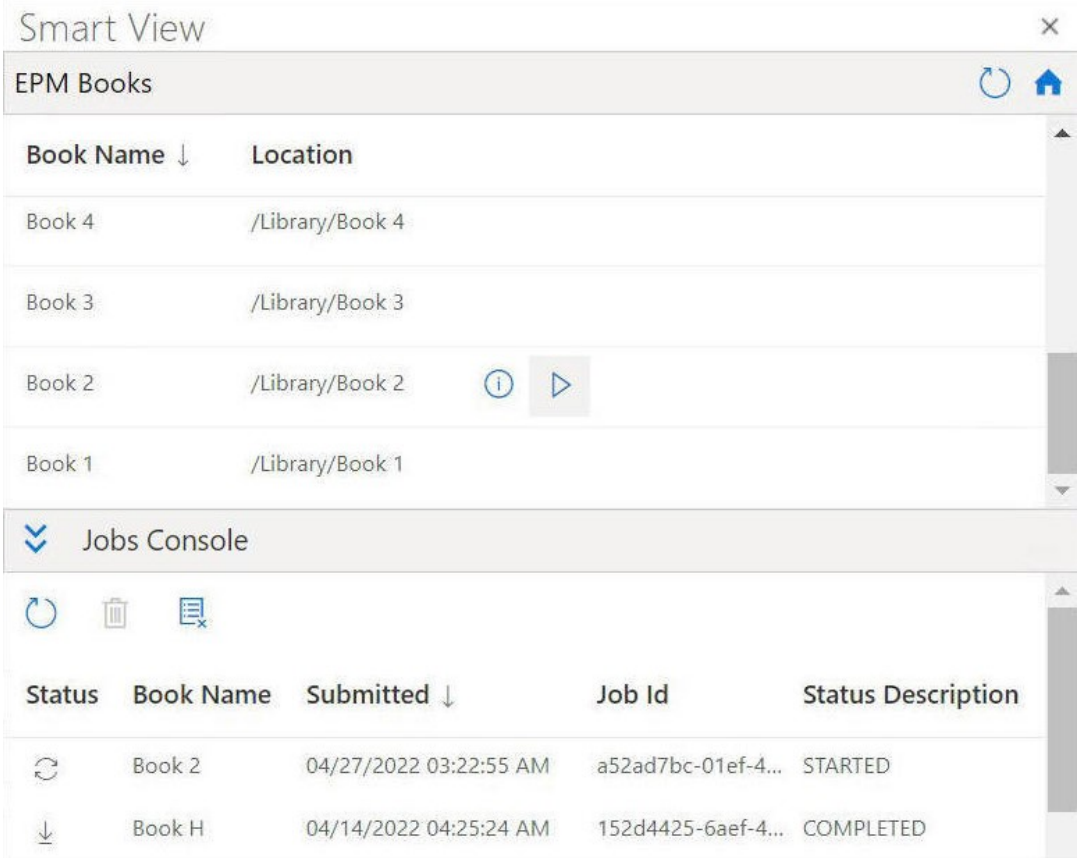
1. ブックを含むデータ・プロバイダに接続します。
2. 「Smart View ホーム」パネルで、**「アクション」**メニューをクリックし、次に**「EPM ブック」**をクリックします。

Figure 11-4　「EPM ブック」パネルの起動



次の例に示すような「EPM ブック」パネルが表示されます。

Figure 11-5　「EPM ブック」パネルの例



「EPM ブック」パネルで

をクリックして、利用可能なブックのリストをリフレッシュできます。

これで、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で利用可能なブック機能の使用を開始する準備が整いました。

ブックの操作

「EPM ブック」パネルで、ブックのプロパティを表示し、ブックを Oracle Smart View for Office にインポートしてダウンロードし、「ジョブ・コンソール」でインポート・ジョブを管理します。

Related Topics

- ブックのインポート
  ブックをインポートしてダウンロードし、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で操作できます。
- ダウンロードされたブックの操作
  インポートした後は、ブック内にあるレポートを表示し、POV を変更し、ブックのプロパティを検査し、ブックをリフレッシュして最新のデータを取得できます。

ブックのインポート

ブックをインポートしてダウンロードし、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ) で操作できます。

ブックのインポートを開始するには、その前に、「EPM ブック」パネルの起動で説明されているように、データ・ソースに接続して、「EPM ブック」パネルを起動しておく必要があります。ブックをインポートするには:

1. 「EPM ブック」パネルのブックのリストで、インポートするブックの横にある

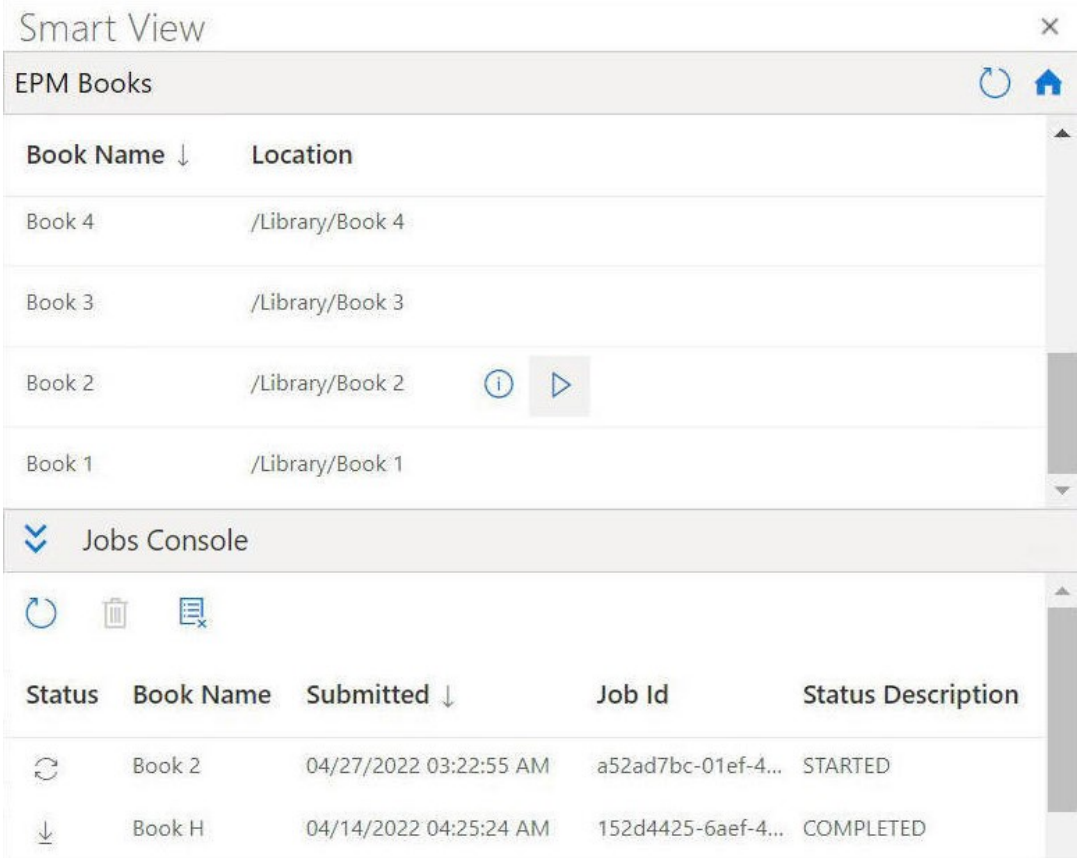
   ▷

   をクリックします。

   インポート・プロセスが開始されます。

   インポートするブックごとに、「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」ペインに個別の行が追加されます。次の例は、「ジョブ・コンソール」に 2 つのジョブがある「EPM ブック」パネルを示しています。1 つは「開始済」ステータスで進行中で、もう 1 つは「完了」ステータスです。パネルは「ジョブ・コンソール」のすべての列が表示されるように拡張されています。

Figure 11-6　「ジョブ・コンソール」にジョブが表示された「EPM ブック」パネル



2. **「ジョブ・コンソール」**で

   ⟳

をクリックして、ブックのインポート・プロセスのジョブ・ステータスをリフレッシュします。

個々のジョブのジョブ・ステータス・アイコンは次のとおりです:

- —ジョブは進行中です。クリックしてジョブのステータスを更新します。
- —ジョブは完了しました。クリックしてジョブをダウンロードします。
- ! —エラーが発生しました。クリックしてエラー・メッセージを表示します。

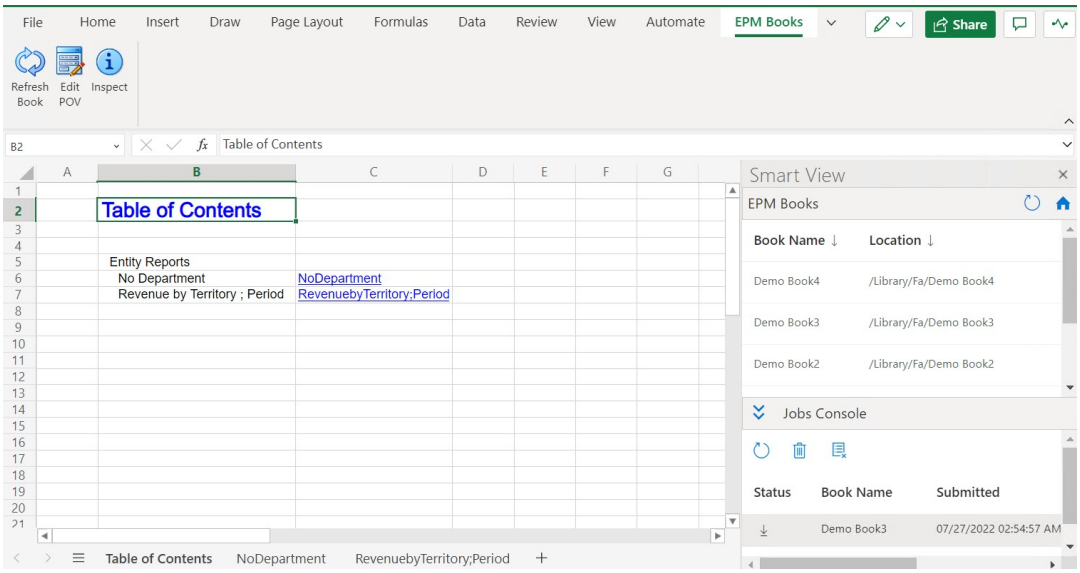
3. 「ジョブ・コンソール」のジョブのリストで、完了したジョブの横にある

をクリックして Oracle Smart View for Office にダウンロードし、プロンプトで**「はい」**をクリックして、ダウンロードを確認します。

> **Note:**
>
> Excel にインポートおよびダウンロードされたブックにはレポートのみが含まれます。挿入されたブックまたは PDF や Microsoft Word ドキュメントなどのサードパーティのドキュメントは、Excel ブックのインポートには含まれません。

ブックが Excel に表示され、次の例に示すように、ワークブック内の個々のレポート・シートへのリンクを含む目次シートが生成されます。

Figure 11-7　Excel 365 にダウンロードされたブックの目次シートとワークシート・タブの例



4. ワークブック・タブをクリックして、ダウンロードされたブック内に格納されたレポートを表示します。

5. ダウンロードされたブックの操作に進みます。

ダウンロードされたブックの操作

インポートした後は、ブック内にあるレポートを表示し、POV を変更し、ブックのプロパティを検査し、ブックをリフレッシュして最新のデータを取得できます。

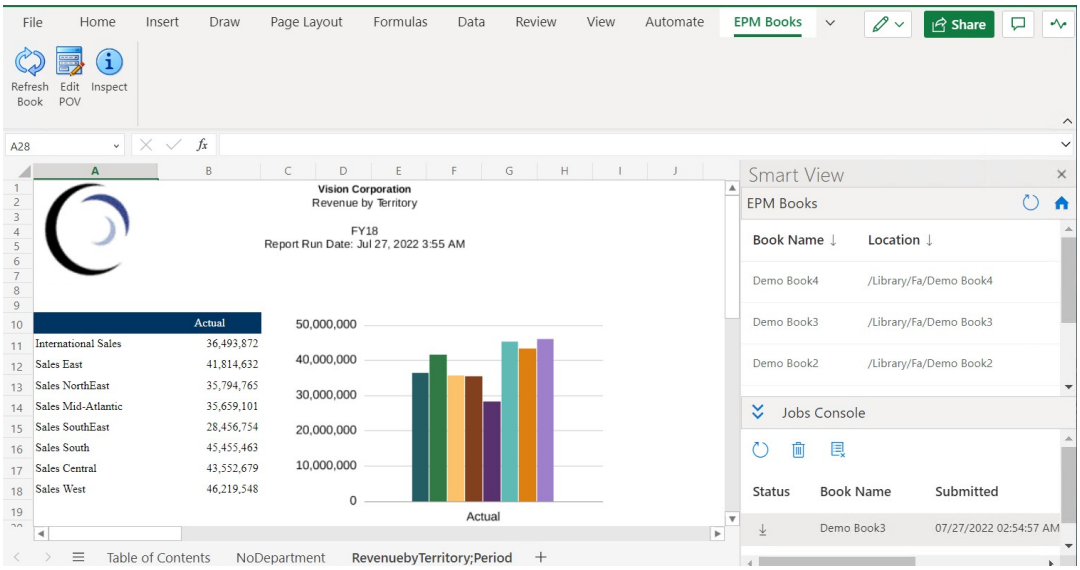
ダウンロードされたブックを操作するには、ブックのインポートに記載されているステップを使用して、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)にブックをインポートします。ブック固有のオプションは、「EPM ブック」リボンに表示されます。
ダウンロードされたブックを操作するには:

1. ブックに格納されたレポートを表示するには、「目次」タブにあるリンクをクリックします。

   各ワークシート・タブは、Smart View にインポートおよびダウンロードされたブックの一部であるレポートです。

   「目次」タブの後にあるワークシート・タブをクリックして、ブック内の様々なレポートを表示することもできます。

Figure 11-8　Excel 365 にダウンロードされたブックに格納されたレポートの例

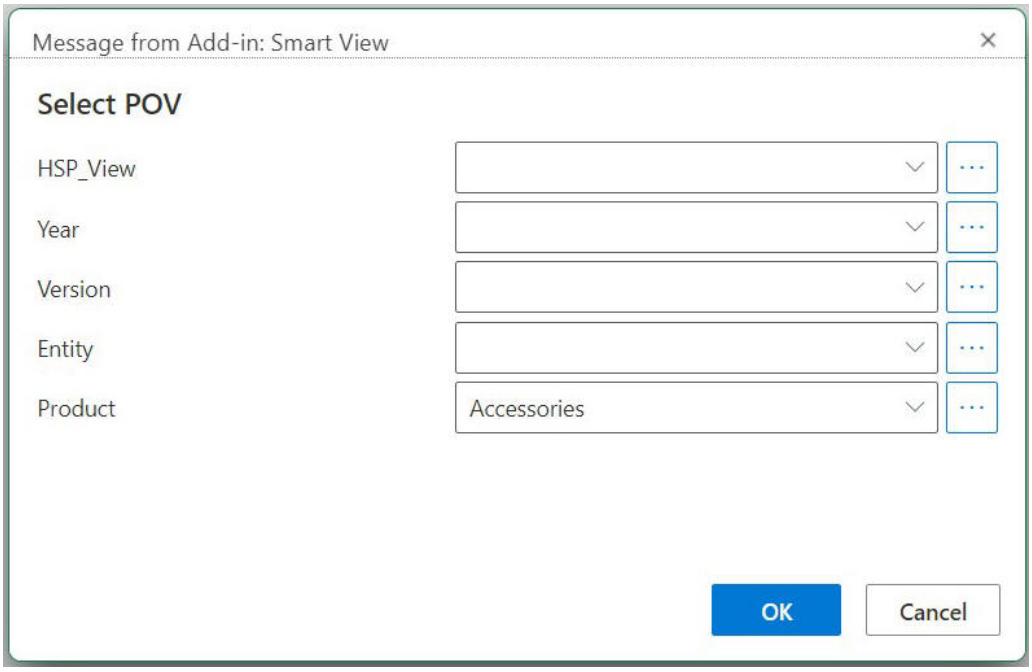


2. ブックの POV を変更するには:

   a. 「EPM ブック」リボンで、**「ブック」**セクションの**「POV の編集」**をクリックします。

   b. **「POV の選択」**ダイアログで、各ディメンションのドロップダウン・リストから選択します。
   レポートのディメンションに対して別名が指定されている場合は、**「POV の選択」**ダイアログのドロップダウン選択リストに、メンバーの別名が表示されます。

Figure 11-9　POV 選択の例



c.
ボタンをクリックして**「メンバー・セレクタ」**ダイアログを起動し、リストから必要なメンバーを選択します。選択したメンバーは、特定のディメンションのドロップダウン・リストに表示されます。

> **Note:**
>
>
> ボタンは、ブック・デザイナでブック視点を設定するときに**すべての選択肢を許可**オプションを選択した場合にのみ、**「POV の選択」**ダイアログで有効になります。詳細は、ブック視点の設定を参照してください。

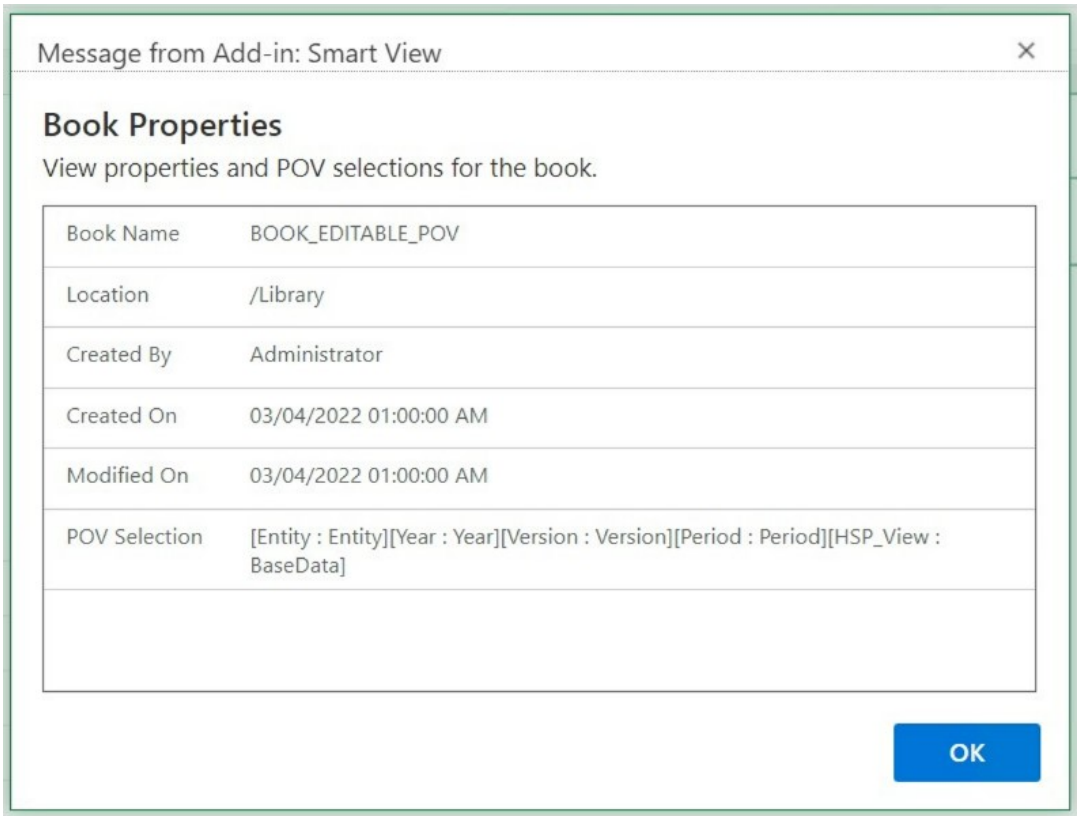
d. **「OK」**をクリックします。
新しく選択した POV 値を使用したリフレッシュ操作が進行中であることを通知するメッセージが表示されます。メッセージの**「OK」**をクリックします。ジョブ・コンソールで新しいジョブが作成されます。ジョブのステータスを確認し、ジョブの完了後にブックをダウンロードできます。新しくダウンロードされたブックには、新しい POV 値を反映した更新済の結果が表示されます。

3. ブックのプロパティを表示するには、「EPM ブック」リボンで**「検査」**をクリックします

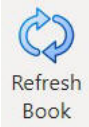
。

「ブック・プロパティ」ダイアログが、ブックのプロパティおよびブックの POV 選択とともに表示されます。

Figure 11-10　「ブック・プロパティ」の例



「OK」をクリックして**「ブック・プロパティ」**ダイアログを閉じます。

4. 現在選択されているレポートをリフレッシュするには、「EPM ブック」リボンで**「ブックのリフレッシュ」** 

をクリックします。

   「ブックのリフレッシュ」コマンドは、ビジネス・プロセスでデータが変更された場合に使用します。たとえば、Planning データに変更が加えらた場合です。

   ジョブ・コンソールで新しいジョブが作成されます。ジョブのステータスを確認し、ジョブの完了後にブックをダウンロードできます。新しくダウンロードされたブックには、リフレッシュされたデータ値が表示されます。

「ジョブ・コンソール」でのジョブの管理

「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」からブックをダウンロードする他に、ブックをインポートした接続からのジョブのステータスのリフレッシュ、ジョブの削除およびジョブの表示ができます。

Related Topics

- 「ジョブ・コンソール」について
  ジョブは、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)へのブックのインポート・プロセスを表します。「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」には、ブックをインポートした接続先データ・ソースからのジョブのリストが表示されます。

- 「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作
  「ジョブ・コンソール」では、ジョブのステータスを表示してリフレッシュしたり、不要になったジョブを削除できます。

「ジョブ・コンソール」について

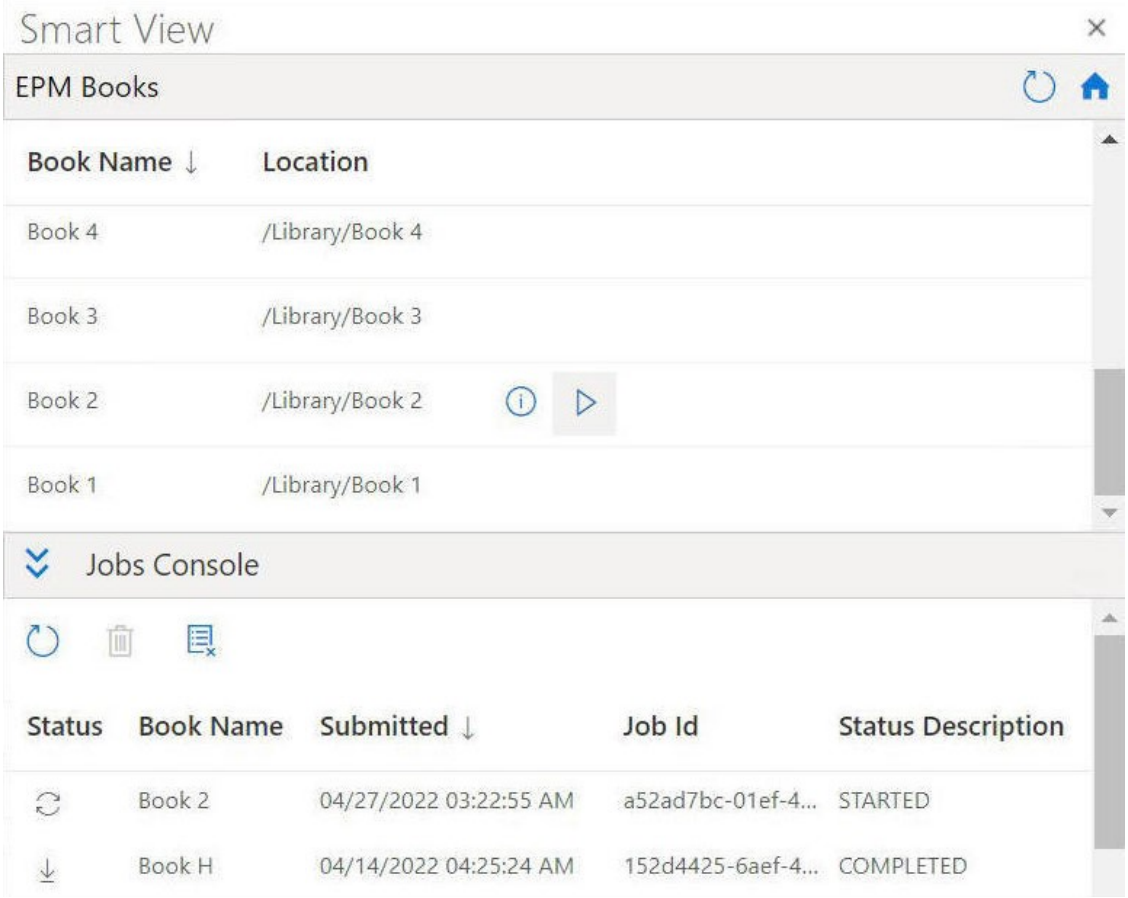
ジョブは、Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)へのブックのインポート・プロセスを表します。「EPM ブック」パネルの「ジョブ・コンソール」には、ブックをインポートした接続先データ・ソースからのジョブのリストが表示されます。

「ジョブ・コンソール」では、ジョブのステータスのリフレッシュ、インポートしたブックの Smart View へのダウンロード、およびジョブの削除を実行できます。

「EPM ブック」パネルの上部には、接続先データ・ソースからインポートできるすべてのブックがリストされます。ジョブをインポートすると、ジョブが「ジョブ・コンソール」に追加されます。「ジョブ・コンソール」の各行には、インポートしたブックのジョブがリストされます。

次の例は、ブックのリストを含む「EPM ブック」パネルを示しています。その中で、2 つのブックがインポートされ、様々な状態のジョブが「ジョブ・コンソール」に表示されています。

Figure 11-11　「ジョブ・コンソール」にジョブがリストされたブック・パネルの例



各ジョブについて、「ジョブ・コンソール」には次の情報が表示されます:

- **ステータス**—アイコンで示されるジョブのステータス:
  - —ジョブは進行中です。クリックしてジョブのステータスを更新します。
  - —ジョブは完了しました。クリックしてジョブをダウンロードします。
  - ! —エラーが発生しました。クリックしてエラー・メッセージを表示します。
- **送信済**—インポートのためにジョブが送信された日時。
- **ブック**—インポートのために送信されたブックの名前。
- **ステータスの説明**—有効なステータスの説明は、**「開始済」**、**「完了」**および**「エラー」**です。
- **ジョブ ID**—ビジネス・プロセスによってジョブごとに発行される内部 ID。

ジョブのリストの上にある「ジョブ・コンソール」ツールバーには、「すべてのジョブのリフレッシュ」、「選択したジョブの削除」、「すべての完了ジョブの削除」など、ジョブを管理するためのオプションがあります。

Figure 11-12　「ジョブ・コンソール」ツールバー

「ジョブ・コンソール」のオプションの使用については、「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作に進んでください。

「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作

「ジョブ・コンソール」では、ジョブのステータスを表示してリフレッシュしたり、不要になったジョブを削除できます。

「ジョブ・コンソール」でのジョブの操作を開始するには、その前に、「EPM ブック」パネルの起動で説明されているように、「EPM ブック」パネルを起動し、ブックのインポートで説明されているように、ブックのインポートを開始する必要があります。
「ジョブ・コンソール」でジョブを管理するには:

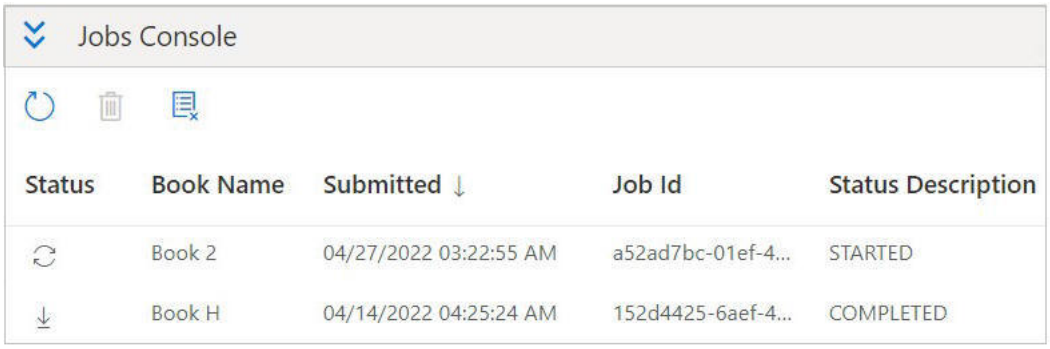
1. ジョブ・コンソールが縮小されている場合は、

   をクリックして展開します。

   「ジョブ・コンソール」には、インポートされたすべてのステータス・タイプのブックのジョブ(進行中のジョブ、完了ジョブ、エラーが発生したジョブ)が表示されます。

   ジョブのリストの上部には、「ジョブ・コンソール」ツールバーも表示されます。

Figure 11-13　「ジョブ・コンソール」の例



2. **「ジョブ・コンソール」**でジョブをリフレッシュするには、次のいずれかのタスクを実行します:
   - **「ジョブ・コンソール」**のすべてのジョブのステータスをリフレッシュするには、「ジョブ・コンソール」ツールバーの

     をクリックします。
     送信したすべてのジョブのステータスがリフレッシュされます。
   - 特定のジョブをリフレッシュするには、ジョブを選択し、そのジョブの行で

     をクリックします。
     選択したジョブのステータスがリフレッシュされます。
3. **「ジョブ・コンソール」**でジョブを削除するには、次のいずれかのタスクを実行します:
   - すべての完了ジョブを削除するには、

     をクリックします。
     完了ジョブが**「ジョブ・コンソール」**から削除されます。
   - 特定の完了ジョブを削除するには、**「ジョブ・コンソール」**でそのジョブの行を選択し、

     をクリックします。
     [Ctrl]キーを使用して、リストから複数の連続または非連続ジョブを選択し、

     をクリックできます。
     選択したジョブは**「ジョブ・コンソール」**のジョブ・リストから削除されます。

12
レポート

レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。

Related Topics

- Smart View でのレポートの操作について
  レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。これにより、ユーザーは Planning や Financial Consolidation and Close などの Cloud EPM ソースを利用してチャートおよびグリッドをレポートに挿入できます。
- アド・ホック問合せとしてのレポートのインポート
  レポートをアド・ホック問合せとして Oracle Smart View for Office にインポートして、使用可能なアド・ホック操作を実行できます。
- 完全にフォーマットされたレポートのインポートおよび操作
  レポートを完全にフォーマットされたレポートとして Smart View にインポートします。

Smart View でのレポートの操作について

レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management の財務および管理のレポートを作成するためのクラウドベースのレポート・ソリューションです。これにより、ユーザーは Planning や Financial Consolidation and Close などの Cloud EPM ソースを利用してチャートおよびグリッドをレポートに挿入できます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

レポートのグリッドは、外部データ・ソース接続からのデータを格納する表です。管理者は、レポートにグリッドを追加し、ディメンション・レイアウトを定義し、メンバーを選択してグリッドをフォーマットします。管理者は、テキスト、ディメンション、メンバーおよび式を使用して、グリッドのコンテンツを定義します。

Excel で Oracle Smart View for Office を使用して、次のことができます。

- レポート・グリッドをアド・ホック・グリッドとしてインポートします。

  ピボットやメンバー選択など、グリッドでサポートされているアドホック操作をデータソースに対して直接実行します。

  アド・ホック問合せとしてのレポートのインポートを参照してください。
- レポートを完全にフォーマットされたレポートとして Smart View にインポートします。

  レポートにプロンプトが含まれている場合は、インポート時にプロンプトを指定します。

  Web にインポートされたレポートと Excel にインポートされたレポートにはいくつかの相違があることに注意してください。詳細は、Oracle Help Center にある Cloud EPM ビジネス・プロセスの**「ブック」**タブで入手できる*レポートを使用した設計*のレポートと Excel にインポートされたレポートの相違で説明されています。

  インポート後は、次のことができます。

  – POV を変更し、必要に応じてレポート・データをリフレッシュします。

- プロンプトを編集します。
- レポートを Excel ファイルとして配布します。
- レポートからアド・ホック・グリッドを生成し、データ分析のためにさらにアド・ホック操作を実行します。

完全にフォーマットされたレポートのインポートおよび操作を参照してください。

> **Note:**
>
> 詳細は、Oracle Help Center にある Cloud EPM ビジネス・プロセスの**「ブック」**タブで入手できる*レポートを使用した設計*を参照してください。

アド・ホック問合せとしてのレポートのインポート

レポートをアド・ホック問合せとして Oracle Smart View for Office にインポートして、使用可能なアド・ホック操作を実行できます。

> **Note:**
>
> 開始する前に、Excel で Smart View を起動し、Planning にログインします。

レポートをアド・ホック問合せとして Smart View にインポートするには:

1. Smart View リボンで、**「ホーム」**をクリックして「Smart View ホーム」パネルを起動します。ライブラリ・フォルダとキューブが表示されます。
2. Smart View パネルで、ツリー・リストを展開し、**「レポート」**を選択します。

   使用できるすべてのレポートは、**「レポート」**フォルダからアクセスできます。または、レポートがユーザー定義フォルダに格納されている場合、そのフォルダに移動できます。
3. レポートを展開して、使用可能なグリッドを表示し、グリッドを選択します。
4. **「アクション」**パネルで、**「問合せ対応」**をクリックします。

   また、選択したグリッドをダブルクリックすることもできます。

   レポートのグリッドは、Smart View でアド・ホック問合せとして表示されます。

   > **Note:**
   >
   > レポート・グリッドのテキストおよび式の行と列は、Excel にインポートされません(データのみインポートされます)。
5. 必要に応じてアド・ホック操作を実行します。

   たとえば、次のようなことができます。

   - メンバーにズーム・イン
   - 使用可能な場合は、プロバイダ・アド・ホックのリボンの**「POV」**ボタンをクリックし、POV ツールバーの表示と非表示を切り替えます

- POV ディメンションまたはメンバーをグリッドにピボット
- **「メンバー選択」**を使用してグリッドの視点を変更します

完全にフォーマットされたレポートのインポートおよび操作

レポートを完全にフォーマットされたレポートとして Smart View にインポートします。

> **Note:**
>
> 完全にフォーマットされたレポートの操作を Smart View で開始する前に、Excel で Smart View を起動し、サポートされている Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ビジネス・プロセスにログインします。

完全にフォーマットされたレポートをインポートして操作するには:

1. Smart View リボンで、**「ホーム」**をクリックして「Smart View ホーム」パネルを起動します。ライブラリ・フォルダとキューブが表示されます。
2. Smart View パネルで、ツリー・リストを展開し、**「レポート」**を選択します。

   使用できるすべてのレポートは、**「レポート」**フォルダからアクセスできます。または、レポートがユーザー定義フォルダに格納されている場合、そのフォルダに移動できます。
3. レポートを選択し、**「アクション」**パネルで**「レポートのインポート」**をクリックします。

   または、レポート名を右クリックし、**「レポートのインポート」**をクリックすることもできます。
4. レポートに対して**「POV のプレビュー」**が有効な場合は、**「POV の選択」**ダイアログで**「OK」**をクリックしてデフォルトの POV を使用するように選択するか、レポートの POV のプレビューの説明に従って POV を変更して**「OK」**をクリックできます。

   > **Note:**
   >
   > **「POV の選択」**ダイアログ・ボックスで**「取消」**をクリックすると、インポート・プロセスが取り消されてレポートが Smart View にインポートされません。
5. レポートが新しいブックで開かれることを示す確認ダイアログで、**「はい」**をクリックします。

   完全にフォーマットされたレポートは、新しいワークブックに表示されます。

   レポートには、1 つ以上のページに配置された多数のグリッド、グラフ、テキスト・オブジェクトおよび画像が含まれる場合があることに注意してください。これらのオブジェクトはすべて、インポート時に Excel ワークブックに取得されます。

   レポートのテキスト・ボックスは、インポートされた Excel ワークシートの画像に変換されます。場合によっては、レポートの表示にあわせて Excel の画像ボックスのサイズを手動で変更する必要があります。画像のサイズを変更するには、Excel の図の書式ツールを使用します。画像を右クリックして**「サイズとプロパティ」**を選択します。**「図の書式設定」**で、**「高さの倍率」**と**「幅の倍率」**を 100%に設定します。

6. 新規ワークブックで、Smart View リボンの**「ホーム」**をクリックして「Smart View ホーム」パネルを起動します。ライブラリ・フォルダとキューブが表示されます。

   「レポート」リボンもメニューに表示されます。

7. **オプション:** レポートをインポートした後、次の操作を実行できます:
   - シートの POV を編集するには、**「レポート」**リボンで**「POV の編集」**をクリックし、レポートの POV の変更の手順に従います。
   - プロンプトが編集可能な場合は、**「レポート」**リボンの**「プロンプトの編集」**をクリックし、レポートのプロンプトの編集の手順に従います。
   - セッション中にレポートの基になるデータが変更された場合にレポートをリフレッシュするには、**「レポート」**リボンの**「レポートのリフレッシュ」**をクリックします。

   > **Note:**
   >
   > プロンプトの編集、POV の編集またはレポートのリフレッシュを実行すると、現在のワークブックがリフレッシュおよびリロードされます。グリッド内のデータのみがリフレッシュされます。グリッド外にデータを入力していた場合、それはワークブックに残ります。

8. **オプション:** ワークブックを保存するには、Excel の**「保存」**または**「名前を付けて保存」**コマンドを使用します。

レポートの POV のプレビュー

POV のプレビューでは、レポートをインポートまたは挿入する前に、POV を制御および編集できます。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management からレポートをインポートすると、プレビューして POV を設定できます。

開始する前に、Web アプリケーションで「レポート」の**「POV のプレビュー」**のユーザー・プリファレンス・オプションを使用可能にする必要があります。Cloud EPM ビジネス・プロセスから、**「ツール」**に移動し、**「ユーザー・プリファレンス」**を選択して、**「レポート」**タブの**「POV のプレビュー」**チェック・ボックスを選択します。

レポートをインポートするときに POV をプレビューおよび選択するには:

1. **「POV の選択」**ダイアログで、レポートに指定されたデフォルトの POV を表示し、POV を変更せずにレポートのインポートを続行する場合は**「OK」**をクリックします。

   > **Note:**
   >
   > **「POV の選択」**ダイアログ・ボックスで**「取消」**をクリックすると、インポート・プロセスが取り消されてレポートが Smart View にインポートされません。

2. レポートの POV を編集するには、各ディメンションのドロップダウン・リストで値を選択し、**「OK」**をクリックします:

   レポートのインポート後に、レポートの POV の変更の手順に従って POV を編集することもできます。

レポートのプロンプトの編集

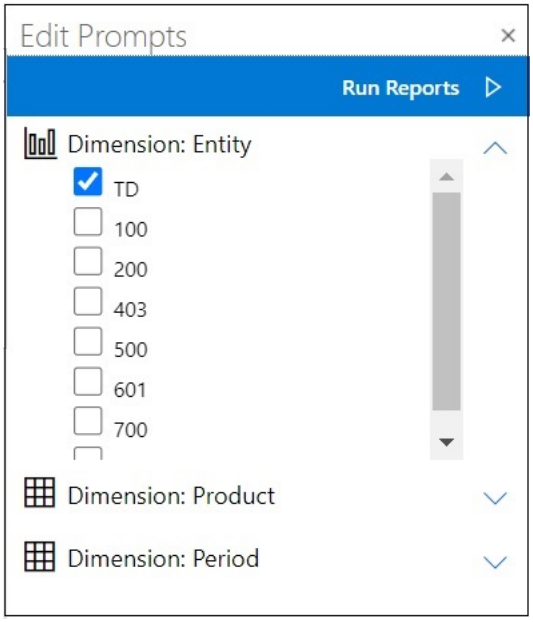
レポートにプロンプトが含まれている場合は、デフォルトのプロンプトを使用するか、レポートのインポート後にプロンプトを変更するかを選択できます。

> **Note:**
>
> 始める前に:
>
> - 完全にフォーマットされたレポートのインポートおよび操作の説明に従い、レポートをインポートしておく必要があります。
> - 保持する変更がある場合は、ワークブックを保存します。プロンプトを編集すると、ワークブックが閉じて再生成されます。

レポートのプロンプトを変更するには:

1. Smart View のリボンで、**「プロンプトの編集」**をクリックします。
2. **「プロンプトの編集」**パネルで、ドロップダウン・リストから必要なディメンションを選択します。

   たとえば、次の図では、エンティティ・ディメンションにレポート・プロンプト・タイプが選択されています。



> **Note:**
>
> レポート・プロンプト・タイプは棒グラフ・アイコンで表され、グリッド・プロンプト・タイプはグリッド・アイコンで表されます。

3. 編集する各プロンプト選択に対してステップ 1 を繰り返し、**「レポートの実行」**をクリックしてレポートをインポートします。

   結果のワークブックのシートは、**「プロンプトの編集」**パネルにリストされていた順序と同様にアルファベット順に表示されます。必要に応じて、シートを手動で並べ替えることができます。

レポートの POV の変更

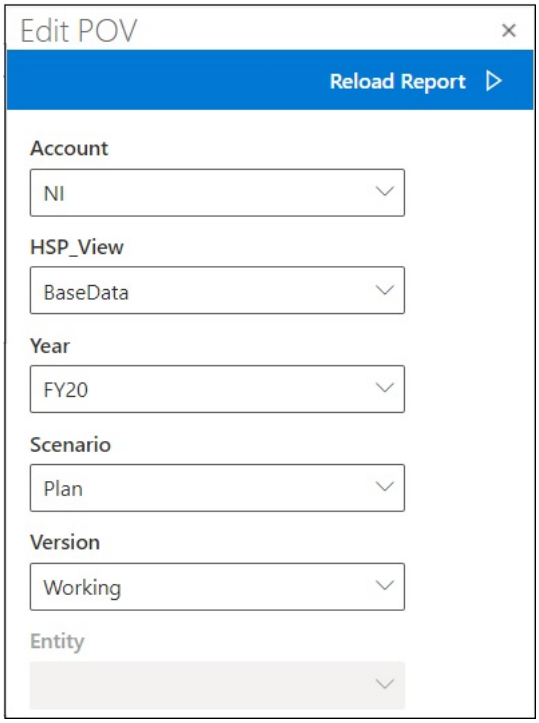
レポートの POV を変更できます。

> **Note:**
>
> 始める前に:
>
> - 完全にフォーマットされたレポートのインポートおよび操作の説明に従い、レポートをインポートしておく必要があります。
> - 保持する変更がある場合は、ワークブックを保存します。POV を編集すると、ワークブックが閉じて再生成されます。

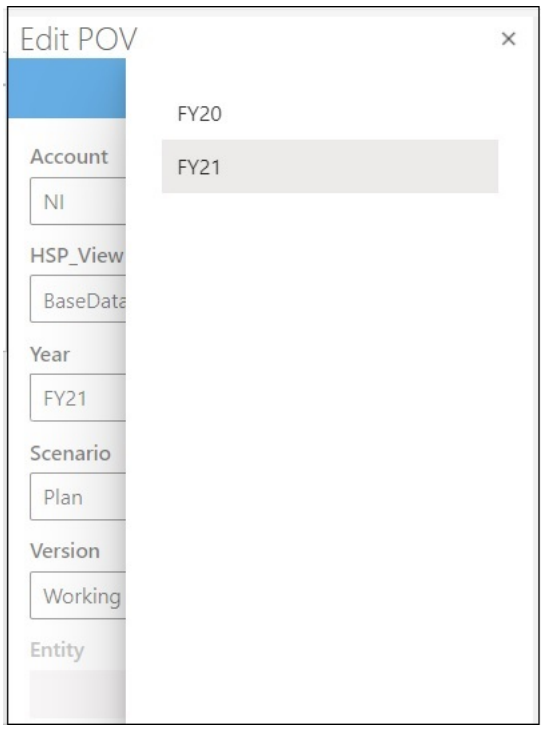
インポートされたレポートの POV を変更するには:

1. Smart View のリボンで、**「POV の編集」**をクリックします。

   これにより、**「POV の編集」**パネルが起動されます。



   各フィールドのドロップダウン矢印を使用して、ディメンション POV を変更できることを示すドロップダウン・メニューを探します。



2. ドロップダウン・リストにオプションの固定リストが含まれている場合は、リストからオプションを選択します。
3. ドロップダウン・リストをクリックして、メンバー選択を開きます。

   ステップ 1 の例では、Year ディメンションに選択オプションがあります。
4. **「レポートのリロード」**をクリックします。

   更新された POV を使用して、フォーマットされたレポートが再生成されます。

13

ダッシュボード

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ダッシュボードを開き、その詳細を表示して変更できます。

Related Topics

- ダッシュボードについて
  ダッシュボードは、ユーザーに要約データを示すことでプランニングおよび予測プロセスの概要を提供します。ダッシュボードは、プランニングおよび予測プロセスを開始する際に特に役立ちます。
- ダッシュボードの操作
  ダッシュボードを使用すると、主な情報の概要を確認し、データを変更し保存できます。

ダッシュボードについて

ダッシュボードは、ユーザーに要約データを示すことでプランニングおよび予測プロセスの概要を提供します。ダッシュボードは、プランニングおよび予測プロセスを開始する際に特に役立ちます。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)では、ダッシュボードで主要情報にアクセスし、データを入力、変更および保存できます。ダッシュボード・オブジェクトは表形式で表示され、各オブジェクトはワークブック内の個別のシートに表示されます。

ダッシュボードの操作

ダッシュボードを使用すると、主な情報の概要を確認し、データを変更し保存できます。

Oracle Smart View for Office で Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management ダッシュボードを開くことができます。

ダッシュボードを開くには:

1. ダッシュボードを含む Cloud EPM データ・ソースに接続します。
2. 「Smart View ホーム」パネルのツリー・リストから、次のアイコンで示すダッシュボードをクリックします:

   ダッシュボードがアクティブな Excel ワークブックで開き、各ダッシュボード・オブジェクトは個別のワークシートに表形式で表示されます。たとえば、ダッシュボードに 4 つのオブジェクトが含まれる場合、アクティブなワークブックに追加で 4 つのワークシートが起動します。アクティブなワークブックが空白のワークシートで構成された新規ワークブックであるか、すでに使用中で複数のワークシートで構成されており、各シートにフォームまたはアド・ホック・グリッドが含まれるかにかかわらず、ダッシュボード・オブジェクトはアクティブなワークブックの追加シートに起動します。

ダッシュボードの詳細は次の項を参照してください。

- **管理者:** クラウド・ビジネス・プロセスの*管理*ガイドでダッシュボードの設計に関するトピックを参照してください。
- **エンド・ユーザー:** クラウド・ビジネス・プロセスの*操作*ガイドでダッシュボードの使用に関するトピックを参照してください。

14

Planning の承認

次も参照:

- Planning の承認について
  Planning の承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。
- プランニング・ユニットの表示
- プランニング・ユニットの検索
  「承認の管理」パネルで、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタまたはメンバーの選択を使用できます。
- プランニング・ユニットのステータスの変更
  1 つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。
- プランニング・ユニットの移動パスの表示
  プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示できます。
- プランニング・ユニットの注釈の追加
  開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります
- 不在時のアシスタントの設定
  不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

Planning の承認について

Planning の承認は、プランニング・ユニットの送信、確認、承認プロセスです。

適用対象: Planning

予算データを準備する際に、承認プロセスではワークフローを構造化し、権限レベルを形式化します。

承認では、次のことを行うことができます:

- プランニング・データのレビューと承認
- 予算の進行状況の追跡
- レビュー・プロセスでの問題の特定
- 注釈を通したレビュー担当者のコメントの表示
- プランニング・データの移動パスの表示
- プラン・データがデータ検証ルールを満たしていることの確認

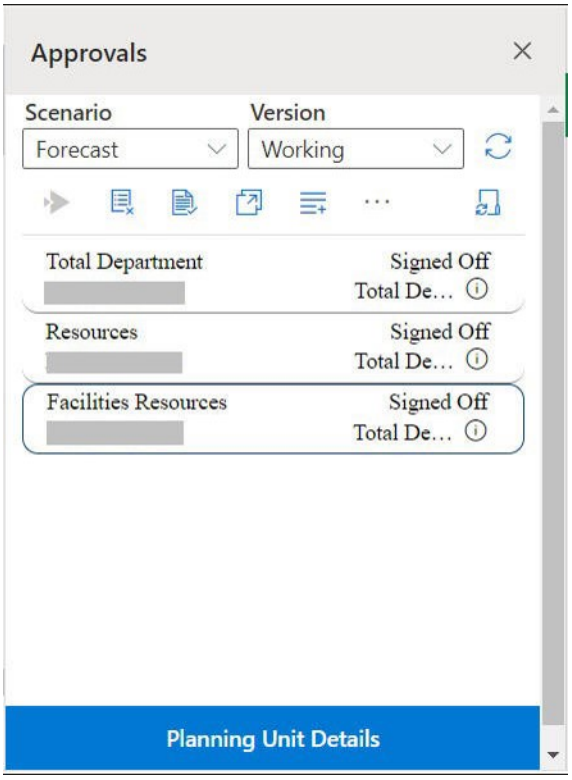
プランニング・ユニットの表示

「承認の管理」パネルで、プランニング・ユニットのリストを確認できます。

「承認の管理」パネルを開いて、プランニング・ユニットを表示するには:

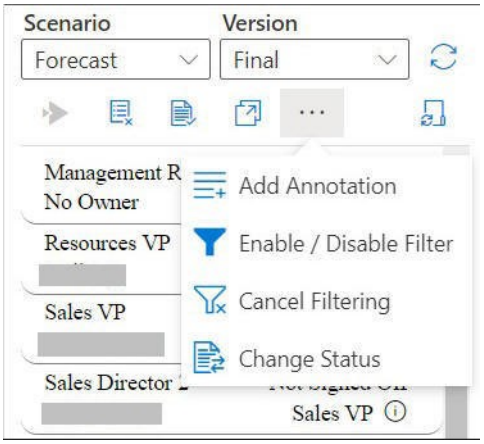
1. 適切なフォームを開きます。
2. Planning のリボンから**「承認」**を選択して、**「承認の管理」**パネルを開きます。
   または、「Smart View ホーム」パネルの**「アクション」**メニューをクリックし、**「承認」**を選択します。

Figure 14-1　「承認」パネル



3. **「承認の管理」**パネルで、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
4. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
5. 表示または作業するプランニング・ユニットを選択します。
   リストが長すぎてプランニング・ユニットを容易に特定できない場合、プランニング・ユニットの検索の説明に従ってフィルタを検索するか、リストに適用できます。
6. 選択したプランニング・ユニットの詳細を表示するには、**「プランニング・ユニットの詳細」**をクリックします。
   - **「承認ステータス」**タブでは、プロセスのステータス、所有者、とられたアクションおよびステータスの変更日時の履歴を参照できます。
   - **「注釈」**タブでは、プランニング・ユニットに対して入力されたすべての注釈を表示できます。プランニング・ユニットの注釈の追加を参照してください。
7. **「閉じる」**をクリックして、「承認の管理」パネルに戻ります。
8. リスト上部のツールバーを使用して、プランニング・ユニットに対してアクションを実行します。省略記号ボタンをクリックすると、その他のアクションが表示されます。

Figure 14-2　プランニング・ユニットに様々なアクションを実行するためのツールバー



- — プランニング・ユニットを承認プロセスから除外し、リストから削除します。
- — プランニング・ユニットを検証し、管理者によって設定されたデータ検証ルールを実行します。
- — プランニング・ユニットの移動パスを表示します。
- — プランニング・ユニットに注釈またはコメントを追加します。
- — 様々な条件を使用してプランニング・ユニットのリストをフィルタします。
- — プランニング・ユニット・リストに適用されたフィルタを取り消します。
- — プランニング・ユニットのステータスを変更します。
- — プランニング・ユニットを管理するための不在時のアクションを設定します。

9. をクリックすると、「承認の管理」パネルが閉じ、「Smart View ホーム」パネルに戻ります。
「承認の管理」パネルを**「アクション」**メニューから開いた場合は、**「プランニング・ユニットの詳細」**ボタンの横に表示される**「閉じる」**ボタンを使用すると、「承認の管理」パネルが閉じ、「Smart View ホーム」パネルに戻ります。

プランニング・ユニットの検索

「承認の管理」パネルで、プランニング・ユニットのリストを検索したり、フィルタを適用することで、プランニング・ユニットを簡単に検索できます。フィルタ条件として、自動フィルタまたはメンバーの選択を使用できます。

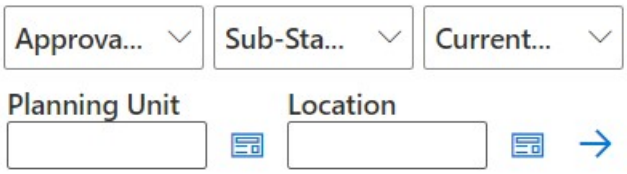
プランニング・ユニットのリストをフィルタ処理するには:

1. プランニング・ユニットの表示の説明に従って、「承認の管理」パネルを開き、**シナリオ**および**バージョン**を選択します。
2. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。

3. をクリックして、フィルタ処理を使用可能にします。

   このオプションがツールバーに表示されない場合は、省略記号メニューをクリックしてオプションを見つけます。

   たとえば、フィルタ・ツールを含むフィルタ・オプションが、プランニング・ユニット・リストのすぐ上に表示されます。次に例を示します:



4. 次の手順のいずれかを実行します:

   - **検索**

     特定のプランニング・ユニットを検索するには、その名前を**「プランニング・ユニット」**フィールドに入力します。

   - **自動フィルタの使用**

     「承認ステータス」、**「サブステータス」**および**「現在の所有者」**のリストから、目的のフィルタ値を選択します。

   - **メンバー選択によるフィルタ**

     a. **「プランニング・ユニット」**フィールドまたは**「場所」**フィールドの横にある をクリックし、プランニング・ユニット・リストまたは場所リストのメンバーを選択します。

     b. **「メンバー・セレクタ」**ダイアログで、目的のメンバーを選択し、**「完了」**をクリックします。
     「承認ステータス」、**「サブステータス」**および**「現在の所有者」**リストで選択を行うことによって、プランニング・ユニットまたは場所でさらにフィルタできます。

5. をクリックして、フィルタを適用します。

   フィルタされたユニットを使用して、プランニング・ユニットのリストがリロードされます。

> **ノート:**
>
> 適用したフィルタを取り消すには、をクリックします。

プランニング・ユニットのステータスの変更

1 つ以上のプランニング・ユニットのステータスを一度に変更できます。

プランニング・ユニットのステータスを表示または変更するには:

1. 「承認の管理」パネルから、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。

2. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
3. ステータスを変更するプランニング・ユニットを選択します。
4. 省略記号ボタンをクリックし、**「ステータスの変更」** を選択します。

> **ノート:**
>
> 親エンティティのステータスを変更すると、子が「初回パス」状態時に除外されているかまたはすでに承認されている場合を除いて、親エンティティのすべての子もステータスが変更されます。

5. **「ステータスの変更」**ダイアログで、アクションおよびプランニング・ユニットの次の所有者を選択します。
6. **オプション: 「注釈の入力」**フィールドで、プランニング・ユニットの注釈を入力します。

   この注釈は、**「注釈」**タブの**「プランニング・ユニットの詳細」**セクションに表示されます。
7. **「送信」**をクリックします。

   ステータスが更新され、ステータスが**「承認ステータス」**タブの**「プランニング・ユニットの詳細」**セクションに表示されます。
8. **オプション:** 変更したプランニング・ユニットを検証するには、をクリックします。一度に検証できるのは 1 つのプランニング・ユニットのみです。

プランニング・ユニットの移動パスの表示

プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示できます。

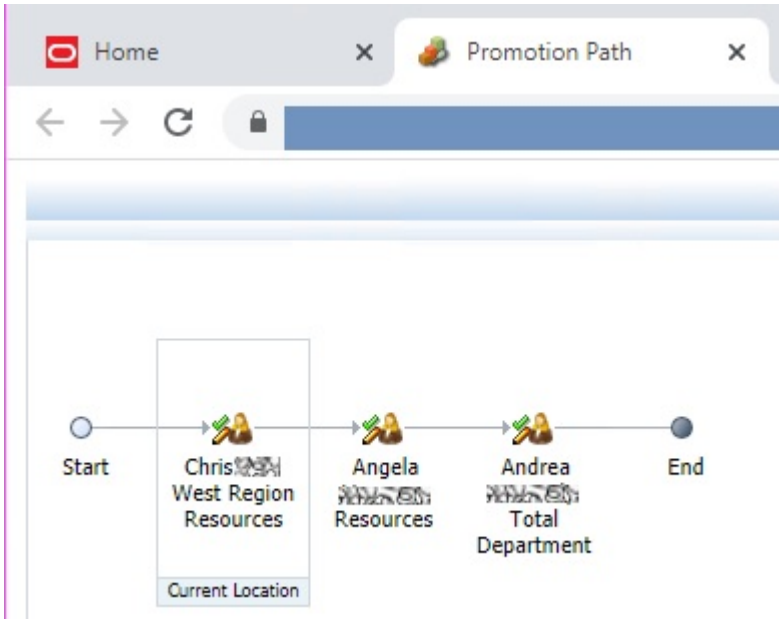
プランニング・ユニットは、次に基づいて個人から個人、および部署から部署へ移動します:

- プランニング・ユニットに割り当てられた所有者と確認者
- 階層内のプランニング・ユニットの場所

プランニング・ユニットの移動パスをグラフィカルな形式で表示するには:

1. 「承認の管理」パネルから、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
2. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
3. 移動パスを表示するプランニング・ユニットを選択します。
4. をクリックします。

   移動パスは、グラフィック形式で表示されます。Chrome では、移動パスは独立したタブに表示されます。次に例を示します:



プランニング・ユニットの注釈の追加

開始したプランニング・ユニットのデータに関するコメントを追加または表示できます。注釈は、シナリオ、バージョンおよびエンティティ・メンバーの組合せなどによって異なります

プランニング・ユニットの注釈を追加するには:

1. 「承認の管理」パネルから、**「シナリオ」**および**「バージョン」**を選択します。
2. をクリックして、アクセス権を持つプランニング・ユニットのリストを表示します。
3. 注釈を追加するプランニング・ユニットを選択します。
4. **オプション:** 選択したプランニング・ユニットに対する既存の注釈を表示するには、**「プランニング・ユニットの詳細」**、**「注釈」**タブの順にクリックします。
5. をクリックします。

   このオプションがツールバーに表示されない場合は、省略記号メニューをクリックしてオプションを見つけます。
6. **「承認 - 注釈の追加」**で、タイトルおよび注釈を入力します。

   「注釈の入力」テキスト・ボックスには、1500 文字以内で入力できます。マルチバイト・システムでは、注釈を 750 文字以内することをお薦めします。URL、リンクおよびテキストを入力できます。
7. **「送信」**をクリックします。

不在時のアシスタントの設定

不在時のアシスタントを設定して、不在中に届いたプランニング・ユニットを再割当てできます。

不在時のアシスタントを使用すると、自分に割り当てられたプランニング・ユニットに対して次のアクションを設定し、不在時に自動的に実行できます。

- 上位へ移動: プランニング・ユニットが移動パス内の次の所有者またはレベルに移動します。
- 却下: プランニング・ユニットが却下され、前の所有者に戻されます。
- 委任: プランニング・ユニットが選択したユーザーに委任されます。
- 送信: プランニング・ユニットが送信されます。

不在時のアシスタントを設定するには:

1. **「承認の管理」**パネルで、**「不在時のアシスタント」**をクリックします。
2. **「不在時のアシスタント」**ダイアログで、**「現在不在です」**チェック・ボックスを選択します。
3. アクションを選択し、不在中に届くプランニング・ユニットを管理する次の所有者を選択します。

   たとえば、**委任**オプションを選択した場合、プランニング・ユニットを委任する所有者を**「次の所有者の選択」**リストから選択します。
4. **オプション: 「注釈の入力」**フィールドで、プランニング・ユニットの注釈を入力します。

   この注釈は、**「注釈」**タブの**「プランニング・ユニットの詳細」**セクションに表示されます。
5. **「送信」**をクリックします。

15

タスク・リスト

次も参照:

- タスク・リストについて
  Excel の「Smart View パネル」からタスクを開いて管理します。
- タスク・リストを開く
  タスク・リストを開いて詳細を表示し、アクションを実行します。
- タスク・リストの表示
  タスク・リストで個々のタスクの詳細を表示し、それらに対してアクションを実行し、タスク・リストの全体的な完了ステータスを追跡します。
- タスクの実行
  要件に従って、不完全なタスクを実行します。
- タスクの完了
  要件を完了した後、タスクを完了としてマークします。
- タスク・リスト・レポートの作成
  タスク・リストのタスク別および全体的な完了ステータスに関するタスク・リスト・レポートを作成してダウンロードします。

タスク・リストについて

Excel の「Smart View パネル」からタスクを開いて管理します。

適用対象: Planning

Excel の Smart View パネルからタスクを開いて管理できます。

タスク・リストは、作業負荷の整理、追跡および優先度設定に役立ちます。たとえば、タスクは、フォームの完成、ビジネス・ルールの起動、承認ユニットの上位への移動に役立ちます。タスクを通じて、Web サイトや社内ページを起動することもできます。

タスク・リストのオープンと表示、タスクの実行と完了、およびタスク・リスト・レポートの作成を「タスク・リスト」パネルから実行できます。サービス管理者は、タスク・リストのアクセス権限を管理および割り当てます。詳細は、データ・ソースの管理ドキュメントを参照してください。

ビデオ

目的	このビデオを見る
タスク・リストについて学習します。 このビデオでは、タスク・リストの概念が Smart View (Windows)で表示されますが、概念の多くは Smart View (Mac およびブラウザ)に適用できます。	Oracle Planning and Budgeting Cloud による Smart View でのタスク・リストの管理

タスク・リストを開く

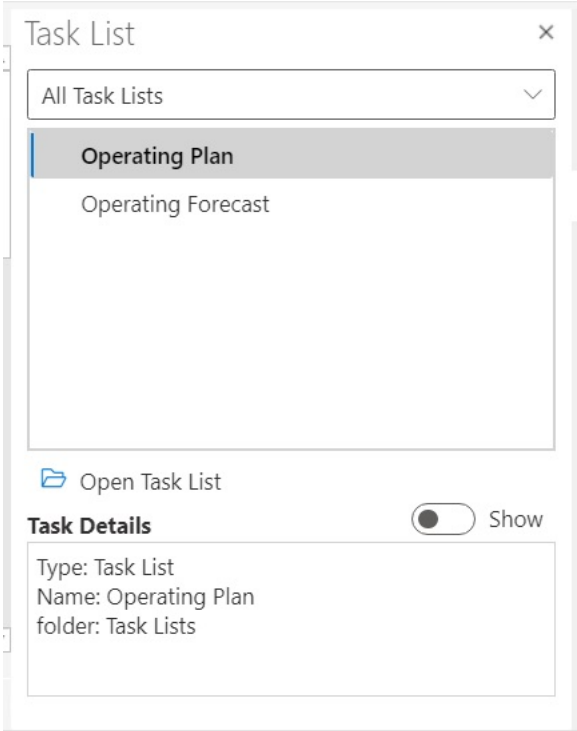
タスク・リストを開いて詳細を表示し、アクションを実行します。

Smart View からタスク・リストを開くには:

1. データ・プロバイダに接続します。
2. フォームまたはアド・ホック・グリッドを開きます。

   タスク・リストの操作を開始する前に、シートにフォームまたはアド・ホック・グリッドを開いておく必要があります。
3. 「Smart View ホーム」パネルから、**「アクション」**メニューをクリックし、次に**「タスク・リスト」**をクリックします。

   「タスク・リスト」パネルが開きます:



   「タスク・リスト」パネルの**「表示/非表示」**切替えボタンを使用して、**「タスクの詳細」**ペインを表示または非表示にします。

   タスクに使用可能なコマンドは、アクション・パネルのタスク・リスト・ツリー・ビューのすぐ下、**「タスクの詳細」**ペインの上に表示されます。
4. 「タスク・リスト」パネルからタスク・リストを選択し、アクション・パネルの**「タスク・リストを開く」**をクリックします。
5. タスク・リストの表示に進みます。

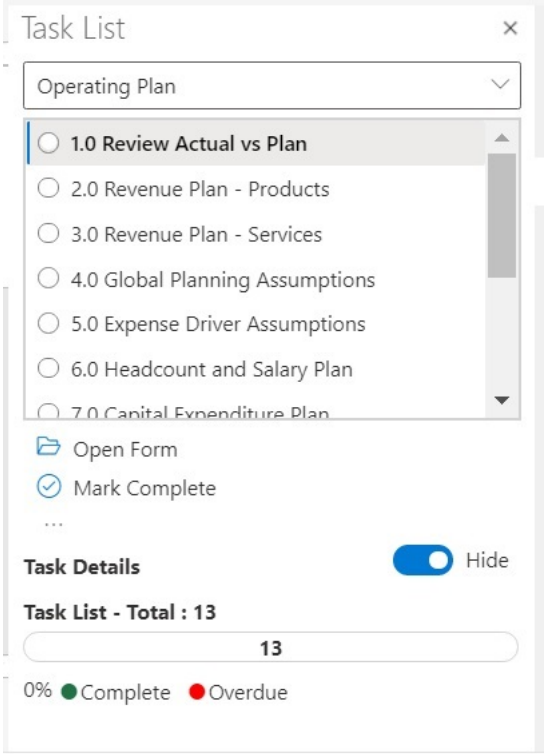
タスク・リストの表示

タスク・リストで個々のタスクの詳細を表示し、それらに対してアクションを実行し、タスク・リストの全体的な完了ステータスを追跡します。

「タスク・リスト」パネルのタスク・リストには、次の情報が表示されます:

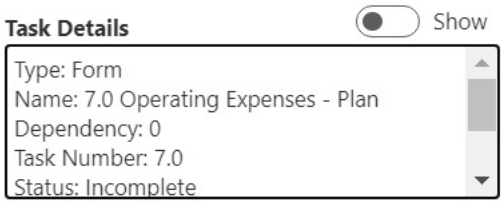
- タスク・リスト内の個々のタスク。個々のタスクには、下位タスクが含まれる場合もあります。タスクのステータス(完了、未完、遅滞)は、色コーディングで示されます。

  例:



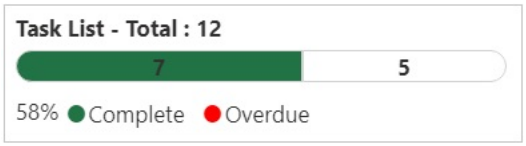
- **「タスクの詳細」**では、タスク・ステータスを含めた、タスク・リストで選択したタスクの詳細が提供されます。

  例:



「表示/非表示」切替えボタンを使用して、**「タスクの詳細」**ペインを表示または非表示にします。

- ステータス・バーには、タスク・リストのステータスが高レベルで表示されます。「タスク・リスト」パネルの下部にあるステータス・バーには、タスク・リストのタスク数、完了したタスク数、タスク・リストの完了済タスクの割合、完了する必要があるタスク数が表示されます。例:

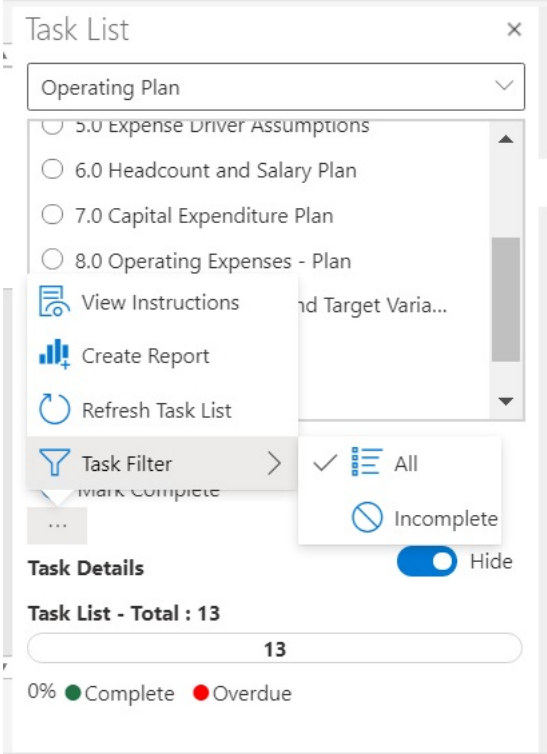


- アクション・パネルには、選択されたタスクに対して実行可能なアクションが表示されます

  上の例では、**「フォームを開く」**コマンド、**「完了をマーク」**コマンドおよび ··· が使用可能です。

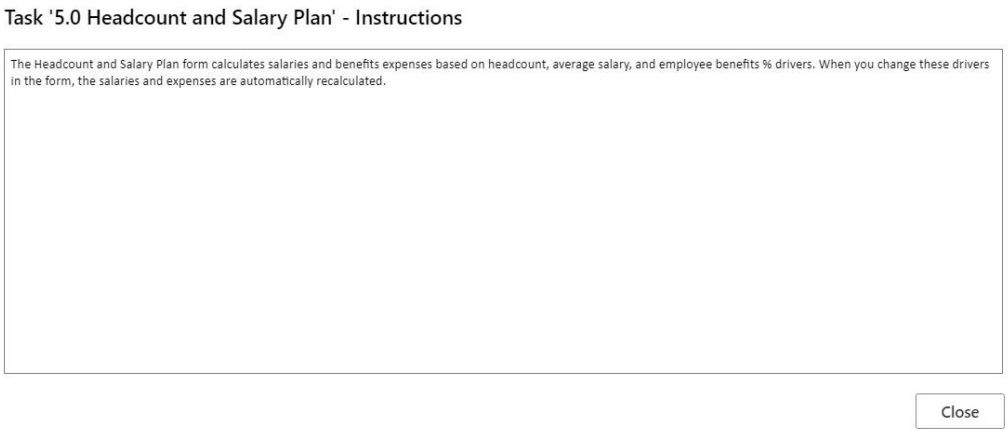
  同様に、ビジネス・ルールを含むタスクには**「ルールの起動」**コマンドが表示され、タスク・リスト自体からビジネス・ルールを選択して実行できます。**「URL またはファイルを開く」**コマンドは、リンクの起動やファイルを開くタスクに表示されます。

- **他のアイテム**・ボタン ··· を使用すると、選択したタスクのその他のコマンドを備えたドロップダウン・メニューにアクセスできます。



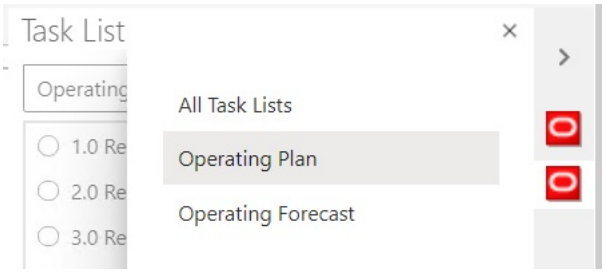
次のアクションを使用できます:

– **指示の表示**: タスクの指示を表示するには、**他のアイテム**ボタン ··· をクリックし、**「指示の表示」**を選択します。タスクに固有の情報が含まれているダイアログが表示されます。例:



  - **レポートの作成**: タスク・リスト・レポートの作成を参照してください。
  - **タスク・リストのリフレッシュ**: クリックすると、タスク・リストがリフレッシュされ、リストに追加した新しいタスクが組み込まれて、ステータス・バーが更新されます。
  - **タスクのフィルタ**: クリックして、サブメニューを表示します。タスク・リストに未完のタスクのみを表示するには、**「未完」**を選択します。タスク・リスト全体を表示するには、**「すべて」**を表示します。
- 「タスク・リスト」パネルの上部のドロップダウン・メニューでは、現在のアプリケーションに関連付けられている他のタスク・リストを選択できます。矢印をクリックすると:

アプリケーションで使用可能な他のタスク・リストが表示されます期限切れタスクを含むタスク・リストの場合、名前の横に赤で期限切れタスクの件数が表示されます。



タスクの実行

要件に従って、不完全なタスクを実行します。

タスクを実行するには:

1. 実行するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。

2. アクション・パネルで**「タスクの実行」**をクリックします。

   タスクの実行は、タスクとデータ・ソースによって異なります。

タスクの完了

要件を完了した後、タスクを完了としてマークします。

タスクを完了するには:

1. タスクの要件を完了します。
2. 完了するタスクが含まれているタスク・リストを開きます。
3. すべての従属タスクが完了していることを確認します。
4. 完了済としてマークするタスクを選択します。
5. アクション・パネルで**「完了をマーク」**をクリックします。

タスク・リスト・レポートの作成

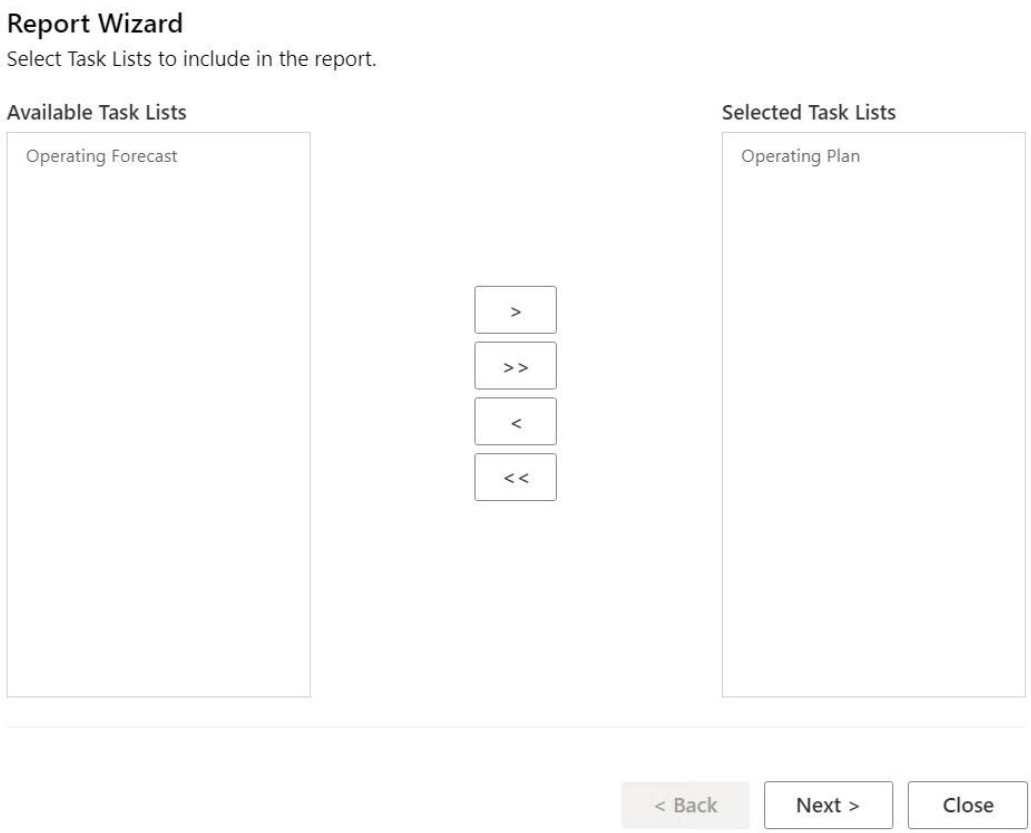
タスク・リストのタスク別および全体的な完了ステータスに関するタスク・リスト・レポートを作成してダウンロードします。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)のタスク・リストの初期リリースでは、レポートは、Chrome ブラウザの Smart View を使用している場合にのみサポートされます。

タスク・リスト・レポートを作成するには:

1. タスク・リストを開きます。
2. タスクを選択し、 ··· をクリックして**「レポートの作成」**を選択します。
3. **「レポート・ウィザード」**で、左右の矢印キーを使用して、レポートに含めるすべてのタスク・リストを**「使用可能なタスク・リスト」**から**「選択したタスク・リスト」**に移動します。

   次の例では、レポート対象に運用計画タスク・リストが選択されています。



4. **「次」**をクリックします。
5. 左右の矢印キーを使用して、ステータスをレポートに含めるユーザーを**「使用可能なユーザー」**から**「選択したユーザー」**に移動します。
6. **「次」**をクリックします。
7. レポートの作成に関するオプションを選択します。

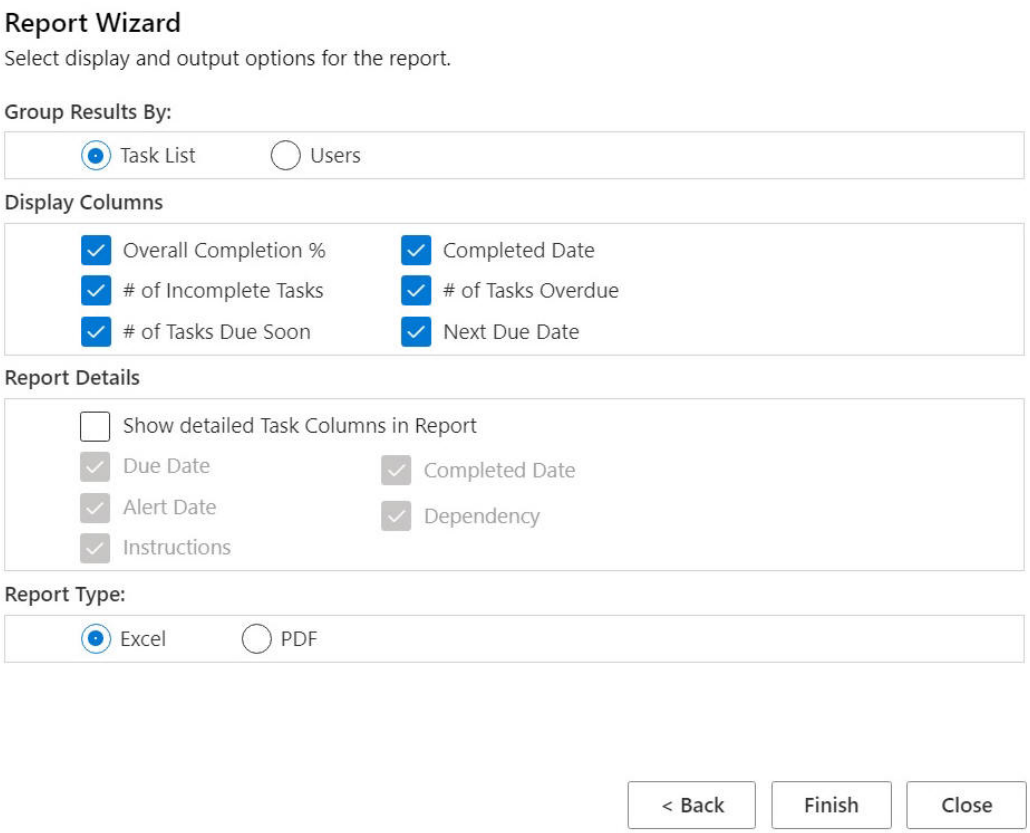
   使用可能なオプションは次のとおりです。

   - **結果のグループ分け**—レポート出力をタスク・リストまたはユーザーごとにグループ化します。
   - **表示列**—チェック・ボックスを使用して、レポートに表示する列を選択します。
   - **レポートの詳細**—チェック・ボックスを使用して、レポートに含める詳細を選択します。デフォルトでは、すべてのレポート詳細が選択されています。

     レポートに詳細タスク列を表示するオプションをクリアしてから、個々の不要なレポート・オプションをクリアすることで、特定の列を選択します。
   - **レポート・タイプ**—レポートの出力タイプで、Excel または PDF です。

     レポート・タイプとして Excel を選択すると、レポートは HTML ファイルでダウンロードされます。

   次のデフォルトの例では、結果はタスク・リストごとにグループ化され、すべての表示列が選択されており、出力タイプは Excel です。



8. **「終了」**、**「閉じる」**の順にクリックします。
   選択したレポート・タイプでレポートが作成されます。

16

一般的な操作

次も参照:

- 「元に戻す」と「やり直し」の使用
  データ・ソース・プロバイダに接続している場合、**「Smart View」**リボンの「元に戻す」オプションで、セル内の最後のユーザー・アクションが元に戻されます。
- シート情報
  現在のワークシートについて接続およびその他の詳細を表示できます。
- メタデータのインポート
  コピーしたワークシートにメタデータをインポートできます。メタデータは POV、別名表、接続情報などの Smart View アーティファクトで構成されます。
- ユーザー・プリファレンスの設定
  アプリケーション設定、表示設定およびユーザー変数のプリファレンスを設定します。

「元に戻す」と「やり直し」の使用

データ・ソース・プロバイダに接続している場合、**「Smart View」**リボンの「元に戻す」オプションで、セル内の最後のユーザー・アクションが元に戻されます。

次も参照:

- 「元に戻す」と「やり直し」の使用について
- 元に戻す処理とやり直し処理の数の指定
  「元に戻す」および「やり直し」に対して許可する処理の数を指定できます。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。
- Cloud EPM での「元に戻す」のサポート

「元に戻す」と「やり直し」の使用について

「元に戻す」および**「やり直し」**を使用する場合は、次のガイドラインを考慮してください:

- アド・ホック分析で**「元に戻す」**を行うと、**「ズーム・イン」**、**「ズーム・アウト」**、**「選択項目のみ保持」**、**「選択項目のみ削除」**、**「リフレッシュ」**は元に戻され、前のデータベース・ビューがグリッドに復元されます。メンバー・データを変更した後で**「元に戻す」**を実行すると、シートは、データの変更前の状態ではなく、最後のリフレッシュを行う前の状態に戻ります。
- アド・ホック・グリッドで、**「元に戻す」**を実行すると Excel フォーマットは保持されません。
- フォームで、**「元に戻す」**を使用すると、セル内の最後のユーザー・アクションが元に戻されます。
- Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で実行された操作のみを元に戻すことができます。プロバイダ・サーバー上で実行された操作(計算ステータスなど)は、元に戻すことができません。

元に戻す処理とやり直し処理の数の指定

「元に戻す」および「やり直し」に対して許可する処理の数を指定できます。この設定は、リフレッシュを行うか、ドリル操作を実行すると有効になります。

元に戻す操作およびやり直し操作について許可される回数を指定するには:

1. **Smart View** のリボンから、**「オプション」**を選択します。
2. **「詳細」**タブの**「元に戻す処理の数」**に、**「元に戻す」**操作を許可する回数を、0 から 100 の間で指定します。

Cloud EPM での「元に戻す」のサポート

表 16-1 Cloud EPM でサポートされる「元に戻す」操作 - アド・ホック・オプション

操作	フォーム	アド・ホック	関数
ズーム・イン	N/A	サポートされています	N/A
ズーム・アウト	N/A	サポートされています	N/A
選択項目のみ保持	N/A	サポートされています	N/A
選択項目のみ除去	N/A	サポートされています	N/A
ピボット	N/A	サポートされています	N/A
リフレッシュ	N/A	サポートされています	N/A

表 16-2 Cloud EPM でサポートされる「元に戻す」操作 - メンバー・オプション

操作	フォーム	アド・ホック	関数
全般	**全般**	**全般**	**全般**
ズーム・イン・レベル	N/A	サポートされています	N/A
メンバー名の表示	N/A	サポートされています	N/A
インデント	N/A	サポートされています	N/A
祖先の位置	N/A	サポートされています	N/A
メンバーの保持	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**	**メンバーの保持**
選択を含める	N/A	サポートされています	N/A
選択したグループ内	N/A	サポートされています	N/A
選択されていないグループの除去	N/A	サポートされています	N/A
コメントと式	**コメントと式**	**コメントと式**	**コメントと式**
式とコメントを保持	N/A	サポートされています	N/A

表 16-3 Cloud EPM でサポートされる「元に戻す」操作 - データ・オプション

操作	フォーム	アド・ホック	関数
データ・オプション	**データ・オプション**	**データ・オプション**	**データ・オプション**
行	**行**	**行**	**行**
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A

表 16-3 (続き) Cloud EPM でサポートされる「元に戻す」操作 - データ・オプション

操作	フォーム	アド・ホック	関数
無効	N/A	サポートされています	N/A
アンダースコア文字	N/A	サポートされています	N/A
繰返しメンバー	N/A	サポートされています	N/A
列	**列**	**列**	**列**
データなしの抑制/欠落の抑制	N/A	サポートされています	N/A
ゼロ	N/A	サポートされています	N/A
アクセス権なし	N/A	サポートされています	N/A
モード	**モード**	**モード**	**モード**
欠落ブロックの抑制	N/A	サポートされています	N/A

表 16-4 Cloud EPM でサポートされる「元に戻す」操作 - その他のオプション

操作	フォーム	アド・ホック	関数
保存されたオープンの変更	N/A	サポートされていません	N/A
別名表	N/A	サポートされています	N/A
メタデータ(メンバー・データ)	N/A	サポートされていません	N/A
セルのスタイル	N/A	サポートされていません	N/A

シート情報

現在のワークシートについて接続およびその他の詳細を表示できます。

次も参照:

- シート情報に関するガイドライン
  シート情報を使用する場合は、次のガイドラインを考慮してください。
- シート情報の表示
  接続の詳細、接続ステータス、シート・タイプ、最終接続日時など、シートに関する有用な情報を表示できます。この情報を HTML ファイルに保存したり、不要な場合はシートのメタデータを削除することもできます。
- Cloud EPM でのシート情報のサポート

シート情報に関するガイドライン

シート情報を使用する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- **「シート情報」**ダイアログ・ボックスでは、シート上の有効なグリッドごとに個別の**「接続」**セクションが表示されます。たとえば、「接続(グリッド 1)」、「接続(グリッド 2)」のようになります。
- 複数グリッドのシートでは、すべてのグリッドが同じ接続に接続されている場合、それぞれの**「接続」**セクションで、サーバー、アプリケーション、URL、プロバイダ、別名表、関連範囲などの詳細を表示できます。

- 複数グリッドのシートでは、いずれかのグリッドが、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスが起動された接続と別の接続に接続されている場合、**「接続」**セクション内に、次の限定された詳細のみが表示されます:
  - **関連付けられた範囲:** グリッドに関連付けられたセル範囲の名前
  - **情報:** *グリッドは別の接続に関連付けられています*というメッセージ。

  たとえば、グリッド 1 とグリッド 2 が Planning に接続され、グリッド 3 が Tax Reporting に接続されたシートを操作しているとします。Tax Reporting の Smart View リボンの**「シート情報」**オプションを使用して**「シート情報」**ダイアログ・ボックスを起動すると、サーバー、アプリケーション、URL、プロバイダなどのグリッド 3 の詳細全体を表示できます。ただし、グリッド 1 とグリッド 2 の場合、関連付けられている範囲名と、*グリッドは別の接続に関連付けられています*という情報メッセージのみが表示されます。グリッド 1 とグリッド 2 のシート情報を表示するには、Planning の Smart View リボンの**「シート情報」**オプションを使用します。
- 複数グリッドのシートで、Smart View の**「グリッド範囲名の変更」**オプションではなく、Excel の「名前の管理」を使用してグリッド範囲の名前を変更する、または元の名前を削除すると、Smart View はそのようなグリッドを無効と見なします。これは、グリッドの接続が切断されているため、Smart View がグリッドを識別できないからです。このようなグリッドの詳細は、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスで表示できず、グリッド操作も実行できません。
  グリッドにわかりやすい名前を付けるには、常に Smart View の**「グリッド範囲名の変更」**オプションを使用することをお薦めします。詳細は、グリッド範囲名の変更を参照してください。
- 関数シートの場合、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスには、**「シート・タイプ」**として*関数*のみが表示されます。関数シートには、これ以外の説明を表示できません。

シート情報の表示

接続の詳細、接続ステータス、シート・タイプ、最終接続日時など、シートに関する有用な情報を表示できます。この情報を HTML ファイルに保存したり、不要な場合はシートのメタデータを削除することもできます。

シート情報を表示するには:

1. Smart View のリボンから**「シート情報」**を選択します。

   Smart View による新規ウィンドウの表示を示す通知が表示されたら、**「許可」**をクリックします。

   データ・ソースに接続されていることを確認してください。接続されていないと、**「シート情報」**ダイアログは開きません。
2. シートのデータに応じて、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスに表示される次の情報を確認します:
   - **接続**
     - **サーバー:** シートの接続先のサーバーの名前
     - **アプリケーション:** シートの接続先のアプリケーション
     - **キューブ :** シートの接続先のキューブ、モデルまたはデータベース
     - **URL:** シートの接続先のソース・プロバイダの URL 文字列
     - **プロバイダ:** シートの接続先のデータ・ソース・タイプ。
     - **別名表:** 現在の別名表

  - **フォーム名:** シートの接続先のフォームの名前。このプロパティが利用できるのは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management アプリケーションのフォームに接続している場合です。
  - **関連付けられた範囲:** グリッドに関連付けられたセル範囲の名前。Smart View の**「グリッド範囲名の変更」**オプションを使用してグリッド範囲の名前を変更した場合、ここで新しい名前を確認できます。
  - **情報:** グリッドが、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスを起動した接続とは異なる接続に接続されている場合、このフィールドには*グリッドは別の接続に関連付けられています*というメッセージが表示されます。

> **ノート:**
>
> 複数グリッドのシートの場合、シート上にある有効なグリッドごとに、個別の**「接続」**セクションが表示されます。たとえば、「接続(グリッド 1)」、「接続(グリッド 2)」のようになります。

- **全般**
  - **シート・タイプ:** 「フォーム」、「アド・ホック」、「複数のグリッド・アド・ホック」、「関数」

> **ノート:**
>
> 関数シートの場合、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスには、**「シート・タイプ」**として*関数*のみが表示されます。関数シートには、その他の詳細を表示できません。

  - **最後の取得:** シートが最後にリフレッシュされた日時

3. 必要に応じて次のオプションを選択します。
   - **削除:** Smart View メタデータを削除するための次のオプションを指定します:
     - **「ワークシート・メタデータの削除」**では、アクティブなシートのすべての Smart View メタデータが削除されます。
     - **「ワークブック・メタデータの削除」**では、アクティブなワークブックのすべての Smart View メタデータが削除されます。

> **ノート:**
>
> 削除操作は元に戻せません。

   - **保存:** シート情報の内容を HTML ファイルに保存します。
4. **「閉じる」**をクリックし、**「シート情報」**ダイアログ・ボックスを閉じます。

Cloud EPM でのシート情報のサポート

データ・ソースに接続せずに、新しい空白のシート、または保存されたシートを開いて**「シート情報」**ダイアログを起動すると、**「シート・タイプ」**情報は*「空」*として表示されます。シートへの接続を確立しないと、その他の詳細は表示できません。

データ・ソースへの接続後は、様々な接続シナリオに応じて、各種アーティファクトに対してシート情報は次のようにサポートされます。

> **ノート:**
>
> 関数シートの場合、**「シート情報」**ダイアログには、**「シート・タイプ」**として*関数*のみが表示されます。関数シートには、その他の詳細を表示できません。

表 16-5 Cloud EPM でサポートされるシート情報

接続ステータス	フォーム	アド・ホック	スマート・フォーム	ルール	関数
このワークシートのアクティブ接続の設定	はい	はい	はい	はい	いいえ
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け前)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
デフォルト接続として設定(アクティブな接続への関連付け後)	はい	はい	はい	はい	いいえ
最後の取得	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ

メタデータのインポート

コピーしたワークシートにメタデータをインポートできます。メタデータは POV、別名表、接続情報などの Smart View アーティファクトで構成されます。

次も参照:

- Smart View でのメタデータのインポートについて
- コピーしたワークシートへのメタデータのインポート

Smart View でのメタデータのインポートについて

新しい Excel シートでは、必要なフォーマットとレイアウトだけでなくメタデータも含まれている既存のシートで、Smart View コンテンツを利用することをお薦めします。メタデータは POV、別名表、接続情報などの Smart View アーティファクトで構成されます。最初から Smart View を作成しなおさなくても、すでに使用可能な作業を再利用できます。

Excel のコピー・コマンドと貼付けコマンドを使用して、シート内またはシート間で Smart View コンテンツをコピーする場合、静的データおよびフォーマットがコピーされますが、Smart View メタデータは新しいシートにコピーされません。たとえば、新しいシートで「シート情報」を開いた場合、接続詳細は表示されず、「シート・タイプ」は「空」として表示されます。

データをコピーした後に、**「メタデータのインポート」**コマンドを使用して、元のシートから同一ワークブック内の新しいシートにメタデータをインポートできます。新しいシートで「シート情報」を開くと、同じ接続情報が表示され、「シート・タイプ」も元のシートと同じように表示されます。

「メタデータのインポート」機能を使用するには、現在のワークブックの少なくとも 1 つのシートにメタデータが必要です。フォームまたはアドホック・グリッドが含まれているシートからメタデータをインポートできます。

コピーしたワークシートへのメタデータのインポート

開始する前に、Smart View でのメタデータのインポートについてでコンテンツを必ずレビューしてください。

> **ノート:**
>
> ソース・シートのメタデータが宛先シートにインポートされた後は、この操作は元に戻せません。

メタデータをコピーされたワークシートにインポートするには:

1. 作業をバックアップします。
2. Excel を使用してワークシートをコピーします。

   この操作では、ソース・ワークシートにある表示可能なコンテンツはコピーされますが、メタデータ(接続情報、POV 選択、別名表などのアイテム)は宛先のワークシートにコピーされません。
3. 宛先のシートを開きます。
4. 宛先のワークシートがアクティブな状態で、Smart View のリボンから、**「詳細」**、**「メタデータのインポート」**の順に選択して、開いているすべてのワークブックと、それらに対応する開いているワークシートのリストを表示します。
5. リストから、宛先のワークシートにインポートするメタデータが含まれているワークシートを選択します。
6. **「OK」**をクリックします。

   宛先またはアクティブなシートのメタデータが、ソース・シートのメタデータで上書きされることを通知する警告メッセージが表示されます。この操作は元に戻せません。
7. 警告メッセージの**「はい」**をクリックします。
8. **「リフレッシュ」**をクリックします。

ユーザー・プリファレンスの設定

アプリケーション設定、表示設定およびユーザー変数のプリファレンスを設定します。

適用対象: Cloud EPM データ・ソース・プロバイダ

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management アプリケーションのユーザー・プリファレンスを設定するには:

1. 「Smart View ホーム」パネルのツリー・リストで、キューブを選択するか、またはフォームまたはアド・ホック・グリッドを選択します。
2. プロンプトで、オプションを選択します:
   - **アド・ホック分析**—シートに初期デフォルトのアドホック・グリッドを配置します

- **このワークシートのアクティブ接続の設定**—ワークシートにのみアクティブな接続を設定し、シートにグリッドを配置しません。

また、開いているフォームまたはアドホック・グリッドから**「ユーザー・プリファレンス」**にアクセスすることもできます。

3. 「Smart View ホーム」パネルから、**「アクション」**メニューをクリックし、次に**「ユーザー・プリファレンス」**をクリックします。

   「ユーザー・プリファレンス」は、**「設定」**、**「表示」**および**「変数」**の 3 つのタブがあるパネルとして表示されます。

4. **「ユーザー・プリファレンス」**パネルから、タブをクリックし、アクションを実行します:

   - **設定**タブ - プランニング・ユニットの電子メール・オプションを管理し、別名設定を指定し、承認のワークフロー・オプションを設定し、不在設定を指定します。
     - オプションにデフォルトのアプリケーション設定を使用するには、右側のチェック・ボックスを選択します。
     - デフォルトのアプリケーション設定をオーバーライドするには、左側のチェック・ボックスを選択します
     - **「別名表」**には、左側のドロップダウン・リストから別名表を選択してデフォルトのアプリケーション設定をオーバーライドし、左側のチェック・ボックスを選択します。

     > **ノート:**
     >
     > 別名表の変更を反映するには、Smart View を再起動して再接続する必要があります。

   - **表示**—3 桁区切り、小数点、負数の符号および負数の色の数値フォーマットを設定します。選択したページ・メンバーの記憶、ページ数が指定した数を超えた場合の検索の許可およびメンバーのインデントの設定を行うためのページ・オプションを設定します。集計演算子の表示、各ページおよびレコードのメンバー数の指定および日付フォーマットの設定を行うためのその他のオプションを設定します。
     - デフォルトのアプリケーション設定を使用するには、右側のチェック・ボックスを選択します。
     - 左側にある使用可能なプロパティごとに、ドロップダウン・リストからオプションを選択するか、テキスト・ボックスに直接入力して、デフォルトのアプリケーション設定をオーバーライドします。

   - **変数**—大きいフォームやグリッドのナビゲートに役立つように管理者によって設定される変数。

     左側の列には、ユーザー変数名が表示されます。関連付けられているディメンションは、ユーザー変数名の下に表示されます。省略記号アイコンをクリックすると、**「メンバー選択」**ダイアログが起動します。次に、メンバー変数のデフォルトとして使用するメンバーを選択します。

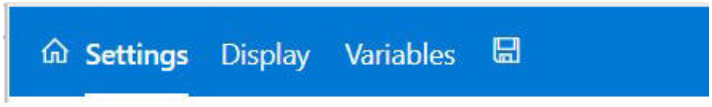
> **ノート:**
>
> Web アプリケーション内のフォームで設定されたロケール、日付フォーマットおよび小数点/数値フォーマットのユーザー・プリファレンスは、Smart View 内のフォームには適用されません。

5. タブで変更を追加した後、別のタブを選択する前に、**「ユーザー・プリファレンス」**パネルの上部にある**「保存」**

   をクリックします。

6. ユーザー・プリファレンスの設定が終了した後、パネルの

   をクリックして閉じます。



17
関数

次も参照:

- 関数について
  Smart View でサポートされている関数を使用して、Excel シートの特定のセルのデータを取得して送信できます。
- 関数の作成
  関数は手動で、または関数ビルダーを使用して作成できます。
- 関数の実行
  「リフレッシュ」コマンドを使用して、Smart View のほとんどの関数を自動的に実行できます。
- 関数内の欠落データに対するラベルの指定
  「オプション」パネルの**「欠落ラベル」**オプションを使用して、HsGetValue や HsSetValue などのユーザー定義関数内の欠落データに値を設定します。
- 関数内のリンクの修正
  関数内の破損リンクの修正が必要な場合があります。
- 関数の説明
  Smart View では、ここにリストされている関数がサポートされます。説明、構文および例を参照するには、関数名をクリックしてください。
- 一般的な関数エラー・コード
  関数で表示される一般的なエラー・コードの一部を示します。

関数について

Smart View でサポートされている関数を使用して、Excel シートの特定のセルのデータを取得して送信できます。

データベースの内容を詳しく把握している場合は、Smart View の関数を使用して、Excel のセルにある特定のデータを操作できます。

Smart View で、「関数ビルダー」パネルを使用してシートのセルに関数を追加するか、これらの関数をシートのセルに手動で入力して、接続名と POV を指定し、リフレッシュしてデータを取得できます。

Smart View では、次の関数がサポートされています。

表 17-1 Smart View の関数およびサポートされているプロバイダ

関数	説明	サポートされるプロバイダ
HsGetValue	この関数を使用して静的なレポートを作成し、その後、アプリケーション・データを特定のセルに取り込むことで必要に応じてそのレポートをフォーマットできます。	• Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting • Oracle Essbase

表 17-1 (続き) Smart View の関数およびサポートされているプロバイダ

関数	説明	サポートされるプロバイダ
HsSetValue	ディメンションの選択済メンバーに基づいて、データ値をワークシートからデータ・ソースに送信するために使用されます。	• Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting • Oracle Essbase
HsAlias	指定されたディメンション・メンバーの別名を表示するために使用されます。	• Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting
HsGetSheetInfo	現在のシートの詳細情報を、シート・プロパティごとに取得するために使用されます。	• Planning • Planning モジュール • Financial Consolidation and Close • Tax Reporting • Oracle Essbase

関数の使用に関するガイドライン

Smart View で関数を使用する際は、次のガイドラインを考慮してください:

- 関数は、リフレッシュしたときにのみ検証されます。
- いずれかの関数が無効な場合は、シート上のすべての関数(有効な関数も含めて)に`#Error`が表示されます。たとえば、ディメンションまたはメンバー名が無効な場合、関数は無効になります。関数のエラーを確認し、修正してから、シートを再度リフレッシュします。

管理者: Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)ユーザー用に関数を実装するには、*Oracle Smart View for Office (Mac and Browser) のデプロイおよび管理*で説明しているように、サービス管理者が関数のサポートを含めるオプションを有効にして、マニフェスト・ファイルをデプロイします。新しいマニフェストをサイドローディングしたり、ユーザーにデプロイする前に、すべてのユーザーが自身のブラウザ・キャッシュをクリアする必要があります。

関数の作成

関数は手動で、または関数ビルダーを使用して作成できます。

関連トピック:

- 関数ビルダーでの関数の作成
- 関数の手動作成

関数ビルダーでの関数の作成

関数ビルダーで、関数を選択し、関数で使用する接続とメンバーを指定します。

これにより、関数ビルダーが適切な構文を使用して関数を作成し、選択したセルにその関数を入力します。これらの関数は編集が可能です。

関数ビルダーの特定のフィールドで使用可能な選択内容は、関数ビルダーの他のフィールドでの選択内容によって限定されてきます。たとえば、選択した関数でサポートされる接続のみが表示され、選択した関数でサポートされるディメンションのみが表示されます。

各関数の引数でセル参照を選択できます。各引数でタイプ・イン機能を使用できます。

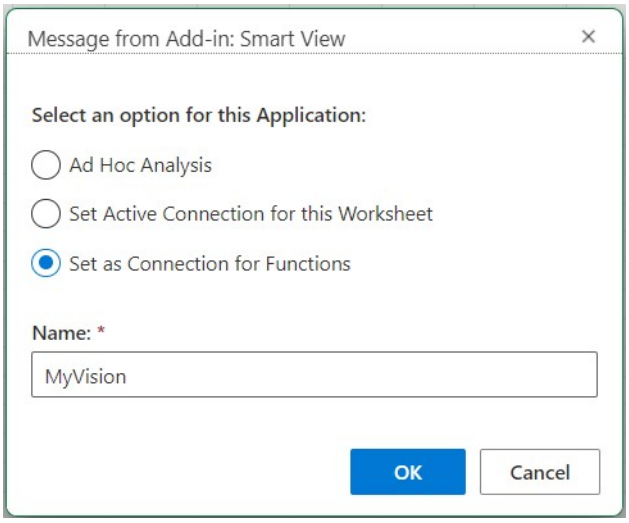
関数ビルダーを使用して関数を作成するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. キューブを選択し、表示される接続ダイアログで**「関数の接続として設定」**を選択し、接続の名前を入力します。

   次の例で、接続名は **MyVision** です。

> **ノート:**
>
> *新しい*ワークブックごとに接続名を作成する必要があります。
>
> 接続名はワークブックとともに保存されます。保存されたワークブックを再度開いた場合、接続名の入力を求めるプロンプトは表示されません。

図 17-1 接続オプションおよび名前



3. シートで、関数を入力するセルを選択します。
4. Smart View のリボンで、**「関数」**、**「関数の構築」**ボタンの順にクリックして、「関数ビルダー」パネルを起動します。
5. **「関数ビルダー」**パネルで、リストから関数を選択して**「選択」**をクリックします。

ノート:

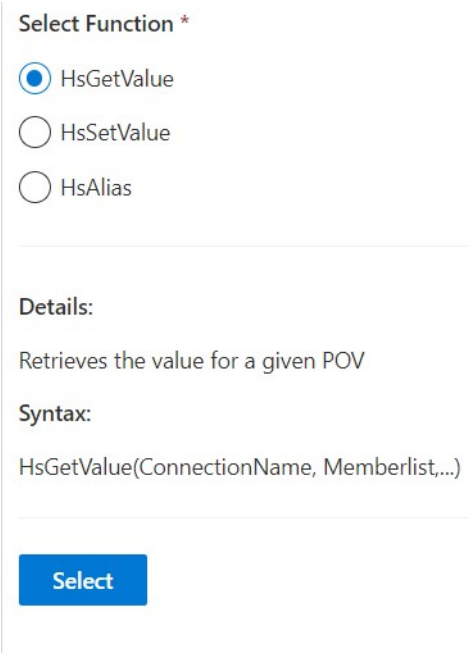
現在、Smart View では次の関数がサポートされています:

- HsGetValue
- HsSetValue
- HsAlias
- HsGetSheetInfo

これらの関数の詳細な説明については、関数の説明を参照してください。

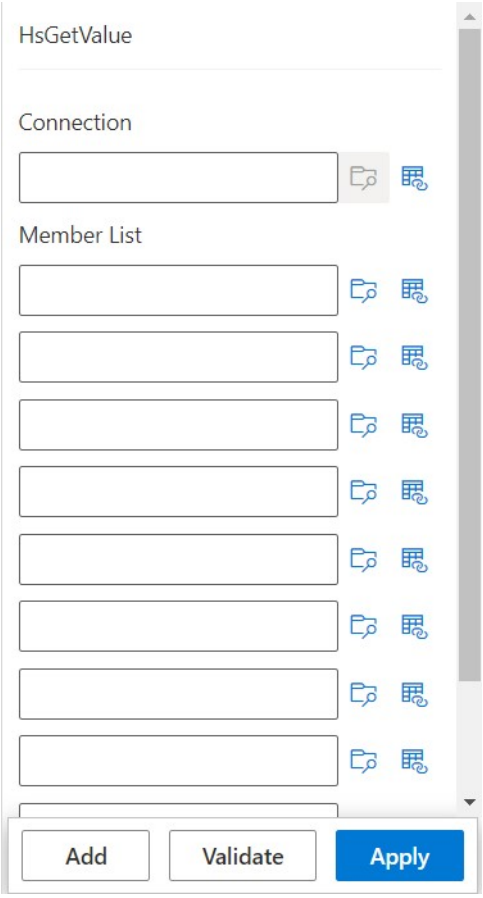
次の例では、HsGetValue 関数が選択されています。

図 17-2 「関数ビルダー」パネル、サポートされている関数のリスト



「選択」をクリックすると、選択した関数のパネルが**関数ビルダー**に表示されます。次の例は、関数ビルダーにおける HsGetValue のフィールドを示しています。これらのフィールドは、選択した関数によって異なります。

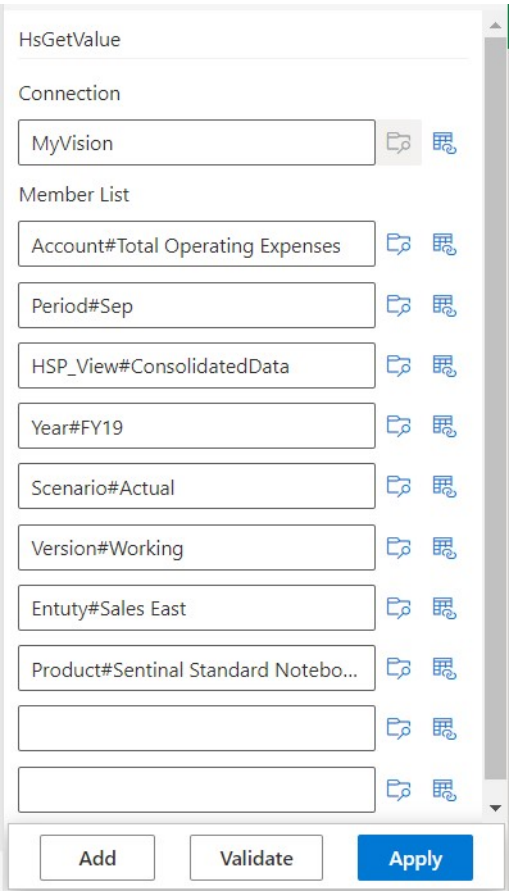
図 17-3 「関数ビルダー」パネルの「メンバー・リスト」



6. **HsGetValue の場合:**
   a. **「接続」**に、ステップ 2 で指定した接続名を入力します。
   b. **「メンバー・リスト」**で、次のいずれかの方法を使用して、キューブのディメンションごとに引数を追加します:
      - 引数テキスト・ボックスの横にある**「メンバーの選択」**ボタンをクリックし、**「メンバー・セレクタ」**で、ディメンションおよびメンバーを選択します。キューブのディメンションごとに繰り返します。
      - テキスト・ボックスにディメンションとメンバーのペアを dimension#member の形式で入力することで、引数を手動入力します。たとえば、`Year#Qtr1` または `Year#Jan` となります。キューブのディメンションごとに繰り返します。
      - セル参照を使用するには、セル参照の使用の手順に従います。

      次の例は、HsGetValue 関数の入力済メンバー・リストを示しています。

図 17-4 Planning Vision サンプル・データベースに基づいた HsGetValue の「関数ビルダー」パネル



c. **オプション: 「メンバー・リスト」**に行を追加するには、**「追加」**をクリックします。

7. **HsSetValue の場合:**
   a. **「値」**に設定する値を入力します。
   b. **「接続」**に、ステップ 2 で指定した接続名を入力します。
   c. **「メンバー・リスト」**で、キューブ内の各ディメンションの引数を追加します。
   d. **オプション: 「メンバー・リスト」**に行を追加するには、**「追加」**をクリックします。
8. **HsAlias の場合:**
   a. **「接続」**に、ステップ 2 で指定した接続名を入力します。
   b. **「メンバー名」**、**「宛先の別名」**、**「ソース別名」**、**「個別名」**の各フィールドに値を入力します。
9. **HsGetSheetInfo の場合: 「シート・プロパティ」**リストからプロパティを選択します。
10. **「検証」**をクリックし、エラーを修正します。

    エラーは、問題領域の横にある**「関数ビルダー」**パネルに表示されます。

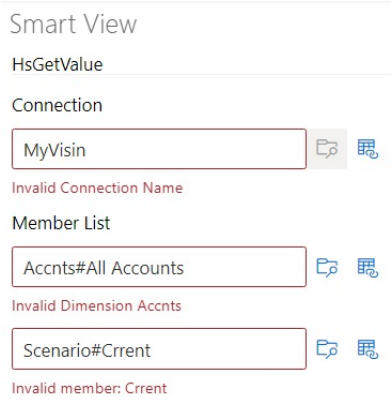
    表示される可能性のあるエラーを次に示します。

    - 接続がオフラインまたは無効です
    - 無効な選択です

- メンバー名が無効か、選択した別名と一致しません
- ディメンション名が無効か、選択した別名と一致しません
- Dimension#Member の組合せが不完全です
- 疑問符の欠落またはその他の微細な構文エラーによる、一般的なエラー

たとえば、関数ビルダー検証エラーは、無効な接続名、ある引数の無効なディメンション名、別の引数の無効なメンバー名の原因となった単純なスペル・エラーを示しています。

図 17-5 関数ビルダー検証エラー



ノート:

「検証」は、テキスト・ボックスに手動入力された dimension#member の組合せでのみ機能し、**「メンバー・セレクタ」**ダイアログを使用して追加された dimension#members には適用されません。すべての dimension#member の組合せが**「メンバー・セレクタ」**を使用して入力されている場合は、それらの組合せに関する検証メッセージは表示されません。綴りが間違っている接続名に関してエラーが表示される可能性はあります。

- 接続名が正しく、他のすべての dimension#member の組合せが**「メンバー・セレクタ」**ダイアログを使用して追加された場合、"*検証成功*"メッセージは表示されません。
- 接続名が正しく、1 つ以上の dimension#member の組合せが正しく手動入力されている場合、"*検証成功*"メッセージが表示されます。

11. エラーを修正し、**「検証」**を再度クリックします。

    関数が正しく検証されると、検証が成功したことを示すメッセージが表示されます。

12. **「適用」**をクリックします。
13. 関数を実行するには、関数の実行の手順に従います。

セル参照の使用

接続、ラベル、データ/テキストまたは変数の引数の単一セルへの参照を入力できます。

セル参照を使用するには:

1. 関数ビルダーでの関数の作成の手順に従って、**「関数ビルダー」**パネルを開きます。
2. **「関数ビルダー」**パネルで、選択した関数の引数ごとに、参照するシートのセルを選択し、**「セル参照」**ボタンをクリックします。

   次の構文を使用して、セル参照を手動で入力することもできます:

   ```
   ""&<column letter><row number>&""
   ```

   例:

   ```
   ""&A3&""
   ```

   ノート:

   - この手順で選択したメンバー名がグリッドに dimension#member として表示されている場合、引数の選択は完全です。たとえば、メンバーがグリッド内のセル A3 に `Year#Qtr 2` と表示されている場合、`""&A3&""`は完全です。

     グリッド内にメンバー名のみが表示されている場合、二重引用符の最初の 2 セットの間に、ディメンション名と`#`を続けて手動入力する必要があります。たとえば、メンバーがセル A3 に Qtr2 として表示されている場合、次のように引用符の間に `Year#`と入力する必要があります: `"Year#"&A3&""`
   - 引数テキスト・フィールドにテキストが含まれている状態で参照セルを選択すると、そのテキストに参照セルのテキストが追加されます。そのため、参照セルを選択する前に不要なテキストはフィールドから削除しておきます。
   - 日付セルが入力として直接参照される場合は、次のようにテキスト関数を使用して、入力を適切なテキスト・フォーマットに変換します。この例ではセル B3 に適切な日付があります。

     ```
     =HsSetValue(TEXT(B3,"dd/mm/yyyy"),"ConnectionName", "dim#member"…)
     ```
3. セル参照の入力が終了した後、**「適用」**をクリックします。
4. シートをリフレッシュします。

関数の手動作成

Smart View で関数を手動で作成できます。

Excel の文字およびその他の機能の制限については、Microsoft のドキュメントとサポート・サイトを参照してください。

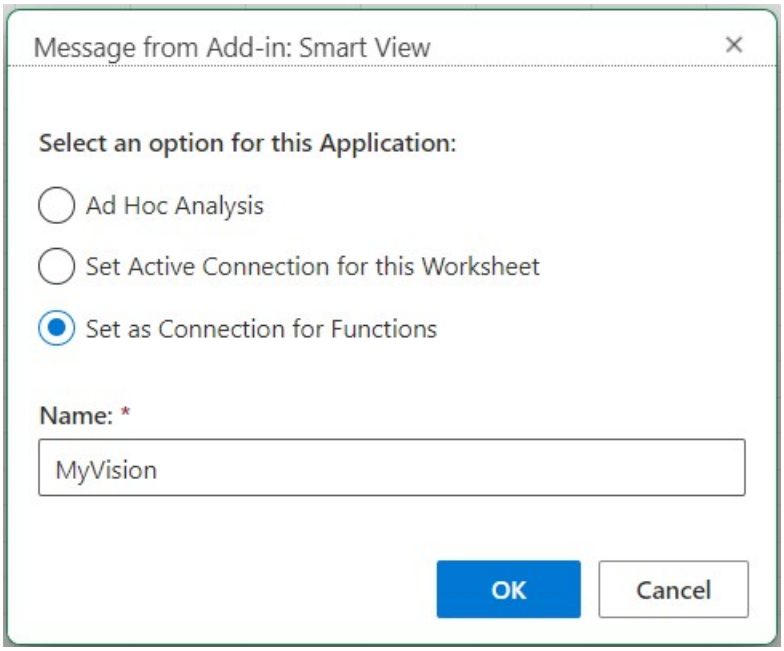
Smart View で関数を手動で作成するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. キューブを選択し、表示される接続ダイアログで**「関数の接続として設定」**を選択し、接続の名前を入力します。

   次の例で、接続名は **MyVision** です。

> **ノート:**
>
> *新しい*ワークブックごとに接続名を作成する必要があります。
>
> 接続名はワークブックとともに保存されます。保存されたワークブックを再度開いた場合、接続名の入力を求めるプロンプトは表示されません。

図 17-6 接続オプションおよび名前



3. シートで、関数を入力するセルをクリックします。
4. 等号を入力した後に関数名を入力します。次に例を示します:

   ```
   =HsSetValue
   ```

5. 関数の説明の各関数に固有の情報を使用して、構文のガイドラインで説明しているルールに従って関数のパラメータを入力します。
6. シートの他のセルに関数を追加するには、ステップ 4 から 6 を繰り返します。
7. 関数を実行するには、シートをリフレッシュします。

   関数は、リフレッシュしたときにのみ検証されます。

   いずれかの関数が無効な場合は、シート上のすべての関数(有効な関数も含めて)に`#Error`が表示されます。たとえば、ディメンションまたはメンバー名が無効な場合、関数は無効になります。

   関数のエラーを確認して、シートを再度リフレッシュします。

構文のガイドライン

関数のパラメータを入力する際は、次のガイドラインを使用してください。

個々の関数の構文は、関数の説明を参照してください。

- 接続パラメータは、接続のユーザー定義名です。

  接続パラメータの前に POV が必要です。
- POV は、*dimension#member* のペアから構成されます。例:

  ```
  Entity#Connecticut
  ```
- 親子関係はピリオド(.)で指定します。例:

  ```
  Entity#UnitedStates.Maine
  ```
- 接続と各 POV *dimension#member* のペアは別々の関数パラメータに分割できます。各パラメータは引用符(")で囲み、カンマ(,)で区切ります。例:

  ```
  "MyVision","Entity#UnitedStates","Account#Sales"
  ```

  dimension#member パラメータのセパレータとしてセミコロン(;)の使用はサポートされていません。
- POV dimension#member を指定しないと、Smart View によってそのディメンションの 最上位メンバーが関数に追加されます。たとえば、次の HsGetValue 関数には期間ディメンションとメンバーが指定されていません:

  ```
  =HsGetValue("MyVision","Account#Amount","Years#2017","Scenario#Annual,
  Contract","Version#Final","Entity#AR02-
  Argentina-,IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local
  Currency")
  ```

  この場合、Smart View によって、最上位の期間メンバーである Period が関数 `Period#Period` に追加されます。例:

  ```
  =HsGetValue("MyVision","Account#Amount","Period#Period","Years#2017","Scena
  rio#Annual Contract","Version#Final","Entity#AR02-Argentina-
  IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local Currency")
  ```
- 関数ではディメンション名とその別名を混在させないでください。ただし、メンバーについては、メンバー名または選択した別名表からの別名を使用できます。
- HsSetValue 関数でテキスト値を使用する場合は、引用符(")で囲んでください。例:

  ```
  HsSetValue("Enter Some Text", "MyVision","Account#7110:
  Advertising","Period#Jun","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","
  Version#Commentary","Entity#International Sales","Product#No Product")
  ```

関数の実行

「リフレッシュ」コマンドを使用して、Smart View のほとんどの関数を自動的に実行できます。

HsGetValue の場合は、**「データの送信」**コマンドを使用します。

関数を実行して値を取得するには:

1. データ・ソースに接続します。

2. 実行する関数を含むシートを開きます。
3. 次のいずれかを行います:
   - HsSetValue に対して、**「データの送信」**をクリックします。
   - 関数を実行し、ワークブックのすべてのシートを更新するには、**「リフレッシュ」**をクリックします。

> **ノート:**
>
> Oracle Smart View for Office で作成された関数が含まれているワークブックを開く場合は、**「リンクの修正」**コマンドの実行が必要になります。関数内のリンクの修正を参照してください。

関数内の欠落データに対するラベルの指定

「オプション」パネルの**「欠落ラベル」**オプションを使用して、HsGetValue や HsSetValue などのユーザー定義関数内の欠落データに値を設定します。

アド・ホック分析や関数に対する空白のシートの指定など、シートで操作を実行する前に、**「欠落ラベル」**フィールドに値を入力できます。このオプションは、接続直後に**「オプション」**を開いたときに使用可能になります。**「欠落ラベル」**オプションの値もいつでも指定できます。

「欠落ラベル」オプションの値を設定するには:

1. データ・ソースに接続します。
2. **オプション:** すでに関数が含まれているシートを開きます。
3. Smart View リボンで、**「オプション」**ボタンをクリックして**「詳細」**タブを表示します。

   この時点で、**「詳細」**タブのみが**「オプション」**パネルに表示され、他のタブは使用できません。
4. **「ユーザー定義関数」**の下の**「オプション」**パネルの**「詳細」**タブで、**「欠落ラベル」**テキスト・ボックスに値を入力します。

   デフォルト値は`#Missing`ですが、カスタム値を指定でき、必要に応じて特殊文字や大文字を含めることができます。
5. パネルを閉じるか、またはオプションで**「現在のオプションをデフォルトとして保存」**リンクをクリックして、この値を将来使用するために保存してからパネルを閉じます。
6. 関数を手動で、または関数ビルダーを使用してシートに追加して続行するか、前のステップで開いた関数を含むシート内の操作を続行します。

関数内のリンクの修正

関数内の破損リンクの修正が必要な場合があります。

Oracle Smart View for Office で作成された関数が含まれているワークブックを Oracle Smart View for Office (Mac およびブラウザ)で開くと、リンクが破損することがあります。Smart View (Windows)で作成された Smart View 関数(HsGetValue や HsSetValue など)は、`<SmartViewInstallLocation>/bin/`フォルダにある `HsTbar.xla` ファイルを使用し、このファイルへのパスをキャッシュします。リンクの修正コマンドは、シートの関数名の前にあるこのようなパスをクリーン・アップします。たとえば、Smart View (Windows)で作成されたシート

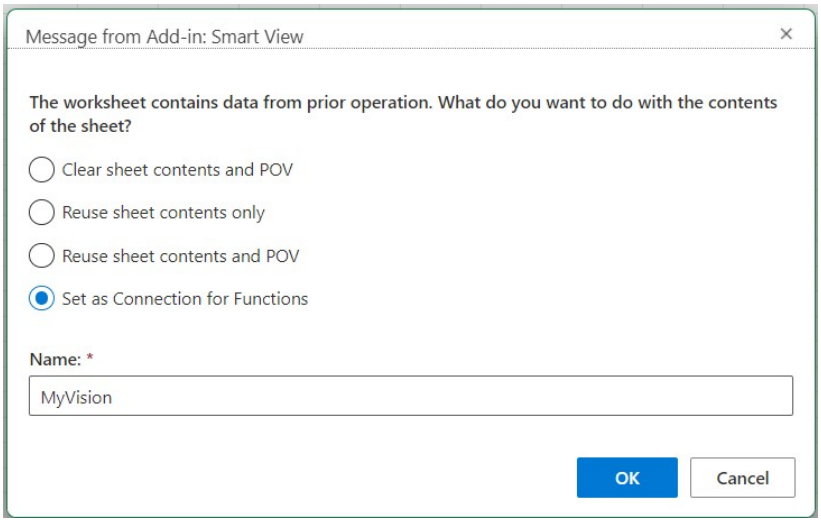
は、Mac で開いたときに関数名の前に`'C:/Oracle/SmartView/bin/HsTbar.xla'`のようなパスを含んでいる場合があります。このパスは、関数が適切に実行されるように、**「リンクの修正」**をクリックするとクリーン・アップされます。

> **ノート:**
>
> 現在、「リンクの修正」コマンドは、Mac で Smart View (Mac およびブラウザ)を使用している場合にのみサポートされています。

関数内の破損リンクを修正するには:

1. Smart View (Mac およびブラウザ)で、Smart View (Windows)で作成された関数が含まれているワークブックを開き、データ・ソースへの接続の指示を使用してデータ・ソースに接続します。
2. Smart View のリボンで、**「関数」**、**「リンクの修正」**ボタンの順にクリックします。
3. **「リフレッシュ」**をクリックしてシートの関数を実行します。
4. シートに`#NoConnection`メッセージが表示される場合、キューブを選択し、**「関数の接続として設定」**を選択し、接続の名前を入力します。

   接続にわかりやすい名前を指定できます。接続には、使用している環境、アプリケーションおよびキューブの情報が自動的に挿入され、ワークブックのすべてのシートで有効になります。



5. 表示される Microsoft の警告またはメッセージをすべて閉じます。

関数の説明

Smart View では、ここにリストされている関数がサポートされます。説明、構文および例を参照するには、関数名をクリックしてください。

- HsGetValue: 視点の選択したディメンション・メンバーのデータ・ソースからデータを取得します。

- HsSetValue: 視点の選択したディメンション・メンバーのデータ・ソースに値を送信します。
- HsAlias: 指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。
- HsGetSheetInfo: 現在のシートの詳細情報をプロパティごとに取得します。

HsGetValue

適用対象: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Essbase

説明

HsGetValue は、視点(POV)の選択したディメンション・メンバーのデータ・ソースからデータを取得します。

HsGetValue でデータが取得されない場合、**欠落/データなしラベル**置換オプションで指定された値が使用されます(データ・オプションを参照してください)。

HsGetValue および HsSetValue が同じシートにある場合に、**「リフレッシュ」**を選択すると、HsGetValue のみが呼び出されされます。**「送信」**を選択した場合は、HsSetValue が呼び出されます。HsSetValue が正常に戻った場合は、**「リフレッシュ」**を選択して、HsGetValue を呼び出す必要があります。

HsGetValue は、Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting の各データ・ソースでの 1 つの属性ディメンションとメンバーの使用をサポートしています(属性を使用した例を参照)。

構文

```
HsGetValue("ConnectionName","POV")
```

構文情報の詳細は、構文のガイドラインを参照してください。

例 17-1 属性を使用しない例

この例では、HsGetValue は、指定した POV に対して、Vision アプリケーション、Plan1 キューブ(MyVision 接続名で表されます)からの値を戻します。

```
=HsGetValue("MyVision","Account#Amount","Period#Jan","Years#2017","Scenario#An
nual Contract","Version#Final","Entity#AR02-Argentina-
IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local Currency")
```

例 17-2 属性を使用した例

この例では、HsGetValue は Vision アプリケーション、Plan1 キューブ(MyVision 接続名で表されます)からの値を戻し、POV には属性ディメンションおよびメンバー、Entity_Regions#NA_Reg が含まれています。

> **ノート:**
>
> HsGetValue は、関数当たり 1 つの属性ディメンションおよびメンバーのみをサポートします。

```
=HsGetValue("MyVision","Account#Amount","Period#Jan","Years#2017","Scenario#An
nual Contract","Version#Final","Entity#AR02-Argentina-
IS_Adjustments","Package#Depreciation","Currency#Local
Currency","Entity_Regions#NA_Reg")
```

HsSetValue

適用対象: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Essbase

説明

HsSetValue は、視点(POV)の選択したディメンション・メンバーに対するデータ値をワークシートからデータ・ソースへ送信します。属性ディメンションおよびメンバーは HsSetValue ではサポートされていません。

データ・ソースにデータを送信するには、データ・ソースに対する適切なロード規則と書込みアクセス権が必要です。

構文

```
HsSetValue (value,"ConnectionName","POV")
```

構文情報の詳細は、構文のガイドラインを参照してください。

例 17-3 基本的な例

この例では、HsSetValue は値 123 を Vision アプリケーション(MyVision 接続名で表されます)に送信します。

```
=HSSETVALUE(123, "MyVision","Account#7110: Advertising","Period#x---------
x","HSP_View#BaseData","Year#FY19","Scenario#Forecast","Version#Driver","Entit
y#International Sales","Product#No Product")
```

例 17-4 テキストの例

HsSetValue の `value` パラメータにテキストを使用するときは、引用符が必要です。

```
HsSetValue("Enter Some Text", "MyVision","Account#7110:
Advertising","Period#Jun","HSP_View#BaseData","Year#FY16","Scenario#Plan","Ver
sion#Commentary","Entity#International Sales","Product#No Product")
```

HsAlias

適用対象: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting

説明

HsAlias は、指定されたディメンション・メンバーの別名を表示します。

> **ノート:**
>
> HsAlias では、関数のネストはサポートされていません。つまり、HsAlias の出力を別の HsAlias 関数で参照することはできません。

構文

```
HsAlias("PrivateConnectionName","Dimension#Member", "OutputAliasTable",
"MemberNameFromAliasTable", "FlagToReturnDistinctName")
```

> **ノート:**
>
> 構文情報の詳細は、構文のガイドラインを参照してください。

例 17-5 基本的な例

```
HsAlias("MyVision","Scenario#Actual", "German", "Default", "True")
```

ノート

- 接続パラメータと Dimension#Member パラメータは必須です。
- OutputAliasTable パラメータはオプションです。OutputAliasTable が空の場合は、接続レベルの別名が OutputAliasTable に使用されます。
- メンバーが属する別名表の指定はオプションです。MemberNameFromAliasTable が空の場合は、アウトラインからの元のメンバー名が使用されます。
- メンバー名が MemberNameFromAliasTable で指定された別名表に見つからない場合は、アウトラインからの元のメンバー名が使用されます。
- HsAlias 関数内の HsActive キーワードはアド・ホック・グリッドを持つシートでのみ使用できます。
- Smart View または Excel からのコピーと貼付けはサポートされていません。静的テキストのみ貼り付けられます。
- ブール引数 FlagToReturnDistinctName は、別名出力が短縮名か完全修飾名かを決定します。デフォルトの値は False です。

HsGetSheetInfo

適用対象: Planning、Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、Oracle Essbase

説明

HsGetSheetInfo は、現在のシートの詳細情報をプロパティごとに取得します。次のシート・プロパティを取得してシートに表示できます。

Table 17-2　HsGetSheetInfo の詳細

文字列等価	シート情報
最後の取得	シートで最後のリフレッシュが実行された日時
シート・タイプ	フォーム、アド・ホック、複数のグリッド・アド・ホック、関数、またはスマート・フォーム
サーバー	シートの接続先のサーバー
アプリケーション	シートの接続先のアプリケーション
キューブ	シートの接続先のキューブ
URL	シートの接続先の URL
別名表	現在の別名表
プロバイダ	シートの接続先のデータ・ソース・タイプ

次のシート・プロパティの表示はサポートされていません:

- ユーザー
- わかりやすい名前
- 説明
- プロバイダ URL

構文

```
HsGetSheetInfo("<string equivalent>")
```

構文情報の詳細は、構文のガイドラインを参照してください。

Example 17-6　基本的な例

この例では、HsGetSheetInfo はシートにフォーム、アド・ホック、複数のグリッド・アド・ホック、関数、またはスマート・フォームが含まれているかどうかを通知します。

```
HsGetSheetInfo("Sheet Type")
```

ノート

- 無効なシート・プロパティを入力した場合、この関数は「該当なし」の値を返します。
- 複数のグリッド・アド・ホック・シートでは、HsGetSheetInfo は常に最初に挿入されたグリッドに関する情報を表示します。シートで最後にリフレッシュが実行された日時を見つけるために「最後の取得」プロパティを使用した場合、HsGetSheetInfo 関数は、シートで最後に取得されたグリッドが 2 番目のグリッドであっても、最初のグリッドの取得時刻を表示します。ただし、「シート情報」ダイアログを起動して正しい最終取得時刻を確認するか、シートをもう一度リフレッシュして一貫した時刻を取得できます。

- 複数の接続からのグリッドを持つ複数のグリッド・アド・ホック・シートの場合、HsGetSheetInfo 関数は、シートで現在アクティブな接続に関係なく、最初の接続のシート・プロパティのみを取得します。
  たとえば、複数グリッドのアド・ホック・シートに 2 つの異なる接続からの 2 つのアド・ホック・グリッドがあり、URL プロパティを使用する場合、HsGetSheetInfo 関数は、シートで最初に接続されたグリッドの接続 URL のみを表示します。
- アド・ホック・グリッドのセル・スタイルが有効になっている場合、HsGetSheetInfo 関数を使用して追加したシート・プロパティを変更すると、関数セルがダーティとして表示されます。たとえば、シートに追加された URL シート・プロパティをキューブに変更すると、関数セルはキューブ名を表示するためにリフレッシュされますが、ダーティとして表示されます。このような場合は、「リフレッシュ」をクリックしてダーティな背景色を削除します。

一般的な関数エラー・コード

関数で表示される一般的なエラー・コードの一部を示します。

#NO CONNECTION - データ・ソースに接続されていないか、またはログオンしていません。

#INVALID - メタデータが無効です。値を含む無効なセルで、値がゼロとして表示されます。

#LOCKED - セルがロックされています。

#NO ACCESS - このセルのアクセス権がありません。

#NO DATA - セルに NoData が含まれています。NoData のかわりに 0 と表示することもできます。セルには、「オプション」パネルで指定した置換テキストが表示されます。

#INVALID INPUT - テキスト文字列など、HsSetValue データ値が有効ではありません。

#READ ONLY - セルが読み取り専用である場合に HsSetValue 関数に対してのみ表示されます。

#NEEDS REFRESH - データをリフレッシュする必要があります。

#INVALID DIMENSION - 関数で指定されたディメンションが無効です。

#INVALID MEMBER - 関数で指定されたディメンション・メンバー名が無効です。

#NAME - Excel が式中のテキストを認識しません。関数を含むシートを、Smart View がインストールされていないユーザーに転送した場合、ユーザーは同じデータを関数としてシート上に表示できます。ユーザーが関数を編集またはリフレッシュすると、関数は#Name に変わります。

18

フリー・フォーム・モード

次も参照:

- フリーフォーム・モードについて
  アド・ホック分析では、データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合に、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力することにより、*フリーフォーム・モード*を使用できます。
- フリーフォーム・モードで作業するためのガイドライン
  フリーフォーム・モードで作業を行うときは、次のガイドラインを考慮します。
- フリーフォーム・グリッドの作成
  シートのセルにディメンション名とメンバー名を直接入力することで、フリーフォーム・グリッドを作成できます。
- 予期しない動作の原因となるアクション
  Smart View では、コメント、式、カスタマイズしたレポート・レイアウトは極力保持されます。

フリーフォーム・モードについて

アド・ホック分析では、データベースのディメンションとメンバーを詳しく把握している場合に、ディメンション名とメンバー名を直接セルに入力することにより、*フリーフォーム・モード*を使用できます。

POV、メンバー選択およびフリーフォーム・グリッドでのその他のアド・ホック操作も引き続き使用できます。

表 18-1 Smart View のグリッド・コンポーネント

グリッド・コンポーネント	説明
行ディメンション	ワークシートの行にまたがって 1 列に配置されるディメンションまたはメンバー
列ディメンション	ワークシートの行にまたがって 1 列に配置されるディメンションまたはメンバー
コメント	ユーザーが追加したテキスト
データ領域	ディメンションまたはメンバーのデータを含むグリッドの領域
空白領域	ワークシートでエントリを含まない領域

フリーフォーム・モードで作業するためのガイドライン

フリーフォーム・モードで作業を行うときは、次のガイドラインを考慮します。

- グリッドは、セル A1 で始まる必要はありません。

- グリッドには少なくとも 1 つの行ディメンションと 1 つの列ディメンションが必要です。
- 各行ディメンションは 1 つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。各列ディメンションは 1 つのディメンションのみのメンバーを含むことができます。
- 1 つのディメンションのメンバーは、次の領域のうちの *1* つのみに入力できます:
  - 同じ行
  - 同じ列
- **「オプション」**をクリックすると、**Smart View** パネルの**「データ」**タブで指定した置換ラベルがフリーフォーム・モードで適用されます。
- 数字エントリはデータ領域ではデータとして、データ領域外ではコメントとして識別されます。数字をメンバー名として使用する場合は、前に一重引用符を付けます; たとえば'100 のようにします。
- 単語間にスペースを含むメンバー名の前には一重引用符を付けます。
- 重複するメンバー名をサポートするデータベースに接続している場合は、Smart View の**「オプション」**の**「メンバー」**タブ内の**「メンバー名の表示」**フィールドの**「個別のメンバー名のみ」**を選択し、ワークシートに完全修飾メンバー名を表示します。重複メンバーを入力するには、修飾メンバー名に次のような構文を使用します:

  ```
  [Income].[Other]
  [Expenses].[Other]
  ```

- 現在の別名表からの別名はフリーフォーム・グリッドに使用できますが、その他の別名表からの別名はコメントとして扱われます。
- アド・ホック・グリッドで、列を挿入して新しい列にメンバー名を入力し、シートの別名表を変更するには、最初にシートをリフレッシュしてから別名表を変更する必要があります。
- フリーフォーム・モードで操作している場合は、予期しない動作の原因となるアクションにリストされている例外を考慮してください。

フリーフォーム・グリッドの作成

シートのセルにディメンション名とメンバー名を直接入力することで、フリーフォーム・グリッドを作成できます。

フリーフォーム・グリッドを作成するには:

1. ワークシートを開き、データ・ソースに接続します。
2. ワークシートで、フリーフォーム・モードで作業するためのガイドライン で指定されたルールに従ってメンバー名を入力します。
3. グリッドをリフレッシュするか、**「分析」**

   をクリックしてアド・ホック分析を開始します。
4. 必要に応じてアド・ホックの操作とフォーマットをさらに実行します。

予期しない動作の原因となるアクション

Smart View では、コメント、式、カスタマイズしたレポート・レイアウトは極力保持されます。

例外として、予想外の振る舞いをする可能性があるのは、次のアクションを実行した場合です:

- ページ・ディメンションにズーム・インする
- POV から行または列にディメンションをピボットする
- POV からワークシートにディメンションをドラッグ・アンド・ドロップする
- 行ディメンションを列ディメンションにピボットする
- 行ディメンションの位置を別の行に切り替える
- 列ディメンションの位置を別の列に切り替える
- 「別名表の変更」コマンドを使用してメンバーの別名を変更する